DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX2700

スタートアップガイド

本機を使用するにあたって必要な準備と基本的な使用方法について説明しています。

ヤマハDSP AVアンプDSP-AX2700をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■ 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「〜しないでください」という禁止を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因になります。

電池

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

（本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。）

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

必ず実行

スピーカーターミナルレンチは小さなお子様の手の届かないところに保管する。

小さなお子様があやまって飲むおそれがあります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

必ず実行

必ず付属の専用電源コードを使用する。

専用電源コード以外の使用は、火災や感電の原因になります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

必ず実行

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。

重いので、けがの原因になります。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

禁止

他の電気製品を本機の上に置かない。

本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。

工事には、技術と経験が必要です。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

必ず実行

再生を始める前には、アンプの音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

もくじ

はじめに

付属品を確認する 6
リモコンや本体を準備する 7
リモコンに乾電池を入れる 7
リモコンの取り扱い 8
コントロールパネルの開閉 8

接続する

接続の基礎知識 9
ビデオ端子について 9
デジタル音声端子(光/同軸)について 11
HDMI端子について 12
NETWORK端子について 13
RS-232C端子について 13
音声信号について 14
接続に使うケーブルの種類 15
スピーカーを接続する 16
スピーカーシステムの構成 16
スピーカーを設置する 17
スピーカーを接続する 19
テレビ/プロジェクターを接続する 22
再生機器を接続する 23
DVDプレーヤーを接続する 23
デジタルテレビチューナーを接続する 24
ケーブルテレビ/衛星放送チューナーを接続する 24
LDプレーヤーを接続する 25
CDプレーヤーを接続する 25
レコードプレーヤーを接続する 26
録音/録画機器を接続する 27
ビデオデッキを接続する 27
DVDレコーダーを接続する 27
MDレコーダー/テープデッキを接続する 28
CDレコーダーを接続する 28
ヤマハ製ドックを接続する 29
その他の機器を接続する 30
外部パワーアンプを接続する 30
マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する 31
ゲーム機やビデオカメラなどを接続する 32
USBデバイスを接続する 32
ホームネットワークに接続する 33
ホームネットワーク環境について 33
ホームネットワークに接続する 34
アンテナを接続する 35
FM簡易アンテナを接続する 35
AMループアンテナを接続する 35
電源コードを接続する 36
ACアウトレット 36
電源コード 36

接続が終わったら

電源をオン/スタンバイにする 37
GUI(グラフィカル・ユーザー・インターフェース)画面を使って操作する 38
最適な視聴空間を自動的に設定する（自動測定メニュー）........ 40
設定の流れ 40
付属のマイクを準備する 40
測定を開始する 41
結果を確認する 43
表示メッセージについて 44

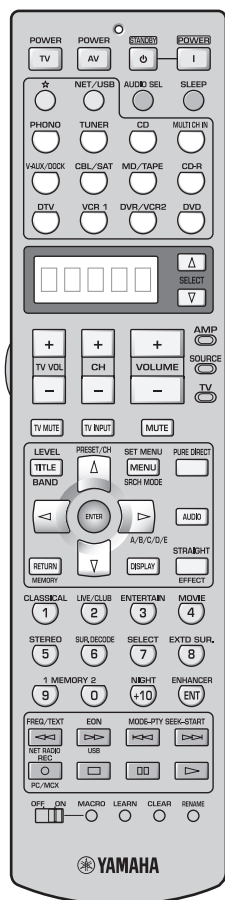
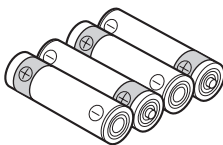
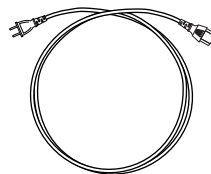
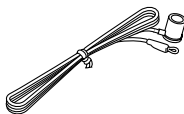
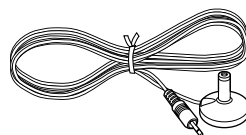
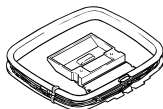
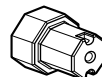
再生のしかた

映像機器を再生する（DVD、テレビ、ケーブル/衛星放送）........ 46
音声機器を再生する（CD、MD/カセットテープ、レコード）........ 50
FM/AM放送を聴く 51
iPod®の再生を楽しむ 52
ノーマルモードで再生する 53
メニュー表示モードで再生する 53
ネットワークオーディオ/USBデバイスの再生を楽しむ 55
NET/USBメニュー一覧 56
パソコンの音楽ファイルを再生するための準備をする 57
ネットワークオーディオ/USBデバイスを再生する 57
表示メッセージについて 59
パソコンに保存されている音楽ファイルを聴く 59
インターネットラジオを聴く 60
USBデバイスに保存されている音楽ファイルを聴く 61
ショートカットを登録する 61
その他のソースを楽しむ 63
何を見ますか、何を聴きますか？ 64
ヤマハホットラインサービスネットワーク 66

22～28ページの接続図は、工場出荷時に割り当てられている端子に合わせた接続を表示しています(LDプレーヤーを除く)。異なる方法で外部機器を接続する場合は、「端子の割り当て」(「DSP-AX2700取扱説明書」66ページ)をご覧ください。

付属品を確認する

ご使用の前に付属品を確認してください。

リモコン

単4アルカリ乾電池×4本

電源コード

FM簡易アンテナ

オプティマイザーマイク

AMループアンテナ

スピーカーターミナルレンチ

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブルD記号DDは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS、DTS-ES Extended Surround、Neo：6およびDTS 96/24はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

iPod®

iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標または登録商標です。

SRS Circle Surround II

Circle Surround Ⅱ、FOCUS、TruBass、SRSと記号はSRS Labs,Inc.の商標です。Circle Surround Ⅱ、FOCUSとTruBass技術はSRS Labs,Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

SILENT CINEMA™

「サイレントシネマ/SILENT CINEMA」はヤマハ株式会社の登録商標です。

HDMI™

HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。

Fraunhofer Institut
Integrierte Schaltungen

MPEG Layer 3 音声圧縮技術はFraunhofer IISおよびThomsonによってライセンス供与されています。

Windows XP、Windows Media Audio、Windows Media Connectは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

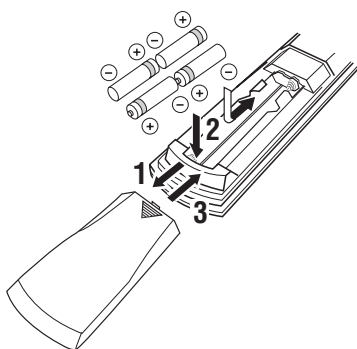
本製品には、GNU General Public License (GPL)またはGNU Lesser General Public License (LGPL)に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。

本機はネットワーク接続に対応しています。

AAC

AACロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,95
5848391
5,291,557
5,451,954
5 400 433
5,222,189
5,357,594
5 752 225
5,394,473
5,583,962
5,274,740
5,633,981
5 297 236
4,914,701
5,235,671
07/640,550
5,579,430
08/678,666
98/03037
97/02875
97/02874
98/03036
5,227,788
5,285,498
5,481,614
5,592,584
5,781,888
08/039,478
08/211,547
5,703,999
08/557,046
08/894,844
5,299,238
5,299,239
5,299,240
5,197,087
5,490,170
5,264,846
5,268,685
5,375,189
5,581,654
05-183,988
5,548,574
08/506,729

リモコンに乾電池を入れる

1　裏ぶたの ▽ マークを押しながら、電池カバーを取りはずす

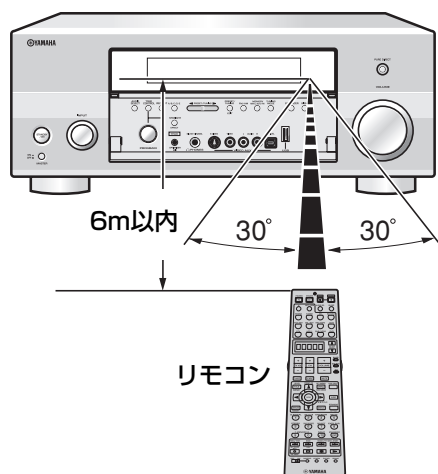
2　付属の単4乾電池(4本)を、リモコンの電池ケース内の表示にあわせて、プラス(＋)とマイナス(－)の向きを間違えないように、正しく入れる

3　裏ぶたを閉じる

ご注意

- アルカリ乾電池をご使用ください。マンガン乾電池を使用すると、すぐに消耗してしまう場合があります。
- 以下のような症状が発生した場合は、乾電池が消耗しています。すべての乾電池を新品と交換してください。
  - リモコンで操作しづらくなった
  - キーを押してもトランスミッションインジケーター(リモコン正面最上部のインジケーター)が光らなくなった
  - ディスプレイが見づらくなった
- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものがあります。種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使わないでください。
- 使い切った乾電池は、すぐに電池ケースから取り出してください。乾電池が破裂したり、乾電池から液が漏れたりすることがあります。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して廃棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいに拭いてください。
- 乾電池を一般のゴミといっしょに捨てないでください。地域のきまりに従って正しく処置してください。
- 電池を外したまましばらく(2分以上)放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておいたりすると、リモコンに設定したリモコンコードなどのメモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新品に交換して、リモコンコードを再設定してください。

リモコンの取り扱い

リモコンは直進性の強い赤外線を使用しています。本体のリモコン受光窓に向けて正しく操作してください。

ヒント

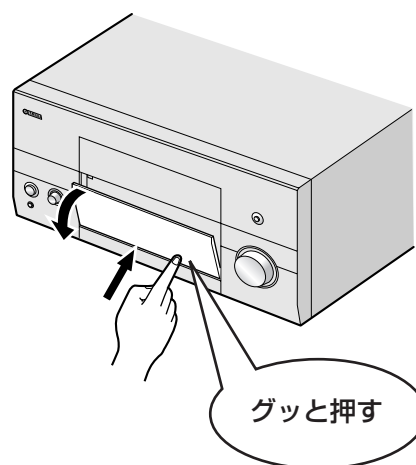
リモコンでうまく操作ができないときは、以下のことを確認してください。

- 本体のリモコン受光窓が、布などで覆われていませんか？
  →布などを取り除いてください。
- 本体のリモコン受光窓に、直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯など)が当たっていませんか？
  →照明の向きを変えるか、本体を置く場所を変えてください。
- 乾電池が消耗していませんか？
  →すべての電池を新しいものに変えてください。

ご注意

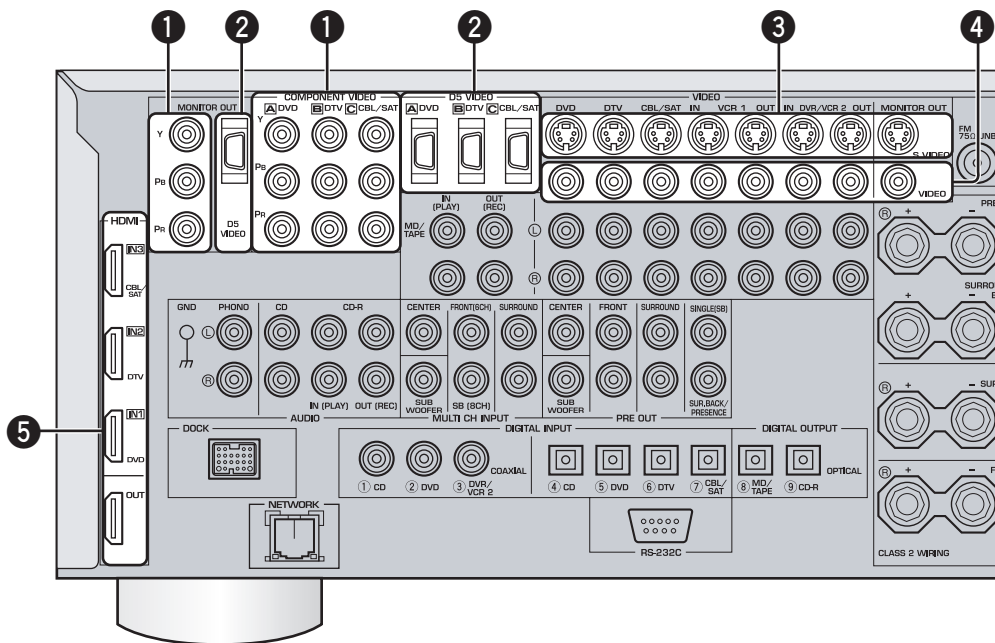
- リモコンに水やお茶をこぼさないでください。
- リモコンを落とさないでください。
- 冷暖房器具のそばなど、極端に温度が低くなったり高くなったりするところや、風呂場など、湿度が高くなるところには置かないでください。

コントロールパネルの開閉

コントロールパネルの中にあるスイッチやキーを使うときは、パネルの下の部分を押すと、パネルが開きます。コントロールパネルの中にあるスイッチやキーを使わないときは、パネルを閉めておきます。

接続の基礎知識

本機に装備されているビデオ端子、デジタル音声端子、映像信号と音声信号を同時に伝送するHDMI端子について、種類や役割を説明します。

ビデオ端子について

本機は5種類のビデオ端子を装備しています。

❶ コンポーネントビデオ端子

コンポーネントビデオ信号を伝送します。
コンポーネントビデオ入出力端子がある機器を接続すれば、ビデオ端子(❹)またはSビデオ端子(❸)よりも高画質な映像を再生できます。

❷ D5ビデオ端子

1080pまでのコンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比などの情報)を伝送します。

❸ Sビデオ端子

Sビデオ信号を伝送します。
Sビデオ入出力端子がある機器を接続すれば、ビデオ端子(❹)よりも高画質な映像を再生できます。

❹ ビデオ端子

コンポジットビデオ信号を伝送します。

❺ HDMI端子

HDMI IN端子から入力したHDMI映像信号を、HDMI OUT端子に伝送します。
HDMI入出力端子がある機器を接続すれば、すべてのビデオ端子の中で最も高画質な映像を再生できます。
音声信号も同時に伝送します。

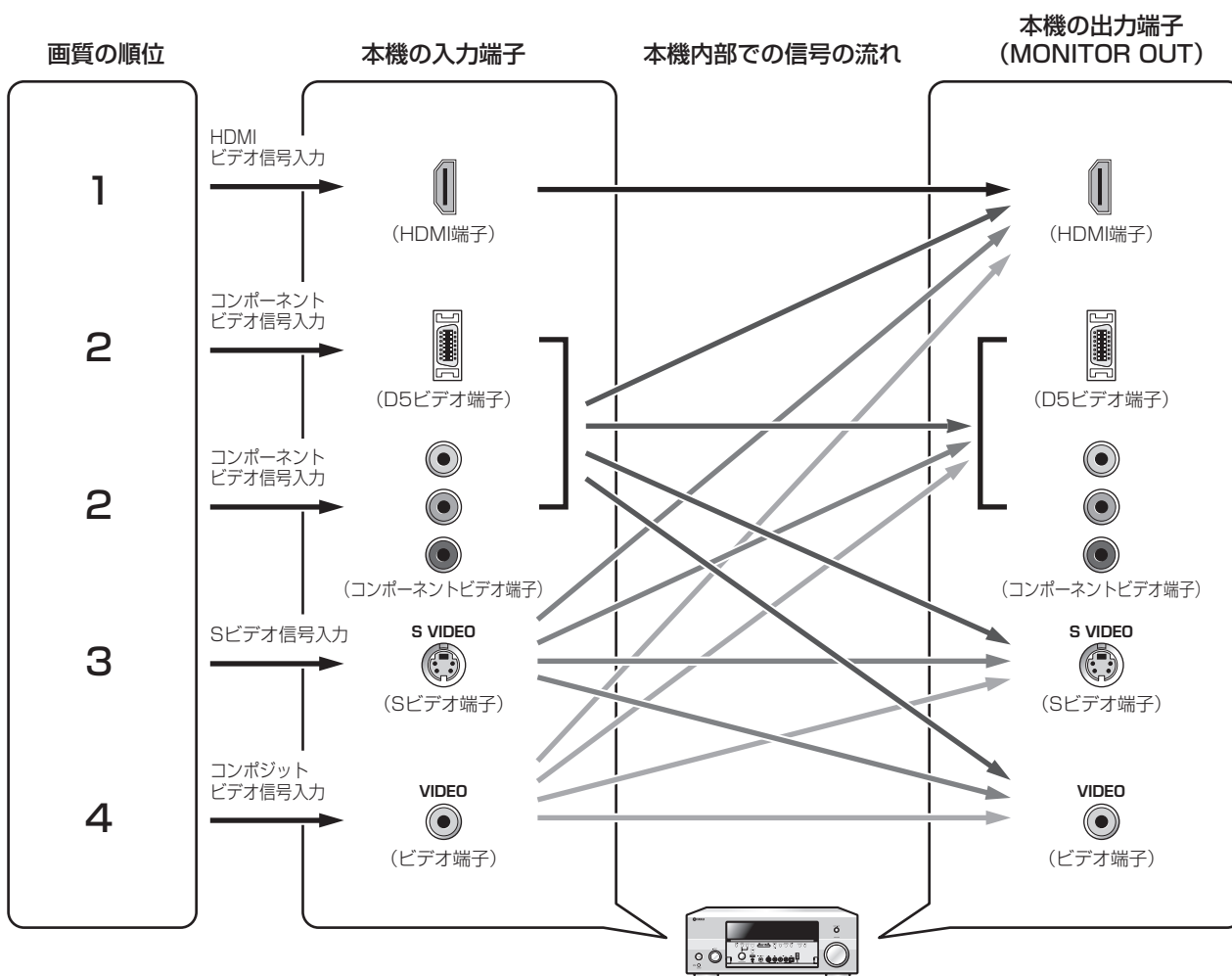
ヒント

- 最良の画質でお楽しみいただくために、なるべく画質のよい端子を使って接続してください。
- コンポーネント/D5ビデオ、Sビデオ、ビデオ端子に同時に信号が入力されている場合は、コンポーネント/D5ビデオ、Sビデオ、ビデオ信号の順に入力信号が優先されます。
- コンポーネントビデオ出力(MONITOR OUT)端子とD5ビデオ出力(MONITOR OUT)端子は同時に使うことができます。例えば、コンポーネントビデオ出力端子にプロジェクターを、D5ビデオ出力端子にテレビを接続して、同じ映像を両方でお楽しみいただけます。

ご注意

- 同じ機器名が書かれたコンポーネントビデオ入力端子とD5ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません(例：❶の A DVDと❷の A DVD端子)。お使いになる機器を確認のうえ、どちらか片方を接続してください。
- D5ビデオ端子を使って接続する場合、再生機器に装備されているD端子の規格(D1～D5)よりもテレビに装備されているD端子の規格が低いと、映像が高画質で再生されません。テレビ側の規格にあわせて再生機器の設定を変更してください。
- 本機のSビデオ出力端子は、S1/S2規格には対応していません。
- VCR1 IN端子に入力した信号は、VCR1 OUT端子から出力できません。同様に、DVR/VCR2 IN端子に入力した信号をDVR/VCR2 OUT端子から出力できません。

ビデオコンバージョン機能

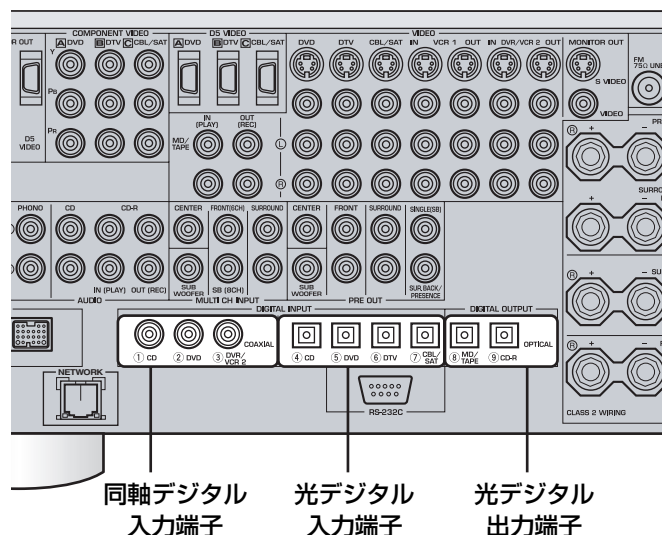
セットメニュー「映像の設定」の「ビデオコンバージョン」(「取扱説明書」54ページ)を「する」に設定すると、HDMI端子を除くすべての種類のビデオ入力端子(D5、コンポーネント、Sビデオ、ビデオ)へ入力した信号を、HDMI端子を含むすべての種類のビデオ出力端子(HDMI、D5、コンポーネント、Sビデオ、ビデオ)から出力できます。これにより、入力端子と出力端子の種類の違いを気にすることなく、映像を楽しめます。(例:ビデオ入力端子に接続したDVDプレーヤーの映像を、HDMI出力端子に接続したテレビで楽しめます。)

ご注意

- D5、コンポーネントビデオ端子へ入力した映像信号が1080pの場合、D5、コンポーネントビデオ端子からのみ出力されます。ビデオコンバージョン機能によってHDMI端子から出力することはできません。
- D5、コンポーネントビデオ端子へ入力した映像信号が480i以外の場合、Sビデオ、ビデオ端子からは出力されません。
- 特殊な映像信号を出力する機器(ゲーム機など)と接続した場合、映像が正しく出力されない場合があります。

ヒント

- セットメニュー「コンポーネントI/P」を「変換する」に設定すれば、D5、コンポーネント、Sビデオ、ビデオ端子へ入力した480i信号をコンポーネント端子から出力するときに、480p信号に変換できます(「取扱説明書」54ページ)。
- セットメニュー「HDMI解像度」で、D5、コンポーネント端子へ入力した480i/480p信号およびSビデオ、ビデオ端子へ入力した480i信号をHDMI端子から出力するときの解像度を設定できます(「取扱説明書」55ページ)。

デジタル音声端子(光/同軸)について

本機は、デジタル音声信号を直接伝送できる光デジタル(OPTICAL)端子と同軸デジタル(COAXIAL)端子を装備しています。

- 光デジタル端子と同軸デジタル端子は、PCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC(BS/地上波デジタル放送)兼用です。
- 同じ機器に割り当てられた同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子に同時に信号が入力されると、同軸デジタル入力端子に入力された信号が優先されます。工場出荷状態では、CDプレーヤーおよびDVDプレーヤーに同軸/光の両端子が割り当てられています。
- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しています。デジタル入力端子に入力されたデジタル信号は、デジタル出力端子からのみ出力されます。

ご注意

本機の光デジタル端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使うと、正常に動作しないことがあります。

HDMI端子について

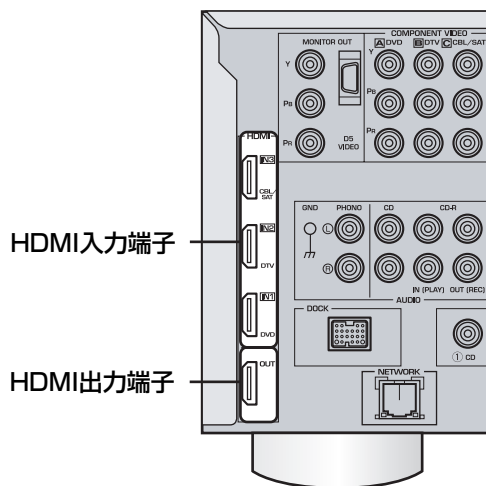
HDMIとは、世界業界標準規格であるHDMI(High-Definition Multimedia Interface Specification)規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。

- 本機はHDMI Ver. 1.2aに対応しており、HDMI対応機器をHDMIケーブル1本で接続すれば、DVD VIDEOなどの高画質デジタルビデオ信号に加え、従来の2チャンネルPCM信号やマルチチャンネル圧縮オーディオ信号、DVDオーディオ(マルチチャンネルPCM信号)などのマルチチャンネルオーディオ信号、DSD信号をデジタルのまま伝送したり、本機で再生することができます。
- 著作権保護技術(HDCP: High-bandwidth Digital Content Protection System)に対応しているため、デジタルビデオ/オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく伝送できます。

この機器のHDMIインターフェースは、以下の規格に準拠しています。
High-Definition Multimedia Interface Specification Version 1.2a

本機は、デジタル映像信号とデジタル音声信号を1本のケーブルで伝送できるHDMI端子を装備しています。
HDMI入力端子に入力したHDMI音声信号は、本機で再生するほかに、HDMI出力端子に接続した機器に伝送できます。詳しくはセットメニュー「HDMI設定」をご参照ください(「取扱説明書」65ページ)。

ヒント

- 接続には、19ピンのHDMIケーブルで、HDMIロゴのついているものをお使いください。また、長さ5.0m以下のものを使うことをおすすめします。
- セットメニュー「信号の情報」で、HDMI接続した機器からの入力信号情報を確認できます(「取扱説明書」71ページ)。
- HDMI IN端子に入力された映像および音声信号は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。

ご注意

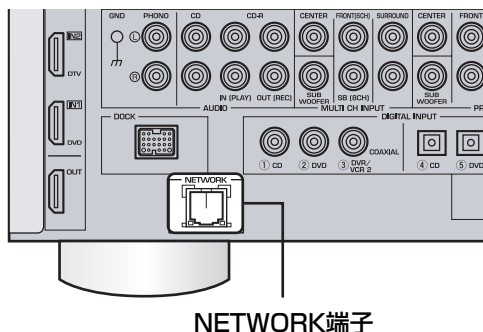
- 本機はHDCP非対応のHDMI機器またはDVI機器には対応していません。HDCP対応の有無については、HDMI機器またはDVI機器の取扱説明書をご参照ください。
- 本機をDVI端子のある機器に接続する場合は、HDMI端子 ⇔ DVI-D端子の変換ケーブルが必要です。
- お使いのテレビやプロジェクターによっては、本機とDVI接続した場合、それらの電源がオフ、またはスタンバイのときや、DVI入力を選択していないときに、HDMI接続したプレーヤーからの音声が出力されない場合があります。
- 制限台数を超えるHDMI機器を接続すると、HDMI接続した機器を再生できない場合があります。
- 本機をスタンバイやオフにすると、本機のHDMI IN端子から入力された信号は、本機のHDMI OUT端子へ伝送しません。
- HDMIで接続した機器を再生中に、本機のHDMI OUT端子に接続しているHDMI/DVI機器の電源をオン/オフしたり、HDMIケーブルを抜き差ししたりしないでください。音声が途切れたり、ノイズが発生したりすることがあります。

HDMI 映像信号は480pが標準規格です。また、本機の HDMI は以下の音声信号フォーマットに対応しています。

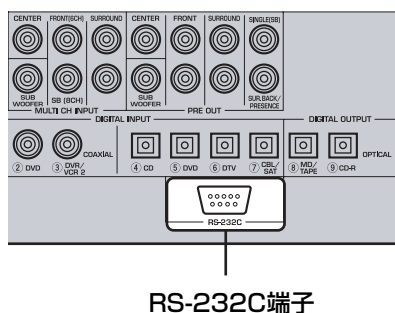
音声フォーマット	詳細	ディスク(例)
2チャンネル リニア PCM	2ch 32-192kHz 16/20/24bit	CD、DVD-Video、 DVD-Audio
マルチチャンネル リニア PCM	8ch 32-192kHz 16/20/24bit	DVD-Audio
DSD	2/5.1ch 2.8224MHz 1bit	SACD
ドルビーデジタル、 DTS、AAC	ビットストリーム	DVD-Video

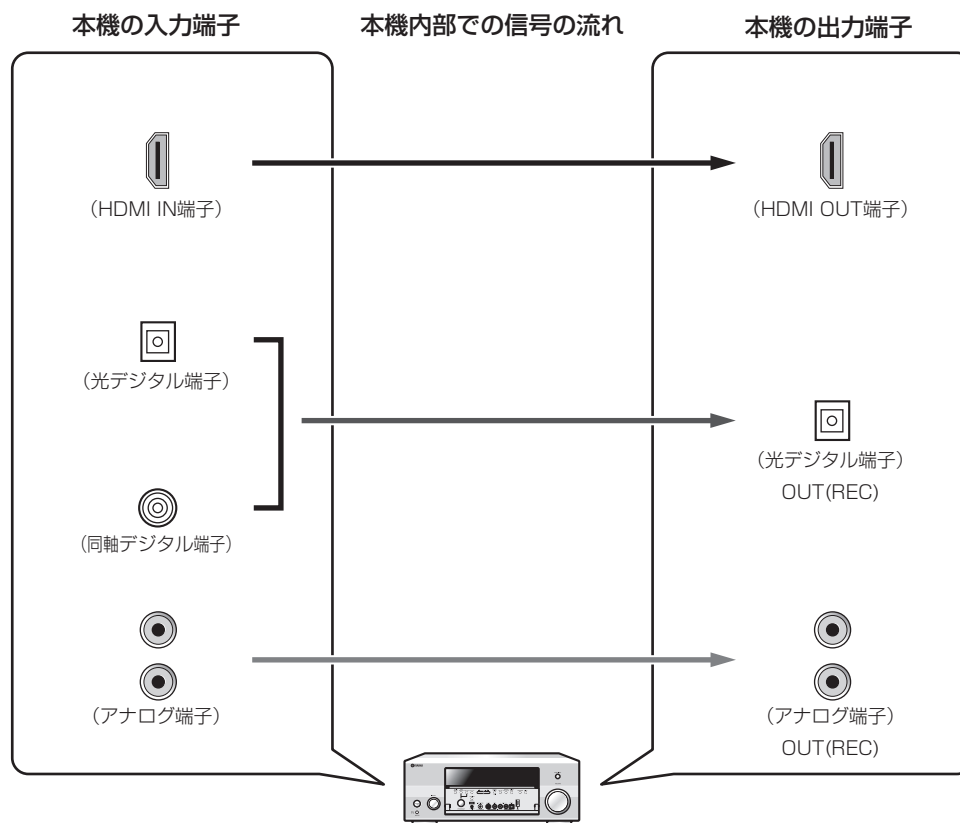
NETWORK端子について

本機はNETWORK端子を装備しています。NETWORK端子を使ってホームネットワークに接続すれば、ホームネットワークに接続したパソコンに保存されている音楽ファイルや、インターネットラジオの再生をお楽しみいただけます。

NETWORK端子

RS-232C端子について

RS-232C端子はサービス用の端子です。外部機器との接続に用いることはありません。

RS-232C端子

音声信号について

本機は4種類の音声入出力端子を装備しています。

ヒント

本機の入力端子に入力された音声信号は、PREOUT端子からも出力されます（30ページ）。

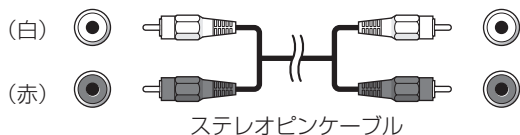
ご注意

MD/TAPE IN(PLAY)端子に入力した信号は、MD/TAPE OUT(REC)端子から出力されません。同様に、CD-R IN (PLAY)端子に入力した信号はCD-R OUT(REC)端子から出力されません。

接続に使うケーブルの種類

お使いになる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

音　　声

同軸デジタル端子

同軸ケーブル

光デジタル端子

光ファイバーケーブル

アナログ端子

ステレオピンケーブル

映　　像

D端子

D端子ケーブル

コンポーネントビデオ端子

コンポーネントビデオケーブル

Sビデオ端子

Sビデオケーブル

ビデオ端子

ビデオ用ピンケーブル

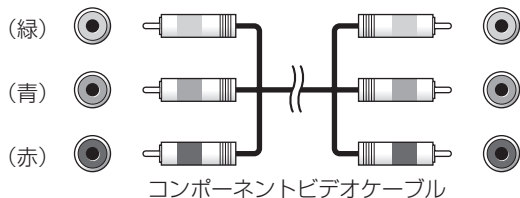
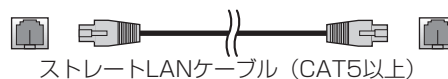
音　　声・映　　像

HDMI端子

HDMIケーブル

ネットワーク

NETWORK端子

ストレートLANケーブル（CAT5以上）

スピーカーを接続する

スピーカーシステムの構成

使用するスピーカーの本数および種類に応じて、スピーカー構成を設定してください。スピーカーの構成は、「自動測定メニュー」(40ページ)、またはセットメニュー「基本設定」(「取扱説明書」57ページ)で設定できます。これにより、環境に応じた最適な再生が可能になります。下図は本機が対応している、代表的なスピーカー構成を表わしています。次ページの図とあわせてご覧ください。

スピーカー構成	使用するスピーカー
7.1チャンネル	フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/Rまたはプレゼンス L/R、サブウーファー
6.1チャンネル	フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバック、サブウーファー
5.1チャンネル	フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サブウーファー
3.1チャンネル	フロントL/R、センター、サブウーファー
2.1チャンネル	フロントL/R、サブウーファー
2チャンネル	フロントL/R

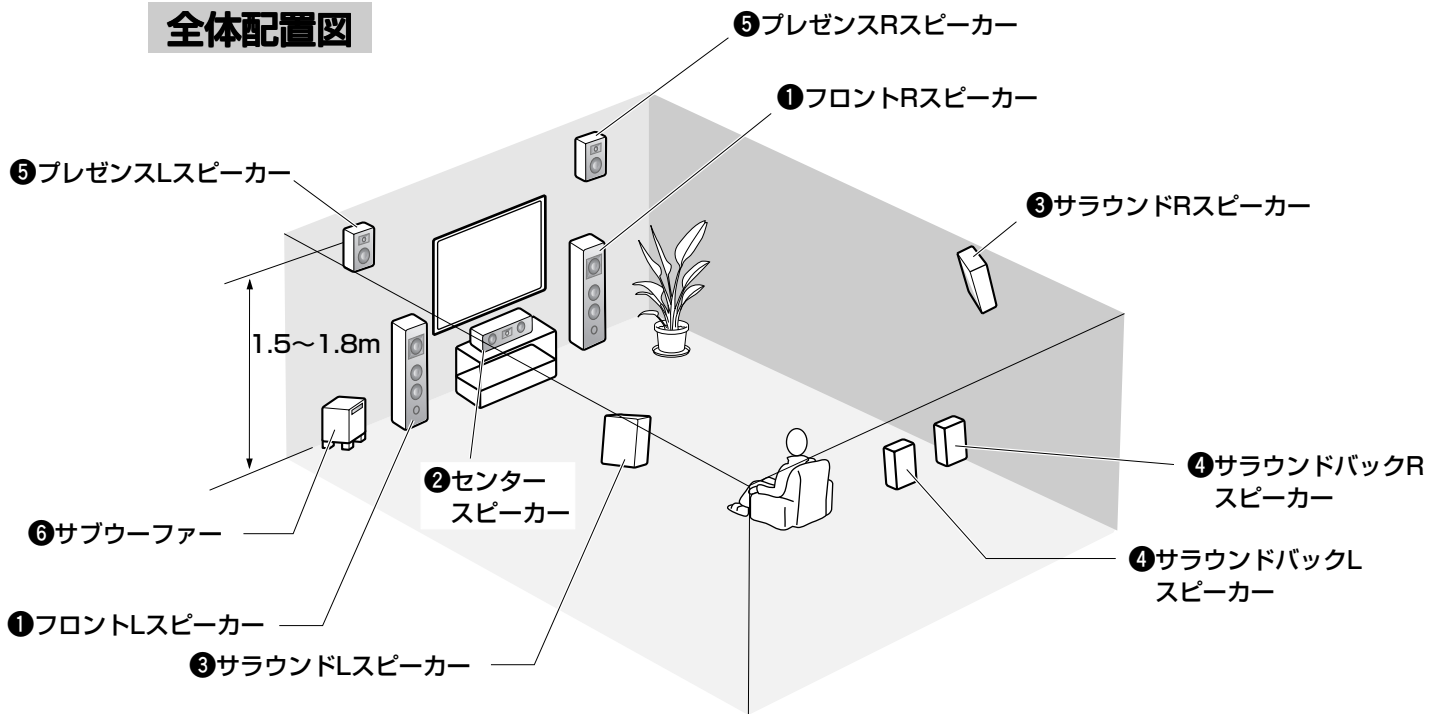
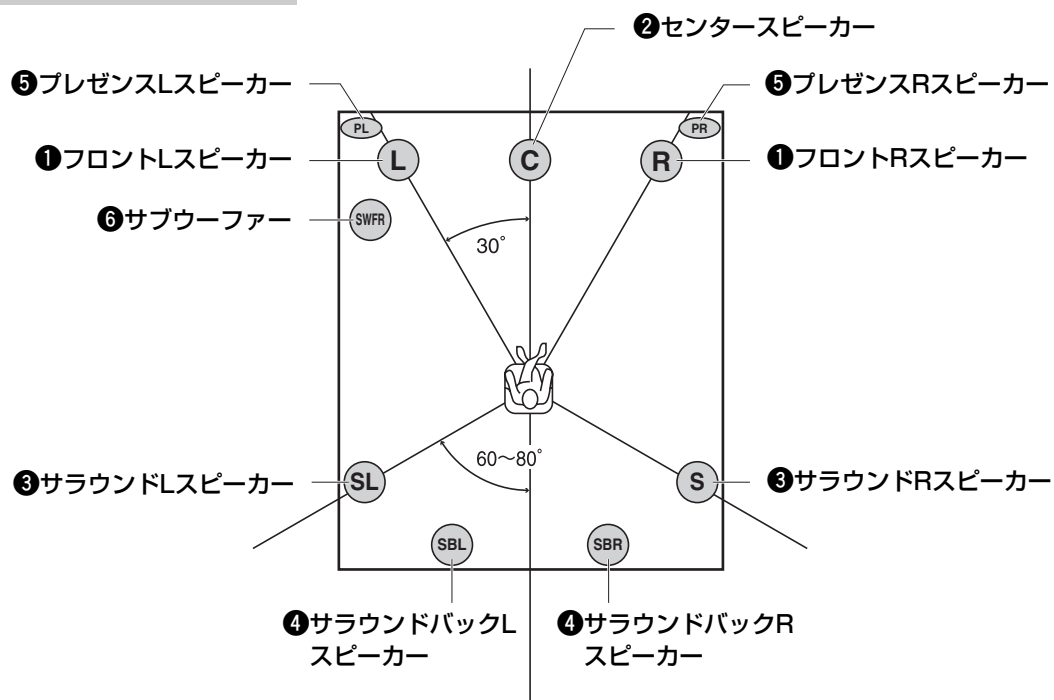
本機では、70mmマルチトラックの迫力と臨場感を、Movieプログラムによってリアルに再現しています。会話は画面上に定位し、効果音は画面後方、音楽はさらにその後方に広がりを持って再現されます。
次ページの図は本機が最も性能を発揮できるスピーカー配置を示したものです。このようにスピーカーを配置することにより、お気に入りの映画をシネマDSPプログラムによってさらに臨場感豊かに再生したり、スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどのマルチチャンネルオーディオを、音声に包みこまれるような雰囲気でお楽しみいただけます。

スピーカーを設置する

スピーカーは下図のように設置します。
接続する前に、本機および接続する機器の電源コードが、ACコンセントに接続されていないことを確認してください。

ご注意

スピーカーは防磁型のものをご使用ください。防磁型以外のスピーカーをご使用になると、テレビの画像が乱れる場合があります。特に画面近くに設置するセンタースピーカーやフロントスピーカーには、防磁型スピーカーの使用をおすすめします。防磁型スピーカーをご使用の場合でも画像が乱れるときは、テレビとスピーカーを離して設置してください。

全体配置図

上から見た配置図

❶ フロントL/Rスピーカーの役割と設置
フロントチャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。
左右のスピーカーを、リスニングポジションから等距離に設置します。
スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から1/4位の高さが適当です。

❷ センタースピーカーの役割と設置
セリフやボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。
フロントL/Rスピーカーの中間に設置します。
スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。
テレビをお使いの場合は、画面とスピーカー前面とを揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところに設置します。

❸ サラウンドL/Rスピーカーの役割と設置
サラウンド音と効果音を出力します。
左右後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5〜1.8mの高さが適当です。

❹ サラウンドバックL/Rスピーカーの役割と設置
ドルビーデジタルサラウンドEXソフトやDTS-ESソフトに含まれているサラウンドバックチャンネルの音声を出力します。（ドルビーデジタルEXデコーダー、DTS-ESデコーダー、プロロジックⅡxデコーダーのいずれかがオンのときに機能します。）
リスニングポジションの後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5〜1.8mの高さが適当です。2本のサラウンドバックL/Rスピーカーを設置する場合は、2本を近づけて設置します。

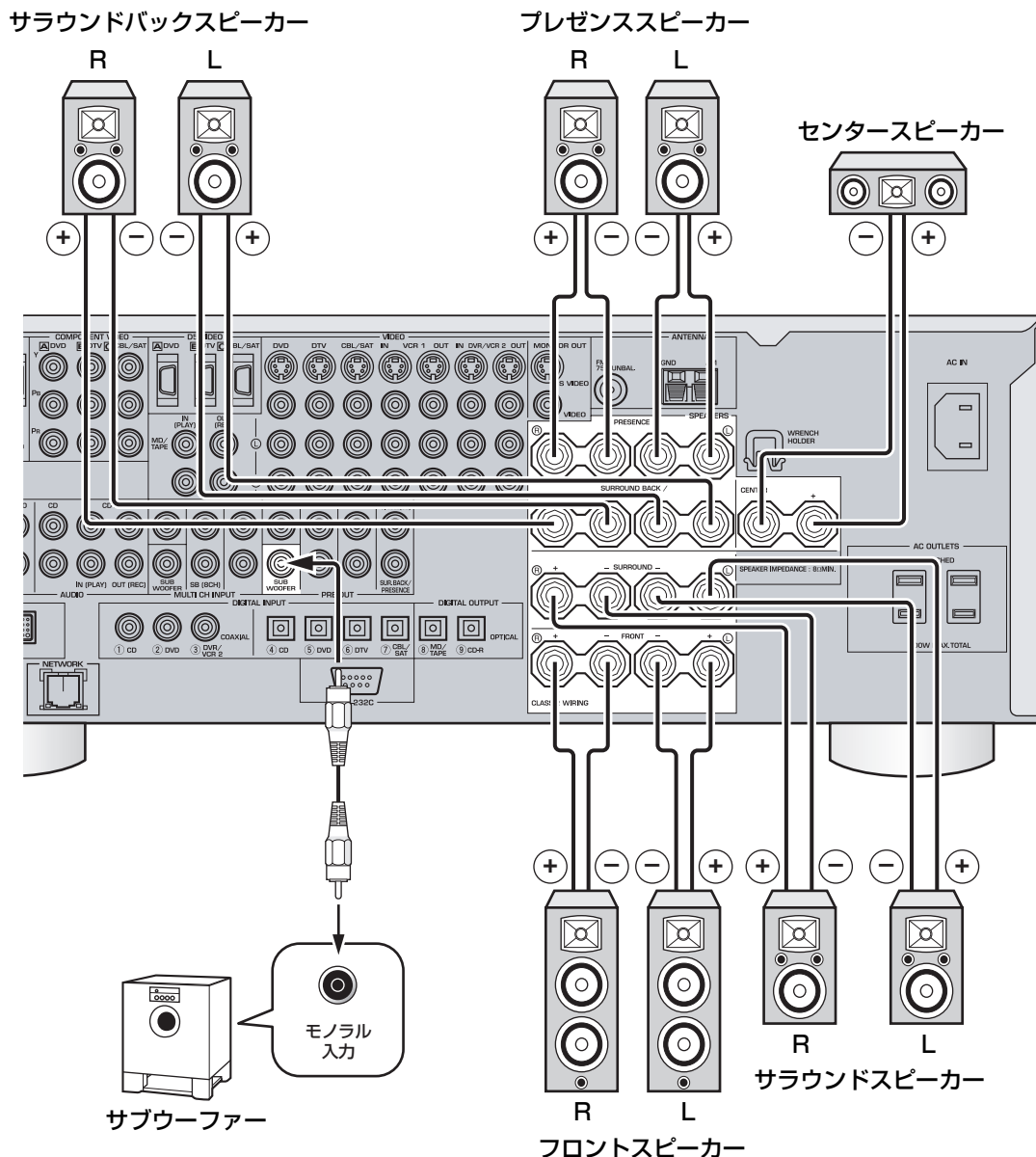
❺ プレゼンスL/Rスピーカーの役割と設置
シネマDSPプログラムを選んでいるときに、前方の効果音を出力します。
フロントL/Rスピーカーの外側0.5〜1mの範囲に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5〜1.8mの高さが適当です。

❻ サブウーファーの役割と設置
ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に含まれるLFE（低域効果音）信号に加え、小口径スピーカーをご使用の場合には低音域成分も出力します。
フロントL/Rスピーカーの外側に、壁の反射を防ぐために少し内向きにして設置します。

スピーカーを接続する

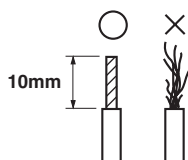
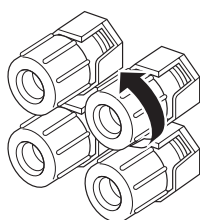
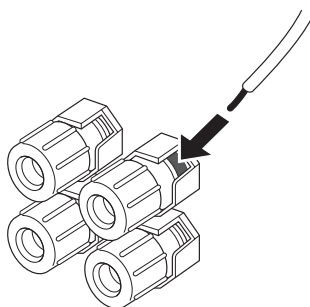
本機とスピーカーの接続図

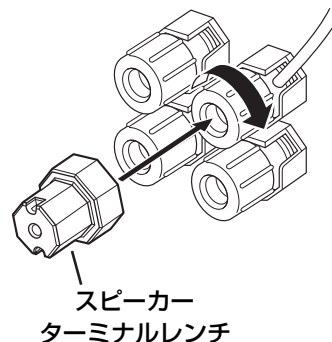
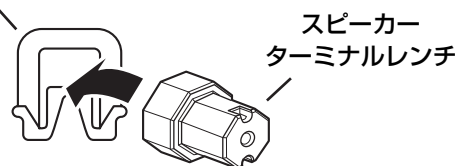
下図のようにスピーカーを接続してください。リスニングポジションの後方にスピーカーを2台設置する場合は、SURROUND端子に接続します。アンプ内蔵サブウーファーを使用する場合は、SUBWOOFER端子に接続します。

ヒント

- サラウンドバックスピーカーを1本のみ使う場合は、SURROUND BACK L（SINGLE）端子に接続してください。
- サラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーの両方を接続した場合、同時に使用することはできませんが、セットメニュー「PR/SBの優先」の設定により、音場プログラムや再生するソースによって効果的に鳴らし分けができます（「取扱説明書」58ページ）。
- サブウーファーにモノラル入力端子がない場合は、FRONT端子に接続してください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご参照ください。

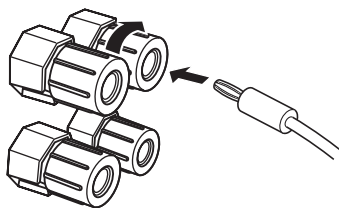
スピーカーケーブルを接続する

左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(黒)をよく確認して、正しく接続してください。

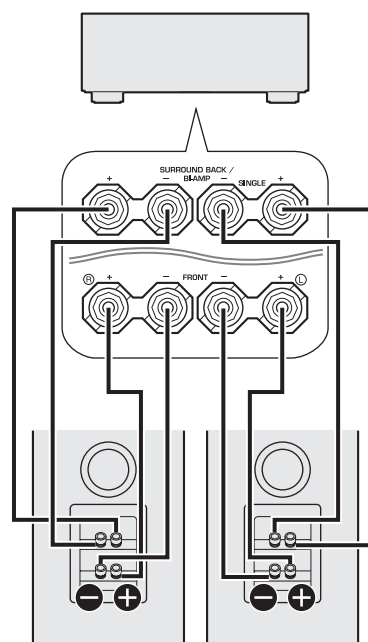
1 スピーカーケーブル先端の絶縁部(被覆)を、10mmぐらいはがし、芯線をしっかりよじる

2 スピーカー端子を左に回して、ゆるめる

3 スピーカー端子の根元の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む

4 スピーカー端子を右に回して、しめる

ヒント

付属のスピーカーターミナルレンチを使うと、端子を回しやすくなります。使い終わったら、リアパネルのホルダーにかけておくことをおすすめします。

ご注意

- スピーカーは、インピーダンスが6Ω以上のものを使ってください。
- スピーカーケーブルの芯線はしっかりよじり、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路がはたらいて電源がスタンバイになることがあります。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子の金属部にしっかりと接触するように接続してください。絶縁部(被覆)をスピーカー端子に挟み込むと、音声が出力されない場合があります。
- スピーカーの＋端子と本機の＋端子、スピーカーの－端子と本機の－端子をそれぞれ接続してください。間違えて接続すると、音が不自然になります。

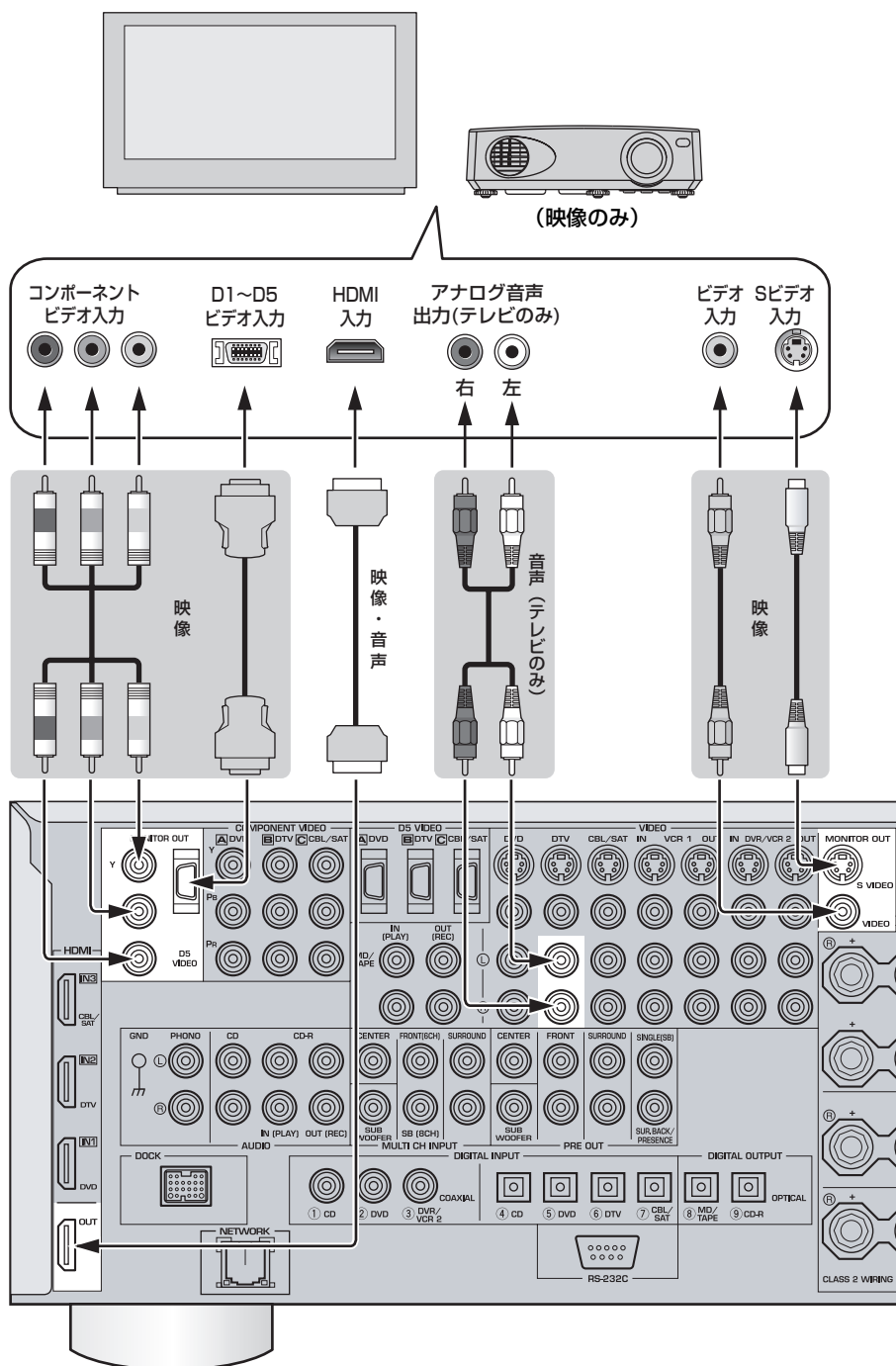
バナナプラグを使用する場合

端子を強くしめてから差し込んでください。

バイアンプ接続する場合

スピーカーのウーファー端子とツィーター端子を、それぞれFRONT端子とSURROUND BACK/BI-AMP端子に接続します。
ご使用になるときは、アドバンストセットアップメニュー「BI-AMP」を設定してください（「取扱説明書」75ページ）。

ご注意

- バイアンプ接続する場合は、サラウンドバックスピーカーは接続できません。また、プレゼンススピーカーも使用できません。
- 本機とスピーカーを接続する前に、必ずウーファー端子とツィーター端子をつないでいる金具またはケーブルを取り外してください。

テレビ/プロジェクターを接続する

テレビ/プロジェクターのビデオ入力端子を本機のMONITOR OUT端子に接続します。映像接続については、お使いになるテレビ/プロジェクターに合わせて、**下記の映像ケーブルのうち1つ**を選んで接続してください。また、テレビの場合は音声出力端子と本機のDTV AUDIO端子に接続します。HDMIで接続する場合は、映像、音声両方をHDMIケーブル１本で接続できます。

ヒント

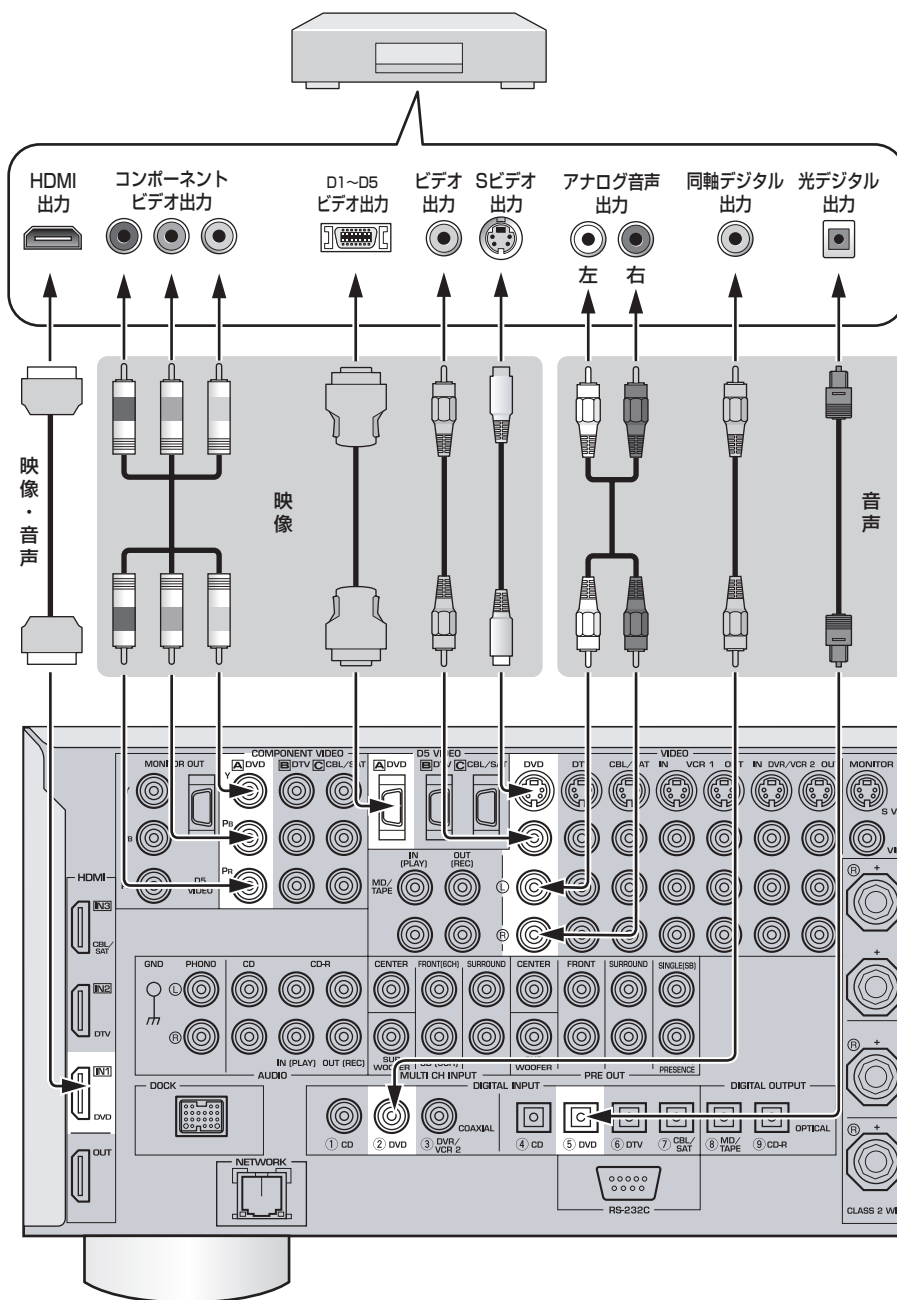
コンポーネントビデオ出力(MONITOR OUT)端子とD5ビデオ出力(MONITOR OUT)端子は同時に使用できます。たとえば、コンポーネントビデオ出力端子にプロジェクターを、D5ビデオ出力端子にテレビを接続して、同じ映像を両方でお楽しみいただけます。

再生機器を接続する

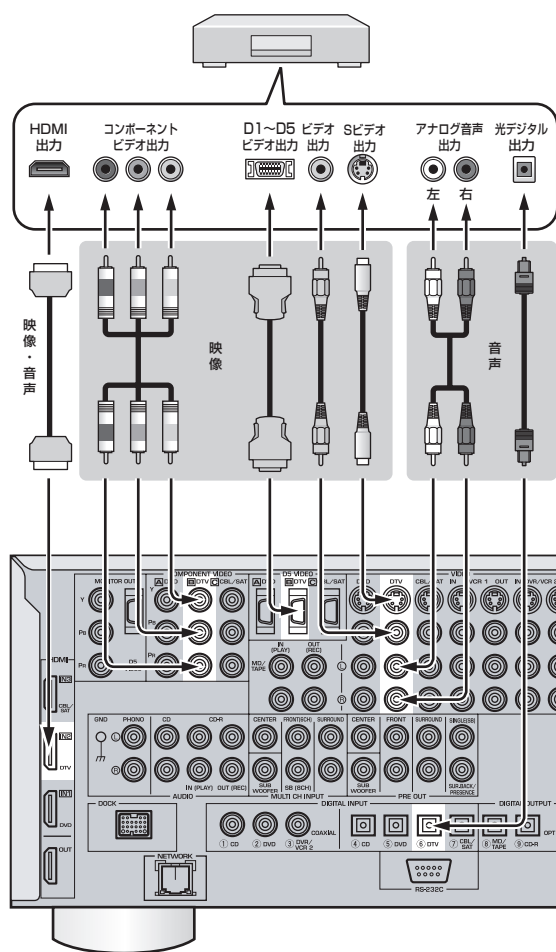
左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、入力(IN)、出力(OUT)をよく確認して、正しく接続してください。

DVDプレーヤーを接続する

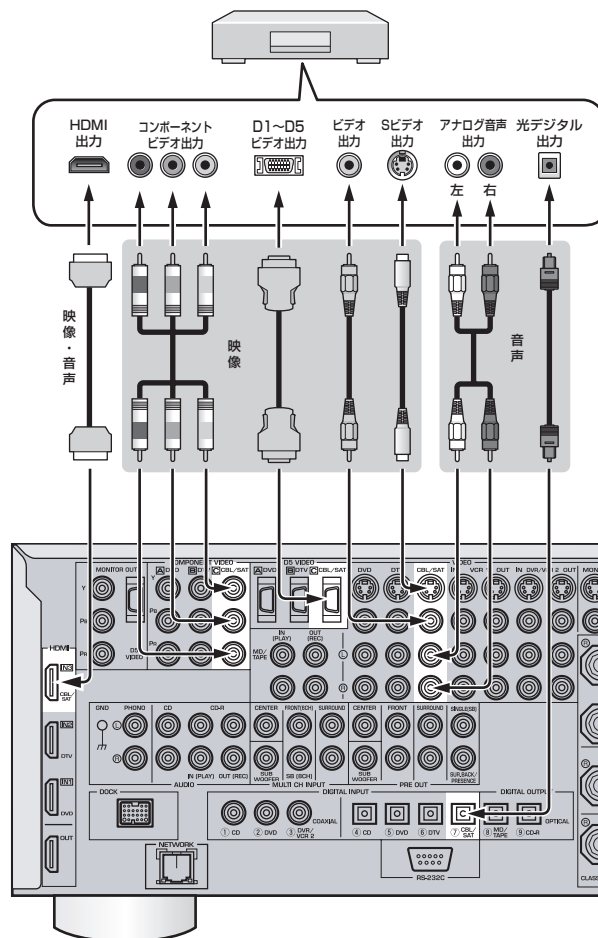
お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。HDMIで接続する場合は、映像、音声両方をHDMIケーブル１本で接続できます。DVDプレーヤーをHDMIで接続した場合は、本機とテレビもHDMIで接続してください。

ご注意

コンポーネントビデオ入力端子とD5ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いになるDVDプレーヤーを確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

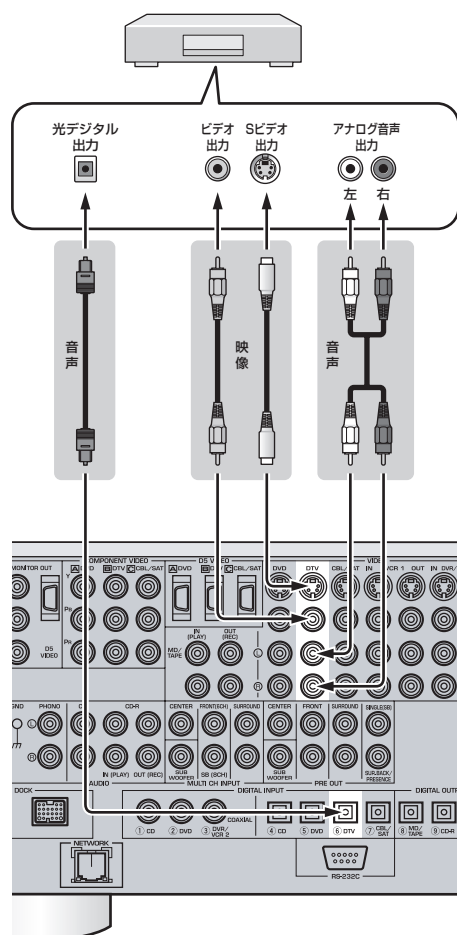
デジタルテレビチューナーを接続する

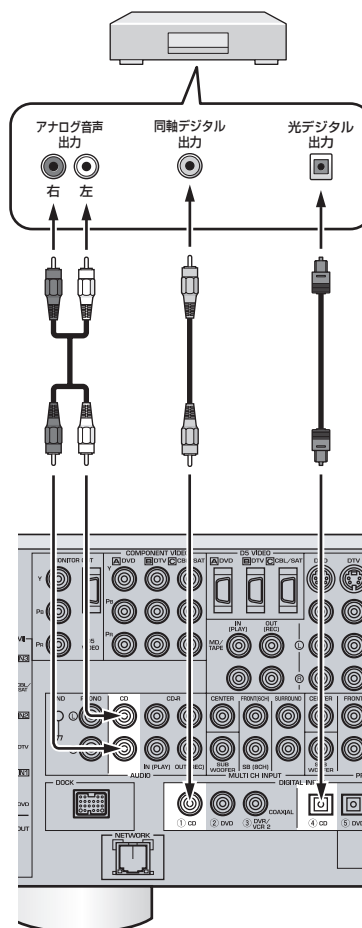
お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

ケーブルテレビ/衛星放送チューナーを接続する

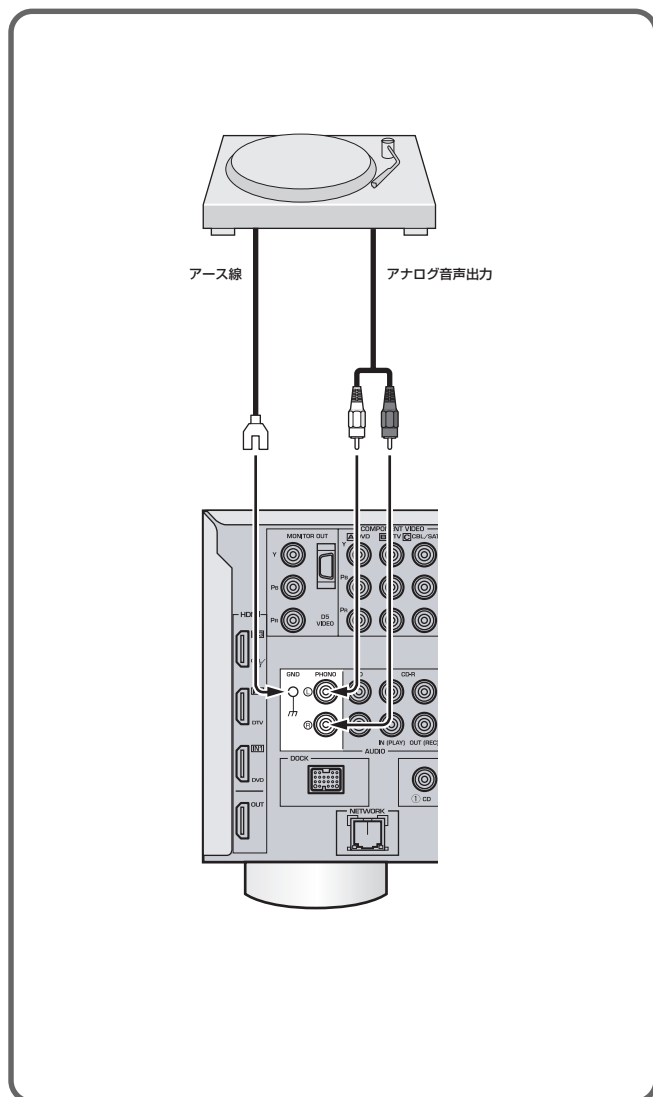
お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。HDMIで接続する場合は、映像、音声両方をHDMIケーブル１本で接続できます。

ご注意

コンポーネントビデオ入力端子とD5ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いになるデジタルTVチューナーを確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

LDプレーヤーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

CDプレーヤーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、**どれか1つ**を選んで接続してください。

ヒント

- 上図では例として、DTV端子に接続しています。端子につけられている名前(DVDやDTVなど)に関係なく、空いている入力端子に接続してください。
- ドルビーデジタルRF出力端子がある場合は、市販のRFデモジュレーターに接続してから、空いているデジタル入力端子に接続します。

レコードプレーヤーを接続する

低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプを使って接続します。

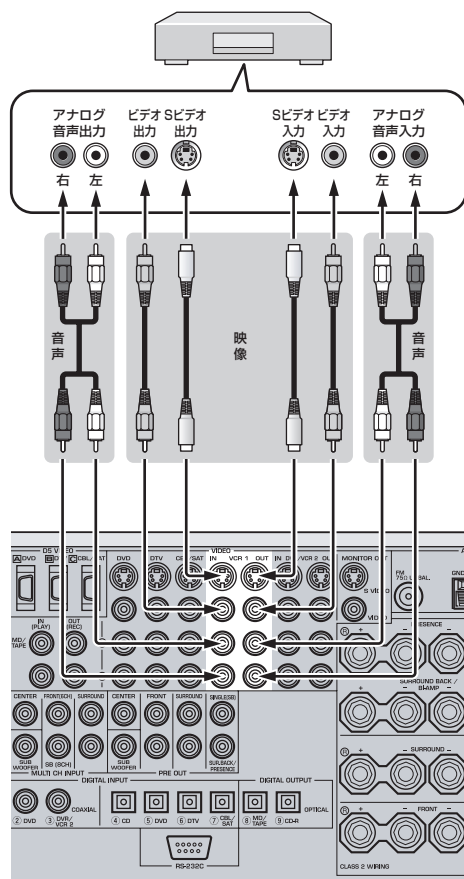
ご注意

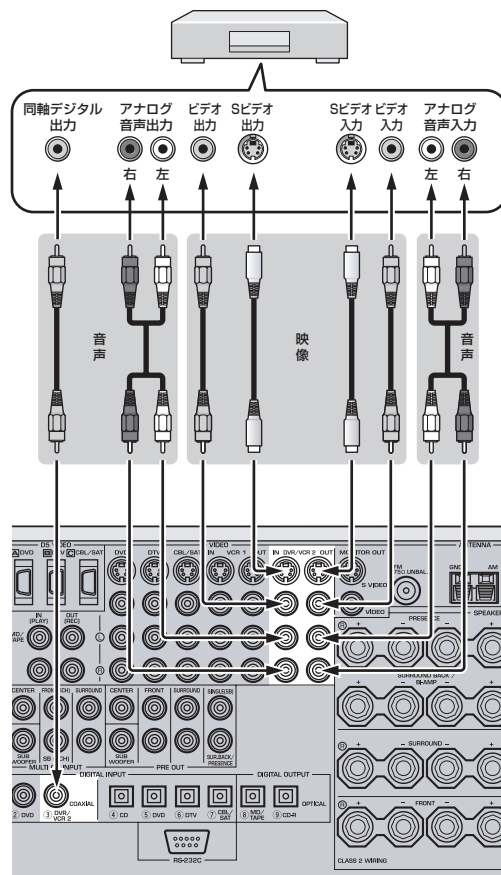
GND端子は安全アースではありません。一般的に、ノイズが多いときに接続するとノイズレベルを低減できます。レコードプレーヤーによってはノイズレベルが高くなってしまうことがありますので、お使いのレコードプレーヤーに合った接続をお試しください。

録音/録画機器を接続する

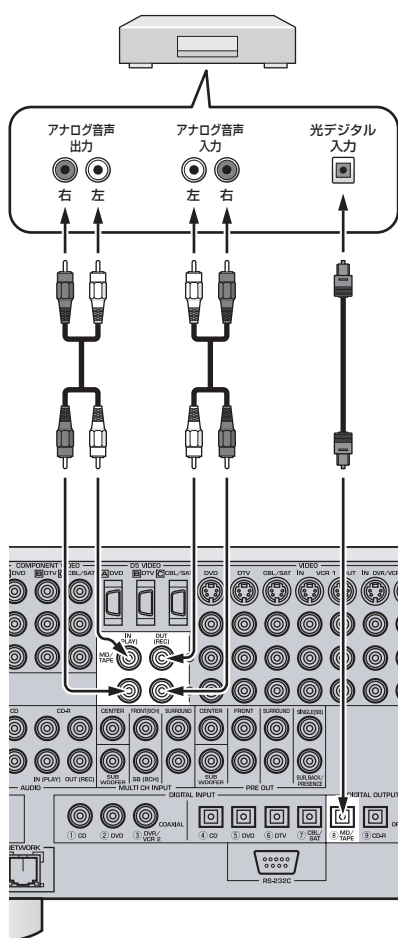
左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、入力(IN)、出力(OUT)をよく確認して、正しく接続してください。

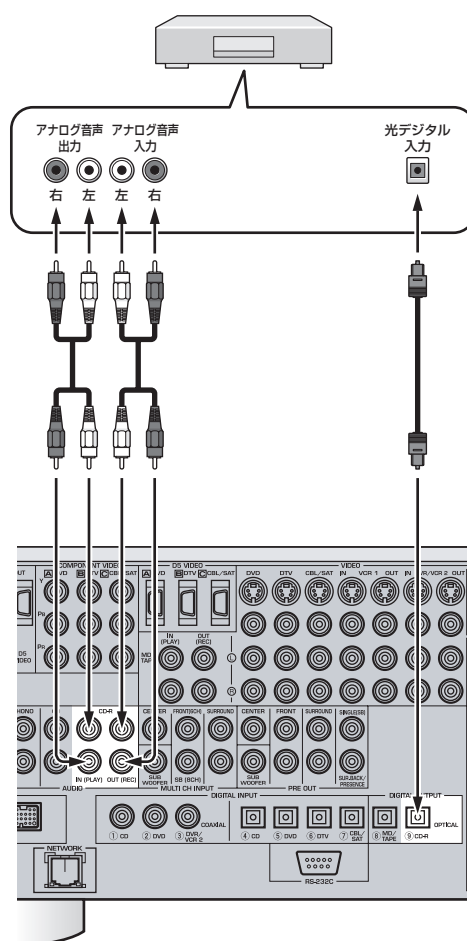
ビデオデッキを接続する

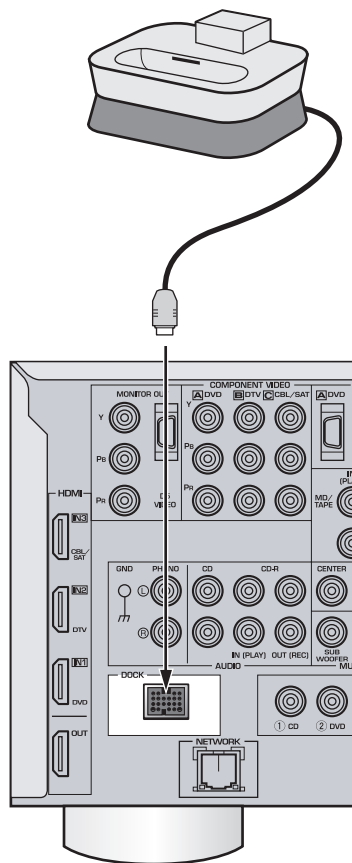
お使いになる機器の端子をよく確認して、入出力それぞれ**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

DVDレコーダーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、入出力それぞれ**音声で1つ、映像で1つ**を選んで接続してください。

空いているDVR/VCR 1/2端子を使って、2台目のビデオデッキやDVDレコーダーを接続することもできます。

MDレコーダー/テープデッキを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、アナログ音源を録音する場合はアナログ接続を、デジタル音源を録音する場合はデジタル接続をしてください。

CDレコーダーを接続する

お使いになる機器の端子をよく確認して、アナログ音源を録音する場合はアナログ接続を、デジタル音源を録音する場合はデジタル接続をしてください。

ヤマハ製ドックを接続する

本機は、iPodの再生を楽しめるヤマハ製ドック(別売YDS-10など)接続用のDOCK端子を装備しています。本機にヤマハ製ドックを接続し、iPodをセットすれば、本機でiPodの再生を楽しんだり、付属のリモコンでiPodを操作したりすることができます。詳しくは「iPodの再生を楽しむ」をご参照ください(52ページ)。

ヒント

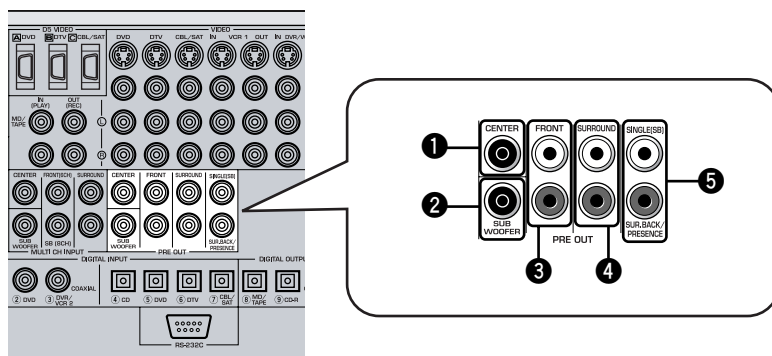
- iPodの再生を楽しむには、別売のヤマハ製ドック(YDS-10など)が必要です。
- iPodの種類は、クリックホイール、nano、miniに対応しています。
- 本機に接続したヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にiPodをセットすると、本機とiPodとの通信が始まります。通信が完了すると、フロントパネルディスプレイに「iPod connected」と表示され、DOCKインジケーターが点灯します。
- 本機とiPodとの通信に問題が生じると、フロントパネルディスプレイにエラーメッセージが表示されます。iPod接続時のメッセージについては、「iPod接続時のメッセージについて」をご参照ください(54ページ)。
- 本機に接続したヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にiPodをセットし、本機がiPodを認識しているときには、iPodの信号をVIDEO AUX端子に接続した機器の信号よりも優先的に出力します。
- DOCK端子には、iPodのアナログ音声信号およびアナログ映像信号のみ入力されます。入力されたアナログ音声信号はAUDIO OUT (REC)端子からのみ出力されます。
- 本機でiPodを充電できます。詳しくは、「iPodの充電について」(54ページ)をご参照ください。
- iPodの種類により、ヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にアダプターを装着してお使いください。

ご注意

- ヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にiPodをセットする、または取り外す際は、必ず音量を下げてください。
- iPodがヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にしっかりとセットされていない場合、映像がiPodの画面に映し出されていても音声が出力されない場合があります。
- 本機に接続したヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にiPodをセットしているときは、iPod用のアクセサリー(ヘッドホンやリモコン、FMトランスミッターなど)をiPodに接続しないでください。

その他の機器を接続する

外部パワーアンプを接続する

外部パワーアンプ（プリメインアンプ）を使う場合や、お手持ちのアンプを使う場合などは、PREOUT端子と接続します。

❶ CENTER端子

センターチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、センタースピーカーを駆動させる場合に使います。

❷ SUBWOOFER端子

ヤマハアクティブサーボサブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーを使うときに、この端子に接続します。フロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックチャンネルの低音信号が出力されます。また、ドルビーデジタル、DTSやAACデコード時のLFE信号も、この端子に出力されます。

❸ FRONT端子

フロントL/Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、フロントL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❹ SURROUND端子

サラウンドL/Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンドL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❺ SUR. BACK/PRESENCE端子

サラウンドバックL/Rチャンネルまたはプレゼンス L/Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンドバックL/RスピーカーまたはプレゼンスL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。サラウンドバック用として使うか、プレゼンス用として使うかは、セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」および「プレゼンス」で設定します（「取扱説明書」58ページ）。どちらか一方をスピーカーありの設定、もう一方をスピーカーなしの設定にしてください。

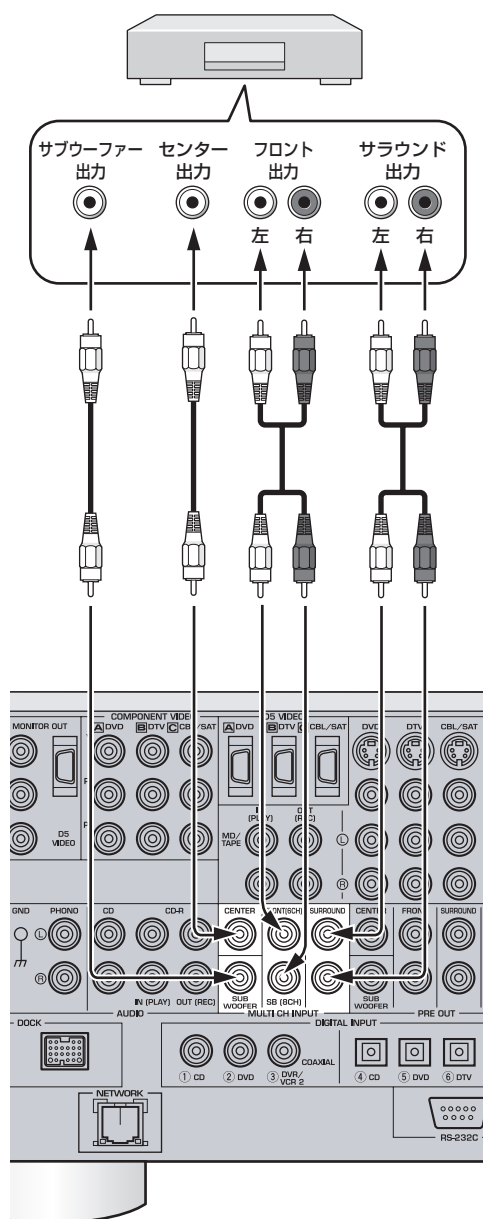
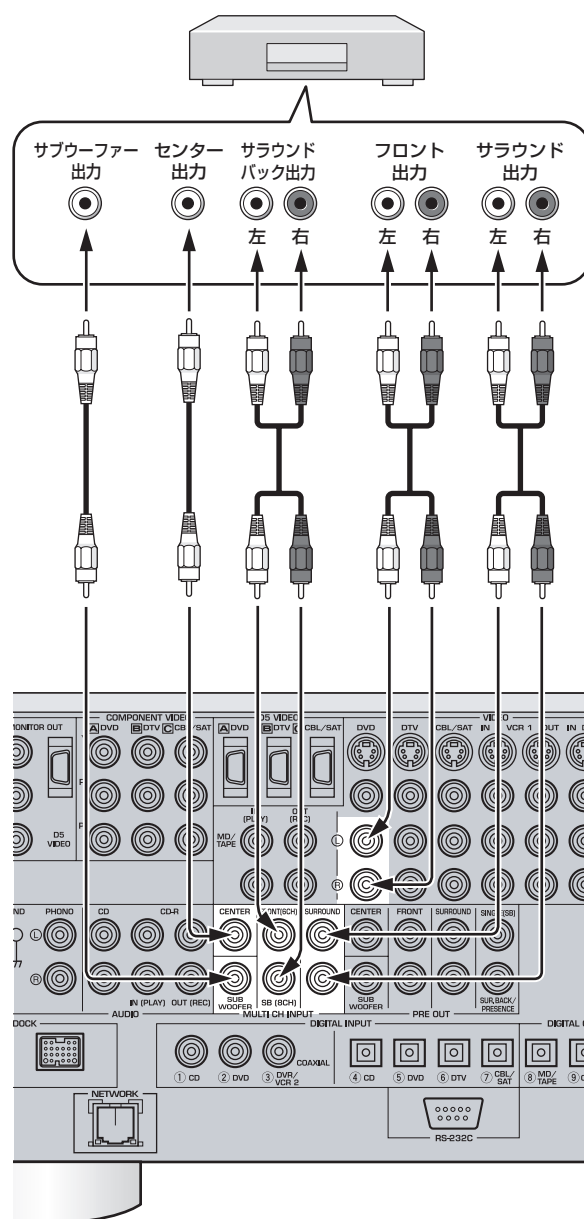
ヒント

サラウンドバック用のスピーカーを１台のみ使う場合は、SUR. BACK/PRESENCE端子のL側に接続してください。

ご注意

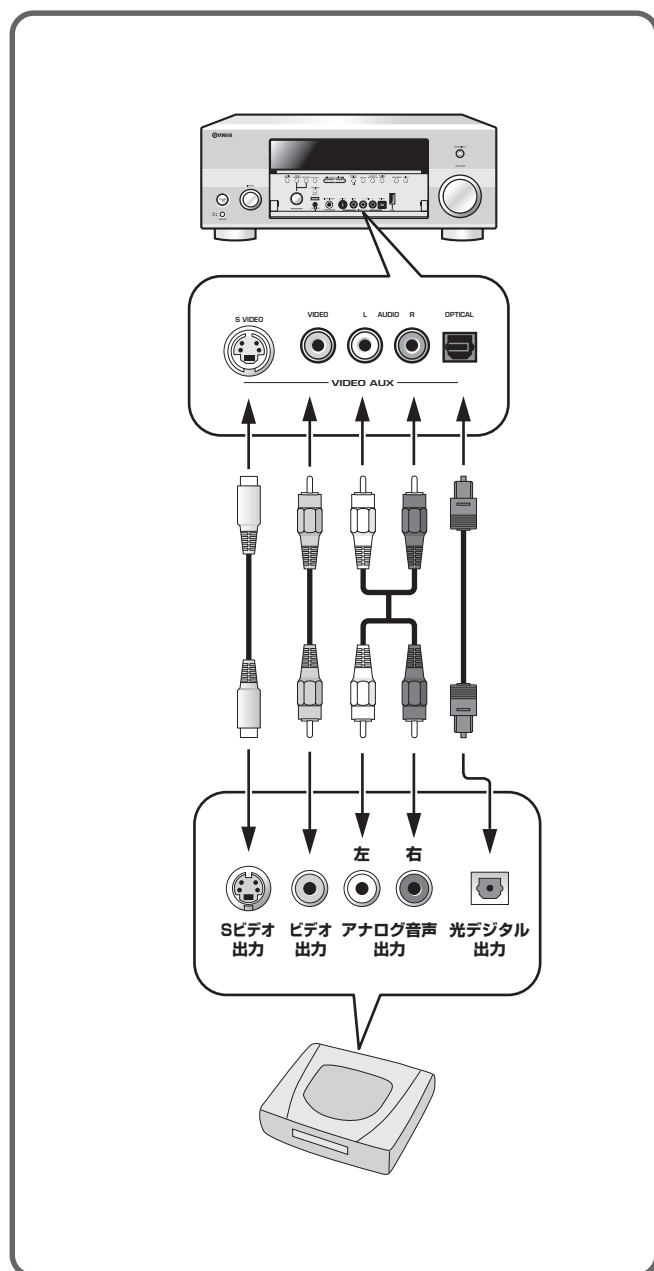
- PREOUT端子に外部パワーアンプを接続するときには、対応するスピーカー端子を使わないでください。また、接続する外部パワーアンプの音量は最大にしてください。
- 「SPEAKERS」のSURROUND BACK/PRESENCE端子と「PREOUT」のSUR. BACK/PRESENCE端子の両方を使って、サラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーの両方から同時に音声を出力することはできません。
- セットメニュー「スピーカーの設定」の設定によっては、SUBWOOFER端子から出力されない信号があります（「取扱説明書」57ページ）。

マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

DVDプレーヤーやスーパーオーディオCDプレーヤーなど、マルチチャンネル出力端子がある機器を接続します。セットメニュー「入力チャンネル」を「8チャンネル」に設定すると、アナログ音声入力端子とMULTI CH IN端子を組み合わせて、8チャンネル音声入力端子として使えます。「フロント入力」で、フロントL/Rチャンネル入力として使うアナログ音声端子を設定してください（「取扱説明書」68ページ）。

ご注意

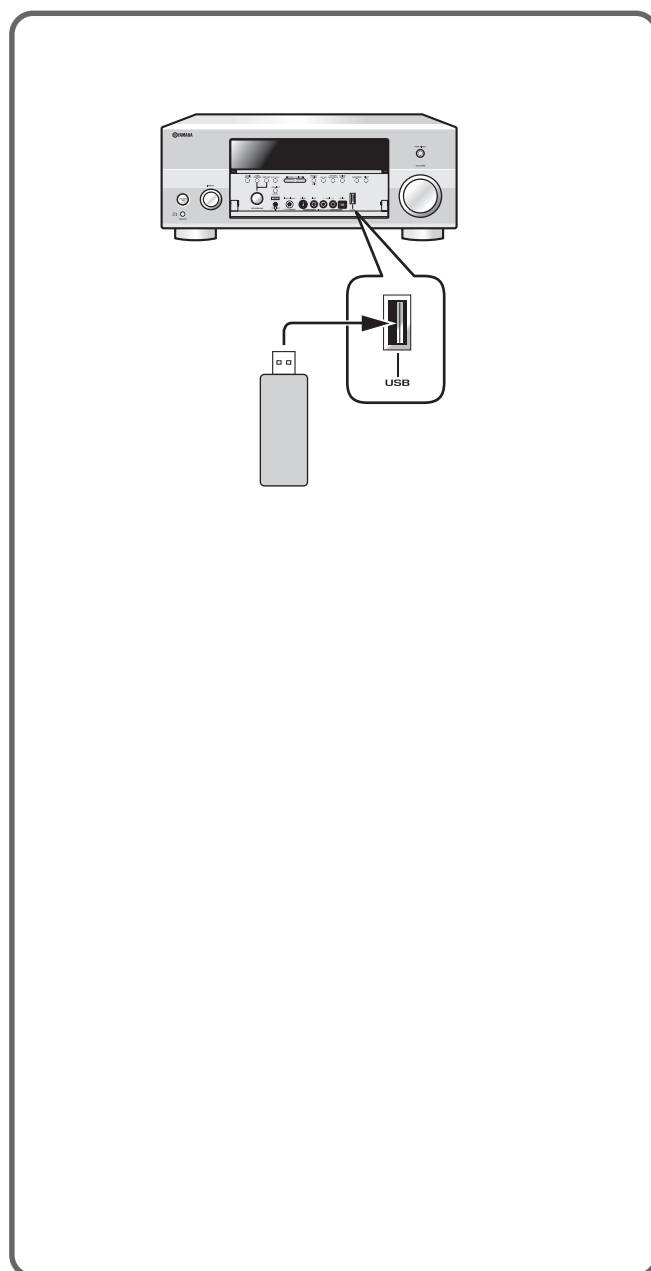
- 入力モードを「ANALOG」（「取扱説明書」37ページ）に設定している場合、音場プログラムおよびコンプレストミュージック・エンハンサーモードの効果はオフになります。
- セットメニュー「スピーカーの設定」（「取扱説明書」57ページ）でスピーカーなしに設定されているチャンネルの音声信号は出力されません。

ゲーム機やビデオカメラなどを接続する

フロントパネル(前面)のVIDEO AUX端子に接続します。

ヒント

本機に接続したヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にiPodをセットし、本機がiPodを認識しているときには、iPodの信号をVIDEO AUX端子に接続した機器の信号よりも優先的に出力します。

USBデバイスを接続する

フロントパネル(前面)のUSB端子に接続します。

ヒント

USBデバイスが500mAを超える電流を必要とする場合は、USBデバイスに付属しているACアダプターなどで電源を供給してください。

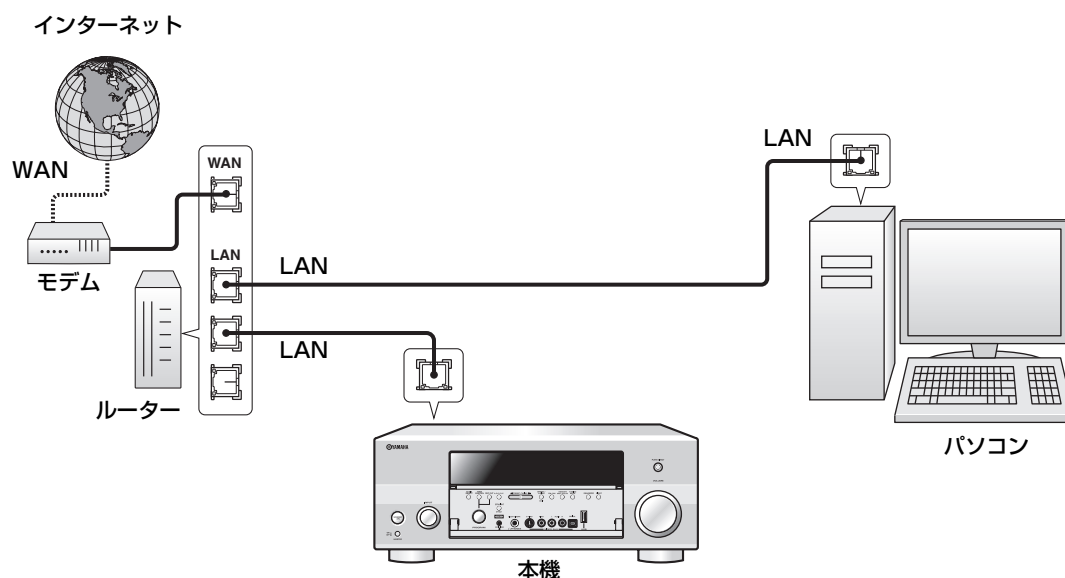
ご注意

- USBデバイスのメーカーや種類により、ファイルを再生できない場合があります。
- 映像ファイルは再生できません。

ホームネットワークに接続する

本機をホームネットワークに接続すれば、パソコンに保存されている音楽ファイルやインターネットラジオの音声をお楽しみいただけます。

ホームネットワーク環境について

下図はホームネットワーク環境の一例をあらわしています。

ネットワークについて詳しくは、ネットワーク機器の取扱説明書をお読みになるか、接続業者にお問い合わせください。

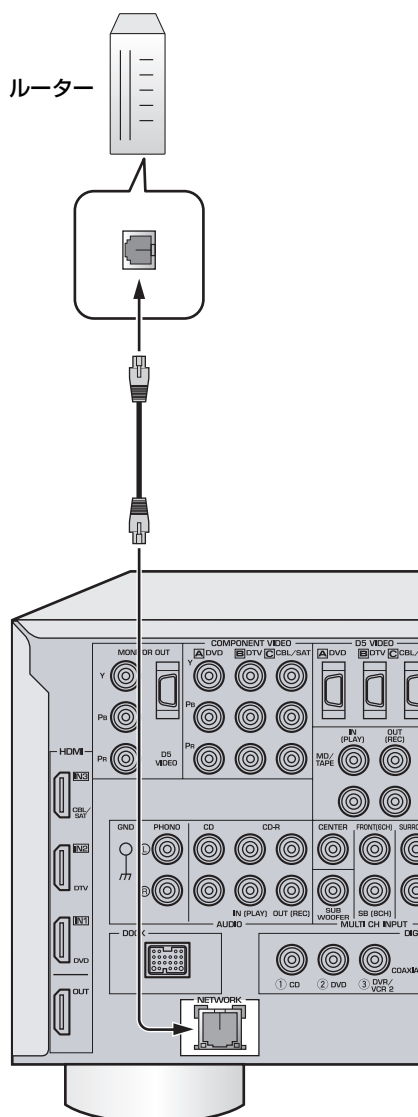
ヒント

インターネットに接続するには、インターネットサービスを提供するプロバイダーとの契約が必要です。

ご注意

- Macintosh OSでは、本機のネットワークオーディオ機能は使えません。
- 映像ファイルは再生できません。

ホームネットワークに接続する

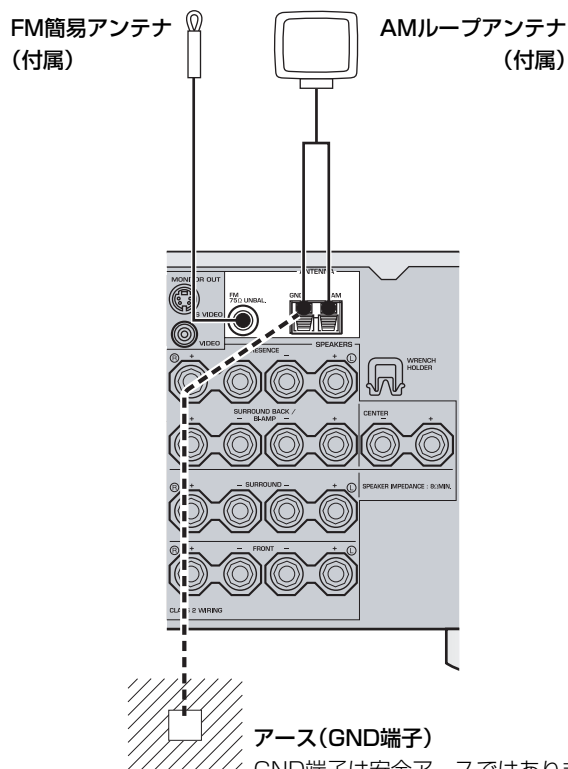
本機のNETWORK端子を、CAT5以上のストレートLANケーブルで、ルーターの空いているNETWORK端子に接続します。
ルーターのDHCPサーバー機能をオンにします。

ストレートLANケーブルは、ツイストペアケーブルのご使用をおすすめします。

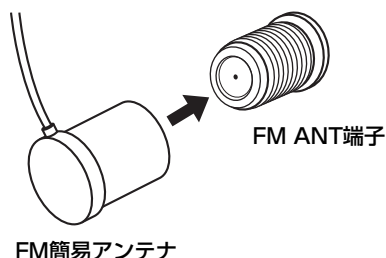
ご注意

ルーターにDHCPサーバー機能がない場合は、セットメニュー「ネットワーク設定」で、ネットワークを手動で設定してください（「取扱説明書」61ページ）。

アンテナを接続する

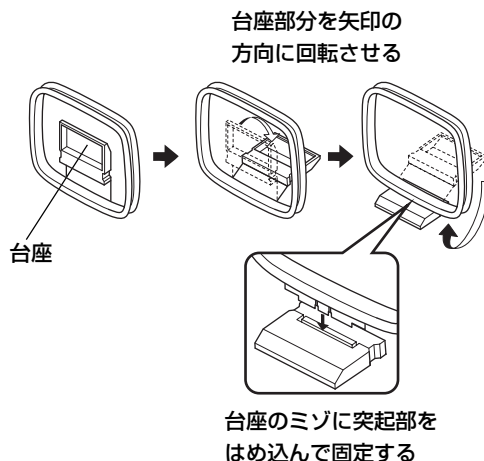
本機には、FM簡易アンテナおよびAMループアンテナが付属されています。付属のアンテナでうまく受信できない場合は、屋外アンテナを接続してください。

GND端子は安全アースではありません。雑音が多いときに、接続すると雑音を低減することができます。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナを、FM ANT端子に接続してください。

FM屋外アンテナを接続する場合

アンテナの同軸ケーブルを、市販のF型コネクターを使って、FM ANT端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

AMループアンテナを接続する

1 アンテナをアンテナスタンドに取り付ける

2 AM ANT端子とGND端子のレバーを押し込んだ状態で、AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込む

コードに極性（＋/－）はありません。

3 レバーを放して、コードを固定する

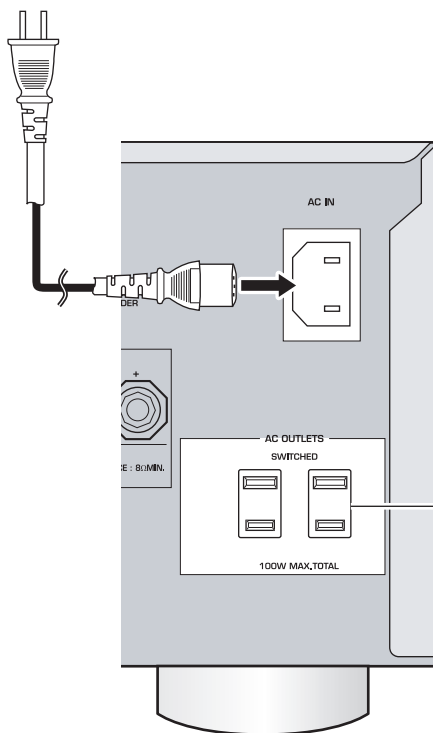
コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。

ヒント

- 受信がうまくいかない場合は、アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向けてください。
- 放送を良好に受信するには、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ご注意

- AMループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続しておいてください。

電源コードを接続する

AC アウトレット

外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のSTANDBY/ONスイッチと連動しています。STANDBY/ONスイッチがONのとき、合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給できます。本機の電源について詳しくは、37ページをご参照ください。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

ご注意
本機のACアウトレットにサブウーファーを接続しないでください。

電源コード

すべての接続が終了したら、電源コードを本機のAC IN端子にしっかりと差し込み、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

メモリーバックアップ

メモリーバックアップ機能は本機がスタンバイの時に、記憶されたデータが失われるのを防ぎます。電源コードがコンセントから抜けていたり、電源供給が一週間以上遮断されると、本機のメモリー内容が消えてしまうことがあります。この場合は各設定を再度やり直してください。

電源をオン/スタンバイにする

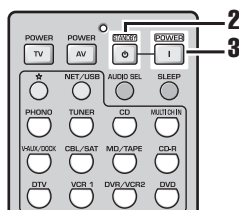
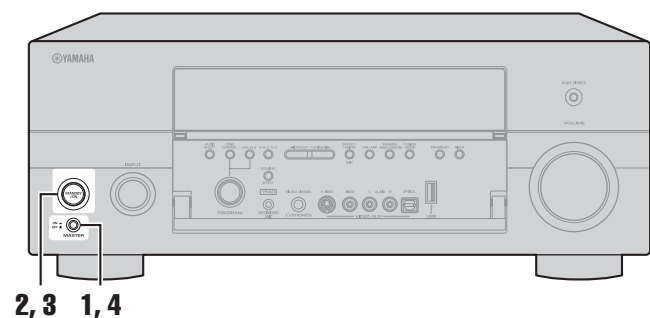
本機の電源をオンにしてから、オフにするまでの一連の操作方法を説明します。

1 本体のMASTER ON/OFFスイッチを押して、ONにする

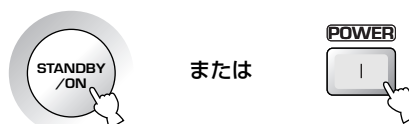
本体スイッチやリモコンキーで本機を操作できるようになります。

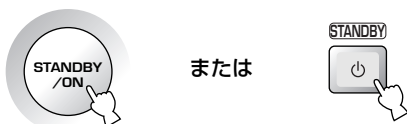
2 本体のSTANDBY/ONスイッチを押す、またはリモコンのSTANDBYキーを押す

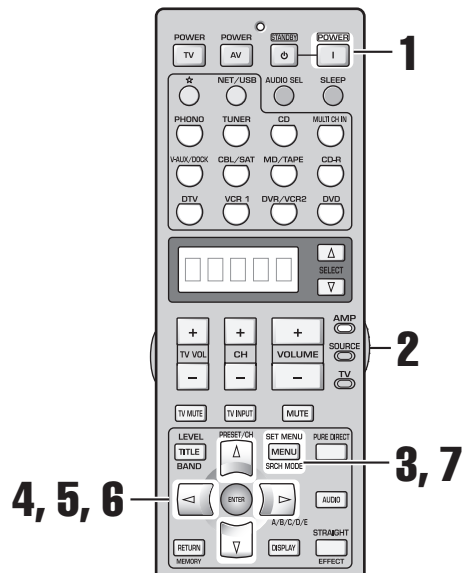
電源がスタンバイになります。この状態のときは、本体のSTANDBY/ONスイッチやリモコンのPOWERキーで本機の電源をオンすることができます。

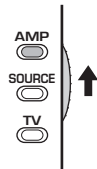
または

3 もういちど本体のSTANDBY/ONスイッチまたはリモコンのPOWERキーを押す

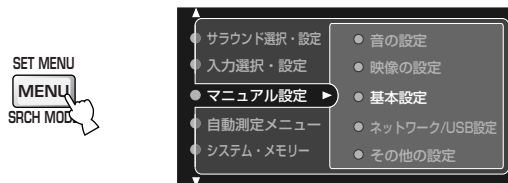
電源がオンになります。手順1を操作したときと同じ状態になります。

または

4 本体のMASTER ON/OFFスイッチを押して、OFFにする

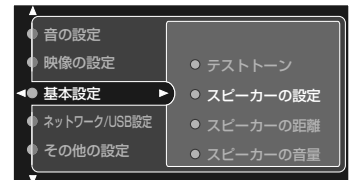
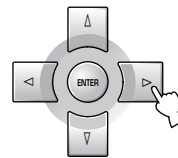
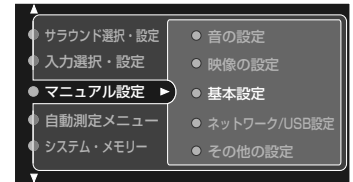
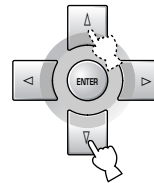
電源がオフになり、本体スイッチやリモコンキーで本機を操作できなくなります。

GUI(グラフィカル・ユーザー・インターフェース)画面を使って操作する

本機にテレビを接続すると、GUI画面を表示できます、このGUIによるセットメニュー画面を見ながら、本機を操作したり設定を変更したりすることができます。

1 本機とテレビの電源を入れる

2 操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

3 SET MENUキーを押す

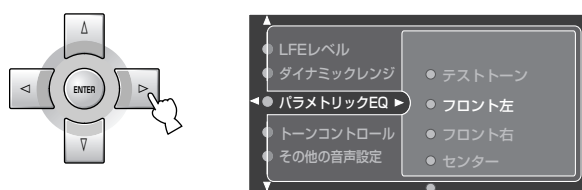
GUI画面(セットメニュー画面)が表示されます。

ヒント

セットメニュー画面が表示されない場合は、以下のことをご確認ください。
- 本機とテレビが正しく映像接続されている(22ページ)
- テレビの入力切替が正しく選択されている

4 △/▽キーを押して、設定するカテゴリーを選び、▷キーを押す

選べるカテゴリーは以下のとおりです。

- 「サラウンド選択・設定」:
  音場プログラムの選択や、パラメーターの設定(「取扱説明書」30ページ)
- 「入力選択・設定」:
  入力ソースの選択や、ソースごとの設定(「取扱説明書」66ページ)
- 「マニュアル設定」:
  音声出力やスピーカーの設定など、本機のシステム設定(「取扱説明書」49ページ)
- 「自動測定メニュー」:
  YPAOによる自動システム設定(40ページ)
- 「システム・メモリー」:
  音声プログラムなどの設定の保存・呼び出し(「取扱説明書」70ページ)
- 「信号の情報」:
  信号情報の確認(「取扱説明書」71ページ)
- 「表示言語」:
  GUI画面で表示する言語の選択(「取扱説明書」73ページ)

5 △/▽キーを押して、設定するメニューを選び、▷キーを押す

↓

メニューによっては、さらに△/▽/◁/▷キーでサブメニューを選ぶ必要があります。

6 △/▽/◁/▷キーやENTERキーを押して、選んだメニューの設定を変更する

7 変更し終わったら、SET MENUキーを押して、終了する

ご注意

本機とテレビをコンポーネントまたはHDMI接続せずに480p信号をコンポーネント入力した場合、GUI画面は表示されません。

最適な視聴空間を自動的に設定する(自動測定メニュー)

本機に搭載の「YPAO(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)」により、ご使用になるスピーカーの配置、能力やお部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定できます。スピーカーから出力されるテストトーンを、付属のマイク(オプティマイザーマイク)で拾い、自動的に測定、設定します。

ご注意

本機のPREOUT端子に外部パワーアンプを接続している場合でも自動測定メニューによる設定は可能ですが、本機の出力レベルと接続したパワーアンプの出力レベルの差が大きい場合など、YPAOの補正範囲を超えてしまう場合は正しく設定できません。

設定の流れ

本機とテレビが映像接続されていることを確認する 22ページ

付属のマイクを準備する

測定を開始する 41ページ

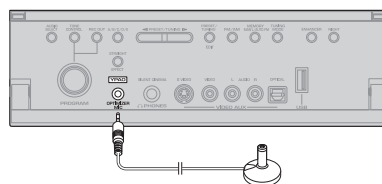
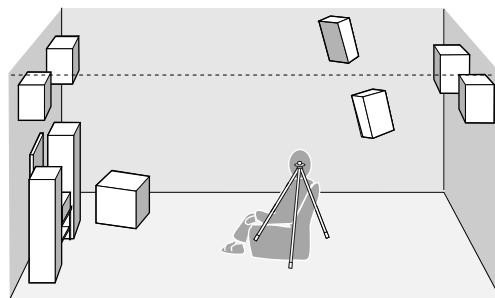
- 結線の確認： スピーカーの接続状態や極性をチェックします。
- 距離の補正： リスニングポジションから各スピーカーまでの距離の差を補正します。
- 大きさ判定： 各スピーカーのサイズを設定します。
- 周波数補正： 各スピーカーの周波数特性を補正します。
- 音量の調整： 各スピーカーからの音量を調節します。

結果を確認する 43ページ

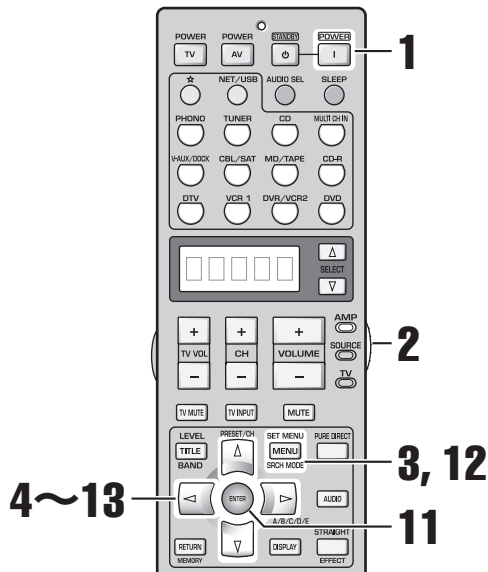
「周波数補正」について

周波数特性の補正には、周波数、レベル、Qファクターの3つのパラメーターがそれぞれ独立して可変するパラメトリックイコライザーを使用しています。これらのパラメーターの組み合わせにより、精度の高い周波数特性の補正を、YPAOで自動的に行うことができます。

付属のマイクを準備する

本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続します。

オプティマイザーマイクは実際に視聴する位置(リスニングポジション)に、耳と同じ高さで設置します。耳と同じ高さに設置する場合は、水平な台にのせるか、三脚を使います。三脚を使う場合は、三脚に付属のネジでオプティマイザーマイクを固定してください。

ご注意

- 設定が完了したら、オプティマイザーマイクをMIC端子から外して保管してください。
- オプティマイザーマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所やAV機器の上など高温になる場所には置かないでください。

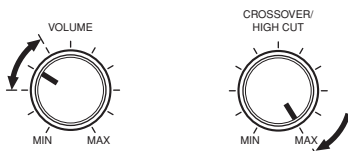
測定を開始する

ヒント

接続しているスピーカーの数やリスニングルームの環境により、測定にはおよそ30秒〜3分かかります。

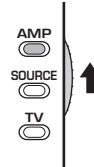
ご注意

- 測定中は大きなテストトーンが出ます。小さなお子様などをリスニングルームに立ち入らせないようご配慮ください。
- 各スピーカーとオプティマイザーマイクの間に、障害物がないか確認してください。障害物があると、正しく測定できない場合があります。
- 測定中に声を出したり、周囲の騒音が大きかったりすると、正しく測定ができなかったり、エラー表示が出たりする場合があります。測定中はなるべく静かにしてください。

アクティブサブウーファーの設定について

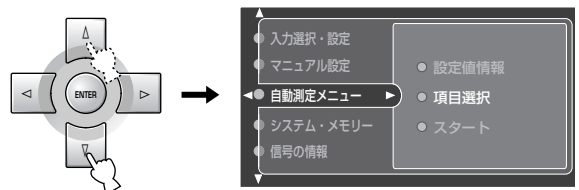
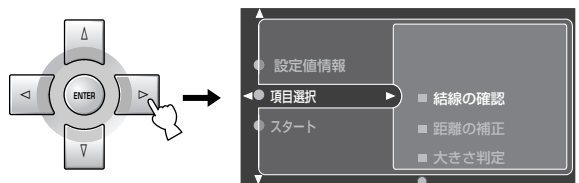
- サブウーファーを接続している場合は電源を入れて、下図の位置（半分または半分よりやや小さめ）にボリュームを設定してください。

- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

1 本機とテレビの電源を入れる

2 操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

3 SET MENUキーを押して、セットメニュー画面を表示する

ヒント

セットメニュー画面が表示されない場合は、以下のことをご確認ください。
- 本機とテレビが正しく映像接続されている（22ページ）
- テレビの入力切替が正しく選択されている

4 △/▽キーを押して、「自動測定メニュー」を選ぶ

5 ▷キーを押す

6 △/▽ キーを押して、「項目選択」を選び、▷キーを押す

7 △/▽キーを押して、測定項目を選び、▷キーを押す

8 △/▽キーを押して、各項目を設定するかしないかを選ぶ

〈結線の確認、距離の補正、大きさ判定、音量の調整〉

実行しない： 測定、設定しません。
実行する： 自動的に測定、設定します。

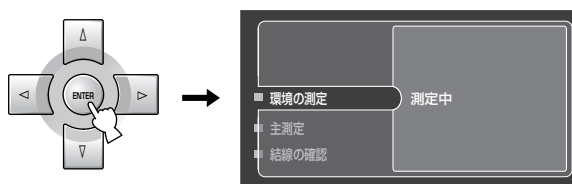
〈周波数補正〉

測定を行わない： 測定、設定しません。
ナチュラル： すべてのスピーカの音質を、高域特性を下げた状態にそろえます。
高域がきつく聞こえるときにこの設定をお使いください。
フラット： 各スピーカーの特性を均一（フラット）にします。
フロントに近似： フロントL/Rスピーカーの特性に、各スピーカーの特性を合わせます。

9 各項目の設定が終わったら、◁キーを押して、「項目選択」に戻る

10 ▽キーを押して、「スタート」を選ぶ

11 ENTERキーを押す

大きなテストトーンがスピーカーから出力され、「測定中」と表示されます。

自動測定メニューを停止するには、カーソル（△/▽/◁/▷）キーのいずれかを押すか、ENTERキーを押してください。
始めから再測定するには△キーを、キャンセルするには◁キーを押してください。
測定が終わると、「測定が終了しました」と表示され、結果が表示されます。

12 SET MENUキーを押す

自動測定メニューを終了します。

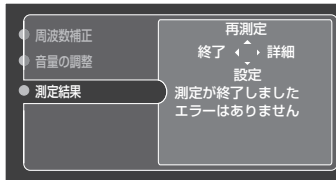
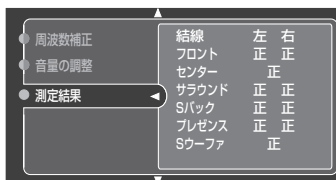
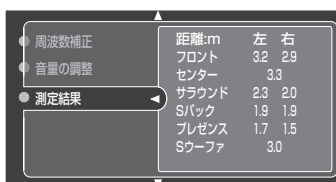
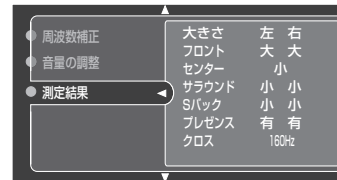
ご注意

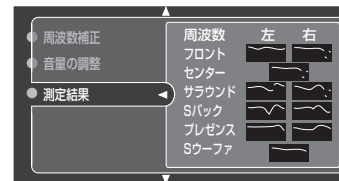
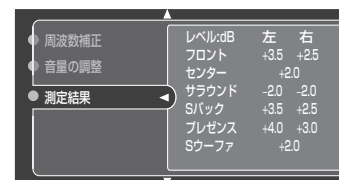
測定中にエラー表示が出た場合は、「表示メッセージについて」（44～45ページ）を確認のうえ、必要な対処をしてから、測定をやりなおしてください。

ヒント

スピーカーやスピーカーの設置場所を変えた場合は、もう一度設定することをおすすめします。

結果を確認する

すべての測定が終わると、「測定が終了しました」と表示され、結果が表示されます。

- 測定した値で設定する場合は、∇キーを押して、「設定」を選択します。
- 測定をやり直す場合は、∆キーを押して、「再測定」を選択します。
- 各項目の測定結果、警告メッセージを確認する場合は、⊳キーを押して、「詳細」を選択します。警告メッセージについては、「表示メッセージについて」(44〜45ページ)をご参照ください。
- 自動測定メニューから抜ける場合は、⊲キーを押して、「終了」を選択します。「終了」を選択すると、「最適化しますか？」というメッセージが表示されます。測定した値で設定して自動測定メニューから抜ける場合は「はい」を、設定せずに抜ける場合は「いいえ」を選択します。

スピーカーの接続状態や極性を表示します。

リスニングポジションからスピーカーまでの距離を表示します。

各スピーカーのサイズを表示します。

（プレゼンススピーカーは大小の区別がないので、「有」または「無」と表示されます。）

各スピーカーの周波数補正結果を表示します。

各スピーカーからの音量を表示します。

ご注意

- 設定後は、「設定値情報」で設定値を確認することができます。
- より細かい設定をしたい場合は、マニュアルで各項目を設定することができます（「取扱説明書」50、57〜60ページ）。マニュアル設定後に、各項目の設定を自動測定メニューでの設定に戻したい場合は、「設定値情報」で戻せます。∆/∇キーで戻したい項目を選び、ENTERキーを押してください。
- 「結線の確認」では、ご使用のサブウーファーに最適な位相を判断して、サブウーファーの位相を表示しています。また、この結果にしたがって、セットメニュー「スピーカーの設定」の「位相」の設定が自動的に変更されます（「取扱説明書」58ページ）。
- 視聴環境によっては、サブウーファー側での位相設定とは逆の結果が表示されることがあります。このような場合は、実際にお聴き比べのうえ、お好みの設定に変更してください。
- 「距離の補正」では、ご使用のサブウーファーの特性により、サブウーファーの設定値が実際の配置距離よりも長くなることがあります。また、外部アンプ使用時にも、各スピーカーの測定値が実際の配置距離よりも長くなることがあります。
- 「周波数特性」では、周波数をより精密に補正するため、同じ周波数帯域で違うレベル値が測定されることがあります。

表示メッセージについて

測定開始前の表示

エラーメッセージ	原因	対策
「マイク接続確認」	付属のオプティマイザーマイクが接続されていません。	本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。
「HPを抜いてください」	ヘッドホンが接続されています。	本機前面のPHONES端子から、ヘッドホンを抜いてください。
「測定項目 未選択」	すべての項目を、「実行しない」に設定しています。	測定する項目を、「実行する」に設定してください。
「保護されています」	設定が保護されています。	セットメニュー「設定の保護」を「可変」に設定してください(「取扱説明書」65ページ)。

測定中のエラーメッセージ

エラー表示画面で「詳細」を選ぶと、各メッセージの詳細を表示することができます。各メッセージの内容を確認のうえで「再実行」を選んで、測定をやりなおしてください。

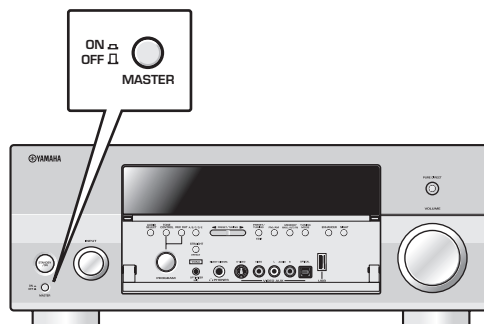
エラーメッセージ	原因	対策
「E01:フロントSP」	フロントL/Rスピーカーが検出されませんでした。	フロントL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E02:サラウンドSP」	サラウンドL/Rスピーカーが片側しか検出されませんでした。	サラウンドL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E03:プレゼンスSP」	プレゼンスL/Rスピーカーが片側しか検出されませんでした。	プレゼンスL/Rスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E04:SBR→SBL」	サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続している場合に、R側から検出されました。	サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続する場合は、L側(SINGLE)端子に接続してください。
「E05:雑音大」	暗騒音(部屋の騒音)が大きすぎて、正確な測定ができません。	エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、遠ざけてみてください。
		周囲が静かな時間帯にやり直してみてください。
「E06:サラウンド確認」	サラウンドL/Rスピーカーが接続されておらず、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンドL/Rスピーカーを接続する必要があります。正しく接続されているか確認してください。
「E07:マイク未接続」	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。
「E08:信号入力無し」	テストトーンが出ているにもかかわらず、オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。	オプティマイザーマイクが正しく接続されているか確認してください。
		各スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
「E09:測定キャンセル」	音量の調節や消音などの操作をしたため、測定をキャンセルしました。	測定の精度が落ちるため、測定中は音量を変えないでください。
「E10:内部エラー」	アンプ内部のエラーが発生しました。	測定を再実行してください。

測定終了後の警告メッセージ

測定は終了しましたが、測定値に問題がある可能性がある場合に表示されます。各メッセージの内容を確認のうえで「再測定」を選んで、測定をやりなおすことをおすすめします。

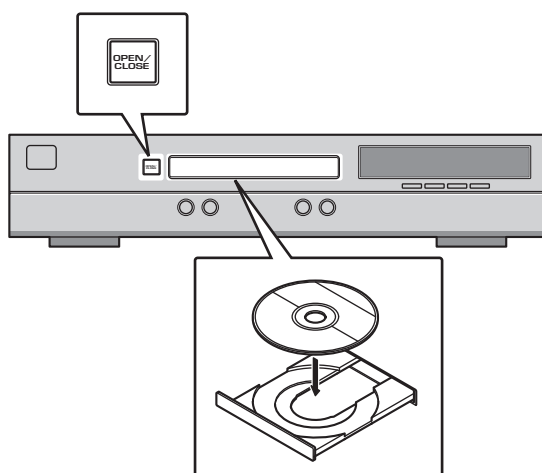
エラーメッセージ	原因	対策
「W1:SP接続逆相」	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。	スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
		スピーカーによっては、正しく接続してもこの表示が出ることがあります。 接続が正しければ、このエラーメッセージが出ても設定は正常に終了しています。
「W2:距離補正限界」	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が、24m以上あります。	スピーカーの設置場所を確認してください。
「W3:音量補正限界」	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、補正ができません。	スピーカーの設置場所を確認してください。
		スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
		なるべく近い性能のスピーカーを使用することをおすすめします。
		サブウーファーの音量を調節してください。
「W4:SPの不一致」	各スピーカーの設定内容と測定結果が異なります(「結線の確認」を実行しなかった場合のみ表示されます)。	スピーカーが正しく接続されているか確認してください。

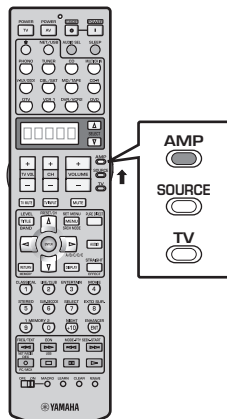
1 本機の電源を入れる

本体のMASTER ON/OFFスイッチを押して、ONにします。

2 テレビの電源を入れる

詳しくはテレビの取扱説明書をご参照ください。

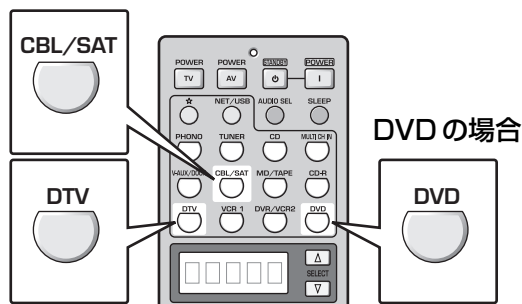
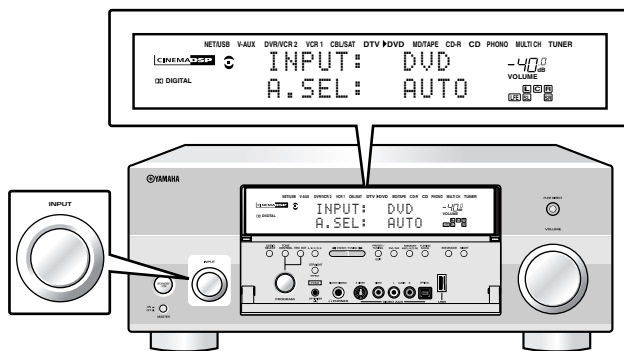
3 DVDプレーヤー/衛星放送チューナー/ケーブルTVチューナーを準備する

各映像機器の操作について詳しくは、各機器の取扱説明書をご参照ください。

4 リモコンの操作モードを切り替える

操作機器選択スイッチをスライドさせて AMP を選びます。

操作モードの切り替えは、本機をリモコンで操作する上でとても重要な操作です。操作しようとしても本機が動かなかったり、ほかの機器が動いたりする場合は、操作機器選択スイッチの位置が SOURCE や TV になっている場合があります。本機を操作するときは、かならず操作機器選択スイッチの位置が AMP になっていることをご確認ください。

5 本機の入力を切り替える

リモコンの入力選択キーを押す、または本体のINPUTセレクターを回して、DVDまたはDTV、CBL/SAT を選びます。入力を切り替えると、フロントパネルディスプレイに選んだ入力の名前と入力モードが数秒間表示されます。

リモコンの操作

本体の表示

6 テレビの入力を切り替える

例えば、本機がテレビのビデオ入力端子2に接続されている場合はビデオ入力2を選びます。詳しくはテレビの取扱説明書をご参照ください。

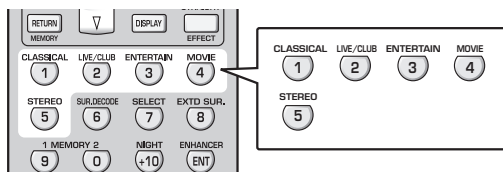
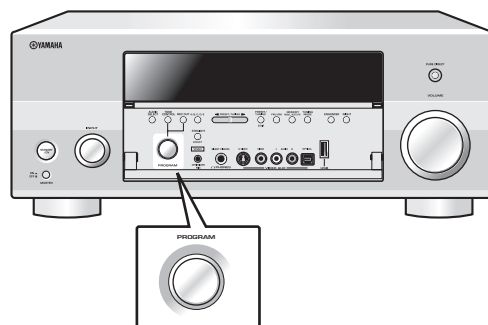
7 再生を始める

詳しくは各機器の取扱説明書をご参照ください。

「入力信号を切り替える」(「取扱説明書」37ページ)で、入力信号を自動的に判別したり、特定の信号に固定したりすることができます。

8 音場プログラムを選ぶ

お好みの音場プログラムを呼び出して、臨場感と効果をお楽しみください。リモコンの音場プログラムキーを押してお好みの音場プログラムを選びます。
本体のPROGRAMセレクターを回しても音場プログラムを選ぶことができます。

リモコンの操作

本体の操作

おすすめ

以下は映画を見るとき、音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特長については64ページをご参照ください。

- **映画を見るとき**
  - → MOVIE
  - → ENTERTAIN
- **音楽を聴くとき**
  - → CLASSICAL
  - → LIVE/CLUB

- 音の大きさを調節するには？(49ページ)
- 本機の使用を終了するには？(49ページ)
- リモコンコードを設定すると、本機のリモコンで、お使いの外部機器を操作することができます。詳しくは「取扱説明書」78ページをご参照ください。

こんなときは・・・

●使い終わった!

STANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押すと、本機の電源をスタンバイ状態にすることができます。

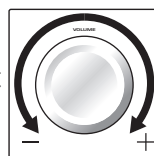
本体では

●音の大きさを調節したい!

VOLUME+/−キーを押します。または本体のVOLUMEコントロールを回します。

本体では

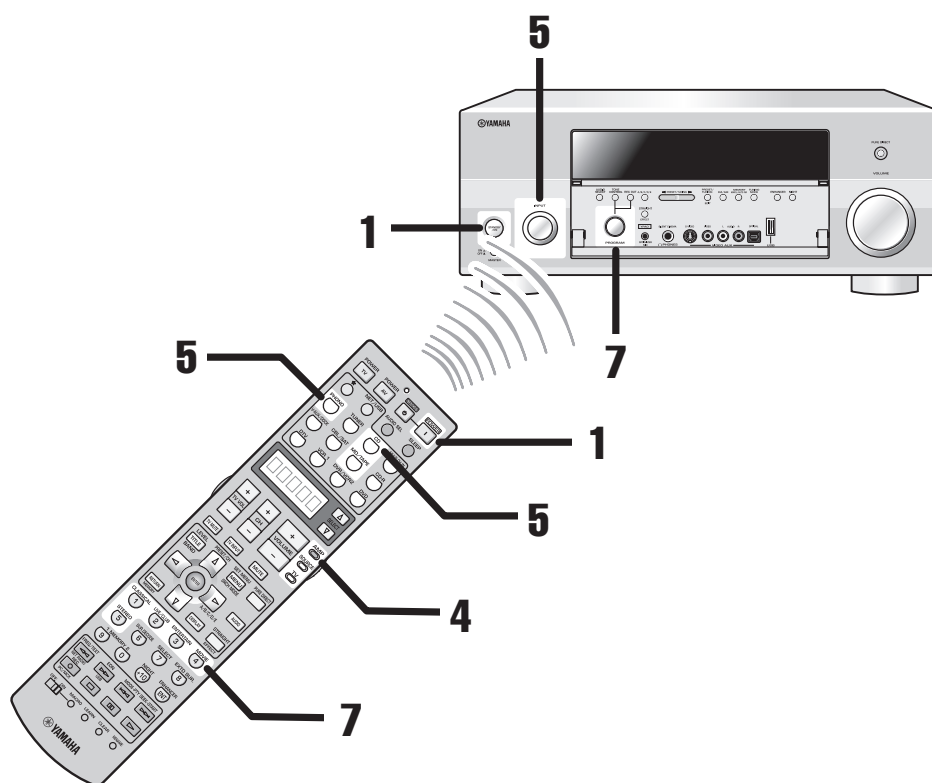
●本機のリモコンで他の機器を操作したい!

リモコンコードを設定すると、本機のリモコンで、テレビなど他の機器を操作できます。詳しくは「取扱説明書」78ページをご参照ください。

●一時的に音を下げたい!(消音)

MUTEキーを押します。もう一度MUTEキーを押すと元の音量に戻ります。

お知らせ

- 消音中は、本体ディスプレイに「AUDIO MUTE　ON」と表示され、MUTEインジケーターが点滅します。
- VOLUMEキーを押しても消音は解除されます。
- セットメニュー「その他の音声設定」の「ミューティング量」で下げる音量を選ぶことができます。詳しくは「取扱説明書」51ページをご参照ください。

音声機器を再生する（CD、MD/カセットテープ、レコード）

1 本機の電源を入れます

2 音声機器の電源を入れます

詳しくは音声機器の取扱説明書をご参照ください。

3 CDやMDなどのソフトをセットします

4 リモコンの操作モードを切り替えます

操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選びます。

5 本機の入力を切り替えます

入力を切り替えると、本体ディスプレイに、選んだ入力の名前と入力モードが数秒間表示されます。

6 再生を始めます

詳しくは音声機器の取扱説明書をご参照ください。

ヒント 「入力信号を切り替える」（「取扱説明書」37ページ）で、入力信号を自動的に判別したり、特定の信号に固定したりすることができます。

7 音場プログラムを選びます

おすすめ

以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特長については64ページをご参照ください。

・音楽を聴くとき

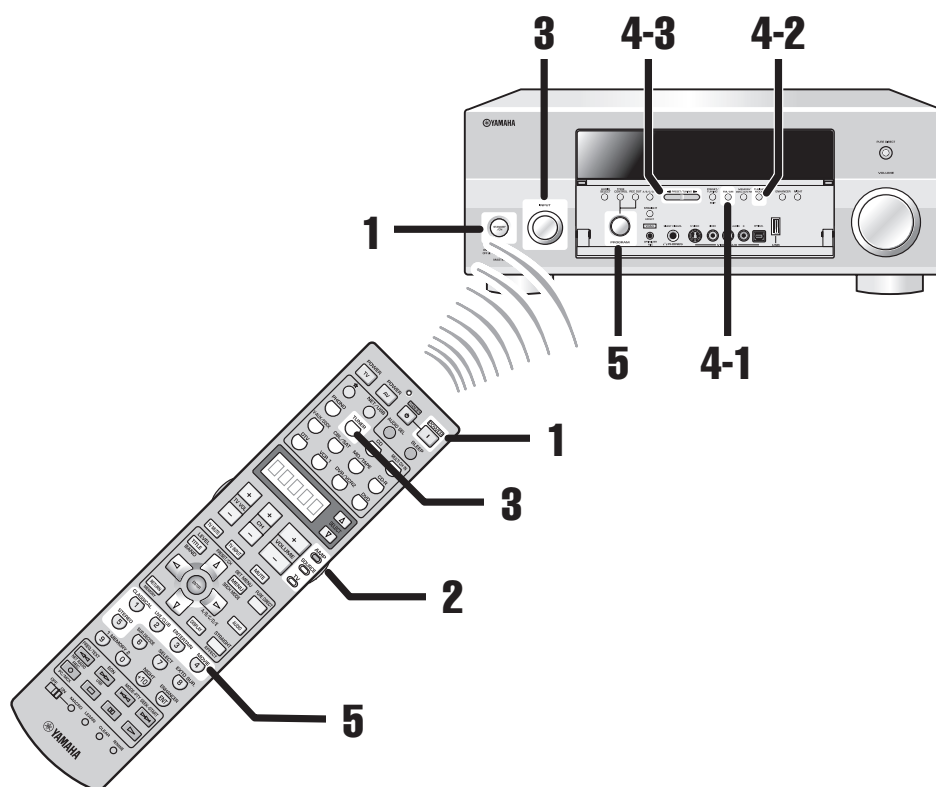
→ CLASSICAL

→ LIVE/CLUB

聴きおわったらSTANDBYキーを押して本機の電源をスタンバイにします。

ヒント

- 音の大きさを調節するには？（49ページ）
- リモコンコードを設定すると、本機のリモコンでCDプレーヤーを操作することができます。詳しくは「取扱説明書」78ページをご参照ください。
- 高音質のステレオ音声で楽しみたい場合は、PURE DIRECTキーを押すと原音に忠実に高音質で再生するピュアダイレクトモードで楽しむことができます。詳しくは「取扱説明書」25ページをご参照ください。

FM/AM 放送を聴く

1 本機の電源を入れます

2 リモコンの操作モードを切り替えます

操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選びます。

3 本機の入力をTUNERに切り替えます

入力を切り替えると、本体ディスプレイに「TUNER」と数秒間表示されます。

4 放送局を選びます

<自動的に選局する場合（オート選局）>

4-1.FM/AM キーを押して、FM または AM を選ぶ

4-2.TUNING MODE（AUTO/MAN'L）キーを押して、ディスプレイに AUTO インジケーター（「取扱説明書」10 ページ）を点灯させる

4-3.PRESET/TUNING⊲/⊳ キーを押して、受信したい放送局を選ぶ

<手動で選局する場合（マニュアル選局）>

4-1.FM/AM キーを押して、FM または AM を選ぶ

4-2.TUNING MODE（AUTO/MAN'L）キーを押して、ディスプレイの AUTO インジケーター（「取扱説明書」10 ページ）を消す

4-3.PRESET/TUNING⊲/⊳ キーを押す

5 音場プログラムを選びます

おすすめ

以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特長については 64 ページをご参照ください。

・音楽を聴くとき

→ CLASSICAL

→ LIVE/CLUB

聴きおわったらSTANDBYキーを押して本機の電源をスタンバイにします。

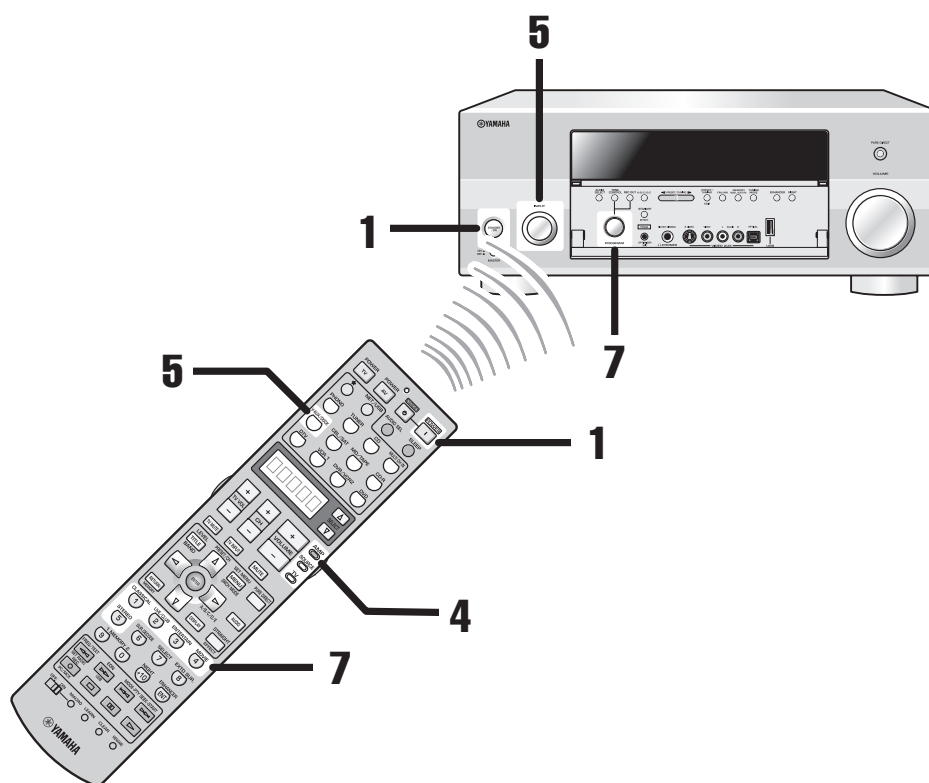
ヒント 音の大きさを調節するには？（49 ページ）

こんなときは・・・

●雑音が入って聴きづらい！

アンテナの高さや方向、接続などを確認してください。詳しくは 35 ページをご参照ください。

●放送局を登録したい！

お好みの放送局を登録することにより、簡単に放送局を呼び出せます。詳しくは「取扱説明書」42ページをご参照ください。

iPod®の再生を楽しむ

ヒント
本機では、ヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にセットしたiPod(クリックホイール、nano、mini)の再生を楽しめます。

1 本機の電源を入れます

2 iPod をヤマハ製ドック(別売 YDS-10 など)にセットします

3 iPod の電源を入れます

詳しくは iPod の取扱説明書をご参照ください。

4 リモコンの操作モードを切り替えます

操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選びます。

5 本機の入力を V-AUX/DOCK に切り替えます

本体ディスプレイに、「V-AUX/DOCK」と数秒間表示されます。

6 再生を始めます

詳しくは 53 ～ 54 ページをご参照ください。

ご注意
iPodの種類やソフトウェアのバージョンにより、一部の機能が使えない場合があります。

7 音場プログラムを選びます

おすすめ

以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特長については 64 ページをご参照ください。

・音楽を聴くとき
→ CLASSICAL
→ LIVE/CLUB

また、圧縮オーディオフォーマットの高音域・低音域を拡張・強調し、よりダイナミックに再生したいときは、コンプレストミュージック・エンハンサーモードがおすすめです。詳しくは「取扱説明書」26ページをご参照ください。

聴きおわったらSTANDBYキーを押して本機の電源をスタンバイにします。

ヒント
・音の大きさを調節するには？(49ページ)
・セットメニュー「スタンバイ時の充電」で、ヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にセットしたiPodの充電モードを設定できます。詳しくは「取扱説明書」63ページをご参照ください。

ノーマルモードで再生する

リアパネルのDOCK端子に接続したヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にiPodをセットすると、ノーマルモードに入ります。ノーマルモードでは、GUI画面を表示させずに、以下の基本的な操作をすることができます。

・再生
・停止
・巻戻し
・早送り
・スキップ
・一時停止

ヒント

iPod本体でも操作できます。

操作機器選択スイッチをスライドさせてSOURCEを選び、V-AUX/DOCKキーを押してから操作してください。

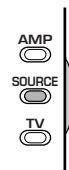
メニュー表示モードで再生する

GUI画面に表示されるメニューを見ながら、基本的な操作をしたり、お好みに合わせて設定を変更したりすることができます。また、コンテンツの情報を見たり、本機の動作状況などを確認したりすることもできます。
操作にはリモコンを使用します。リモコンでの操作内容について詳しくは、「取扱説明書」84ページをご参照ください。

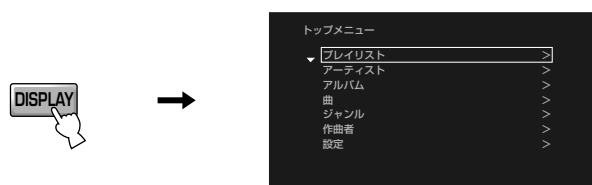
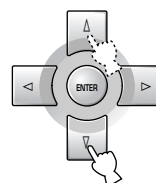
ヒント

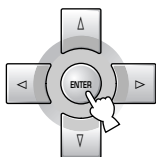
メニュー表示モードで操作中に1つ前の画面表示に戻りたい場合は、リモコンのMENUキーまたは◁キーを押します。

ご注意
• 映像系のファイルはメニュー表示モードで選択できません。ノーマルモードで再生してください。
• 本機が認識できない文字は「_」(アンダーバー)で表示されます。

1　操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

2　V-AUX/DOCKキーを押す

3　DISPLAYキーを押す

GUI画面にトップメニューが表示されます。

4　△/▽キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ

5 ENTERキーを押す

選んだメニューに入ります。

プレイリスト
アーティスト
アルバム
曲
ジャンル
作曲者
設定

・プレイリスト → 曲
・アーティスト → アルバム → 曲
・アルバム → 曲
・曲
・ジャンル → アーティスト → アルバム → 曲
・作曲者 → アルバム → 曲
・設定 → シャッフル、リピート

■シャッフル

曲やアルバムの順番をランダムに再生します。

オフ：ランダム再生しません
曲：曲の順番をランダムに再生します
アルバム：アルバムの順番をランダムに再生します

ヒント
「曲」または「アルバム」を選んでいるときは、GUI画面右上に「⤮」が表示されます。

■リピート

曲やアルバムを繰り返し再生します。

オフ：リピート再生しません
曲：選んだ曲をリピート再生します
全曲：すべての曲をリピート再生します

ヒント
「曲」または「全曲」を選んでいるときは、GUI画面右上に「 ⟳ 」または「 ⟳ 」が表示されます。

6 メニュー表示モードを終了するときは、DISPLAYキーを押す

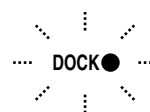
ヒント
セットメニュー「スクロール表示」で、フロントパネルディスプレイの表示方法を設定できます（「取扱説明書」63ページ）。

■iPod接続時のメッセージについて

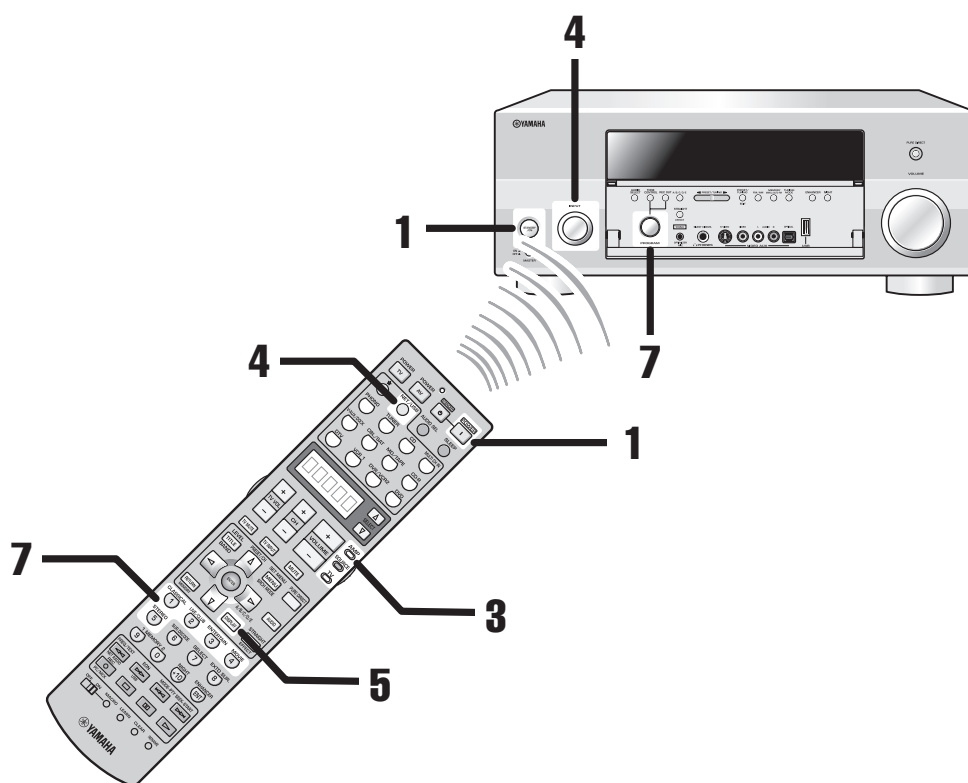
本機に接続したヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にiPodをセットし、V-AUX/DOCKを入力選択しているときに、フロントパネルディスプレイに表示されるメッセージの一覧です。

メッセージ	内容
Loading...	iPodとの接続を確認中です。 iPodから曲リストを取得中です。
Connect error	iPodが正しく接続されていません。 iPodとの通信に問題が発生しています。
Unknown iPod	本機に対応していない種類のiPodが接続されています。
iPod connected	iPodがヤマハ製ドックに正しく接続されました。
Disconnected	iPodがヤマハ製ドックから取り外されました。
Unable to play	何らかの原因で再生できません。

■iPodの充電について

本機に接続したヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にiPodをセットしているときは、本機でiPodを充電できます。本機の電源がオンのときは、常に充電状態になります。
本機がスタンバイのときも、セットメニュー「スタンバイ時の充電」（「取扱説明書」63ページ）で、充電モードを設定できます。「スタンバイ時の充電」を「自動」に設定し、スタンバイ中にiPodを充電しているときは、DOCKインジケーターおよび右側の「●」（「取扱説明書」10ページ）が点灯します。

充電が終了すると、自動的に消灯します。

ヒント
iPodからの充電情報が取得できない場合は、約4時間後に自動的に充電を終了し、インジケーターが消灯します。

ネットワークオーディオ/USBデバイスの再生を楽しむ

1 本機の電源を入れます

2 パソコンやUSBデバイスの準備をします

3 リモコンの操作モードを切り替えます

操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCEを選びます。

4 本機の入力モードを切り替えます

本体ディスプレイに、「INPUT:(入力名)」と数秒間表示されます。

5 GUI画面を表示します

6 再生を始めます

詳しくは57～61ページをご参照ください。

7 音場プログラムを選びます

おすすめ

以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特長については64ページをご参照ください。

・音楽を聴くとき

→CLASSICAL

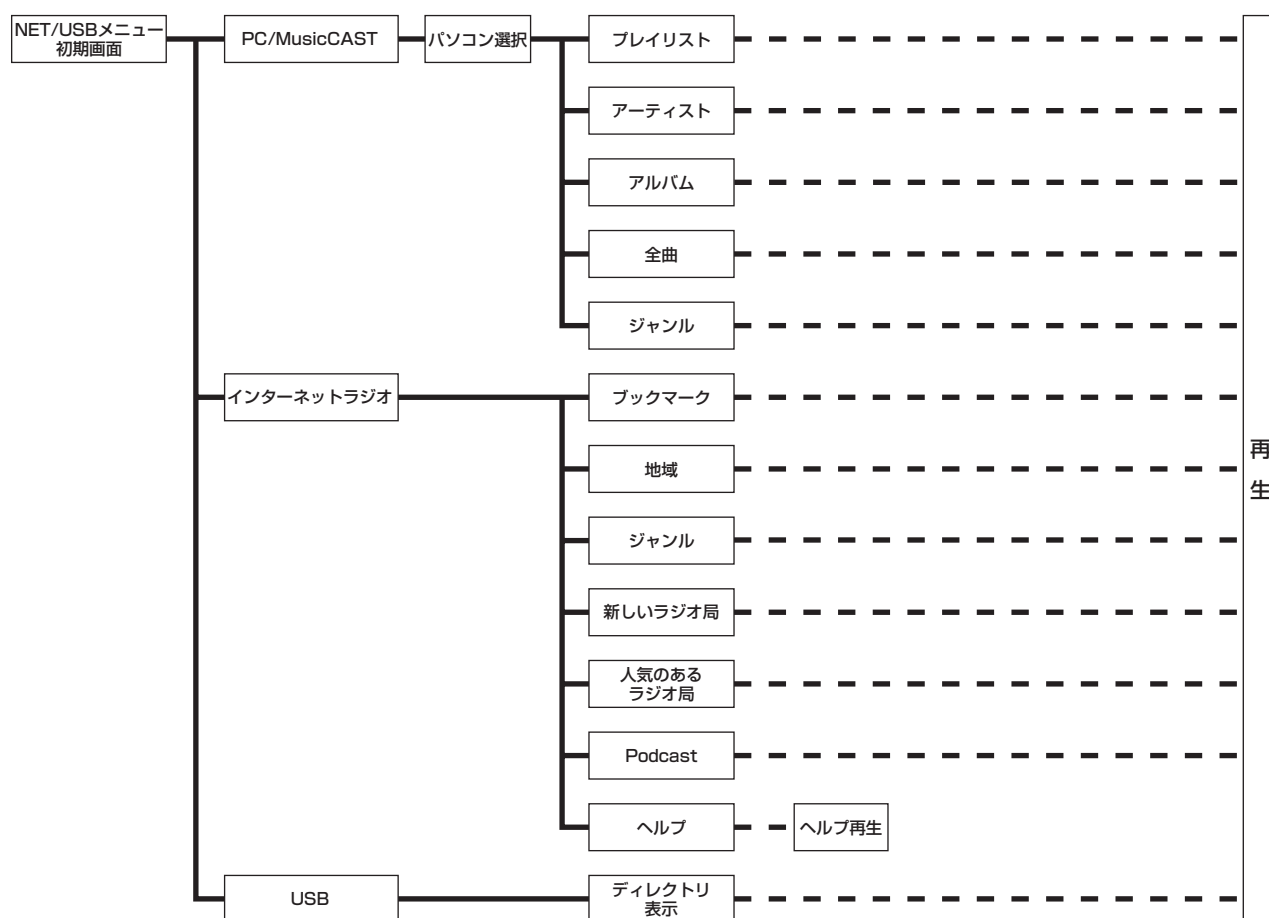
→LIVE/CLUB

また、圧縮オーディオフォーマットの高音域・低音域を拡張・強調し、よりダイナミックに再生したいときは、コンプレストミュージック・エンハンサーモードがおすすめです。詳しくは「取扱説明書」26ページをご参照ください。

聴きおわったらSTANDBYキーを押して本機の電源をスタンバイにします。

音の大きさを調節するには？（49ページ）

NET/USBメニュー一覧

ホームネットワークに接続したパソコンおよびUSBデバイス(USBメモリーやポータブルオーディオプレーヤーなど)に保存されている音楽ファイルや、インターネットラジオ放送を再生します。ネットワークオーディオを楽しむ場合は、セットメニュー「ネットワーク/USB設定」(「取扱説明書」61ページ)を設定してください。
下図は、ネットワークオーディオやUSBを再生するときのメニュー構造をあらわしています。
メニューの操作方法については、「ネットワークオーディオ/USBデバイスを再生する」をご参照ください(57ページ)。

パソコンの音楽ファイルを再生するための準備をする

パソコンに保存されている音楽ファイルを再生するための準備をします。再生のしかたについて詳しくは、右に記載の「ネットワークオーディオ/USBデバイスを再生する」をご参照ください。

1 パソコンにWindows Media Connect 2.0をインストールする

Windows Media Connect 2.0は、マイクロソフト社のウェブサイトからダウンロードできます。

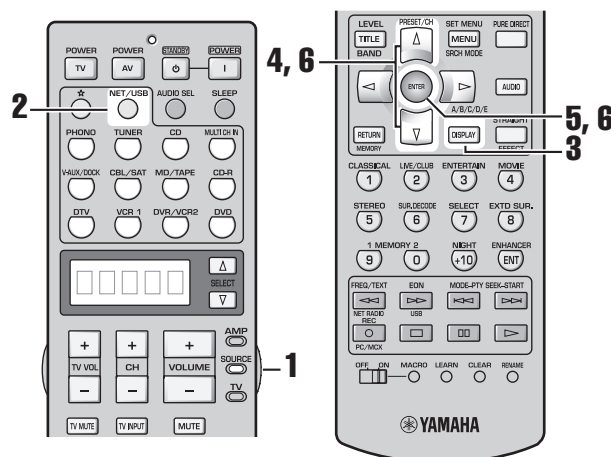
2 パソコンを再起動し、音楽ファイルを共有ディレクトリに保存する

パソコンに保存されている音楽ファイルを再生できるようになります。

ヒント

上記の手順は、パソコンに保存されている音楽ファイルを本機ではじめて再生するときのみ必要です。1度Windows Media Connect 2.0をインストールすれば、2回目以降は必要ありません。

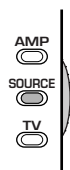
ネットワークオーディオ/USBデバイスを再生する

パソコンまたはUSBデバイスに保存されている音楽ファイルやインターネットラジオを再生します。

ヒント

- 以下のフォーマットで記録された音楽ファイルを再生できます。インターネットラジオを聴く場合は、MP3のみ再生できます。
  - MP3： 2チャンネル音声信号に対応。MP3 PROには対応していません。
  - WAV：2チャンネルリニアPCMに対応。PCM以外のフォーマットは、ブラウズできますが再生できません。
  - WMA： WMA9までの2チャンネル音声信号に対応。マルチチャンネル音声信号はフロントL/R信号のみ再生します。WMA PRO、Losslessには対応していません。また、DRM（著作権保護）がかけられているファイルは再生できません。
- NET/USBメニュー操作中に1つ前の操作に戻りたい場合は、リモコンのカーソル⊲キーを押します。
- メニュー名右側の「>」は、下の階層にサブメニューがあることをあらわしています。
- リモコンの▷/□/⧏⊲/▷⧐などのキーで、再生や停止、頭出しなどの操作ができます。ネットワークオーディオ/USBデバイスを操作するときに使うキーについて詳しくは、「ネットワークオーディオ/USBデバイスを操作する」（「取扱説明書」87ページ）をご参照ください。

ご注意

- 選択した音楽ファイルにより、上記のフォーマットで記録されていても、再生できない場合やノイズが出力される場合があります。
- 映像ファイルは再生できません。

1 操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

2 NET/USBキーを押す

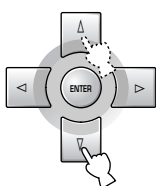
ヒント

ネットワークオーディオまたはUSBデバイスを2回目以降に再生する場合は、前回聴いた入力ソースの再生が自動的に始まります。

3 DISPLAYキーを押す

GUI画面にトップメニューが表示されます。

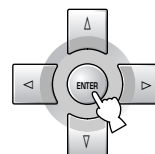
→

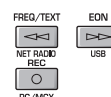
4 △/▽キーを繰り返し押して、聴きたいソースを選ぶ

PC/MusicCAST：パソコンを選択します。
インターネットラジオ：インターネットラジオを選択します。
USB：USBデバイスを選択します。

ご注意

本機とネットワーク接続して使用できるミュージックキャスト(MusicCAST)は、日本国内では販売されていません。

5 ENTERキーを押す

PC/MusicCASTを選んだ場合は、パソコン選択画面が表示されます。△/▽キーを繰り返し押して、聴きたい音楽ファイルが保存されているパソコンを選び、ENTERキーを押してください。

ヒント

- ⊳キーでも操作できます。
- 手順3～5のかわりに、リモコンのPC/MCXキーまたはNET RADIOキー、USBキーを押して、聴きたいソースを選ぶこともできます。各ソースを2回目以降に再生する場合は、前回聴いたコンテンツの再生が自動的に始まります。

6 △/▽ キーを繰り返し押して聴きたい項目を選び、ENTERキーを押す

メニュー表示にしたがって、再生する項目が表示されるまで繰り返します。
曲名やラジオ局名が表示されているときにENTERキーを押すと、再生が始まります。
再生が始まると、GUIに再生情報画面が表示されます。
パソコンまたはUSBデバイスに保存されている音楽ファイルを再生しているときは、リモコンの |◁◁/▷▷| キーや ⊳キー、□キーで、スキップや再生、停止の各操作をすることができます。

ヒント

- GUI画面では、最大で40文字以内のディレクトリおよびファイル名を表示できます。
- 再生中は、経過時間がGUI画面に表示されます。
- 再生情報画面を表示中にメニュー画面に戻りたい場合は、MENUキーを押してください。
- セットメニュー「プレイスタイル」で、再生スタイルを設定できます（「取扱説明書」62ページ）。
- セットメニュー「スクロール表示」で、フロントパネルディスプレイの表示方法を設定できます（「取扱説明書」63ページ）。

表示メッセージについて

本機でネットワークオーディオまたはUSBデバイスを再生するときに、フロントパネルディスプレイに表示されるメッセージの一覧です。

メッセージ	内容
Please wait	パソコンまたはUSBデバイスにアクセスしています。
Connect error	選んだファイルまたはラジオ局にアクセスできません。
Disconnected	USBデバイスが取りはずされました。
	パソコンとの接続が遮断されました。
Access error	USBデバイスにアクセスできません。
	USBデバイスの電源に異常があります。
Unable to play	何らかの原因で再生できません。
List updated	パソコンのリストが更新されました。
Bookmark ON	ブックマークにお気に入りのラジオ局が登録されました。
Bookmark OFF	ブックマークからお気に入りのラジオ局が削除されました。
Empty Memory!	曲やラジオ局がショートカットに登録されていません。
Not found	ショートカット先が見つかりません。

パソコンに保存されている音楽ファイルを聴く

「ネットワークオーディオ/USBデバイスを再生する」(57ページ)の手順4で「PC/MusicCAST」を選んで、パソコンに保存されている音楽ファイルを再生します。

・プレイリスト → 曲
・アーティスト → 曲
・アルバム → 曲
・全曲
・ジャンル → 曲

ヒント

- 同一サブネットに接続されている、4台までのパソコンをブラウズできます。
- 操作中に1つ前の画面表示に戻りたい場合は、リモコンのMENUキーを押します。
- プレイリストのフォーマットやプレイリストの作成方法などについて詳しくは、サーバーソフトの取扱説明書をご参照ください。

ご注意

- パソコンにインストールされているセキュリティソフト(ウィルス対策ソフトやファイアウォールソフトなど)により、本機がパソコンにアクセスできない場合があります。パソコンに保存された音楽ファイルを再生するときは、セキュリティソフトの設定をご確認ください。
- OSにWindows XP Professionalを使っていて、ドメインにログオンしている場合は、パソコンに接続できません。ドメインではなく、ローカルマシンにログオンしてください。
- 選択した音楽ファイルにより、本機が対応しているフォーマットで記録されていても再生できない場合やノイズが出力される場合があります。

インターネットラジオを聴く

「ネットワークオーディオ/USBデバイスを再生する」(57ページ)の手順4で「インターネットラジオ」を選んで、インターネットラジオ放送を聴きます。本機のインターネットラジオ局リストは、ラジオ局データベースサービス(vTuner)を利用しています。このデータベースサービスは、本機用に編集・作成されたリストです。

ブックマーク：
インターネットラジオ局を、登録したラジオ局から選びます。登録のしかたについて詳しくは、右に記載の「ブックマークにラジオ局を登録する」をご参照ください。

地域：
配信されている場所からインターネットラジオ局またはポッドキャストを選びます。

ジャンル：
聴きたいジャンルからインターネットラジオ局またはポッドキャストを選びます。

新しいラジオ局：
新しく始まった放送局のなかからインターネットラジオ局を選びます。

人気のあるラジオ局：
人気がある放送局のなかからインターネットラジオ局を選びます。

Podcast（ポッドキャスト）：
配信されている場所または聴きたいジャンルからポッドキャストを選びます。

ヘルプ：
操作方法などのヘルプメニューが再生されます。

ヒント
- インターネットラジオは、ラジオ局により異なったポート番号を利用しています。インターネットラジオを再生するときは、ファイアウォールの設定をご確認ください。
- ポッドキャストはインターネットサービスの一つで、インターネット上に数多く存在しています。インターネットラジオ番組が音声ファイルとして配信されるため、通常のインターネットラジオ番組とは異なり、放送開始時間にとらわれることなく好きな時間に楽しめるのが特長です。1回分の放送が終わると、再生が停止します。

ご注意
- ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止される場合があります。
- インターネットラジオメニューで選択できる放送局であっても、再生できない場合があります。
- インターネットラジオを再生中は、スキップや一時停止できません。
- インターネットがナローバンド(56Kモデム、ISDNなど)で接続されていると、インターネットラジオを十分にお楽しみいただけません。ブロードバンド(ケーブルモデム、xDSLなど)で接続してください。詳しくは、インターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。

ブックマークにラジオ局を登録する

お気に入りのインターネットラジオ局をブックマークに登録します。

登録したいラジオ局を再生中に、リモコンのTITLEキーを約 2 秒間押し続ける

OSD画面に「ブックマーク　オン」と表示され、ラジオ局がブックマークに登録されます。

ヒント
ブックマークの登録を解除するには、以下の手順を操作してください。
1. 「ネットワークオーディオ/USBデバイスを再生する」(57ページ)の手順4で「インターネットラジオ」を選ぶ
2. 手順5で決定する
3. 手順6で「ブックマーク」を選ぶ
4. ブックマーク画面に表示されている項目のなかから、削除するものを選ぶ
5. OSD画面に「ブックマーク　オフ」と表示されるまで、TITLEキーを約 2 秒間押し続ける

USBデバイスに保存されている音楽ファイルを聴く

「ネットワークオーディオ/USBデバイスを再生する」(57ページ)の手順4で「USB」を選んで、USBデバイスに保存されている音楽ファイルを再生します。USBメニューで表示されたディレクトリイメージから、再生するファイルを選びます。

ヒント

- 本機でUSBデバイスに保存された音楽ファイルを再生する際は、以下のことをご確認ください。
  - USBデバイスがUSBマスストレージクラスに対応している
  - データがFAT16またはFAT32ファイルシステムで記録されている
  - データ容量32GB以下
- USBデバイスが複数のパーティションに分割されている場合は、先頭にあるパーティションのみブラウスできます。
- 最大8階層までのディレクトリにあるファイルをブラウズ、再生できます。
- 1つのディレクトリにつき、最大500までのディレクトリ/ファイルをブラウズ、再生できます。
- エラーメッセージが表示された場合、⏮または⏭キーを押すと、再生できるファイルをサーチします。
- サーチしているときに、再生できるファイルが見つからない場合、ディレクトリの最初または最後まで到達したら自動的にサーチを停止します。

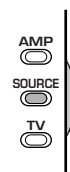
ご注意

- USBデバイスのメーカーや種類により、ファイルを再生できない場合があります。
- 選択した音楽ファイルにより、本機が対応しているフォーマットで記録されていても再生できない場合やノイズを出力する場合があります。
- USBデバイスを接続した際に、約10秒間音が出ない場合があります。
- プレイリストには対応していません。

ショートカットを登録する

数字キー(1～8)にショートカットを登録することにより、お気に入りの音楽ファイルやインターネットラジオを、1つのキーを押すだけで簡単に呼び出して再生できます。

ショートカットを登録する

1　操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

2　NET/USBキーを押す

3　登録したい音楽ファイルやインターネットラジオを再生する

再生のしかたについて詳しくは、57～61ページをご参照ください、

4　MEMORYキーを押す

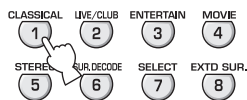
フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターが点滅し、ショートカット登録モードに入ります。

ヒント

以下の手順5および手順6の操作は、5秒以内におこなってください。

5 ショートカットを登録する数字キー(1～8)を押す

フロントパネルディスプレイに、登録する数字が表示されます。

NET/USB V-AUX DVR/VCR 2 VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R CD PHONO MULTI CH TUNER
1: PC/MCX -40.0 dB VOLUME

ヒント

- ショートカットを登録する数字キーにあらかじめ音楽ファイルやラジオ局が登録されていない場合は、フロントパネルディスプレイに「Empty Memory!」と表示されます。
- 以下の場合は、ショートカットを登録した数字キーを押しても登録した音楽ファイルやラジオ局は呼び出されません。
  - 音楽ファイルを登録したときとは異なるUSBデバイスを接続している
  - パソコンの電源が切れている、またはホームネットワークから切断されている
  - 登録したラジオ局に一時的に接続できない、または放送を停止した

6 MEMORYキーを押す

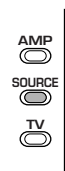
ショートカットが登録されます。

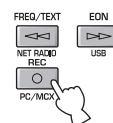
ヒント

USBデバイスおよびパソコンに保存されている音楽ファイルをショートカットに登録する際、本機では音楽ファイル名を記憶するのではなく、ディレクトリやプレイリスト内における音楽ファイルの相対的な位置を記憶しています。したがって、ディレクトリやプレイリスト内で音楽ファイルの位置を変更したり、音楽ファイルを追加/削除したりした場合は、登録した音楽ファイルとは異なるファイルが呼び出されることがあります。そのような場合は、必要に応じてショートカットを再登録してください。
以下は、ショートカット機能を上手に利用するためのおすすめの方法です。

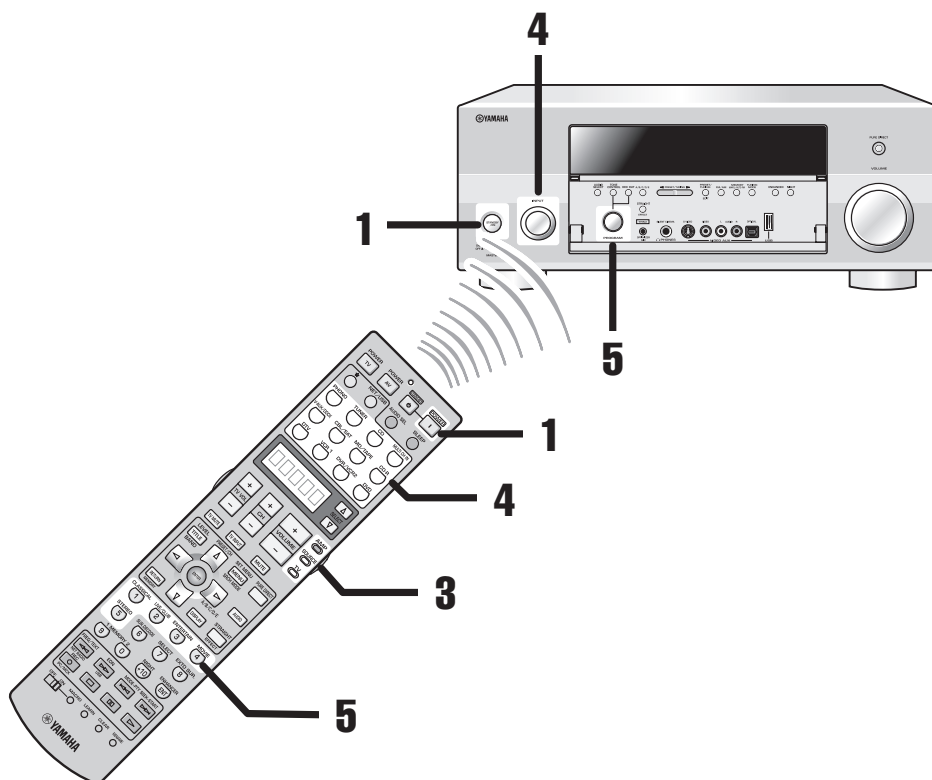
- USBデバイス内にディレクトリを8つ作成し、その中に音楽ファイルを保存します。次に、それぞれのディレクトリ内の先頭の音楽ファイルを1から8までのショートカットに登録します。ショートカットで呼び出す音楽ファイルを変更する場合は、ディレクトリは削除せずに、現在登録されている音楽ファイルを、新しく登録する音楽ファイルと入れ替えます。
- パソコンにプレイリストを8つ作成します。次に、それぞれのプレイリストの先頭の音楽ファイルを1から8までのショートカットに登録します。ショートカットで呼び出す音楽ファイルを変更する場合は、プレイリストは削除せずに、現在登録されている音楽ファイルを、新しく登録する音楽ファイルと入れ替えます。

登録したショートカットを選んで再生する

1 操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

2 NET/USBキーを押す

3 ネットワークオーディオ/USBデバイス入力選択キーを押して、入力ソースを選ぶ

4 数字キー(1～8)を押す

ショートカットに登録した曲またはインターネットラジオの再生がはじまります。

その他のソースを楽しむ

ご注意

- HDMIで接続した場合は、入力モードを「AUTO」または「HDMI」に設定して再生してください(「取扱説明書」37ページ)。
- MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生するときに、入力モードを「ANALOG」に設定すると、音場プログラムおよびコンプレストミュージック・エンハンサーモードの効果はオフになります。

1 本機の電源を入れます

2 接続機器の準備をします

接続機器の電源を入れ、ソフトをセットします。詳しくは接続機器の取扱説明書をご参照ください。

3 リモコンの操作モードを切り替えます

操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選びます。

4 本機の入力を切り替えます

接続した機器にあわせて入力を切り替えます。
本体ディスプレイに、選んだ入力の名前と入力モードが数秒間表示されます。
下記はリモコンで操作する場合に押す入力選択キーをあらわしています。

スーパーオーディオ CD/DVD オーディオを聴く
→ MULTI CH IN キー
ゲーム / ビデオカメラを楽しむ→ V-AUX キー
ケーブルテレビを楽しむ→ CBL/SAT キー
テレビを楽しむ→ DTV キー
ビデオを楽しむ→ VCR1 キー
DVD レコーダーを楽しむ→ DVR/VCR2 キー

5 音場プログラムを選びます

おすすめ

以下は映画を見るとき、音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特長については 64 ページをご参照ください。

・映画を見るとき

→ MOVIE
→ ENTERTAIN

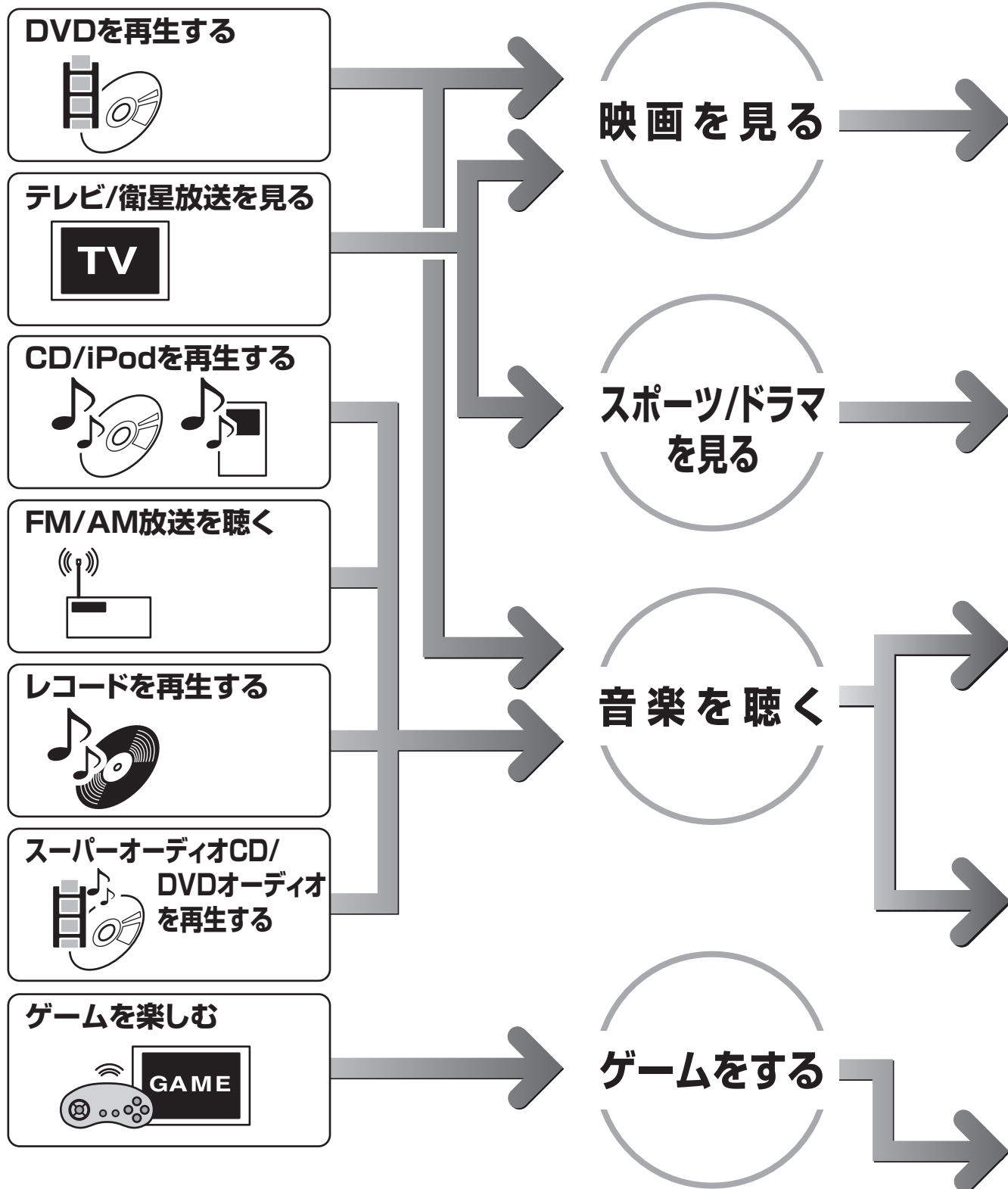
・音楽を聴くとき

→ CLASSICAL
→ LIVE/CLUB

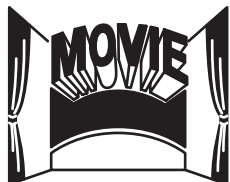
聴きおわったらSTANDBYキーを押して本機の電源をスタンバイにします。

ヒント ・音の大きさを調節するには? (49 ページ)

何を見ますか、何を聴きますか？

本機でお楽しみいただける音場プログラムの一覧です。見たい/聴きたいものに合わせて、音場プログラムを選び、再生してみましょう。音場プログラムの詳細については「取扱説明書」16ページをご参照ください。

効果的にお楽しみいただくには

音場を選びます	特長または最適ソース

映画館の感覚で聴きたい

MOVIE 4 **MOVIE**

Standard	後方から包み込まれるようなサラウンドの効果に重点をおいた音場
Spectacle	70mm映画の大画面のスペクタクルな音場
Sci-Fi	最新のSFX映画をクールに楽しめる音場
Adventure	アドベンチャー映画を大迫力で楽しめる音場
Drama	落ち着いた雰囲気で映画を楽しめる音場
Mono Movie	往年のモノラル映画を自然に再生する音場

雰囲気よく聴きたい

ENTERTAIN 3 **ENTERTAINMENT**

Sports	バラエティやスポーツ中継番組など、適用範囲の広い音場

大ホール感覚で聴きたい

CLASSICAL 1 **CLASSICAL**

Hall in Munich	広く奥行きのあるホールの音場
Hall in Vienna	響きが豊かな古典的な中ホールの音場
Hall in Amsterdam	響きが豊かな古典的な大ホールの音場
Church in Freiburg	非常に長い残響時間を持つ教会特有の音場
Chamber	宮廷の大広間の音場

ライブハウス/コンサート感覚で聴きたい

LIVE/CLUB 2 **LIVE/CLUB**

Village Vanguard	ニューヨークの著名なジャズクラブの音場
Warehouse Loft	コンクリート造りの倉庫の音場
Cellar Club	天井が低いアットホームなライブハウスの音場
The Roxy Theatre	ロサンゼルスのホットなロックライブハウスの音場
The Bottom Line	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」の音場

ENTERTAIN 3 **ENTERTAINMENT**

Music Video	ポップス・ロック・ジャズなどのライブステージを再現する音場
Recital/Opera	ステージの臨場感と、音楽の楽しさを演出する音場

弾むテンポで聴きたい

ENTERTAIN 3 **ENTERTAINMENT**

Action Game	音声の移動がはげしいアクションゲーム向けの音場
Roleplaying Game	ストーリー重視の演出性の高いゲーム向けの音場

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、
一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する
部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX2700

取扱説明書

本機の性能をフルに活用していただくためのものです。音場プログラムの変更やセットメニューを使った設定の変更、リモコンの使いこなし、その他便利な機能について説明しています。
本機に接続した機器の基本的な操作については「スタートアップ ガイド」をご覧ください。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

安全上のご注意

本機をお使いいただく前に、スタートアップガイドに記載されている「安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）」をお読みのうえ、正しくお使いください。

もくじ

本機について

本機の特長 4
各部の名称とはたらき 6
前面（フロントパネル） 6
リモコン 8
ディスプレイ 10

いろいろな再生のしかた

サラウンド再生を楽しむ 12
ドルビーデジタル/DTSソフトを再生する 12
2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ 14
ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシネマ） 15
サラウンドL/Rスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマDSP） 15
音場プログラムについて 16
Hi-Fi DSP音場プログラム 16
CINEMA DSP音場プログラム 18
ノーマルサラウンドプログラム 20
入力信号別音場プログラム名一覧 21
入力信号と再生スピーカー対応表 22
高音質で再生を楽しむ 25
ステレオ再生する（2チャンネルステレオ） 25
原音に忠実な音質で再生する（ピュアダイレクトモード） 25
その他の再生のしかた 26
圧縮オーディオをダイナミックに再生する（コンプレストミュージック・エンハンサーモード） 26
夜間に小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニングモード） 27
音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード） 27
音楽と映像で異なるソースを楽しむ（バックグラウンドビデオ機能） 28

オリジナルのリスニング環境をつくる

音場とは？ 29
音場を構成する要素 29
音場の種類 29
音場パラメーターを変更する 30
音場パラメーター一覧 31
音場パラメーターガイド 32

便利な機能

入力信号を切り替える（入力モード切り替え） 37
スピーカーの音量を調節する 38
再生しながら調節する 38
一定時間後に自動的に電源を切る（スリープタイマー） 39
スリープタイマーを設定する 39
スリープタイマーを解除する 39
保存されている各種設定をリモコンで呼び出す 40
外部機器で録音/録画する 41
FM/AM放送局を登録する 42
FM放送局を自動登録する（オートプリセット） 42
手動で登録する（マニュアルプリセット） 43
登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局） 44
登録した放送局を入れ替える 45

メニューで設定を変更する

セットメニュー一覧 46
セットメニューの表示と操作方法 48
音声出力の設定を変更する ーマニュアル設定（音の設定） 49
LFE レベル 49
ダイナミックレンジ 49
パラメトリックEQ 50
トーンコントロール 51
その他の音声設定 51
チャンネルミュート 52
映像出力の設定を変更する ーマニュアル設定（映像の設定） 54
ビデオコンバージョン 54
コンポーネントI/P 54
HDMI解像度 55
HDMIアスペクト 55
ショートメッセージ 56
オンスクリーン表示 56
表示位置の調整 56
壁紙の設定 56
スピーカーの設定を変更する ーマニュアル設定（基本設定） 57
テストトーン 57
スピーカーの設定 57
スピーカーの距離 59
スピーカーの音量 60
ネットワーク/USBの設定を変更する ーマニュアル設定（ネットワーク/USB設定） 61
ネットワーク設定 61
プレイスタイル 62
ネットワーク情報 62
その他の設定を変更する ーマニュアル設定（その他の設定） 63
本体表示器の設定 63
iPod 63
サラウンド初期化 64
音声入力初期値 64
デコードモード初期値 65
設定の保護 65
HDMI設定 65

入出力の設定を変更する（入力選択・設定）.... 66
端子の割り当て 66
音声入力選択 66
デコードモード 67
再生レベル補正 67
入力名変更 68
入力端子設定 68
映像選択 69
本機の設定を呼び出す・保存する（システム・メモリー）.... 70
設定の呼び出し 70
設定の保存 70
入力信号情報を表示する（信号の情報）.... 71
音声の情報 71
映像の情報 72
GUIで表示する言語を切り替える（表示言語）.... 73
アドバンストセットアップメニューを設定する 74

リモコンを使いこなす

リモコンのはたらき 76
本機を操作する 76
ほかの機器を操作する 76
操作する機器を切り替える 77
OPTN（オプション）モード 77
操作機器選択スイッチの役割 77
本機のリモコンで本機以外の機器を操作する 78
リモコンで操作する機器を設定する 78
リモコンコード一覧 81
設定した機器を操作する 83
他の機器のリモコン機能を記憶させる（ラーニング）.... 88
リモコンに表示される機器の名前を変更する 90
マクロ機能を使う 91
リモコンを初期化する 94

その他の情報

故障かな？と思ったら 97
全般 97
FM/AM放送の受信 100
リモコン 101
ネットワークオーディオ/USBデバイスの再生 102
技術/用語解説 103
音声フォーマット編 103
音場プログラム編 104
音声編 105
映像編 105
GPL/LGPL適用ソフトウェアについて 106
主な仕様 112
索引 113
ヤマハホットラインサービスネットワーク 115

スタートアップガイド　もくじ

「スタートアップガイド」には、以下の内容を記載しています。

はじめに

付属品を確認する 6
リモコンや本体を準備する 7
リモコンに乾電池を入れる 7
リモコンの取り扱い 8
コントロールパネルの開閉 8

接続する

接続の基礎知識 9
ビデオ端子について 9
デジタル音声端子(光/同軸)について 11
HDMI端子について 12
NETWORK端子について 13
RS-232C端子について 13
音声信号について 14
接続に使うケーブルの種類 15
スピーカーを接続する 16
スピーカーシステムの構成 16
スピーカーを設置する 17
スピーカーを接続する 19
テレビ/プロジェクターを接続する 22
再生機器を接続する 23
DVDプレーヤーを接続する 23
デジタルテレビチューナーを接続する 24
ケーブルテレビ/衛星放送チューナーを接続する 24
LDプレーヤーを接続する 25
CDプレーヤーを接続する 25
レコードプレーヤーを接続する 26
録音/録画機器を接続する 27
ビデオデッキを接続する 27
DVDレコーダーを接続する 27
MDレコーダー/テープデッキを接続する 28
CDレコーダーを接続する 28
ヤマハ製ドックを接続する 29
その他の機器を接続する 30
外部パワーアンプを接続する 30
マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する 31
ゲーム機やビデオカメラなどを接続する 32
USBデバイスを接続する 32
ホームネットワークに接続する 33
ホームネットワーク環境について 33
ホームネットワークに接続する 34
アンテナを接続する 35
FM簡易アンテナを接続する 35
AMループアンテナを接続する 35
電源コードを接続する 36
ACアウトレット 36
電源コード 36

接続が終わったら

電源をオン/スタンバイにする 37
GUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェース）画面を使って操作する 38
最適な視聴空間を自動的に設定する（自動測定メニュー）.... 40
設定の流れ 40
付属のマイクを準備する 40
測定を開始する 41
結果を確認する 43
表示メッセージについて 44

再生のしかた

映像機器を再生する（DVD、テレビ、ケーブル/衛星放送）.... 46
音声機器を再生する（CD、MD/カセットテープ、レコード）.... 50
FM/AM放送を聴く 51
iPod®の再生を楽しむ 52
ノーマルモードで再生する 53
メニュー表示モードで再生する 53
ネットワークオーディオ/USBデバイスの再生を楽しむ 55
NET/USBメニュー一覧 56
パソコンの音楽ファイルを再生するための準備をする 57
ネットワークオーディオ/USBデバイスを再生する 57
表示メッセージについて 59
パソコンに保存されている音楽ファイルを聴く 59
インターネットラジオを聴く 60
USBデバイスに保存されている音楽ファイルを聴く 61
ショートカットを登録する 61
その他のソースを楽しむ 63
何を見ますか、何を聴きますか？ 64
ヤマハホットラインサービスネットワーク 66

本機の特長

高い基本性能

バランスの良い、7チャンネルパワーアンプを搭載。また、192kHz/24ビットD/Aコンバーターを全チャンネルに採用しています。

- フロントL/R： 140W+140W*
- センター： 140W*
- サラウンドL/R： 140W+140W*
- サラウンドバックL/R： 140W+140W*

*定格出力時

視聴環境最適化システム「YPAO」搭載

YPAO(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)により、耳で聞くだけでは、正確な調整が難しかったマルチチャンネル用のセットアップを、高性能測定用マイクを使用して、自動で行います。お使いになるお部屋や、スピーカーシステムの構成に合わせて、最適な視聴空間を作り出します。

ビデオコンバージョン機能

コンポジットビデオ、Sビデオ、コンポーネントビデオ信号を他の種類の信号に変換し出力できます。また、480i(インターレース)の信号を480p(プログレッシブ)に変換して出力できます。

日本語GUI表示

本機とユーザーをつなぐインターフェースには、日本語GUIを採用。見やすい表示画面によって、より簡単に操作できます。

HDMI対応

次世代のテレビ向けデジタルインターフェイスであるHDMI端子を、入力3つ、出力1つの合計4つ装備しています。1本のHDMIケーブルを接続するだけで、デジタル音声信号とデジタル映像信号をデジタルのまま、高音質/高画質で伝送したり、本機で再生したりすることができます。

デジタルサウンドフィールドプロセッサー(DSP)搭載

各種デコーダーと、ヤマハ独自のDSPによる、効果的な音場再生を実現します。ヤマハが誇るDSPを、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS、AACに融合させて、音場効果を向上させています。

- 「バーチャルシネマDSP」：サラウンドL/Rスピーカーなしでも、音場効果を楽しめます。
- 「サイレントシネマ」：ヘッドホン使用時でも、音場効果を楽しめます。

多機能リモコン

付属リモコンは14面の機器操作エリアを持っており、内蔵プリセットコードやラーニング機能、マクロ機能を利用して、他のAV機器を本機のリモコンで操作できます。

iPod対応のヤマハ製ドック(別売YDS-10など)接続機能

ヤマハ製ドック(別売YDS-10など)を本機に接続すれば、テレビ画面に映したメニューを見ながら、本機のリモコンを使ってiPod(クリックホイール、nano、mini)を再生できます。

ネットワークオーディオ再生機能

ホームネットワークに本機を接続すれば、パソコンに保存されている音楽ファイルの再生や、vTuner社のデータベースサービスを利用してのインターネットラジオ放送が楽しめます。

USBデバイス再生機能

USBデバイスを接続すれば、保存されている音楽ファイルの再生が楽しめます。

さまざまな音響技術に対応

以下の信号方式に対応したデコーダーを搭載しています。

DOLBY DIGITAL・EX PRO LOGIC IIx

■ドルビーデジタル
■ドルビーデジタルEX

専用のマトリクスデコーダーを使用して、5.1チャンネルソフトのサラウンドL/Rチャンネルからサラウンドバックチャンネルを抽出し、6.1チャンネルで再生します。

■ドルビープロロジック
■ドルビープロロジックⅡx

5.1チャンネルソフトを信号処理し、サラウンドバックチャンネルを加えた6.1/7.1チャンネルで再生します。また、2チャンネル音声(モノラル音声を除く)で記録されたソースも、優れた分離感を保ちながら6.1/7.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

dts 96/24 ES Neo:6 ™

■DTS
■DTS-ES(エクステンディッド・サラウンド)

フロント3チャンネル、リア2チャンネル、低音チャンネルLFE(ロー・フリークエンシー・エフェクト)という従来の5.1チャンネル構成に、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネルとし、さらにこれらのチャンネルを独立させて収録したディスクリート6.1方式に対応しています。またマトリクス回路により、5.1チャンネルで収録されたソフトからサラウンドバックチャンネルを抽出するマトリクス6.1方式にも対応しています。

■DTS Neo：6(ネオ・シックス)

2チャンネル音源から最大6チャンネルを抽出し、再生します。ソースに合わせ、音楽用のMusicモードと、映画のサウンドトラック用のCinemaモードが用意されています。

■DTS 96/24

5.1チャンネルすべてを「サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24bit」の高音質での再生を実現します。

■AAC(アドバンスド・オーディオ・コーディング)

BSデジタル放送や地上波デジタル放送が採用している音声フォーマットです。高圧縮率と高音質が特長で、通常の2チャンネルステレオ音声に加え、5.1チャンネルのサラウンド音声や多言語の放送を可能にしています。

■SRS Circle(サークル) Surround(サラウンド) Ⅱ

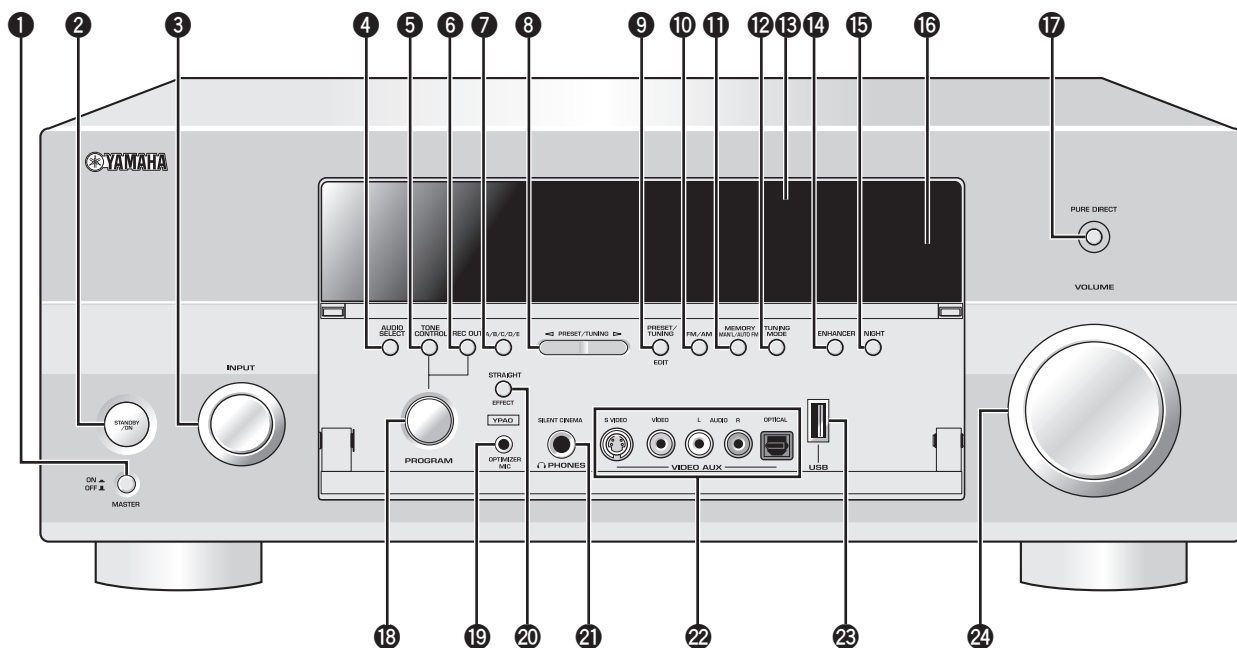
アナログソース、デジタルソースに関わらず、あらゆる2チャンネルソースをマトリクス処理し、6.1チャンネルで再生します。

SILENT ™ CINEMA

■サイレントシネマ

マルチスピーカーによる音場プログラムの効果を、ヘッドホンで擬似的に再現します。

各部の名称とはたらき

前面(フロントパネル)

❶ MASTER(マスター) ON(オン)/OFF(オフ)スイッチ

本機の電源をオン/オフします。
オンになっているときには、フロントパネルスイッチまたはリモコンキーで本機を操作できます。
オフになっている間も、少量の電力を消費しています。

❷ STANDBY(スタンバイ)/ON(オン)スイッチ

MASTER ON/OFFスイッチがオンのとき、本機の電源をオン/スタンバイ(待機)にします。

❸ INPUT(インプット)セレクター

再生する入力ソースを選びます。

❹ AUDIO(オーディオ) SELECT(セレクト)キー

入力信号を自動的に判別するか、または特定の入力信号に固定するかを切り替えます(37ページ)。

❺ TONE(トーン) CONTROL(コントロール)キー

フロントL/R、センター、プレゼンスL/Rチャンネルおよびサブウーファーの音色を調節するときに押します。キーを押すごとに、BASS(低音域)とTREBLE(高音域)が切り替わります。このキーを押した後に、PROGRAMセレクター(⓲)で、音色を調節します。

ご注意
トーンコントロールにより各チャンネルを極端に増強、または減衰した場合、他のスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。

❻ REC(レコーディング) OUT(アウト)キー

録音/録画するソースを選ぶときに押します(41ページ)。

❼ A/B/C/D/Eキー

FM/AM放送を聴くときに、プリセットグループ(A、B、C、D、E)を選びます。

❽ PRESET(プリセット)/TUNING(チューニング) ◁/▷キー

聴く放送局を選びます。1～8の登録(プリセット)した局から選ぶか(44ページ)、周波数で選局します(「スタートアップガイド」51ページ)。

❾ PRESET(プリセット)/TUNING(チューニング) (EDIT(エディット))キー

FM/AM放送を聴くときに、あらかじめ登録(プリセット)した局から選ぶか、または周波数で選局するかを切り替えます。また、登録した局の入れ替えもこのキーで行います(45ページ)。

❿ FM/AMキー

FM放送、AM放送の受信を切り替えます。

⓫ MEMORY(メモリー) (MAN'L(マニュアル)/AUTO(オート) FM)キー

受信した放送局を登録(プリセット)します。3秒以上押すと、オートプリセット機能を利用できます(42ページ)。

⓬ TUNING(チューニング) MODE(モード)キー

自動(オート)選局または手動(マニュアル)選局を選びます。
自動選局する場合は、このキーを押してAUTOインジケーターを点灯させます。手動選局する場合は、AUTOインジケーターを消します(「スタートアップガイド」51ページ)。

⓭ ディスプレイ
音場プログラムの名前や、設定値などを表示します(10ページ)。

⓮ ENHANCER(エンハンサー)キー
圧縮オーディオフォーマットをダイナミックに再生する、コンプレストミュージック・エンハンサーモードのオン/オフを切り替えます(26ページ)。

⓯ NIGHT(ナイト)キー
夜間など、小音量で音声を楽しむときに押します(27ページ)。

⓰ リモコン受光部
リモコンからの信号を受信します。

⓱ PURE(ピュア) DIRECT(ダイレクト)キー
原音に忠実な音質で再生するピュアダイレクトモードのオン/オフを切り替えます(25ページ)。オンのときは青色に点灯します。

⓲ PROGRAM(プログラム)セレクター
音場プログラムを選ぶときに回します(「スタートアップガイド」48ページ)。
またTONE CONTROLキー(❺)を押したあとは、スピーカーから出力される音声の音色を調節します。

⓳ OPTIMIZER(オプティマイザー) MIC(マイク)端子
AUTO SETUP(YPAO)用のマイクを接続します(「スタートアップガイド」40ページ)。

⓴ STRAIGHT(ストレート)/EFFECT(エフェクト)キー
音場効果を加えない音声と、音場効果を加えた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号に対応するデコーダで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します(27ページ)。

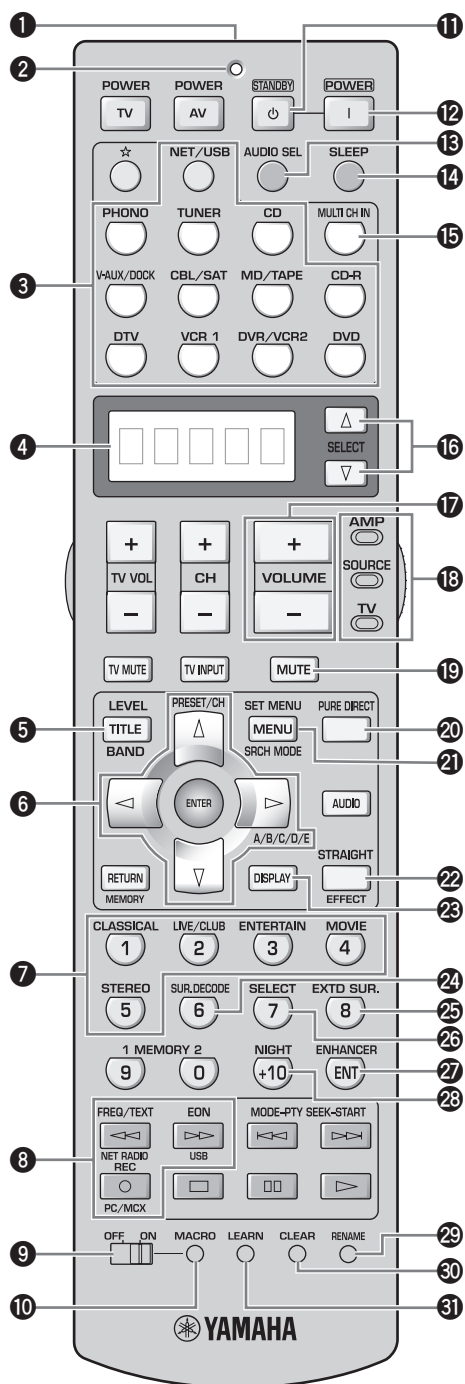
㉑ PHONES(フォンズ)(SILENT(サイレント) CINEMA(シネマ))端子
ヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーから音が出なくなりますので、深夜に音声を楽しむ際は、ヘッドホンのご使用をおすすめします。
ヘッドホンを接続しているときは、「サイレントシネマ」で音声を楽しめます(15ページ)。
MULTI CH IN端子に接続した機器の再生をヘッドホンを使用して楽しむときは、フロントL/Rチャンネル音声のみ出力されます。

㉒ VIDEO(ビデオ) AUX端子
ゲーム機やビデオカメラなどを接続する、予備入力端子です。
この端子に入力された信号を再生するには、INPUT セレクター、またはリモコンの入力選択キーで「V-AUX」を選びます。

㉓ USB端子
USBデバイスを接続します(「スタートアップガイド」32ページ)。

㉔ VOLUME(ボリューム)コントロール
本機の音量を調節します(消音〜+16.5dB)。
録音用のOUT(REC)端子の音量には影響しません。

リモコン

⑱操作機器選択スイッチでAMPを選択しているときに、本機を操作できます。SOURCEまたはTVを選択しているときは、他の機器を操作することもできます。他の機器の操作については83～87ページをご覧ください。

❶ 赤外線送受信部

リモコン操作用の赤外線信号を送受信します（「スタートアップガイド」8ページ）。

❷トランスミッションインジケーター

リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに、点灯します。

❸ 入力選択キー

再生する入力ソースを選びます。入力ソースに合わせて、リモコンの機能も切り替わります。

❹ リモコンディスプレイ

操作できる機器の名前を表示します。

❺ LEVEL（レベル）、BAND（バンド）キー

各スピーカーの音量を調節します（38ページ）。
チューナーモードのとき、受信するバンド（FM/AM）を切り替えます。（⑱:SOURCE）

❻ カーソル（△/▽/◁/▷）/ENTER（エンター）キー

セットメニューや音場パラメーターを選んだり、設定したりするときに使います。
チューナーモードのとき、△/▽キーでプリセット番号（1～8）を、◁/▷キーでプリセットグループ（A、B、C、D、E）を選びます。（⑱:SOURCE）

❼ 音場プログラム、プリセット番号1～5キー

音場プログラムを選びます（「スタートアップガイド」48ページ）。
チューナーモードのとき、プリセット番号（1～5）を選びます。（⑱:SOURCE）

❽ ネットワークオーディオ/USBデバイス入力選択キー

再生するネットワークオーディオおよびUSBデバイスを選びます（「スタートアップガイド」57ページ）。

❾ MACRO（マクロ） ON/OFFスイッチ

マクロ機能のオン/オフを切り替えます（92ページ）。

❿ MACRO（マクロ）ボタン

一連のキー操作を１つのキー操作でできるように設定するときに押します（92ページ）。

⓫ STANDBY（スタンバイ）キー

フロントパネルのMASTER ON/OFFスイッチがオンのとき、本機の電源をスタンバイにします（「スタートアップガイド」37ページ）。

⑫ POWER(パワー)キー

フロントパネルのMASTER ON/OFFスイッチがオンのとき、本機の電源をオンにします(「スタートアップガイド」37ページ)。

⑬ AUDIO(オーディオ) SEL(セレクト)キー

入力信号を自動的に判別するか、または特定の入力信号に固定するかを切り替えます(37ページ)。

⑭ SLEEP(スリープ)キー

スリープタイマーを設定します(39ページ)。

⑮ MULTI(マルチ) CH IN(チャンネルイン)キー

本機背面のMULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます(「スタートアップガイド」63ページ)。

⑯ SELECT(セレクト) △/▽キー

入力ソースを切り替えずに、リモコンで操作したい機器を切り替えたいときに押して、操作したい機器の名前を表示させます。

⑰ VOLUME(ボリューム) +/−キー

本機の音量を調節します(消音〜+16.5dB)。
録音用のOUT(REC)端子の音量には影響しません。

⑱ 操作機器選択スイッチ

リモコンで操作する機器を選択します(77ページ)。

- AMP : 本機を操作するときに選びます。
- SOURCE : 入力選択キーで選んだ機器を操作するときに選びます。
- TV : TVを操作するときに選びます。

⑲ MUTE(ミュート)キー

音量を下げます(「スタートアップガイド」49ページ)。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

⑳ PURE(ピュア) DIRECT(ダイレクト)キー

原音に忠実な音質で再生するピュアダイレクトモードのオン/オフを切り替えます(25ページ)。

㉑ SET(セット) MENU(メニュー)キー

セットメニュー画面を表示したり、メニューから抜けたりします(48ページ)。

㉒ STRAIGHT(ストレート)/EFFECT(エフェクト)キー

音場効果を加えない音声と、音場効果を加えた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号を対応するデコーダーで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します(27ページ)。

㉓ DISPLAY(ディスプレイ)キー

iPodまたはUSBデバイスの再生や、ネットワークオーディオを楽しむときに押します(「スタートアップガイド」53、58ページ)。

㉔ SUR.(サラウンド) DECODE(デコード)、プリセット番号6キー

2チャンネルソフトをマルチチャンネルで再生します(14ページ)。
チューナーモードのとき、プリセット番号(6)を選びます。
(⑱:SOURCE)

㉕ EXTD SUR.(エクステンドサラウンド)、プリセット番号8キー

ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソフトを6.1/7.1チャンネルで再生するときに押します(12ページ)。
チューナーモードのとき、プリセット番号(8)を選びます。
(⑱:SOURCE)

㉖ SELECT(セレクト)、プリセット番号7キー

2チャンネルソースをマルチチャンネルで再生するときに、デコーダーを切り替えます(14ページ)。
チューナーモードのとき、プリセット番号(7)を選びます。
(⑱:SOURCE)

㉗ ENHANCER(エンハンサー)キー

圧縮オーディオフォーマットをダイナミックに再生する、コンプレストミュージック・エンハンサーモードのオン/オフを切り替えます(26ページ)。

㉘ NIGHT(ナイト)キー

夜間など、小音量で音声を楽しむときに押します(27ページ)。

㉙ RENAME(リネーム)ボタン

リモコンディスプレイに表示される入力機器名を変更するときに押します(90ページ)。

㉚ CLEAR(クリアー)ボタン

設定したリモコンコードや記憶(ラーニング)させた機能、マクロに設定した機能を消去するときや、変更した表示機器名を元に戻すときに押します(94ページ)。

㉛ LEARN(ラーン)ボタン

リモコンコードを設定するときや、他の機器のリモコン信号を記憶させるときに押します(79、88ページ)。

ディスプレイ

❶ DOCKインジケーター

入力ソースでV-AUXを選んでいて、ヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にセットしたiPodからの信号を本機が認識しているときに点灯します。本機がスタンバイのときにiPodを充電しているときは「●」が赤色で点灯し、充電が完了すると自動的に消灯します。

❷ 入力ソースインジケーター

現在選んでいる入力ソース名の左側に、「 ▶ 」が点灯します。

❸ VOLUMEインジケーター

現在の音量を表示します（--～+16.5dB）。

❹ AUTOインジケーター

自動（オート）でFM放送局を選ぶときに点灯します。

❺ TUNEDインジケーター

FM/AM放送が受信されたときに点灯します。

❻ STEREOインジケーター

自動（オート）でFM放送局を選んでいるときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると、点灯します。

❼ MEMORYインジケーター

FM/AM放送局を登録（プリセット）するときに点滅します。

❽ マルチインフォメーションディスプレイ

音場プログラムの名前など、さまざまな情報を表示します。

❾ 96/24インジケーター

DTS 96/24信号が入力されているときに点灯します。

❿ DUALインジケーター

ドルビーデジタル、DTSおよびAACのDUAL MONOまたはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号が入力されているときに点灯します（52ページ）。

⓫ LFEインジケーター

入力されているデジタル信号に、LFE（低域効果音）チャンネルが含まれているときに点灯します。

⓬ 入力信号チャンネル/スピーカーインジケーター

L C R
SL SB SR
- プレゼンススピーカーインジケーター
- 入力信号チャンネルインジケーター
- サラウンドバックスピーカーインジケーター

入力信号チャンネルインジケーター

入力されているデジタル信号に含まれているチャンネルに合わせて点灯します。

プレゼンス/サラウンドバックスピーカーインジケーター

セットメニュー「パラメトリックEQ」（50ページ）の「テストトーン」が「出力する」のときに、「スピーカーの設定」（57ページ）の「プレゼンス」および「サラウンドバック」で設定されているスピーカーの数に応じて点灯します。

⓭ MUTEインジケーター

MUTEキーを押して、音量を下げている間点滅します（「スタートアップガイド」49ページ）。

⓮ SLEEPインジケーター

スリープタイマーが作動しているときに点灯します（39ページ）。

⓯ NIGHTインジケーター

ナイトリスニングモードで再生しているときに点灯します（27ページ）。

⓰ デコーダーインジケーター

本機内蔵のデコーダー（5ページ）が作動しているときに、それぞれのインジケーターが点灯します。

⑰ VIRTUAL(バーチャル)インジケーター

バーチャルシネマDSPモードで再生しているときに点灯します(15ページ)。

⑱ RECOUT(レコーディングアウト)インジケーター

録音/録画するソースを選ぶときに点灯します(41ページ)。

⑲ HDMIインジケーター

HDMI IN 端子に他の機器を接続し、HDMI入力信号を選択しているときに点灯します。HDMI入力信号を選択していないときには消灯します。

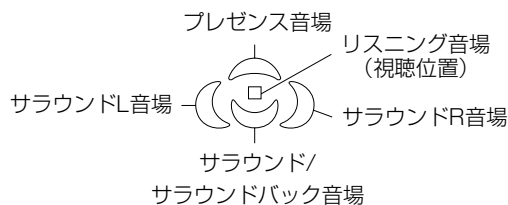
⑳ CINEMA(シネマ) DSPインジケーター

CINEMA DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します。

㉑ HiFi(ハイファイ) DSPインジケーター

HiFi DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します。

㉒ 音場インジケーター

DSP音場プログラムを使っているときに、本機がどのように音場を処理しているかを表示します。

㉓ ヘッドホンインジケーター

PHONES(SILENT CINEMA)端子に、ヘッドホンを接続しているときに点灯します。

㉔ YPAOインジケーター

「自動測定メニュー」の手順を行っている間と、「自動測定メニュー」での設定が有効になっている状態で点灯します。

㉕ 入力フォーマットインジケーター

現在入力されているフォーマットを表示します。

㉖ ENHANCER(エンハンサー)インジケーター

コンプレストミュージック・エンハンサーモードで再生しているときに点灯します(26ページ)。

㉗ SILENT(サイレント) CINEMA(シネマ)インジケーター

ヘッドホンを接続して「サイレントシネマ」で再生しているときに点灯します。

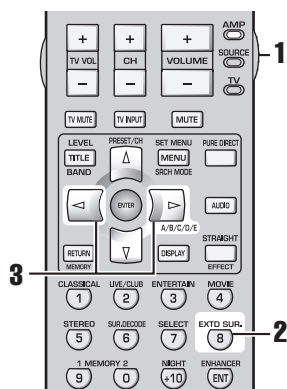
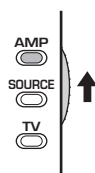
ドルビーデジタル/DTSソフトを再生する

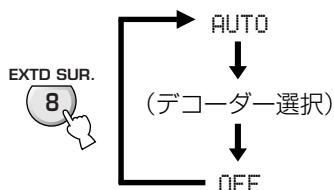
マルチチャンネルで記録されたソフトを、スピーカー構成やお好みにあわせて、チャンネル数を選んで再生できます。

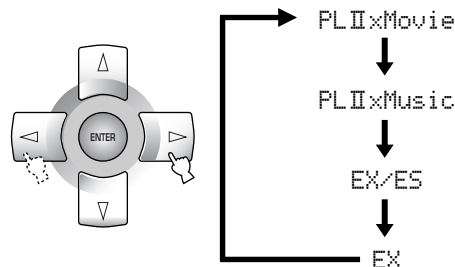
5.1チャンネルで再生する

5.1チャンネルで記録されたドルビーデジタル、DTS、AAC信号が入力されると、本機は自動的にそれらの信号フォーマットに適した、デコーダーおよび音場プログラムを選んで再生します(21ページ)。

6.1/7.1チャンネルで再生する

ドルビーデジタルEXやDTS-ESなど、サラウンドL/R成分があるソースは、サラウンドバックスピーカーの音声を加えて6.1/7.1チャンネルで再生できます。

1 **操作機器選択スイッチをスライドさせてAMPを選ぶ**

2 **EXTD SUR.キーを押して、下記の(デコーダー選択)を選ぶ**

押すごとにフロントパネルディスプレイの表示が下記のように切り替わります。

3 **◁ /▷ キーを押して、再生モード(デコーダー)を切り替える**

6.1または7.1チャンネル再生で使うデコーダーを選びます。

AUTO
本機が確認できる信号(フラグ)が記録されているソースが入力されると、信号に応じて最適なデコーダーを自動的に選び、6.1または7.1チャンネルで再生します。
本機がフラグを認識できない、またはソース自体にフラグが記録されていない場合は、5.1チャンネルで再生されます。

PLⅡxMovie
プロロジックⅡxデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを7.1チャンネルで再生します。

PLⅡxMusic
プロロジックⅡxデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1/7.1チャンネルで再生します。

EX/ES
ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタルおよびAACを6.1チャンネルで再生します。
またDTS-ESデコーダーにより、DTSを6.1チャンネルで再生します。

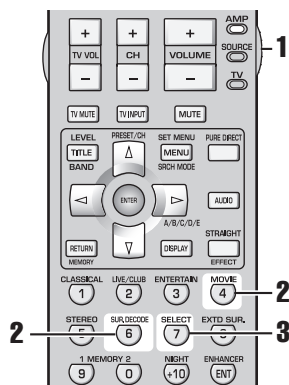
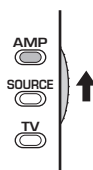
EX
ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1チャンネルで再生します。

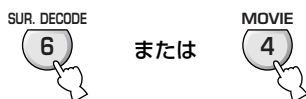
OFF
6.1/7.1チャンネルでの再生はしません。5.1チャンネルで再生します。

ご注意

- 以下の場合は、EXTD SUR.キーを押しても、6.1または7.1チャンネルで再生されません。
  - セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定しているとき（57ページ）
  - セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「無」に設定しているとき（58ページ）
  - 2ch Stereo、7ch Stereoを、音場プログラムとして選んでいるとき（25、17ページ）
  - ピュアダイレクトモードで再生しているとき（25ページ）
  - サラウンドL/R成分のないソース（2チャンネルPCM、アナログ信号など）を再生しているとき
  - MULTI CH INPUT端子に接続したソースを再生しているとき
  - ヘッドホンを接続しているとき
- セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「大１台」または「小１台」に設定しているときは、「ＰＬⅡx Movie」を選べません（58ページ）。
- 本機の電源をスタンバイにすると、再生モードは自動的にAUTOに戻ります。

2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ

ドルビープロロジック、ドルビープロロジックⅡxまたはDTS Neo:6デコーダーを選ぶと、2チャンネルソースをマルチチャンネル化してお楽しみいただけます。

1 操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 SUR. DECODEキーを押して、SUR. DECODEモードを選択する、またはMOVIEキーを押して、MOVIEプログラムを選ぶ

2チャンネル音声がマルチチャンネル音声になります。

または
3 SELECTキーを繰り返し押して、デコーダーを選ぶ

下の図のようにデコーダーが切り替わります。

SUR. DECODEモードを選んだ場合

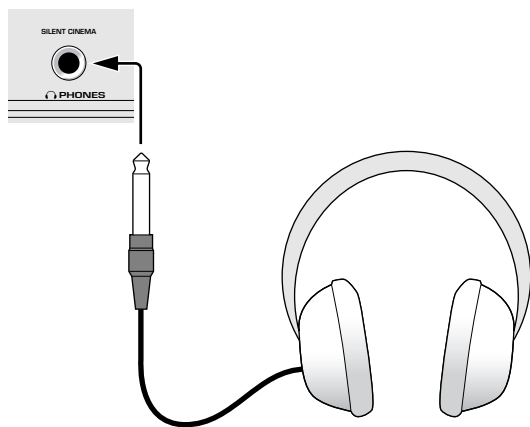
MOVIEプログラムを選んだ場合

- SELECTキーを1度押してから、カーソル◁/▷キーを繰り返し押して操作することもできます。
- 各デコーダーのパラメーターを変更することでソースやリスニングルームの音響にあわせて音場効果を調節できます(30ページ)。

ご注意

- セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を「無」に設定しているときは、プロロジックⅡxデコーダーは自動的にプロロジックⅡデコーダーに切り替わります(58ページ)。
- MOVIEプログラムのMono Movieを選んでいる場合は、デコーダーを選べません。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ(サイレントシネマ)

ヘッドホンを本体のPHONES端子に接続しているときでも、「サイレントシネマ」によって音場プログラムを楽しめます。

「サイレントシネマ」モードでは、マルチスピーカーによる音場プログラムの効果を、ヘッドホンで擬似的に再現します。「サイレントシネマ」モードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのSILENT CINEMAインジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合は、ヘッドホンを接続しても、「サイレントシネマ」モードには切り替わりません。
- MULTI CH INPUT端子に接続した機器を入力ソースとして選んでいるとき
- 2ch Stereoで再生しているとき(25ページ)
- ピュアダイレクトモードで再生しているとき(25ページ)
- ストレートデコードモードで再生しているとき(27ページ)

サラウンドL/Rスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ(バーチャルシネマDSP)

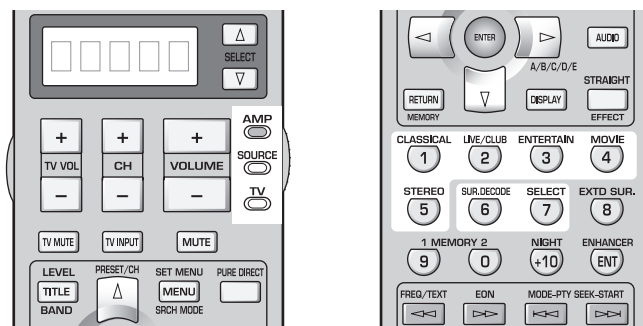
サラウンドL/Rスピーカーがない場合でも、バーチャルシネマDSPモードにより、臨場感あふれる再生を楽しめます。セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定すると(57ページ)、バーチャルシネマDSPモードで再生を楽しめます。

バーチャルシネマDSPモードでは、入力ソースの音声に、選んだ音場プログラムの音場効果を付加して、フロントL/Rスピーカー、センタースピーカーとサブウーファーから出力します。バーチャルシネマDSPモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのVIRTUALインジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合は、セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定しても、バーチャルシネマDSPモードには切り替わりません。
- 2ch Stereo、7ch Stereoで再生しているとき(25、17ページ)
- SUR. DECODEモードで再生しているとき(14ページ)
- ピュアダイレクトモードで再生しているとき(25ページ)
- ヘッドホンを接続しているとき
- MULTI CH INPUT端子に接続した機器を入力ソースとして選んでいるとき

音場プログラムについて

本機には、音楽に最適なHiFi DSP音場プログラム、映画に最適なCINEMA DSP音場プログラムが搭載されています。また、ノーマルサラウンドプログラムでは、元の音を忠実にデコードして再現することもできます。操作機器選択スイッチをスライドさせてAMPを選んでから、表中の「キー」欄に描かれているリモコンキーを押して、音場プログラムを変更します。繰り返し押すと、サブプログラムが切り替わります。

ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられる場合がありますが故障ではありません。
- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

ヒント

各音場プログラムやデコーダーのパラメーターを変更して、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場効果を調節できます（30ページ）。

HiFi DSP音場プログラム

プログラムと特長

- CDなどのステレオ音楽ソースに最適なプログラムです。
- フロントL/Rスピーカーの他に4本のエフェクトスピーカー（プレゼンスL/プレゼンスR/サラウンドL/サラウンドR）で音場を再現します。
- 入力信号に応じて各種デコーダーが使用されます。

キー	プログラム	サブプログラム	特長
CLASSICAL 1	CLASSICAL（クラシカル）	Hall in Munich（ホール イン ミュンヘン）	ヨーロッパに多くみられる、内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は、1階の中央左寄りです。
		Hall in Vienna（ホール イン ウィーン）	1700席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
		Hall in Amsterdam（ホール イン アムステルダム）	アムステルダムの広幅化したシューボックス型の大ホールで、サークルステージ、ステージバック席があり、客席は2200程です。
		Church in Freiburg（チャーチ イン フライブルグ）	ドイツ南部の120m近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みはあまりありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。
		Chamber（チェンバー）	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長の音場です。

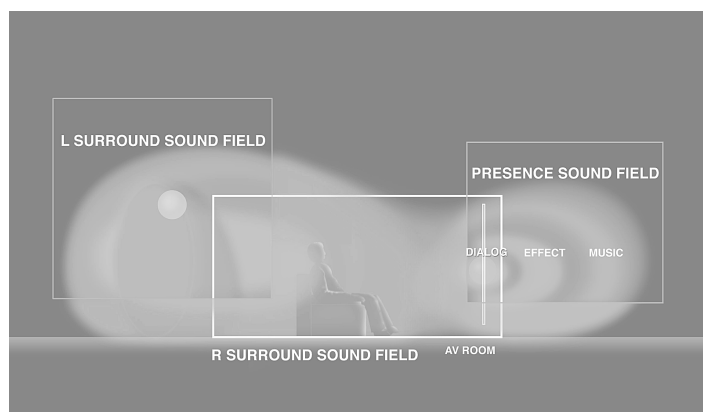
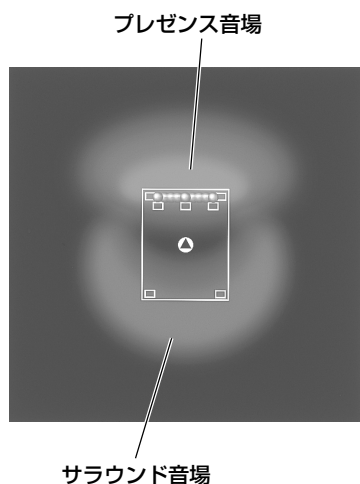
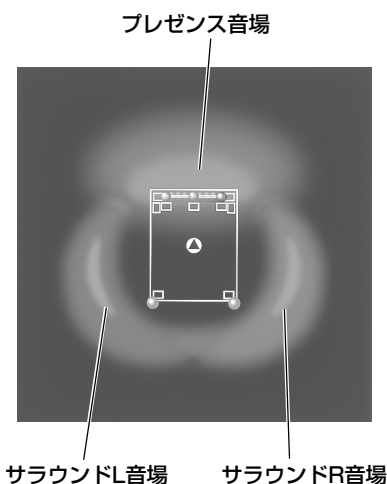
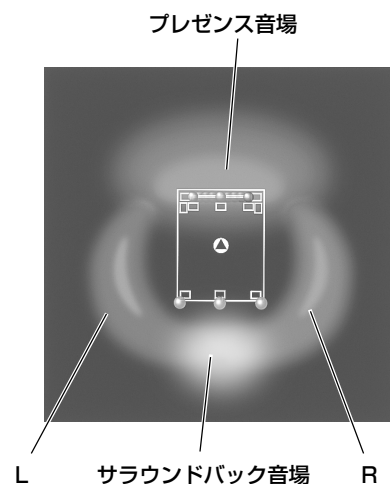
キー	プログラム	サブプログラム	特長
LIVE/CLUB 2	ライブ クラブ LIVE/CLUB	ビレッジ バンガード Village Vanguard	ニューヨークの7番街にあるジャズクラブです。天井が低く、狭い室内の角にあるステージ付近に強い反射音が集中しています。
		ウェアハウス ロフト Warehouse Loft	ソーホーのロフトを思わせるコンクリートの空間です。壁面からの反射音は比較的明瞭で、エネルギッシュな音場です。
		セラー クラブ Cellar Club	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
		ザ ロキシー シアター The Roxy Theatre	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。
		ザ ボトム ライン The Bottom Line	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
STEREO 5	ステレオ STEREO	チャンネル ステレオ 7ch Stereo	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長のホームパーティーを演出する音場プログラムです。セットメニューの設定により、最大7つのスピーカーから音が出力されます。

CINEMA DSP音場プログラム

CINEMA DSP音場プログラムのサウンドデザイン

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に広がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP音場プログラム」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、またBS/地上波デジタル放送の音声フォーマットであるAACなどの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ(最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス)でのクオリティをAVルームに再現します。

CINEMA DSP音場プログラムでは、フロントL/センター/フロントRチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。プレゼンススピーカーを使用すれば、よりはっきりとしたセリフの定位が得られるとともに、さらなる音場の立体感を演出できます。

2音場
CDやビデオテープなどの、ステレオソースをマトリクス処理し、前方のプレゼンス音場、後方のサラウンド音場を付加します。

3音場
ドルビーデジタル、DTSなどの5.1チャンネルソースに対して、前方のプレゼンス音場と、後方の左右それぞれに独立したサラウンド音場を付加します。

4音場
ドルビーデジタルEX、DTS-ESなど最新の6.1チャンネルソースに対応して、3音場にサラウンドバック音場を加えた、4つの音場を付加します。

プレゼンス音場

サラウンド音場

プログラムと特長

- 入力信号に応じて、各デコーダーおよび方向性強調回路が使用されます。
- センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。
- フロントL/Rスピーカーも方向性強調に信号処理された出力になります。
- プレゼンス音場処理によって画面奥行きへの音場表現が得られます。さらに、サラウンド音場処理によってスケールの大きなサラウンド感が得られます。

キー	プログラム	サブプログラム	特長
ENTERTAIN 3	エンターテイメント ENTERTAINMENT	スポーツ Sports	プレゼンス音場は狭めてあるが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと広がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。
		アクション ゲーム Action Game	臨場感と迫力のあるプレイ環境を追求した、カーレースやFPSなどのアクションゲームに最適な音場です。
		ロールプレイング ゲーム Roleplaying Game	フィールドの奥行きや立体感とともに、ムービーシーンでの映画的なサラウンド効果を追求した、RPGやアドベンチャーゲームなどに最適な音場です。
		ミュージック ビデオ Music Video	ポップス・ロック・ジャズなどのライブコンサート会場のイメージです。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感と、リズム音楽のノリを重視したプレゼンス音場に加え、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場により、ホットなライブ空間に浸れます。
		リサイタル オペラ Recital/Opera	響きの量を適度に抑えてあり、声の奥行き感、明瞭度に優れています。オペラではステージでの定位や臨場感とともに、オーケストラボックスの響きが眼前にくり広げられます。サラウンド音場は控えめながら、コンサートホールのデータを使用することで音楽の楽しさを演出。長時間のオペラものでも疲れません。
MOVIE 4	ムービー MOVIE	スペクタクル Spectacle	70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生み出します。70mm映画初期の作品から最新のドルビーデジタルソフトおよびDTSソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。
		サイ ファイ Sci-Fi	最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、サイエンス・フィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。
		アドベンチャー Adventure	最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm/ドルビーデジタル、DTSおよびAACマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現するとともに音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデッドにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きとともにアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。
		ドラマ Drama	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長の音場です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音やBGMが柔らかな響きで立体的に再現されます。長時間聴いていても疲れません。
		モノ ムービー Mono Movie	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。
		スタンダード Standard	ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどの各種マルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱すことなく、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」をコンセプトにデザインされた音場で、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。

ノーマルサラウンドプログラム

音場効果をかけずに元の音で再生したい場合は、下記のノーマルサラウンドプログラムを選んでください。
本機には下記のデコーダーが搭載されています。

- **ドルビーデジタル、DTS、AACデコーダー**：マルチチャンネルソース用
- **ドルビーデジタルEX、DTS-ES、ドルビープロロジックⅡxデコーダー**：サラウンドバックチャンネル音声再生用
- **DTS 96/24デコーダー**：96kHz/24bitの高音質再生用
- **ドルビープロロジック、ドルビープロロジックⅡx、DTS Neo：6、SRS CSⅡデコーダー**：ドルビーサラウンドと2チャンネルソース用

PLⅡ　：PRO LOGICⅡ（プロロジックⅡ）
PLⅡx：PRO LOGICⅡx（プロロジックⅡx）
CSⅡ　：Circle SurroundⅡ（サークルサラウンドⅡ）

キー	プログラム	デコーダー	特長
SUR.DECODE 6	SUR. DECODE	Dolby Digital	ドルビーデジタル、DTS、AACで処理されたソースの再生用プログラムです。セパレーションに優れ、安定したデコードが得られます。
		DTS	
		AAC	
		PRO LOGIC	2チャンネル音声をそれぞれの方式でマルチチャンネル化して再生します。*
		PLⅡx Movie	
		PLⅡx Music	
		PLⅡx Game	
		Neo：6 Cinema	
		Neo：6 Music	
		CSⅡ Cinema	
		CSⅡ Music	

＊SUR. DECODEキーを押してSUR. DECODEプログラムを選択してから、SELECTキーでデコーダーを切り替えてください。

入力信号別音場プログラム名一覧

ノーマルサラウンドプログラムで再生しているときは、本機に入力されている信号の種類とデコーダーの動作により、フロントパネルディスプレイに下記のように音場プログラム名が表示されます。

アナログ、PCM、ドルビーデジタル(2ch)、DTS(2ch)、AAC(2ch)	ドルビーデジタル	DTS	AAC
SUR. DECODE PRO LOGIC	SUR. DECODE DOLBY DIGITAL	SUR. DECODE DTS	SUR. DECODE AAC
SUR. DECODE PLⅡx Movie	SUR. DECODE DD D + PLⅡx Movie*1	SUR. DECODE DTS + PLⅡx Movie*1	SUR. DECODE AAC + PLⅡx Movie*1
SUR. DECODE PLⅡx Music	SUR. DECODE DD D + PLⅡx Music*2	SUR. DECODE DTS + PLⅡx Music*2	SUR. DECODE AAC + PLⅡx Music*2
SUR. DECODE PLⅡx Game	SUR. DECODE DOLBY D EX*3	SUR. DECODE DTS + DOLBY EX*3	SUR. DECODE AAC + DOLBY EX*3
SUR. DECODE Neo:6 Cinema		SUR. DECODE DTS ES*4 *5	
SUR. DECODE Neo:6 Music		SUR. DECODE DTS 96/24*6	
SUR. DECODE CSⅡ Cinema		SUR. DECODE DTS 96/24 ES*4 *6	
SUR. DECODE CSⅡ Music			

*1 ドルビープロロジックⅡxデコーダー(Movieモード)動作時(DD PLⅡx 点灯時)

*2 ドルビープロロジックⅡxデコーダー(Musicモード)動作時(DD PLⅡx 点灯時)

*3 ドルビーデジタルEXデコーダー動作時(DD EX 点灯時)

*4 DTS-ESマトリクスデコーダー動作時(MATRIXインジケーター点灯時)

*5 DTS-ESディスクリートデコーダー動作時(DISCRETEインジケーター点灯時)

*6 DTS 96/24デコーダー動作時(96/24 点灯時)

入力信号と再生スピーカー対応表

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

ご注意

再生するソースによっては、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出なかったりする場合もあります。映画の効果音など、シーンに合わせて部分的にしか使用されないチャンネルもあります。

表中のイラストは以下の内容を表しています。

L	フロントLスピーカー
C	センタースピーカー
R	フロントRスピーカー
PL	プレゼンスLスピーカー
PR	プレゼンスRスピーカー
SL	サラウンドLスピーカー

SR	サラウンドRスピーカー
SBL	サラウンドバックLスピーカー
SBR	サラウンドバックRスピーカー
(図)	音が出ているスピーカー
□	音が出ていないスピーカー

CLASSICAL
Hall in Munich
Hall in Vienna
Hall in Amsterdam
Church in Freiburg
Chamber
LIVE/CLUB
Village Vanguard
Warehouse Loft
Cellar Club
The Roxy Theatre
The Bottom Line

ENTERTAINMENT
Sports
Misic Video
Recital/Opera
MOVIE
Spectacle
Sci-Fi
Adventure
Drama
Mono Movie

PRIORITY:PRNSに設定

PRIORITY:SBに設定

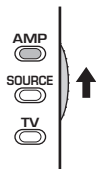
	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1チャンネル音声 (EX/PLⅡx/ES インジケーター消灯時)	5.1/6.1 チャンネル音声 (EX/PLⅡx/ES インジケーター点灯時) PRIORITY:PRNSに設定	PRIORITY:SBに設定
ENTERTAINMENT Action Game Roleplaying Game					
MOVIE Standard DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	―	―	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC
MOVIE Standard PLⅡ Movie PLⅡx Movie Neo:6 Cinema		PRIORITY:PRNSに設定 PRIORITY:SBに設定	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC
SUR. DECODE DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	―	―	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC
SUR. DECODE PLⅡ Movie PLⅡ Music PLⅡ Game	Movie/Game Music	Movie/Music/Game	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC

	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1チャンネル音声 (□□EX/□□PL Ⅱ x/ES インジケーター消灯時)	5.1/6.1 チャンネル音声 (□□EX/□□PL Ⅱ x/ES インジケーター点灯時) PRIORITY:PRNSに設定	PRIORITY:SBに設定
SUR. DECODE PL Ⅱ x Movie PL Ⅱ x Music PL Ⅱ x Game	Movie/Game	Movie/Music/Game	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC
	Music				
SUR. DECODE Neo:6 Cinema Neo:6 Music	Cinema	Cinema/Music	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC
	Music				
SUR. DECODE CS Ⅱ Cinema CS Ⅱ Music	Cinema	Cinema/Music	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC	DD/DTS/AAC
	Music				
STRAIGHT PURE DIRECT	モノラル再生				

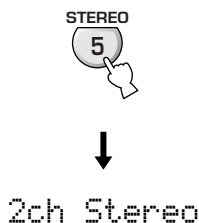
高音質で再生を楽しむ

ステレオ再生する（2チャンネルステレオ）

フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

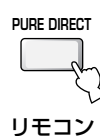
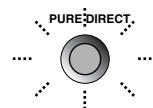
1　操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2　STEREOキーを繰り返し押して、「2ch Stereo」を選択する

↓

2ch Stereo

2チャンネルソースの場合：
フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合：
フロントL/Rチャンネル以外の音声をフロントL/Rチャンネルにミックスして、フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。
LFEチャンネルは、セットメニュー「スピーカーの設定」の「低音出力先」を、「フロントに出力」に設定した場合(58ページ)のみ、フロントL/Rスピーカーにミックスして出力されます。

原音に忠実な音質で再生する（ピュアダイレクトモード）

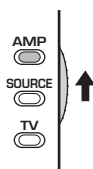
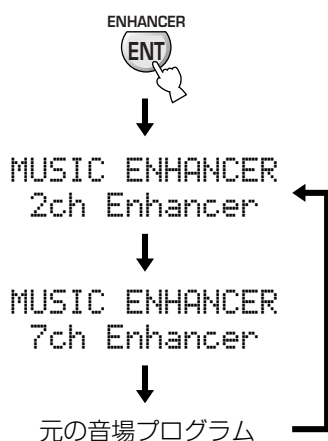
音声信号に与えるビデオ回路の影響をおさえ、原音に忠実な高品質音声で再生します。アナログ、2チャンネルPCM、ドルビーデジタル、DTS、マルチチャンネルPCM、AAC、DSD信号を最高の音質で楽しめます。
ドルビーデジタル、DTS、マルチチャンネルPCM、DSD信号を再生する場合、入力モード(37ページ)を「AUTO」または「HDMI」、「COAX/OPT」に設定すれば、本機は入力信号をデコードして再生します。
リモコンまたは本体のPURE DIRECTキーを押します。

ピュアダイレクトモードで再生している間は、本体のPURE DIRECTキーが青色で点灯します。

ピュアダイレクトモードをキャンセルするには、もう一度PURE DIRECTキーを押します。

ご注意

- ピュアダイレクトモードで再生中は、以下の操作ができません（「Not Available」と表示されます）。
  - 音場プログラムの切り替え
  - GUIの表示
  - セットメニューの設定
- ピュアダイレクトモードで再生中は、以下の設定が無効になります。
  - セットメニュー「パラメトリックEQ」の設定
  - フロントL/Rスピーカーの音質（トーンコントロール）設定
- ピュアダイレクトモードで再生中は、フロントパネルディスプレイの表示が消えます。入力切り替えや、音量調節などの操作をすると数秒間だけ点灯します。
- ピュアダイレクトモードで再生中は、REC OUT端子から映像信号およびNET/USB音声信号は出力されません。
- 本機をスタンバイにすると、ピュアダイレクトモードは解除されます。

圧縮オーディオをダイナミックに再生する（コンプレストミュージック・エンハンサーモード）

MP3やAACなどの圧縮オーディオフォーマットは、圧縮される際に高音域がカットされています。コンプレストミュージック・エンハンサーモードを設定すると、高音域を拡張するうえに、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生できます。

1 操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 ENHANCERキーを繰り返し押して、モードを選ぶ

選択項目：2ch Enhancer、7ch Enhancer
初期設定：2ch Enhancer

2ch Enhancer
FRONT L/Rスピーカーから、2チャンネルステレオモードで音を出力します。

7ch Enhancer
7つのスピーカーから、7チャンネルステレオモードで音を出力します。

コンプレストミュージック・エンハンサーモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのENHANCERインジケーターが点灯します。

ヒント

- フロントパネルのENHANCERキーでも操作できます。
- コンプレストミュージック・エンハンサーモードは、圧縮オーディオフォーマット以外のソースを再生するときにも効果的です。

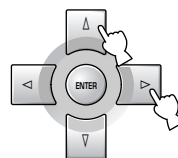
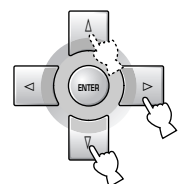
ご注意

コンプレストミュージック・エンハンサーモードは、音場プログラムと同時に使用できません。

効果レベルを設定する

1 操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 SET MENUキーを押して、セットメニュー画面を表示する

3 △キーを押して「サラウンド選択・設定」を選び、▷キーを押す

4 △/▽キーを押して、「ミュージックエンハンサー」を選び、▷キーを押す

5 △/▽キーを押して、「2chエンハンサー」または「7chエンハンサー」を選び、▷キーを押す

6 △/▽キーを押して効果レベルを選ぶ

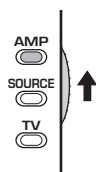
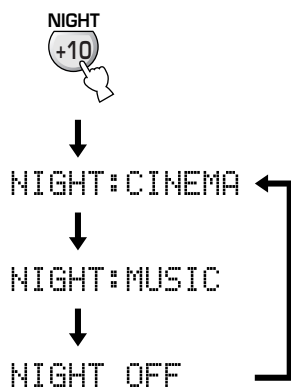
ヒント

再生するソースにより、高音域が強調されすぎる場合は、効果レベルを「効果小」に設定してください。

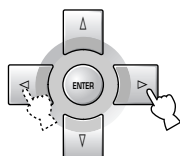
7 SET MENUキーを押して終了する

夜間に小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニングモード）

夜間に小音量で再生する場合でも、セリフなどを明瞭に再生します。
映画用のCINEMAモードと、音楽用のMUSICモードが用意されています。

1　操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2　NIGHTキーを繰り返し押して、モードを選ぶ

フロントパネルのNIGHTキーでも操作できます。

3　各モードが表示されている間に◁/▷キーを押す

ナイトリスニングモードの効果レベル(音を抑えるレベル)を選ぶことができます。お好みに合わせて切り替えてください。

Effect.Lvl:MIN（弱めに抑える）

Effect.Lvl:MID（ほどよく抑える）

↑↓

Effect.Lvl:MAX（強めに抑える）

ナイトリスニングモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。

ご注意

- ピュアダイレクトモード(25ページ)で再生しているときや、MULTI　CH　INPUT端子に接続した機器を再生しているとき、ヘッドホンを接続しているときは、ナイトリスニングモードで再生できません。
- 入力ソースにより、効果に違いが生じる場合があります。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

入力された信号を、音場効果をかけずにそのまま再生します。リモコンのSTRAIGHT/EFFECTキーを押すと、ストレートデコードモードで再生します。

↓

STRAIGHT

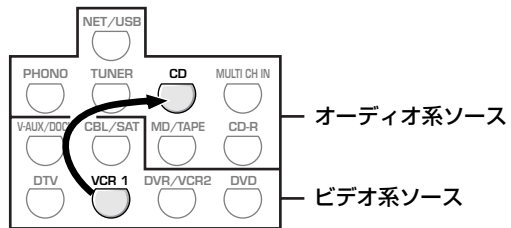
2チャンネルソースの場合：
フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

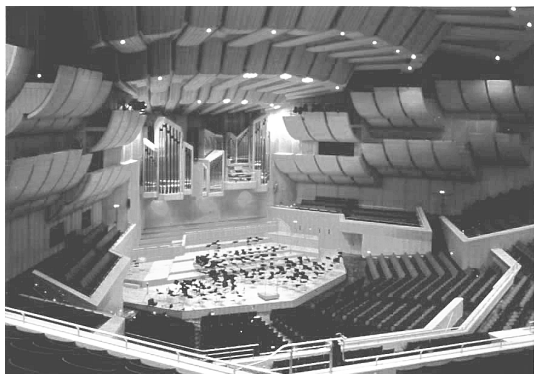
マルチチャンネルソースの場合：
入力信号により、適切なデコーダーでデコードしたあと、マルチチャンネル音声で再生します。

元の状態（音場効果をかけた状態）に戻るには、もう一度STRAIGHT/EFFECTキーを押します。

フロントパネルのSTRAIGHT/EFFECTキーでも操作できます。

音楽と映像で異なるソースを楽しむ（バックグラウンドビデオ機能）

バックグラウンドビデオ機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です(たとえばビデオを観ながら、クラシック音楽を楽しめます)。
ビデオ系ソースを選んでから、リモコンの入力選択キーでオーディオ系ソースを選びます。

セットメニュー「映像選択」(69ページ)で、MULTI CH INPUT端子からの入力音声と組み合わせて再生するビデオ系ソースを選べます。

音場とは？

「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。
コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」のほかに、床や壁・天井などに1回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類などによって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。
ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータを蓄積しています。
本機では、この音場測定の実測データを基に作成された、音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウス等の音場をリスニングルームにて再現することができます。

音場を構成する要素

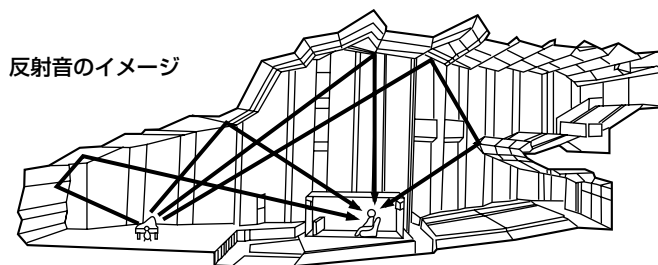
直接音

楽器やボーカルなどの音源からどこにも反射することなく、直接リスナーの耳に届く音です。

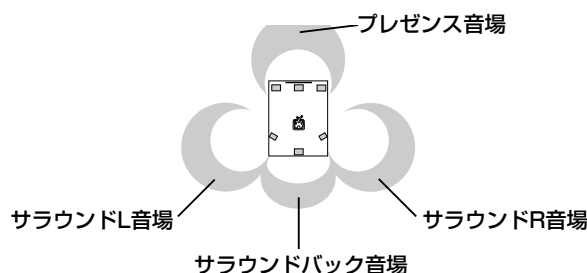
初期反射音

壁や天井などに1回反射してからリスナーの耳に到達する音です。初期反射音は直接音が発生してから50msから80msくらい後に耳に届きます。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音

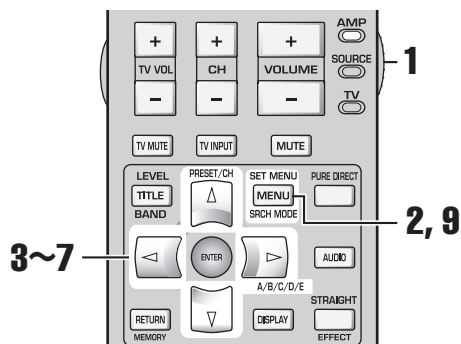
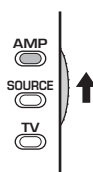
壁や天井、部屋の後部などに2回以上反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音がひとつになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができます。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現することで、音場を作り出します。
また、リスニングルームにおいて適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができます。つまりリスニングルームをコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂などさまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができるのです。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

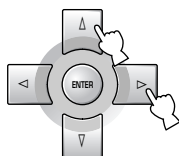
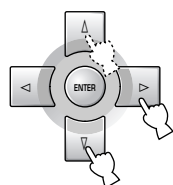
音場の種類

本機がつくりだす音場は大きくわけて以下の3つです。
プレゼンス音場：前方に広がる音です。
サラウンド音場：後方に広がる音です。
サラウンドバック音場：後方中央につくりだされる音場です。

音場パラメーターを変更する

各音場プログラムおよびSUR. DECODEモードのパラメーターは初期設定のままで十分お楽しみいただけますが、音場パラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場プログラムやSUR. DECODEモードをアレンジできます。

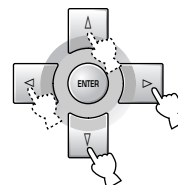
ご注意

- 操作を始める前に、本機および本機に接続したテレビの電源が入っていることを確認してください。
- セットメニュー「設定の保護」を「保護」に設定しているとパラメーターを変更できません。変更する前に、「可変」に設定してください(65ページ)。

1 操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 SET MENUキーを押して、セットメニュー画面を表示する

3 △キーを押して「サラウンド選択・設定」を選び、▷キーを押す

4 △/▽キーを押して音場プログラムまたは「サラウンドデコード」を選び、▷キーを押す

5 △/▽キーを押してサブプログラムを選 び、▷キーを押す

「サラウンドデコード」を選んだ場合は、「デコーダー選択」でパラメーターを変更するデコーダーを選び、◁キーを１度押してから手順6へ進みます。

6 △/▽キーを押して変更したいパラメーターを選び、▷キーを押す

7 △/▽/◁/▷キーを押して、設定値を変更する

8 他の音場プログラムまたはSUR. DECODEモードのパラメーターを変更する場合は、手順2～7を繰り返す

9 SET MENUキーを押して終了する

音場パラメーターを初期設定に戻す

セットメニュー「サラウンド初期化」で、音場プログラムごと、またはすべての音場プログラム、およびSUR. DECODEモードのパラメーターを初期設定に戻せます(64ページ)。
また、「サラウンド選択・設定－音場プログラム－サブプログラム－初期化」で、「する」を選択すると、サブプログラムごとに、すべてのパラメーターを初期設定に戻せます。

音場パラメーター一覧

項　目	内　容	参照ページ
エフェクト量の加減	エフェクトレベル(効果音)の微調節を行います。	32
ディレイ	音源と壁面との距離感を調節します。	32
音場空間の大きさ	広がり感を調節します。	32
響きの強さ	響き具合を調節します。	33
残響時間	余韻の長さを調節します。	33
残響音の遅れ	残響音の遅延時間を調節します。	33
残響音の強さ	余韻の強さを調節します。	34
サラウンド音場の遅れ	サラウンド音場の遅延時間を調節します。	34
サラウンド音場の広さ	サラウンド音場の広がり感を調節します。	34
サラウンド音場の響き	サラウンド音場の響き具合を調節します。	34
サラウンドバックの遅れ	サラウンドバック音場の遅延時間を調節します(6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効)。	34
サラウンドバックの広さ	サラウンドバック音場の広がり感を調節します(6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効)。	34
サラウンドバックの響き	サラウンドバック音場の響き具合を調節します(6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効)。	34
センター音量	7ch Stereo音場でのセンターチャンネルの出力レベルを調節します。	35
サラウンド左音量	7ch Stereo音場でのサラウンドLチャンネルの出力レベルを調節します。	35
サラウンド右音量	7ch Stereo音場でのサラウンドRチャンネルの出力レベルを調節します。	35
サラウンドバック音量	7ch Stereo音場でのサラウンドバックチャンネルの出力レベルを調節します。	35
プレゼンス左音量	7ch Stereo音場でのプレゼンスLチャンネルの出力レベルを調節します。	35
プレゼンス右音量	7ch Stereo音場でのプレゼンスRチャンネルの出力レベルを調節します。	35
デコーダー選択	2チャンネルソースをマルチチャンネル化して再生するときに、2チャンネルソースをデコードするデコーダーを選びます。	35
セリフの位置調整	会話など、中央に定位する音の位置を調節します(HiFi DSPおよび、CINEMA DSP音場プログラムで再生時のみ有効)。	35
パノラマ	ドルビープロロジックⅡxのフロント音場の広がり感を調節します(ドルビープロロジックⅡxデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	35
ディメンション	ドルビープロロジックⅡxのサラウンド音場のフロント側とリア側のレベル差を調節します(ドルビープロロジックⅡxデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	36
センターの広がり	ドルビープロロジックⅡxのセンター音声左右への広がり感を調節します(ドルビープロロジックⅡxデコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	36
センターイメージ	DTS Neo:6のフロント音場の広がり感を調節します(DTS Neo:6デコーダーのMusicモード再生時のみ有効)。	36
フォーカス	SRS CSⅡのフロント定位感を調節します(SRS CSⅡデコーダーのCinemaおよびMusicモード再生時のみ有効)。	36
トゥルーベース	SRS CSⅡの低音域出力レベルを調節します(SRS CSⅡデコーダーのCinemaおよびMusicモード再生時のみ有効)。	36
ダイレクト	2チャンネルアナログソースを、デコーダーをバイパスして出力します。	36
初期化	サブプログラムごとに、音場プログラムパラメーターの設定を初期設定に戻します。	36

音場パラメーターガイド

音場プログラムまたはSUR. DECODEモードごとにDSP処理の構造が違います。以下のパラメーターは、すべての音場プログラムおよびSUR. DECODEモードで設定できるわけではありません。

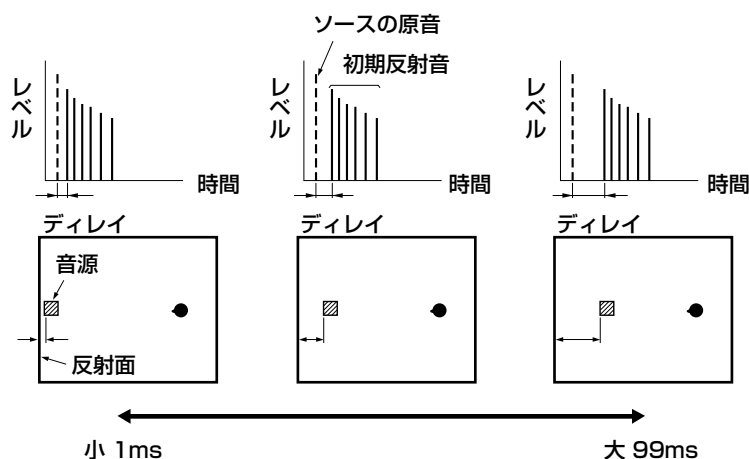
エフェクト量の加減

エフェクト音量(音場効果のかかり具合)を微調節するパラメーターです。

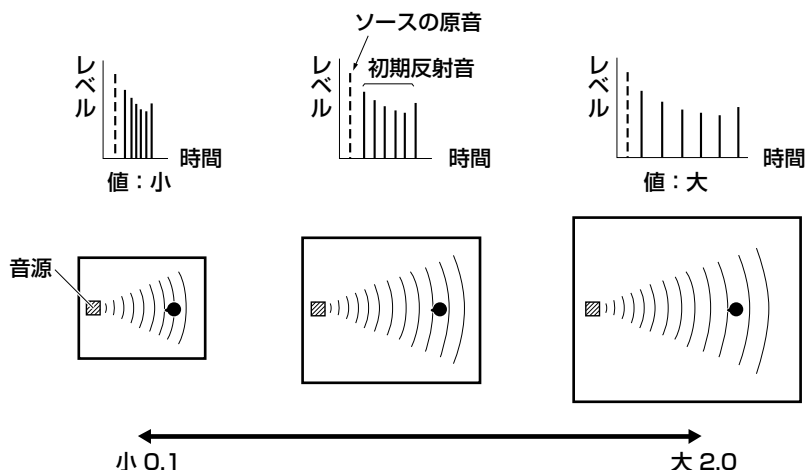
可変範囲：−6〜+3dB

ディレイ

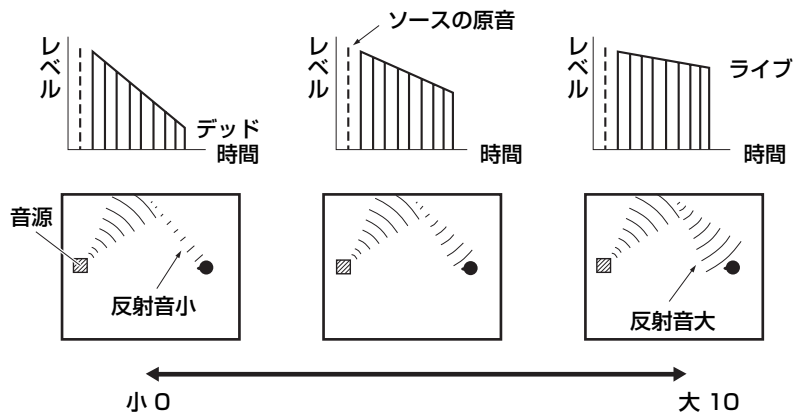
直接音から初期反射音が始まるまでの時間(遅延時間)を調節するパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。「ディレイ」を調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかたなどが調節できます。

可変範囲：1〜99ms

音場空間の大きさ

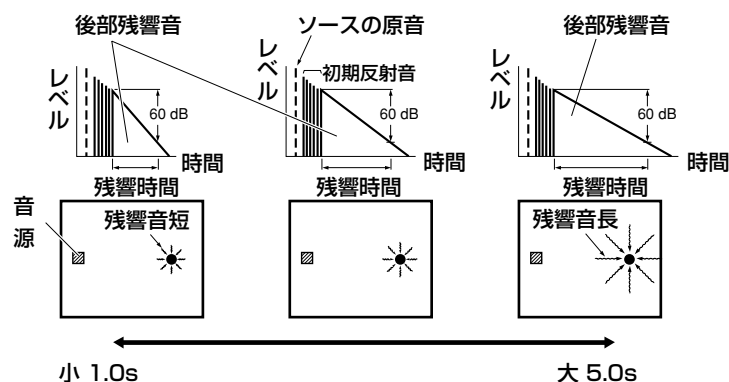
空間の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど広い空間(部屋)になり、値を小さくするほど狭い空間になります。壁と壁の間が広くあいている大きなホールほど、音が反射を繰り返す間隔が長くなります。したがって、反射音同士の時間間隔をコントロールすれば、広がり感を変えることができます。1.0で実測値そのままに、2.0にすると、1辺の長さが倍の空間になります。

可変範囲：0.1〜2.0

響きの強さ

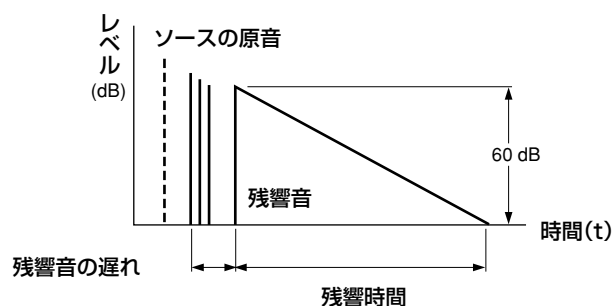
初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほどライブな(反響が多い)音場になり、値を小さくするほどデッドな(反響が少ない)音場になります。実際のホールでのライブ感/デッド感は反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

可変範囲：0〜10

残響時間

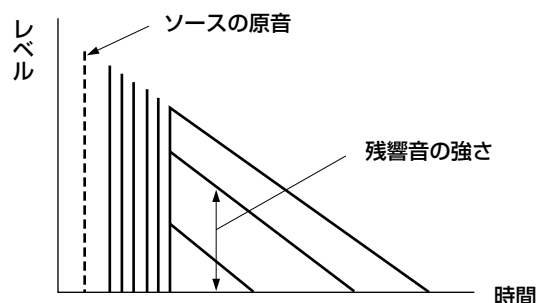
後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約1kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど残響音が早く減衰します。「残響時間」を調節することにより、反響が少なめのソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆に反響が多めのソースやリスニングルームには短い残響時間を設定して自然な残響音となるように調節したりすることができます。

可変範囲：1.0〜5.0s

残響音の遅れ

残響音が発生し始めるまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じ「残響時間」でも、「残響音の遅れ」を長くしていくと大きな空間の残響感になります。

可変範囲：0〜250ms

残響音の強さ

後部残響音のレベルを調節するパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。

可変範囲：0～100%

サラウンド音場の遅れ

直接音が出てからサラウンド音場が発生するまでの時間を調整するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。

可変範囲：1～49ms

サラウンド音場の広さ

サラウンド音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドの音場空間が広がります。

可変範囲：0.1～2.0

サラウンド音場の響き

サラウンド音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場の響きが強くなります。

可変範囲：0～10

サラウンドバックの遅れ

直接音が出てからサラウンドバック音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバック音場が遅れて発生します。

6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲：1～49ms

サラウンドバックの広さ

サラウンドバック音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバックの音場空間が広がります。

6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲：0.1～2.0

サラウンドバックの響き

サラウンドバック音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほどサラウンドバック音場の響きが強くなります。

6.1または7.1チャンネルで再生しているときのみ有効です。

可変範囲：0～10

センター音量

7ch Stereoプログラムでのセンターチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%
初期設定値：100%

サラウンド左音量

7ch StereoプログラムでのサラウンドLチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%
初期設定値：100%

サラウンド右音量

7ch StereoプログラムでのサラウンドRチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%
初期設定値：100%

サラウンドバック音量

7ch Stereoプログラムでのサラウンドバックチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%
初期設定値：35%

プレゼンス左音量

7ch StereoプログラムでのプレゼンスLチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%
初期設定値：33%

プレゼンス右音量

7ch StereoプログラムでのプレゼンスRチャンネルの音量を調節します。

可変範囲：0〜100%
初期設定値：33%

デコーダー選択

MOVIE、SUR. DECODEプログラムで再生するときに2チャンネルソースをマルチチャンネル化するためのデコーダーを選びます。

選択項目(MOVIE)：プロロジック、プロロジックⅡx、ネオ6
選択項目(SUR. DECODE)：プロロジック、PLⅡxムービー、PLⅡxミュージック、PLⅡxゲーム、ネオ6シネマ、ネオ6ミュージック、CSⅡシネマ、CSⅡミュージック

セリフの位置調整

会話など、中央に定位する音の定位位置(上下方向)を調節するパラメーターです。値を小さくすると音が下方に定位し、大きくすると上方に定位します。

可変範囲：0〜5　初期設定値：0

ご注意

プレゼンススピーカーを使用していない場合は、「セリフの位置調整」パラメーターを調節しても効果はありません。また、セットメニュー「PR/SBの優先」(58ページ)を「サラウンドバック」に設定して6.1または7.1チャンネルで再生しているときも、プレゼンス成分がフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されるため、「セリフの位置調整」パラメーターを調節しても効果はありません。

パノラマ

PLⅡx Musicプログラムでのフロントの広がり感を調節するパラメーターです。フロントL/Rの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

選択項目：オン、オフ　初期設定値：オフ

ディメンション

PLⅡx Musicプログラムでのフロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節してお好みのバランスにすることができます。－にするとサラウンド側、＋にするとフロント側が強くなります。

可変範囲：－3～標準～＋3　初期設定値：標準

センターの広がり

PLⅡx Musicプログラムでのセンター音声の左右への広がりを調節するパラメーターです。センターからの音声をお好みに合わせて左右に振り分けることができます。0にするとセンターのみ、7にするとフロントL/Rのみからセンター音声が出力されます。

可変範囲：0～7　初期設定値：3

センターイメージ

Neo:6 Musicプログラムでのフロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。

可変範囲：0.0～1.0　初期設定値：0.3

フォーカス

SRS CSⅡプログラムでのセリフの明瞭感を調節するパラメーターです。値を大きくするほどセリフがはっきりと聞こえるようになります。

可変範囲：0～8　初期設定値：0

トゥルーベース

SRS CSⅡプログラムでの低音域を調節するパラメーターです。値を大きくするほど低音域が強調され、サブウーファーがない場合でも効果的に低音を再生することができます。サブウーファーがある場合は、より重厚な低音を再生することができます。

可変範囲：0～8　初期設定値：0

ダイレクト

「自動判別」に設定すると、本機のデコーダーをバイパスして2チャンネルアナログソースが出力されます。ナイトリスニングモードがOFFの状態で、音色の調節（TONE CONTROL）のBASSおよびTREBLEが0dBに設定されている場合や、「自動測定メニュー」の「周波数補正」を、「測定を行わない」または「フロントに近似」で設定した場合（「スタートアップガイド」42ページ）、セットメニュー「パラメトリックEQ」（50ページ）で、すべてのチャンネルのゲインを0dBに設定している場合、「トーンコントロール」（51ページ）の「低音」と「高音」を0dBに設定している場合に有効になります。

選択項目：自動判別、オフ　初期設定値：自動判別

ご注意

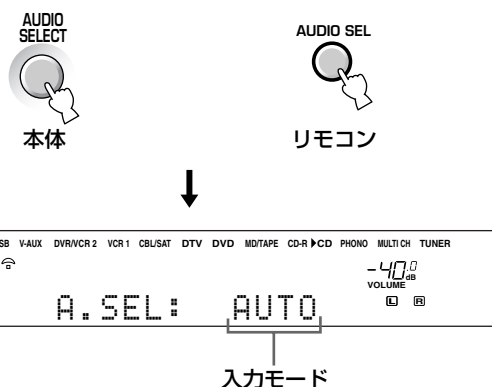
- ドルビーデジタル、DTSまたはAACのマルチチャンネル信号が入力されると2チャンネル（フロントL/Rスピーカー）に振り分けられます。
- 以下の場合はフロントL/Rスピーカーの低音はサブウーファーから出力されます。
  - セットメニュー「スピーカーの設定」の「低音出力先」が「フロントとサブウーファー」に設定されているとき。
  - セットメニュー「スピーカーの設定」の「フロント」が「小」に設定されていて、「低音出力先」が「サブウーファー」に設定されているとき。

初期化

変更した音場パラメーターを、サブプログラムごとに初期値に戻します。または、変更したSUR. DECODEモードの音場パラメーターを初期値に戻します。

入力信号を切り替える（入力モード切り替え）

本機は多彩な入力端子を装備しています。入力モードを切り替えることにより、入力信号を自動的に判別するように設定したり、HDMIなどの特定の信号に固定したりすることができます。

フロントパネルのAUDIO SELECTキー、またはリモコンのAUDIO SELキーを押すと、現在の入力モードが表示されます。入力モード表示中にもう一度押すと、入力モードが切り替わります。

AUTO

以下の順序で入力信号が選ばれます。

① HDMI信号

② 光/同軸デジタル信号

③ アナログ信号

HDMI

HDMI信号に固定されます。HDMI信号以外の信号が入力されても再生されません。

COAX/OPT

同軸デジタル端子や光デジタル端子から入力されたデジタル信号に固定されます。両方の信号が同時に入力された場合は、同軸デジタル端子に入力されたデジタル信号が優先されます。デジタル信号以外の信号が入力されても再生されません。

ANALOG

アナログ端子から入力されたアナログ信号に固定されます。アナログ信号以外の信号が入力されても再生されません。

ヒント

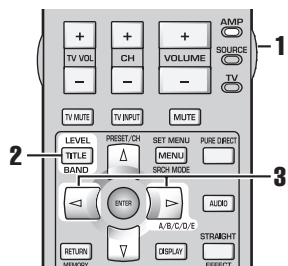
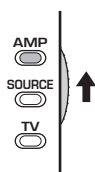
- セットメニュー「音声入力選択」(66ページ)で、入力モードを切り替えることもできます。
- セットメニュー「音声入力初期値」(64ページ)で、電源を入れたときに適用する入力モードを設定できます。
- デジタル入力信号をピュアダイレクトモードで楽しみたい場合は、「AUTO」または「HDMI」、「COAX/OPT」に設定してください。

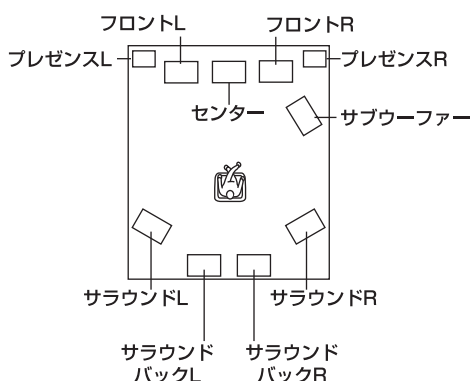
ご注意

- 各入力端子に外部機器が接続されていない場合、入力端子を指定しても音声は出力されません。
- セットメニュー「デコードモード」(67ページ)で、「DTS固定」または「AAC固定」を選択している場合、入力モードを「ANALOG」にしてもアナログ音声は本機から出力されません。
- 各端子に外部機器が割り当てられていない場合、その端子は選べません。

スピーカーの音量を調節する

再生しながら調節する

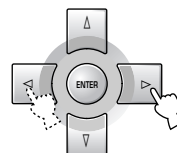
再生音を聴きながら、各スピーカーからの音量を調節します。

1　操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2　LEVELキーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ

FRONT L	フロントLスピーカー
CENTER	センタースピーカー
FRONT R	フロントRスピーカー
SUR.R	サラウンドRスピーカー
SB	サラウンドバックスピーカー
SB R	サラウンドバックRスピーカー
SB L	サラウンドバックLスピーカー
SUR.L	サラウンドLスピーカー
SWFR	サブウーファー
PRNS L	プレゼンスLスピーカー
PRNS R	プレゼンスRスピーカー

ヒント

- カーソル∆/∇キーでも操作できます。
- セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を「大１台」または「小１台」に設定した場合、「SB R」および「SB L」は表示されません。かわりに「SB」と表示され、1台のみの調節になります(58ページ)。

3　◁/▷キーを押して、スピーカーの音量を調節する

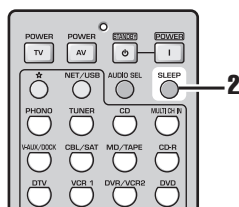
音量の調節範囲は、−10.0〜＋10.0dBです。

ご注意

- セットメニュー「スピーカーの設定」で、「無」に設定されているスピーカーの音量は調節できません(57ページ)。
- セットメニュー「スピーカーの設定」の「低音出力先」を、「フロントに出力」に設定している場合、サブウーファーの調節はできません(58ページ)。
- LEVELキーでスピーカーの音量を調節すると、セットメニュー「スピーカーの音量」(60ページ)で調節したスピーカーの音量も自動的に変更されます。

一定時間後に自動的に電源を切る（スリープタイマー）

設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイになるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面のACアウトレットに接続した機器の電源も切れます。

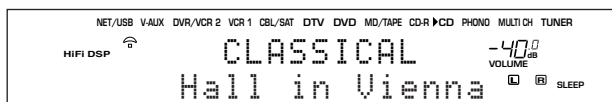
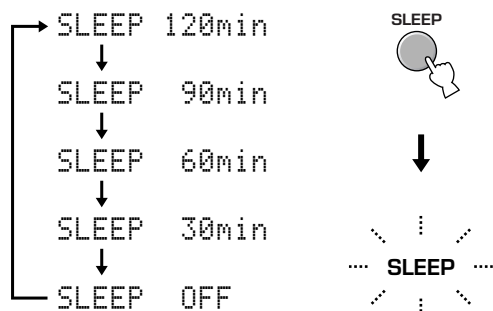
スリープタイマーを設定する

リモコンで操作します。

1 ***ソースを選んで、再生する***

2 ***SLEEPキーを繰り返し押して、スタンバイ状態になるまでの時間を選ぶ***

SLEEPキーを押すごとに、下記のように時間が切り替わります。その間はSLEEPインジケーターが点滅します。

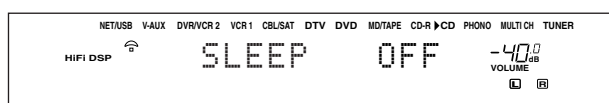
SLEEPインジケーターが点灯に変わると、スリープタイマーの時間設定が完了します。

NET/USB V-AUX DVR/VCR 2 VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R ▶CD PHONO MULTI CH TUNER
HiFi DSP CLASSICAL -40.0dB VOLUME
Hall in Vienna L R SLEEP

ヒント

- スリープタイマーが設定されているときに再度SLEEPキーを押すと、残り時間はリセットされ、スリープタイマーが再設定されます。
- タイマー再生したいときは、市販のタイマーを使います。本機では再生したい入力ソースを選び、音量を調節しておきます。再生機器やタイマーの取扱説明書もあわせてご参照ください。

スリープタイマーを解除する

「SLEEP OFF」の表示が出るまで、SLEEPキーを押します。SLEEPインジケーターが消灯し、「SLEEP OFF」と表示されます。数秒後に音場プログラムの表示に戻ります。

NET/USB V-AUX DVR/VCR 2 VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R ▶CD PHONO MULTI CH TUNER
HiFi DSP SLEEP OFF -40.0dB VOLUME
L R

ヒント

リモコンのSTANDBYキーを押したり、本体のSTANDBY/ONスイッチやMASTER ON/OFFスイッチを押したりしてOFFにする、または電源コードを抜いたりすると、スリープタイマーは解除されます。

保存されている各種設定をリモコンで呼び出す

本機のリモコンで、保存された音場プログラムやセットメニューの設定を簡単に呼び出せます。

ご注意

この機能は、セットメニュー「システム・メモリー」に保存された設定を呼び出すものです。あらかじめ「システム・メモリー」の「設定の保存」でお好みの音場プログラムやパラメーターを保存してください(70ページ)。

1 操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 リモコンのMEMORY 1またはMEMORY 2キーを押す

確認メッセージがフロントパネルディスプレイに表示されます。

MEMORY 1 キー

セットメニュー「システム・メモリー」の「メモリー1」に保存された各種設定を呼び出します。

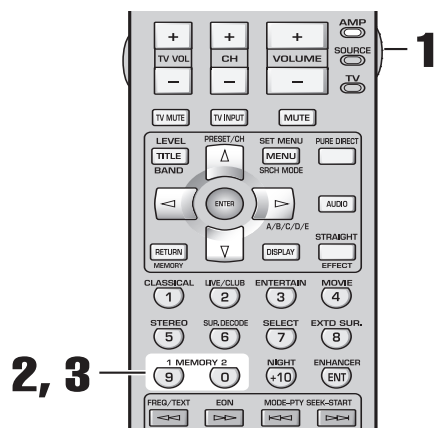
MEMORY 2 キー

セットメニュー「システム・メモリー」の「メモリー2」に保存された各種設定を呼び出します。

MEMORY1キーを押したとき

Press MEMORY1! -40.0 dB VOLUME

MEMORY2キーを押したとき

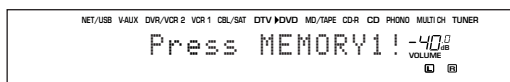
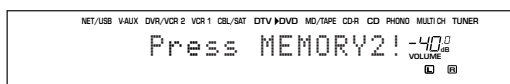
Press MEMORY2! -40.0 dB VOLUME

3 再度同じキーを押す

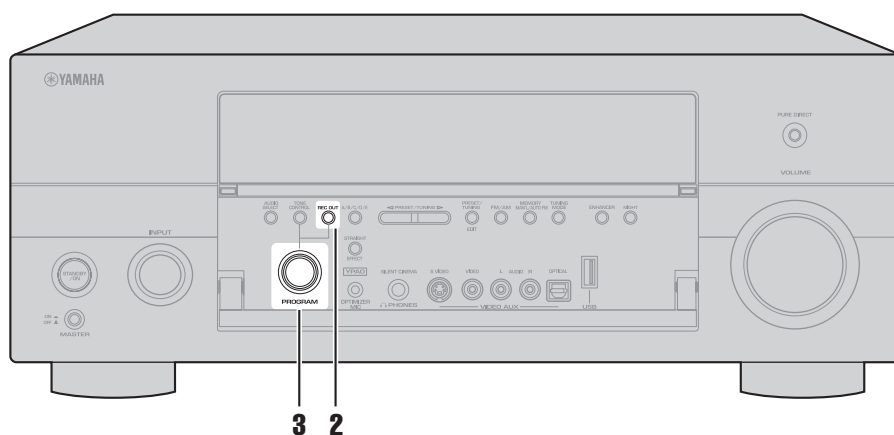
設定が呼び出されます。

MEMORY1キーを押したとき

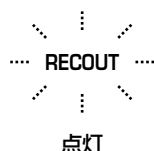
MEMORY 1 Load -40.0 dB VOLUME

MEMORY2キーを押したとき

MEMORY 2 Load -40.0 dB VOLUME

外部機器で録音/録画する

本機に接続した録音/録画機器で、音声や映像を録音/録画できます。

1 本機および本機に接続されている、すべての機器の電源を入れる

2 REC OUTキーを押す

RECOUTインジケーターが点灯します。

3 RECOUTインジケーター点灯中に、本体のPROGRAMセレクターで録音/録画したいソースを選ぶ

フロントパネルディスプレイに、録音/録画する入力名が表示されます。「SOURCE」を選べば、見ている（聴いている）ソースを録音/録画できます。

4 ソースを再生する

再生する機器の取扱説明書をご覧ください。
FM/AM放送を録音したいときは、放送局を選びます（「スタートアップガイド」51ページ）。

5 録音/録画を開始する

録音/録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- 録音/録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」をしてください。
- 録音されるレベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

ご注意

- 本機をスタンバイにすると、接続した機器間で録音/録画できません。
- 入力ソースのOUT(REC)端子からは、信号は出力されません（例：VCR 1 IN端子に入力された信号は、VCR 1 OUT端子から出力されません）。
- 本機のDSP処理による音場効果は録音できません。
- 録音中に、音量や音質を調節したり、音場プログラムを変更したりしても、録音される音声には影響しません。
- MULTI CH INPUT端子またはHDMI IN端子に入力された信号は録音できません。
- アナログ音声出力端子からアナログで録音する場合は、録音したい入力ソースをアナログで接続します。また、光デジタル出力端子から、デジタルで録音する場合は、録音したい入力ソースをデジタルで接続します。
- Sビデオ入力端子に入力されたSビデオ信号は、Sビデオ出力端子からのみ録画できます。同様に、ビデオ入力端子に入力されたビデオ信号は、ビデオ出力端子からのみ録画できます。ビデオコンバージョン機能は作動しません。

DTS LD/DTS CD音声の録音/再生について

DTS信号は、デジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタルで録音したものをデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。

- DTS LDを再生する場合は、RFデモジュレーターが必要です。
- DTS LD/DTS CDを再生する場合は、セットメニュー「デコードモード」を「DTS固定」に設定してください（67ページ）。
- DTS CDの音声を録音する場合は、DTSデコーダー内蔵のDVDプレーヤーからアナログで録音することをおすすめします。詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

FM/AM放送局を登録する

FM/AM放送局を登録しておくと、あとで選局するときに便利です。基本的な操作について詳しくは、「スタートアップガイド」51ページをご参照ください。

FM放送局を自動登録する（オートプリセット）

FM放送局を自動的に40局（8局×5グループA1からE8）まで登録（プリセット）できます。放送局を登録しておくと、あとは簡単なキー操作で選局することができ、便利です。

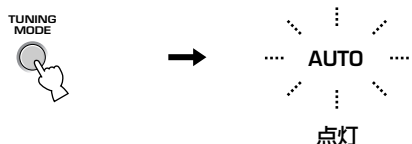
ヒント

- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モードも同時に登録されます。
- FM局の登録を始めるプリセット番号を指定したり、周波数の高い方から低い方へ向けて、自動登録を始めたりすることもできます（下記参照）。
- 登録されたFM放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます（45ページ）。
- オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が40（A1〜E8）に満たない場合には全周波数帯域を一巡して停止します。

ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱いFM放送局を登録したいときは受信モードをモノラルにして手動で登録してください（43ページ）。

1 FM/AMキーを押して、FMを選ぶ

2 TUNING MODEキーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる

3 MEMORY（MAN' L/AUTO FM）キーを約3秒押し続ける

プリセット番号とMEMORYインジケーター、AUTOインジケーターが点滅します。 数秒後に、周波数の低い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

C8:FM 87.5 MHz

登録を始めるプリセット番号を指定する場合

左に記載の「FM放送局を自動登録する（オートプリセット）」の手順3でMEMORY（MAN' L/AUTO FM）キーを約3秒間押したあと、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING⊲/⊳キーを使って、最初に登録するプリセット番号を選びます。

数秒後に、選んだプリセット番号から登録を始めます。

放送局がE8まで登録されると、オートプリセットが停止します。

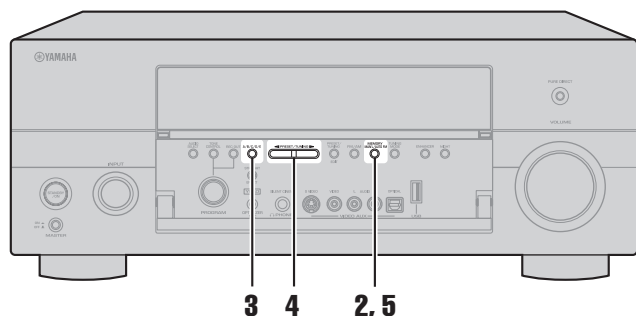
周波数の高い方から低い方に向けて登録する場合

左に記載の「FM放送局を自動登録する（オートプリセット）」の手順3でMEMORY（MAN' L/AUTO FM）キーを約3秒間押したあと、PRESET/TUNING（EDIT）キーでコロン（：）を消してから、PRESET/TUNING⊲キーを押します。

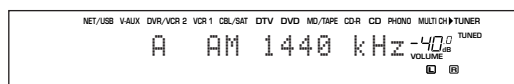
周波数の高い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。

手動で登録する（マニュアルプリセット）

放送局を最大40局まで、手動で登録することもできます。

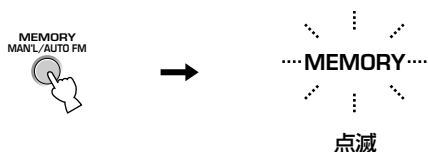
ヒント

AM放送局はマニュアルで登録してください。

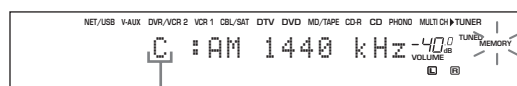
1 プリセットしたい放送局を選局する

詳しくは「スタートアップガイド」51ページをご覧ください。

フロントパネルディスプレイに、受信している局の周波数と放送バンド（「FM」または「AM」）が表示されます。

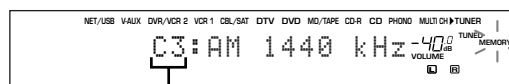
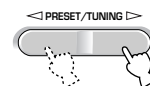
2 MEMORY(MAN'L/AUTO FM)キーを押す

放送局が登録できる状態になります。ディスプレイのMEMORYインジケーターが約5秒間点滅します。

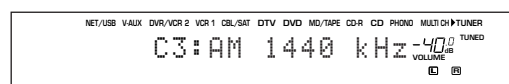
点滅

3 MEMORYインジケーターの点滅中にA/B/C/D/Eキーを押して、プリセットグループ（A～E）を選ぶ

グループが表示されます。放送バンド表示の隣にコロン（:）が点灯していることを確認してください。

プリセットグループ

4 MEMORYインジケーターの点滅中にPRESET/TUNING◁/▷キーを押して、プリセット番号（1～8）を選ぶ

▷キーを押すと数が大きくなり、◁キーを押すと小さくなります。

プリセット番号

5 MEMORYインジケーターの点滅中に、MEMORY(MAN'L/AUTO FM)キーを押す

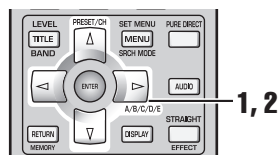
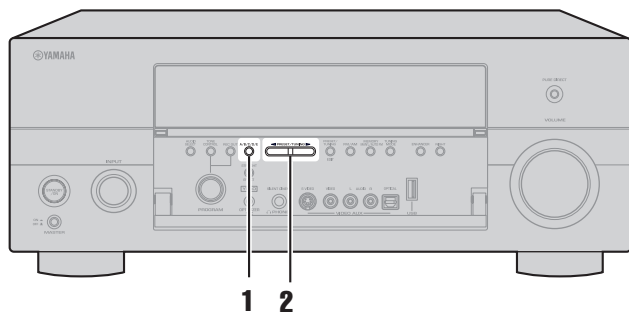
選択したプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド（「FM」または「AM」）、周波数がディスプレイに表示されます。

C3に登録された局を示しています。

6 他の放送局を続けて登録するときは、手順1～5を繰り返す

ご注意

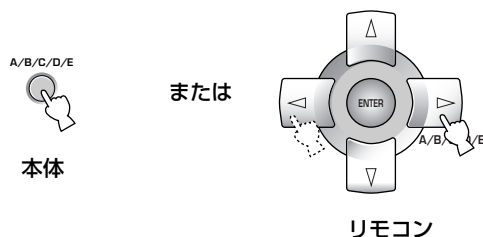
- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ/モノラル）も同時に登録されます。

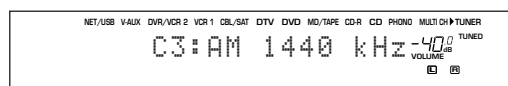
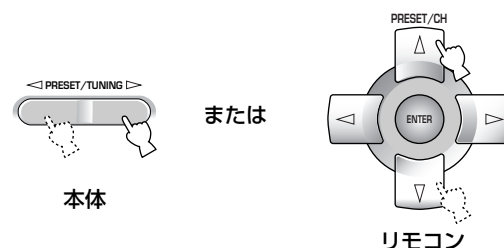
登録した放送局を選んで聴く(プリセット選局)

プリセット番号を選ぶだけで、登録した放送局を選局できます。

ご注意

リモコンで操作する場合は、操作機器選択スイッチをSOURCEに設定し、TUNERキーを押して、リモコンの機能をチューナー操作用に切り替えてから操作してください。

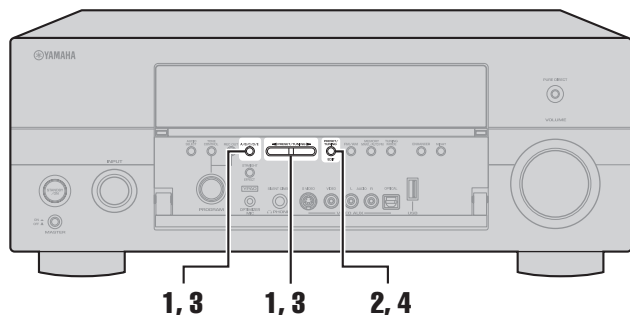
1 本体のA/B/C/D/Eキー(またはリモコンのA/B/C/D/E◁/▷キー)を何回か押して、放送局をプリセットしたグループを選ぶ

フロントパネルディスプレイに表示されるプリセットグループはA/B/C/D/E(A/B/C/D/E◁/▷)キーを押すたびに切り替わります。

2 本体のPRESET/TUNING◁/▷キー(またはリモコンのPRESET/CH△/▽キー)を押して、プリセット番号を選ぶ

プリセットグループとプリセット番号が、放送バンド(「FM」または「AM」)と周波数とともにディスプレイに表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。

ヒント

- プリセット番号は、プリセット番号キー(1〜8)でも選べます。
- 自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局については、「スタートアップガイド」51ページをご覧ください。

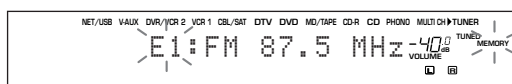
登録した放送局を入れ替える

登録した放送局を入れ替えることもできます。
ここでは「E1」に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

1 「E1」に登録した放送局を、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING◁/▷キーを使って選局する

詳しくは、「登録した局を選んで聴く（プリセット選局）」をご覧ください(44ページ)。

2 PRESET/TUNING(EDIT)キーを約3秒間押す

フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターと「E1」が点滅します。

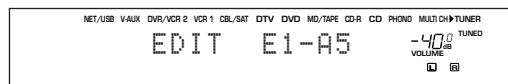
NET/USB V-AUX DVR/VCR 2 VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R CD PHONO MULTI CH TUNER
E1:FM 87.5 MHz -40.0 dB VOLUME TUNED MEMORY

3 「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING◁/▷キーを使って選局する

フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターと「A5」が点滅します。

NET/USB V-AUX DVR/VCR 2 VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R CD PHONO MULTI CH TUNER
A5:FM 77.0 MHz -40.0 dB VOLUME TUNED MEMORY

4 PRESET/TUNING(EDIT)キーを押す

プリセット局が入れ替わります。

NET/USB V-AUX DVR/VCR 2 VCR 1 CBL/SAT DTV DVD MD/TAPE CD-R CD PHONO MULTI CH TUNER
EDIT E1-A5 -40.0 dB VOLUME TUNED

プリセットした局の入れ替えが完了したことを示しています。

セットメニュー一覧

本機ではお使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、下記のセットメニューで設定を変更できます。お使いの環境に合わせて設定を変更してください。

サラウンド選択・設定

各音場プログラムやSUR. DECODEモードのパラメーターを調整します。（30ページ）

入力選択・設定

入出力端子の割り当て変更や、表示される入力機器名の変更など、信号の入出力に関して以下のメニューを設定/変更できます。以下の7つのメニューがあります。

項目	内容	参照ページ
端子の割り当て	使用する機器が本機の入出力端子の機器名と異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てます。	66
音声入力選択	音声入力端子の種類を選択します。	66
デコードモード	アナログ／デジタル信号の入力モードを切り替えます。	67
再生レベル補正	選んでいる入力の再生レベルを補正します。	67
入力名変更	各入力名を変更します。	68
入力端子設定	MULTI CH INPUT端子に入力された信号を設定します。	68
映像選択	MULTI CH INPUT端子に入力された音声信号に組み合わせる映像入力ソースを設定します。	69

マニュアル設定：音の設定

音質や音色の調整など、音声の出力に関して以下のメニューを設定/変更できます。以下の6つのメニューがあります。

項目	内容	参照ページ
LFEレベル	ドルビーデジタル、DTSおよびAACでのLFE信号の再生レベルを調節します。	49
ダイナミックレンジ	ドルビーデジタル、DTSおよびAAC再生時のダイナミックレンジを調節します。	49
パラメトリックEQ	パラメトリックイコライザーを使って、各スピーカーの音色を調節します。	50
トーンコントロール	スピーカーまたはヘッドホンの低音域と高音域を調節します。	51
その他の音声設定	音声と映像のずれ補正や、AACモノラル音声を設定します。	51
チャンネルミュート	チャンネルごとに音声をミュートします。	52

マニュアル設定：映像の設定

映像の出力に関して以下のメニューを設定/変更できます。以下の8つのメニューがあります。

項目	内容	参照ページ
ビデオコンバージョン	映像信号を、違う種類の映像信号に変換するかしないかを設定します。	54
コンポーネントI/P	インターレース信号をプログレッシブ信号へ変換するかしないかを設定します。	54
HDMI解像度	HDMI端子から出力する映像信号の解像度変換を設定します。	55
HDMIアスペクト	HDMI映像信号を画面に映し出すときに、縦横の比率を設定します。	55
ショートメッセージ	GUI画面下部に表示されるメッセージについて設定します。	56
オンスクリーン表示	iPodやUSBデバイス、ネットワークオーディオ操作時のメニュー画面表示時間を設定します。	56
表示位置の調整	GUI画面の表示位置を調節します。	56
壁紙の設定	壁紙の種類を設定します。	56

マニュアル設定:基本設定

お使いのスピーカーシステムに合わせ、以下のメニューを設定/変更できます。以下の4つのメニューがあります。

項目	内容	参照ページ
テストトーン	基本設定を行うときに、テストトーンを使うか使わないかを設定します。	57
スピーカーの設定	ご使用になるスピーカーに合わせて、サイズや有無などを設定します。	57
スピーカーの距離	各スピーカーからリスニングポジションまでの距離に合わせて、音の到達するタイミングを設定します。	59
スピーカーの音量	各スピーカーからの出力レベルを設定します。	60

マニュアル設定:ネットワーク/USB設定

IPアドレスの設定や再生スタイルの変更など、ネットワーク接続や再生方法に関して以下のメニューを設定/変更できます。以下の3つのメニューがあります。

項目	内容	参照ページ
ネットワーク設定	本機のIPアドレスやサブネットマスクなど、ネットワーク接続に関するメニューを設定します。	61
プレイスタイル	パソコンやUSBデバイスを楽しむ際のリピート/シャッフル再生を設定します。	62
ネットワーク情報	マックアドレスなどの情報を表示します。	62

マニュアル設定:その他の設定

その他様々な機能に関して以下のメニューを設定/変更できます。以下の7つのメニューがあります。

項目	内容	参照ページ
本体表示器の設定	フロントパネルディスプレイ表示の明るさを調節します。	63
iPod	iPodの充電モードを設定します。	63
サラウンド初期化	音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。	64
音声入力初期値	電源を入れたときに適用する音声入力端子を設定します。	64
デコードモード初期値	電源を入れたときに適用するデコードモードを設定します。	65
設定の保護	誤操作によって設定値が変更されないように保護します。	65
HDMI設定	HDMI入力信号を本機で再生するか、他の機器に伝送するかを設定します。	65

自動測定メニュー

YPAO(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)により、最適な視聴空間を自動的に設定します(「スタートアップガイド」40ページ)。

システム・メモリー

お好みに合わせて設定した音場プログラムやパラメーターなどの設定を呼び出したり記憶させたりします(70ページ)。

信号の情報

入力されている音声信号および映像信号の情報を表示します(71ページ)。

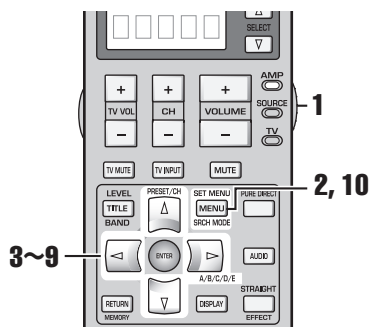
表示言語

GUIに表示する言語を選択します(73ページ)。

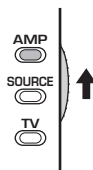
セットメニューの表示と操作方法

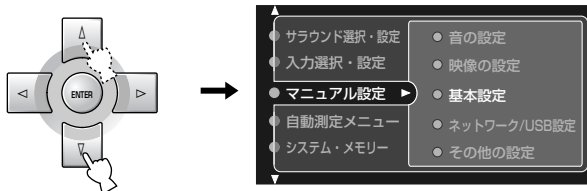
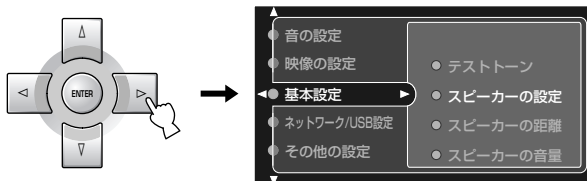
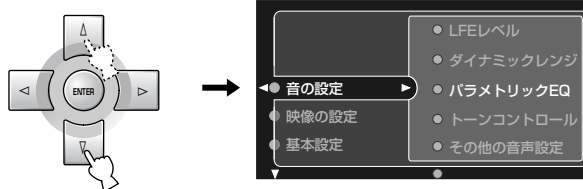
セットメニューの設定操作について説明します。セットメニューの各項目の詳細については49～73ページをご覧ください。

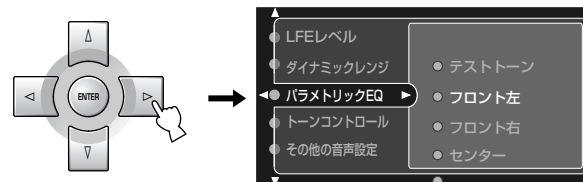
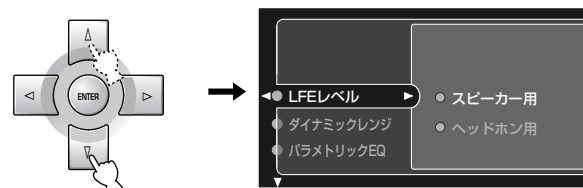
ご注意

操作を始める前に、本機および本機に接続したテレビの電源が入っていることを確認してください。

ヒント

セットメニュー操作中に1つ前のメニュー表示に戻りたい場合は、リモコンの◁キーを押します。

1 操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選ぶ

2 SET MENUキーを押して、セットメニュー画面を表示する

3 △/▽キーを押して、設定したいメニューを選ぶ

4 ▷キーを押す

5 △/▽ キーを繰り返し押して、設定したいメニューがあるカテゴリーを選ぶ

6 ▷キーを押す

選んだカテゴリー内のメニューが表示されます。

7 △/▽ キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ

8 ▷キーを押す

選んだメニューの設定画面が表示されます。

項目によっては、△/ ▽/◁/▷またはENTERキーを押してサブメニューを選びます。

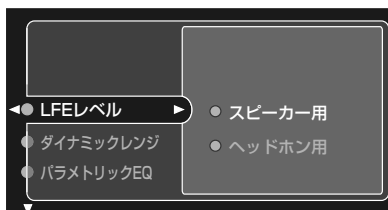
9 △/▽/◁/▷キーを押して、設定を変更する

10 セットメニューを終了するときは、SET MENUキーを押す

音声出力の設定を変更するーマニュアル設定(音の設定)

音質や音色の調整など、音声の出力に関する設定を行います。操作方法について詳しくは、「セットメニューの表示と操作方法」(48ページ)をご参照ください。

LFEレベル

ドルビーデジタル、DTS、およびAAC信号に含まれる、LFE(低域効果音)の音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に調節できます。
(「マニュアル設定」→「音の設定」→「LFEレベル」)

スピーカー用
スピーカーで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲：−20.0dB〜0.0dB
初期設定値：0.0dB

ヘッドホン用
ヘッドホンで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

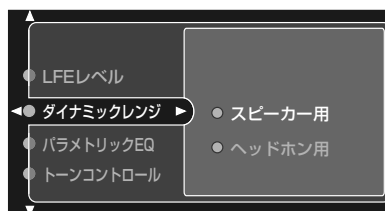
可変範囲：−20.0dB〜0.0dB
初期設定値：0.0dB

ご注意
お使いになるサブウーファーやヘッドホンの性能に応じて音量を調節してください。

LFE(低域効果音)とは？

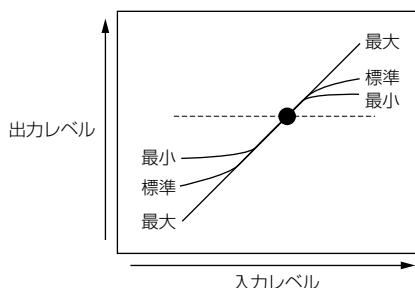
映画の爆発シーンなど、意図されたシーンでのみ出力される、重低音による効果音です。

ダイナミックレンジ

ドルビーデジタル、DTS、およびAAC再生時のダイナミックレンジを、3段階から選びます。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に選べます。
(「マニュアル設定」→「音の設定」→「ダイナミックレンジ」)

スピーカー用
スピーカーで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

選択項目：最大、標準、最小
初期設定値：最大

ヘッドホン用
ヘッドホンで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

選択項目：最大、標準、最小
初期設定値：最大

最大
入力された信号をリニアに再生するダイナミックレンジです。

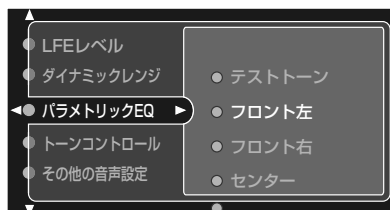
標準
一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

最小
小音量でも聴きやすく、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

ダイナミックレンジとは？

再生するソースに含まれる、最小音量から最大音量までの幅を表わします。ダイナミックレンジを圧縮して音量幅を小さくすると、小音量域成分は引き上げられ、大音量域成分は引き下げられます。これにより、小音量域成分は聞き取りやすく、大音量域成分は音量を抑えて再生されます。

パラメトリックEQ

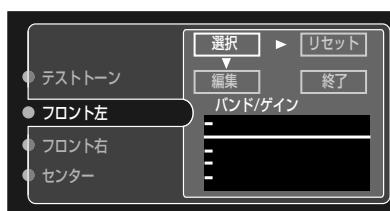
パラメトリックイコライザーを使用して、それぞれのスピーカーの音色を合わせます。
(「マニュアル設定」→「音の設定」→「パラメトリックEQ」)

1 △/▽キーを押して、テストトーン、または調節したいスピーカーを選ぶ

テストトーン
テストトーンを出力する、しないを選択します。

選択項目:出力しない、出力する
初期設定値:出力しない

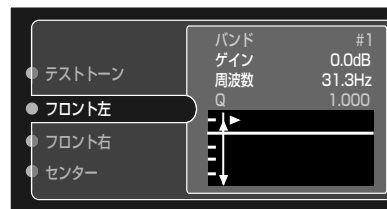
フロント左
フロントLスピーカーの音色を調節します。
フロント右
フロントRスピーカーの音色を調節します。
センター
センタースピーカーの音色を調節します。
サラウンド左
サラウンドLスピーカーの音色を調節します。
サラウンド右
サラウンドRスピーカーの音色を調節します。
サラウンドバック左
サラウンドバックLスピーカーの音色を調節します。
サラウンドバック右
サラウンドバックRスピーカーの音色を調節します。
プレゼンス左
プレゼンスLスピーカーの音色を調節します。
プレゼンス右
プレゼンスRスピーカーの音色を調節します。
サブウーファー
サブウーファーの音色を調節します。

ヒント
サラウンドバックスピーカーを1台のみ使っている場合、パラメトリックイコライザーは「サラウンドバック左」で調節してください。

2 ▷キーを押す

3 △/▽/◁/▷キーを押して、「選択」を選び、ENTERキーを繰り返し押して、調整したい項目を選択する

バンド
あらかじめ7つの中心周波数(#1~#7)を設定してあります(サブウーファーは#1、#2のみ)。希望する中心周波数を選んでゲインを調整します。この機能で周波数を選んだ場合、「周波数」の項目は調節できません。
ゲイン
レベルの強さを表します。0.5dBごとに、−20.0dBから+6.0dBの間で調節できます。
周波数
可変したい中心周波数を31.3Hzから16.0kHzの間で選びます(サブウーファーは31.3Hzから250Hz)。31.3Hzから157.5Hzの周波数は、#1および#2のバンドでのみ選べます。周波数の調整時には、「バンド」の項目は調節できません。
Q
指定された周波数帯域の帯域幅です。0.500から10.080の間で調節できます。

ヒント
「バンド」を選択すると、グラフィックイコライザーとして使用することができます。

4 ▽キーを押して、「編集」を選び、ENTERキーを押す

選択された項目がハイライトされます。
- ◁/▷キーで、調整するバンド、周波数帯、Qを選びます。
- △/▽キーで、選んだ周波数帯のゲインを調整します。
- ENTERキーを押すと「編集」画面から抜けます

5 手順3、4を繰り返して、他の項目を調整する

ヒント
選択したスピーカーのパラメーター設定を初期化するには、「リセット」を選択し、ENTERキーを押します。

6 △/▽/◁/▷キーを押して、「終了」を選び、ENTERキーを押す

テストトーン、スピーカー選択画面に戻ります。

トーンコントロール

スピーカーまたはヘッドホンから出力される音声の低音域と高音域を調節します。

（「マニュアル設定」→「音の設定」→「トーンコントロール」）

効果

スピーカーから出力される音声を調節するか、ヘッドホンから出力される音声を調節するかを選びます。

選択項目：スピーカー用、ヘッドホン用

低音

低音域の音色を調節します。ターンオーバー周波数（変化が始まる周波数）は、125Hz、350Hz、500Hzのいずれかを選べます。

可変範囲：−6.0dB〜+6.0dB
初期設定値：0.0dB

高音

高音域の音色を調節します。ターンオーバー周波数（変化が始まる周波数）は、2.5kHz、3.5kHz、8.0kHzのいずれかを選べます。

可変範囲：−6.0dB〜+6.0dB
初期設定値：0.0dB

バイパス設定

トーンコントロールでの調節値を適用するか、適用しないかを設定します。

選択項目：自動、オフ
初期設定値：自動

自動

トーンコントロールが0.0dBに設定されているときに、入力信号や動作モードを判定し、自動的にトーンコントロール回路をバイパスします。

オフ

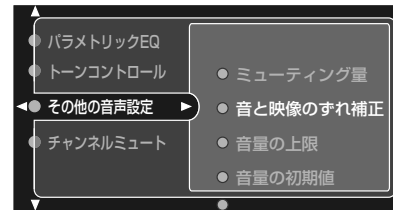
トーンコントロールの設定値や動作モードに関係なく、入力信号は常にトーンコントロール回路を通ります。

ご注意

ピュアダイレクトモード（25ページ）で再生しているときや、MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているときは、トーンコントロールで音色を調節できません。

その他の音声設定

音声と映像のずれを補正したり、AACモノラル音声の出力を設定したりします。

（「マニュアル設定」→「音の設定」→「その他の音声設定」）

ミューティング量

ミュート（消音）時に下げる音量を調節します。

選択項目：フルミュート、−20dB
初期設定値：フルミュート

フルミュート

完全に消音し、無音にします。

−20dB

いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生します。

音と映像のずれ補正

液晶テレビやHD対応テレビなどでデジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。
音を遅らせる時間を設定します。

可変範囲：0〜240ms
初期設定値：0ms

音量の上限

音量が間違って上がり過ぎないように、音量の最大値を設定します。初期設定値（+16.5dB）では、最大音量まで出力します。音量の最大値を制限しない場合は、「+16.5dB」に設定してください。

選択項目：+16.5dB/+15.0dB/+10.0dB/+5.0dB/0dB/−5.0dB/−10.0dB/−15.0dB/−20.0dB/−25.0dB/−30.0dB
初期設定値：+16.5dB

音量の初期値

電源をオンにしたときの音量を設定します。「オフ」に設定すると、前回本機の電源をオフにしたときの音量で再生します。

選択項目：オフ、−80.0dB〜+16.5dB
初期設定値：オフ

多重モノラル音声

BS/地上波デジタル放送などで使われているAACモノラル二重音声入力時に、どの音声を出力するか設定します。

選択項目：主+副、主音声、副音声
初期設定値：主音声

主+副

主音声と副音声をフロントL/Rスピーカーからそれぞれ同時に出力します。PCM信号が入力されている場合のフロントL/Rチャンネルへの音声の振り分けは、BSデジタルチューナーの設定によって異なります。詳しくはBSデジタルチューナーの取扱説明書をご参照ください。

主音声

主音声のみをフロントL/Rスピーカーから出力します。

副音声

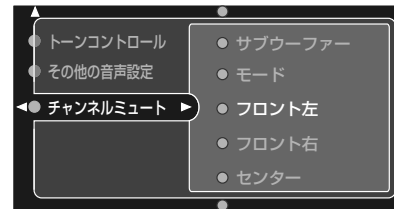
副音声のみをフロントL/Rスピーカーから出力します。

ご注意

- モノラルでない二重音声出力は、本機では設定できません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- AAC、ドルビーデジタル信号の二重音声（デュアルモノ）信号およびAACの音声多重（マルチモノ）信号受信時のみ、設定が有効になります。ただし、AAC多重音声の第3、第4チャンネルは選べません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- 地上波放送などのアナログやPCM信号での二重音声は、チューナーやビデオデッキ側で主音声/副音声を選んでください。

チャンネルミュート

チャンネルを指定して、音声をミュート（消音）します。ミュートされていないチャンネルから出力されている音声を確認することができます。

（「マニュアル設定」→「音の設定」→「チャンネルミュート」）

モード

選択項目：オフ、オン
初期設定値：オフ

オフ

各チャンネルの設定にかかわらず、ミュートしません。

オン

「ミュート」に設定したチャンネルの音声をミュートします。

フロント左

フロント左チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュート、オフ
初期設定値：オフ

フロント右

フロント右チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュート、オフ
初期設定値：オフ

センター

センターチャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュート、オフ
初期設定値：オフ

サラウンド左

サラウンド左チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュート、オフ
初期設定値：オフ

サラウンド右

サラウンド右チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュート、オフ
初期設定値：オフ

サラウンドバック左

サラウンドバック左チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュート、オフ
初期設定値：オフ

サラウンドバック右

サラウンドバック右チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュート、オフ
初期設定値：オフ

プレゼンス左

プレゼンス左チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュート、オフ
初期設定値：オフ

プレゼンス右

プレゼンス右チャンネルの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュート、オフ
初期設定値：オフ

サブウーファー

サブウーファーの音声をミュートするかしないかを設定します。

選択項目：ミュート、オフ
初期設定値：オフ

映像出力の設定を変更するーマニュアル設定(映像の設定)

映像出力や表示に関する設定を行います。操作方法について詳しくは、「セットメニューの表示と操作方法」(48ページ)をご参照ください。

ビデオコンバージョン

入力された映像信号を出力するときに、信号を他の種類の信号に変換するか、変更しないかを設定します。

(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「ビデオコンバージョン」)

選択項目:しない、する
初期設定値:する

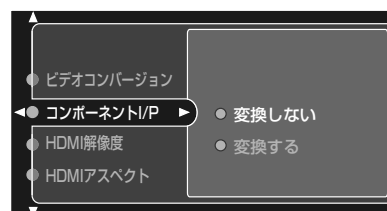
しない
変換しません。

する
変換します。

ご注意
- 本機とテレビをコンポーネント接続せずに480p信号をコンポーネント入力した場合、GUI画面は表示されません。
- ゲーム機からの信号などの特殊な信号が入力された場合、「する」に設定しても、入力信号が変換されない場合があります。
- 「しない」に設定した場合でも、セットメニューを表示させるときは、各信号が上位変換されて出力されます。
- 特殊な信号を出力する機器と接続した場合、映像が正しく出力されない場合があります。このような場合は、「しない」に設定してください。

コンポーネントI/P

コンポジット端子、Sビデオ端子、コンポーネント端子から入力されたアナログ映像入力信号をコンポーネント端子から出力するときに、480i信号を480p信号に変換するか変換しないかを設定します。

(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「コンポーネントI/P」)

選択項目:変換しない、変換する
初期設定値:変換しない

「ビデオコンバージョン」が「する」のときに設定することができます。

ご注意

480p信号に対応していないテレビをコンポーネント接続のみしている場合は、「変換する」に設定しないでください。セットメニューが表示されなくなります。あやまって「変換する」に設定してしまい、セットメニューが表示されなくなった場合は、アドバンストセットアップメニュー「VIDEO RESET」(75ページ)で、設定を工場出荷状態に戻してください。

HDMI解像度

入力したアナログ信号を、ビデオコンバージョン機能によってHDMI信号に変換するときに、解像度を変換します。
(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「HDMI解像度」)

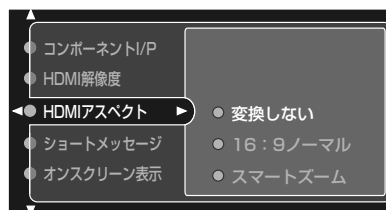
選択項目:スルー、480p、1080i、720p
初期設定値:480p

スルー
解像度を変換せずにそのまま出力します。
480p
480p信号に変換して出力します。
1080i
1080i信号に変換して出力します。
720p
720p信号に変換して出力します。

ヒント
以下の場合に設定することができます。
- 「ビデオコンバージョン」が「する」に設定されているとき
- 入力信号が480iまたは480pのとき

ご注意
480pまたは1080i、720p信号に対応していないテレビを接続している場合は、「480p」または「1080i」、「720p」に設定しないでください。セットメニューが表示されなくなります。あやまって「480p」または「1080i」、「720p」に設定してしまい、セットメニューが表示されなくなった場合は、アドバンストセットアップメニュー「VIDEO RESET」(75ページ)で、設定を工場出荷状態に戻してください。

HDMIアスペクト

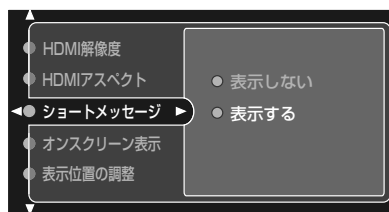
480iまたは480pアナログ入力信号をHDMI OUT端子から出力してテレビ画面に映し出すときに、縦横の比率(アスペクト比)を設定します。
(「マニュアル設定」→「映像の設定」→「HDMIアスペクト」)

選択項目:変換しない、16:9ノーマル、スマートズーム
初期設定値:変換しない

変換しない
アスペクト比を変換せずに、元の比率で映し出します。
16:9ノーマル
4:3の映像の左右に黒い帯をつけて、16:9のテレビで最適な映像になるように出力します。
スマートズーム
4:3の映像の左右を引きのばして、16:9のテレビで最適な映像になるように出力します。

「ビデオコンバージョン」が「する」のときに設定できます。

ご注意
- 「HDMI解像度」で「スルー」を選択している場合は、「HDMIアスペクト」を設定できません。
- HDMI IN端子から映像信号を入力している場合や、720pまたは1080iアナログ信号を入力している場合は、「HDMIアスペクト」を設定しても効果はありません。

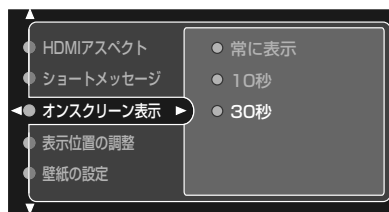
ショートメッセージ

選択している入力ソースや音量を、テレビ画面の下部に表示するか、表示しないかを設定します。
（「マニュアル設定」→「映像の設定」→「ショートメッセージ」）

選択項目：表示しない、表示する
初期設定値：表示する

ヒント
「ビデオコンバージョン」が「する」のときに設定できます。

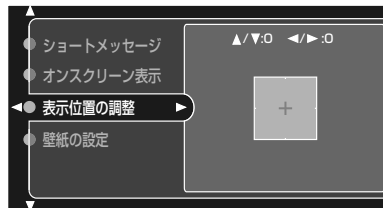
ご注意
- 入力されている映像信号やお使いのテレビ/プロジェクターによっては、ショートメッセージが乱れて見えることがあります。
- 「ビデオコンバージョン」を「しない」に設定している場合は、「表示する」に設定してもショートメッセージは表示されません。

オンスクリーン表示

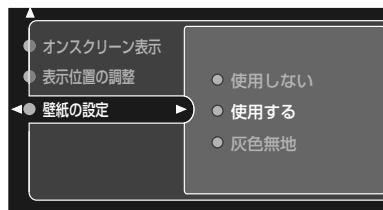
iPodやUSBデバイス、ネットワークオーディオを操作したときに、オンスクリーン表示する時間を設定します。
（「マニュアル設定」→「映像の設定」→「オンスクリーン表示」）

選択項目：常に表示、10秒、30秒
初期設定値：30秒

常に表示
オンスクリーン表示を常に表示します。
10秒
オンスクリーン表示を10秒間表示します。
30秒
オンスクリーン表示を30秒間表示します。

表示位置の調整

GUI画面を表示する位置を調節します。
（「マニュアル設定」→「映像の設定」→「表示位置の調整」）

可変範囲：−5〜+5（上下）、−5〜+5（左右）
初期設定値：0

壁紙の設定

映像が入力されていないときに表示する、壁紙を選びます。
（「マニュアル設定」→「映像の設定」→「壁紙の設定」）

選択項目：使用しない、使用する、灰色無地
初期設定値：使用する

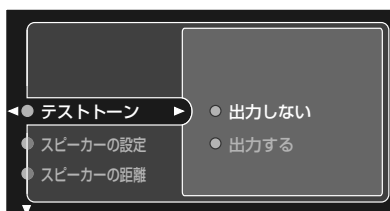
ご注意
「ビデオコンバージョン」を「しない」に設定している場合は、「使用する」または「灰色無地」に設定しても壁紙は表示されません。

スピーカーの設定を変更する－マニュアル設定(基本設定)

お使いのスピーカーシステムに合わせて、視聴環境を設定します。操作方法について詳しくは、「セットメニューの表示と操作方法」(48ページ)をご参照ください。

テストトーン

基本設定の他の項目(「スピーカーの設定」、「スピーカーの距離」、「スピーカーの音量」)を使って調整するときに、テストトーンを使うか使わないかを設定します。

(「マニュアル設定」→「基本設定」→「テストトーン」)

選択項目：出力しない、出力する
初期設定値：出力しない

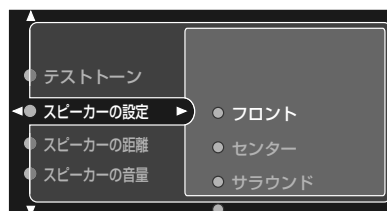
ご注意

「出力する」に設定すると、大きなテストトーンが出ます。
小さなお子さまなどをリスニングルームに立ち入らせないようご配慮ください。

スピーカーの設定

ご使用になるスピーカーに合わせて、スピーカーのサイズ、有無などを設定します。

(「マニュアル設定」→「基本設定」→「スピーカーの設定」)

ヒント

目安として、ウーファーの口径が16cm未満のスピーカーをお使いの場合は「小」、それ以上の口径の場合は「大」に設定することをおすすめします。

フロント

フロントL/Rスピーカーのサイズを設定します。

選択項目：大、小
初期設定値：大

ヒント

「小」に設定した場合、低域成分は「低音出力先」の設定にしたがって出力されます(58ページ)。

センター

センタースピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目：大、小、無
初期設定値：小

ヒント

- 「小」に設定した場合、低域成分は「低音出力先」の設定にしたがって出力されます(58ページ)。
- 「無」に設定した場合、センターチャンネルはフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

サラウンド

サラウンドL/Rスピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目：大、小、無
初期設定値：小

ヒント

- 「小」に設定した場合、低域成分は「低音出力先」の設定にしたがって出力されます(58ページ)。
- 「無」に設定した場合、「サラウンドバック」も自動的に「無」に設定されます。
- 「無」に設定して音場プログラムを使うと、バーチャルシネマDSPモードで再生します(15ページ)。

サラウンドバック

サラウンドバックスピーカーのサイズ、本数、有無を設定します。

選択項目:大2台、小2台、大1台、小1台、無
初期設定値:小2台

- 「小」に設定した場合、低域成分は「低音出力先」の設定にしたがって出力されます(下記参照)。
- 「無」に設定した場合は、サラウンドバックチャンネルはサラウンドL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。
- アドバンストセットアップメニューの「BI-AMP」を「ON」に設定した場合は、自動的に「無」が選択されます。

プレゼンス

プレゼンスL/Rスピーカーを使うか、使わないかを設定します。

選択項目:使用する、使用しない
初期設定値:使用しない

- 「使用しない」に設定した場合は、プレゼンスチャンネルはフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。
- アドバンストセットアップメニューの「BI-AMP」を「ON」に設定した場合は、自動的に「使用しない」が選択されます。

低音出力先

低音成分を出力するスピーカーを設定します。

選択項目:フロントとサブウーファー、サブウーファーのみ、フロントに出力
初期設定値:フロントとサブウーファー

フロントとサブウーファー

サブウーファーを接続していて、フロントL/Rチャンネルの低音域をフロントL/Rスピーカーとサブウーファーの両方に出力したい場合に設定します。
LFEチャンネルと、フロント以外のチャンネルの低音域は、スピーカーのサイズ設定により、サブウーファーから出力されます。例えば、CDを再生するときに、サブウーファーを使って低音域を補強したい場合などはこの設定にします。

サブウーファーのみ

サブウーファーを接続している場合に設定します。
LFEチャンネルと各スピーカーのサイズ設定により、他チャンネルの低音域がサブウーファーに出力されます。

フロントに出力

サブウーファーを接続していない場合に設定します。
LFEチャンネルと各スピーカーのサイズ設定により、他チャンネルの低音域がフロントL/Rスピーカーに出力されます。

低音クロスオーバー

サブウーファーに出力する低音成分の、周波数の上限を設定します。設定した周波数以下の低音成分が、サブウーファーに出力されます。

選択項目:40Hz、60Hz、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz
初期設定値:80Hz

位相

ご使用になるサブウーファーの位相を設定します。低音が物足りない場合などにお試しください。

選択項目:正相、逆相
初期設定値:正相

PR/SBの優先

ドルビーデジタルEXやDTS-ESなどサラウンドバック成分があるソースをシネマDSP音場プログラムで再生するときに、優先的に音を出すスピーカーを選びます。

選択項目:プレゼンス、サラウンドバック
初期設定値:サラウンドバック

プレゼンス

サラウンドバック成分があるソースを再生中でも、プレゼンス成分がプレゼンスL/Rスピーカーから出力されます。このとき、サラウンドバック成分はサラウンドL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

サラウンドバック

サラウンドバック成分があるソースを再生中は、サラウンドバックスピーカーから音を出します。
このとき、プレゼンス成分はフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

スピーカーの距離

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション(視聴位置)に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。
(「マニュアル設定」→「基本設定」→「スピーカーの距離」)

フロント左
フロントLスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲:0.30~24.00m (1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m (10.0ft)

フロント右
フロントRスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲:0.30~24.00m (1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m (10.0ft)

センター
センタースピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲:0.30~24.00m (1.0~80.0ft)
初期設定値:2.60m (8.5ft)

サラウンド左
サラウンドLスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲:0.30~24.00m (1.0~80.0ft)
初期設定値:2.40m (8.0ft)

サラウンド右
サラウンドRスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲:0.30~24.00m (1.0~80.0ft)
初期設定値:2.40m (8.0ft)

サラウンドバック左
サラウンドバックLスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲:0.30~24.00m (1.0~80.0ft)
初期設定値:2.40m (8.0ft)

サラウンドバック右
サラウンドバックRスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲: 0.30~24.00m (1.0~80.0ft)
初期設定値:2.40m (8.0ft)

プレゼンス左
プレゼンスLスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲:0.30~24.00m (1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m (10.0ft)

プレゼンス右
プレゼンスRスピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲:0.30~24.00m (1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m (10.0ft)

サブウーファー
サブウーファーからリスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲:0.30~24.00m (1.0~80.0ft)
初期設定値:3.00m (10.0ft)

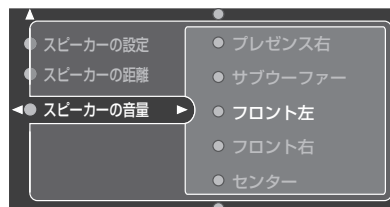
距離の単位
表示する距離の単位を切り替えます。
選択項目:メートル、フィート
初期設定値:メートル

ご注意
- 「スピーカーの設定」で「無」に設定されているスピーカーの距離は調節できません。
- 「スピーカーの設定」の「低音出力先」を、「フロントに出力」に設定している場合は、サブウーファーの距離は調節できません。

スピーカーの音量

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。
(「マニュアル設定」→「基本設定」→「スピーカーの音量」)

ヒント

音圧計をお持ちの場合は、音圧計をCウェイト/スローモードに設定したうえで、各スピーカーからの音量がリスニングポジションで75dB SPLになるよう調節してください。

フロント左

フロントLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲:−10.0〜+10.0dB
初期設定値:0.0dB

フロント右

フロントRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲:−10.0〜+10.0dB
初期設定値:0.0dB

センター

センタースピーカーからの音量を調節します。

可変範囲:−10.0〜+10.0dB
初期設定値:−1.0dB

サラウンド左

サラウンドLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲:−10.0〜+10.0dB
初期設定値:−1.0dB

サラウンド右

サラウンドRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲:−10.0〜+10.0dB
初期設定値:−1.0dB

サラウンドバック左

サラウンドバックLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲:−10.0〜+10.0dB
初期設定値:−1.0dB

サラウンドバックスピーカーを1台のみ使っている場合は、音量は「サラウンドバック左」で調節してください。

サラウンドバック右

サラウンドバックRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲:−10.0〜+10.0dB
初期設定値:−1.0dB

プレゼンス左

プレゼンスLスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲:−10.0〜+10.0dB
初期設定値:0.0dB

プレゼンス右

プレゼンスRスピーカーからの音量を調節します。

可変範囲:−10.0〜+10.0dB
初期設定値:0.0dB

サブウーファー

サブウーファーからの音量を調節します。

可変範囲:−10.0〜+10.0dB
初期設定値:0.0dB

ご注意

- 「スピーカーの設定」で「無」に設定されているスピーカーの音量は調節できません。
- 「スピーカーの設定」の「低音出力先」を、「フロントに出力」に設定している場合は、サブウーファーの音量は調節できません。

ネットワーク/USBの設定を変更する−マニュアル設定(ネットワーク/USB設定)

ネットワークに関する設定項目や、パソコンおよびUSBデバイスに保存されたファイルを再生するときの方法などを設定します。
操作方法について詳しくは、「セットメニューの表示と操作方法」(48ページ)をご参照ください。

ネットワーク設定

IPアドレスなどのネットワーク設定値の確認や、ネットワーク設定をします。設定は、DHCPサーバー機能によって自動的に設定する方法と、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバーアドレスを手動で設定する方法があります。ルーターにDHCPサーバー機能がある場合は、「DHCP」メニューで「オン」を選べば、簡単に設定できます。

(「マニュアル設定」→「ネットワーク/USB設定」→「ネットワーク設定」)

ご注意

上図はオンスクリーン表示の一例です。

DHCP

ネットワークを自動的に設定するか、手動で設定するかを選びます。自動的に設定する場合は「オン」を選び、右記手順4の「設定」でENTERキーを押すと、自動設定が開始されます。手動で設定する場合は「オフ」を選び、右記の「IPアドレス」から「代替DNSサーバー」までの5つの項目を設定してください。

選択項目：オフ、オン
初期設定値：オン

オフ
ネットワークを手動で設定します。

オン
ネットワークを自動で設定します。

ヒント

通常は「オン」を選ぶことをおすすめします。その際、ルーターにDHCPサーバー機能があることをご確認ください。

ご注意

自動設定された数値は手動で変更できません。数値を手動で変更する場合は、「オフ」を選んでから、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバーアドレスを設定してください。

IP アドレス

IPアドレスを手動で設定します。

1 ◁/▷キーで数値の入力位置を合わせる

2 △/▽キーで数値を変更する

手順1、2を繰り返してください。

3 数値を変更し終わったら、ENTERキーを押す

「ネットワーク設定」画面に戻ります。
下記の4つの項目も同様に設定してください。

サブネット マスク

サブネットマスクを手動で設定します。

ヒント

通常は「255.255.255.0」を入力してください。

デフォルトゲートウェイ

デフォルトゲートウェイを手動で設定します。

DNSサーバー(P)

プライマリーDNSサーバーを手動で設定します。

ヒント

DNSアドレスが1つの場合は、「DNSサーバー(P)」に入力してください。

DNSサーバー(S)

セカンダリーDNSサーバーを手動で設定します。

ヒント

DNSアドレスが2つ以上ある場合は、1つを「DNSサーバー(P)」に、ほかの1つを「DNSサーバー(S)」に入力してください。

4 すべての項目を入力したら、△/▽キーを押して「設定」を選ぶ

「ENTERで設定」と表示されます。

設定

「DHCP」で「オン」を選んだ場合は、自動設定を開始します。手動設定した場合は、上記の5つの項目で変更した数値を設定します。

5 ENTERキーを押す

設定を終了します。

ヒント

ADVANCED SETUPメニュー「NETWORK RESET」で、ネットワークの設定を初期状態に戻せます(75ページ)。

ご注意

ネットワーク環境を変更した場合、ネットワークを再設定しなければならないことがあります。

プレイスタイル

パソコンやUSBデバイスを再生しているときの再生スタイルを設定します。

(「マニュアル設定」→「ネットワーク/USB設定」→「プレイスタイル」)

リピート

曲やアルバムを繰り返し再生します。

選択項目：オフ、1曲、全曲
初期設定値：オフ

オフ

リピート再生しません。

1曲

選んだ曲を繰り返し再生します。

全曲

選んだディレクトリ内のすべての曲を繰り返し再生します。

- 「1曲」または「全曲」を選んでいるときは、オンスクリーン画面右上に「」または「」が表示されます。
- 「1曲」を選んでいるときに本機の電源をオフにした場合、設定が「オフ」にリセットされます。

シャッフル

曲やアルバムをの順番をランダムに再生します。

選択項目：オフ、オン
初期設定値：オフ

オフ

ランダム再生しません。

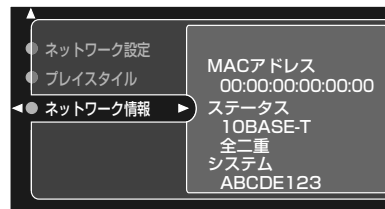
オン

選んだディレクトリ内のすべての曲をランダムに再生します。

「オン」を選んでいるときは、オンスクリーン画面右上に「」が表示されます。

ネットワーク情報

マックアドレスやネットワークとの接続状況を表示します。

(「マニュアル設定」→「ネットワーク/USB設定」→「ネットワーク情報」)

MACアドレス

本機のマックアドレスを表示します。

ステータス

ネットワークとの接続状況を表示します。

表示項目：接続されていません、10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-T、全二重、半二重

ご注意

ネットワークが接続されていない場合は、「接続されていません」と表示されます。

システム

本機に割り当てられたシステムIDを表示します。

その他の設定を変更する−マニュアル設定(その他の設定)

表示の設定など、様々な機能の設定を行います。操作方法について詳しくは、「セットメニューの表示と操作方法」(48ページ)をご参照ください。

本体表示器の設定

フロントパネルディスプレイ表示の明るさや、スクロール表示の方法を設定します。

(「マニュアル設定」→「その他の設定」→「本体表示器の設定」)

本体表示器の明るさ

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを調節します。数値が小さいほど表示が暗くなり、数値が大きいほど表示が明るくなります。

可変範囲：−4〜0
初期設定値：0

スクロール表示

iPodやネットワークオーディオ、USBデバイスの曲名や放送局名などがフロントパネルディスプレイに表示されるときに、14文字を超える場合の表示方法を設定します。

選択項目：継続、1回
初期設定値：継続

iPod

本機がスタンバイモードのときに、本機に接続したヤマハ製ドック(YDS-10など)にセットしたiPodの充電モードを設定します。

(「マニュアル設定」→「その他の設定」→「iPod」)

スタンバイ時の充電

選択項目：オフ、自動
初期設定値：自動

オフ

本機がスタンバイのときはiPodを充電しません。

自動

iPodを充電します。

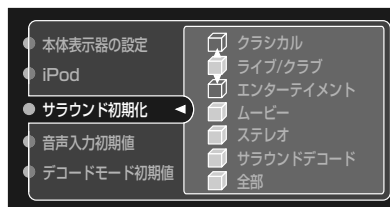
本機の電源がオンのときは、「スタンバイ時の充電」の設定にかかわらず、常にiPodを充電しています。

ご注意

本機が対応していないiPod(クリックホイール、nano、mini以外)は充電できません。

サラウンド初期化

変更した音場パラメーターを初期設定に戻します。

（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「サラウンド初期化」）

リモコンの∆/∇キーで、パラメーターを初期設定に戻したい音場プログラムまたはSUR. DECODEモードを選び、ENTERキーを押します。

「全部」を選んでENTERキーを押すと、すべての音場パラメーターを初期設定に戻せます。

パラメーターが変更されている音場プログラムまたはSUR DECODEモードは、音場ボックスが青色で表示されます。

ご注意

- 一度音場パラメーターを初期設定に戻してしまうと、初期化前の状態には戻せません。誤って初期化してしまったときのために、パラメーターを変更したときは記録しておいてください。
- 「設定の保護」が「保護」に設定されている場合、音場パラメーターを初期設定に戻せません（65ページ）。
- 「デコーダー選択」パラメーターは初期設定には戻りません（35ページ）。

音声入力初期値

電源を入れたときに適用する音声入力端子を設定します。

（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「音声入力初期値」）

iPod
サラウンド初期化
音声入力初期値
デコードモード初期値
設定の保護
自動判別
前回設定

選択項目：自動判別、前回設定
初期設定値：自動判別

自動判別
自動的に音声入力端子を選択します。

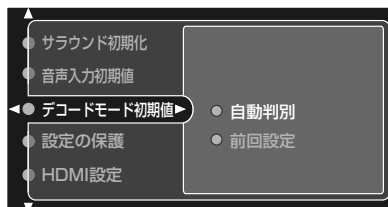
前回設定
前回使っていた音声入力端子を適用します。

「音声入力選択」で、機器ごとの接続端子を設定することができます（66ページ）。

ご注意

「前回設定」を選択しても、EXTD SUR.キーで設定した内容は記憶されません。

デコードモード初期値

電源を入れたときに適用するデコードモードを設定します。
（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「デコードモード初期値」）

選択項目：自動判別、前回設定
初期設定値：自動判別

自動判別
自動的にデコードモードを選択します。
前回設定
前回使っていたデコードモードを適用します。

「デコードモード」で、機器ごとに適用するデコードモードを設定できます（67ページ）。

設定の保護

変更した設定値を保護します。「保護」に設定すると、誤操作による設定値の変更を防ぐことができます。
（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「設定の保護」）

選択項目：可変、保護
初期設定値：可変

「保護」に設定すると以下の設定が保護されます。
・音場パラメーターの設定
・「設定の保護」、「トーンコントロール」（51ページ）、「プレイスタイル」（62ページ）、「音声入力選択」（66ページ）以外のメニューの設定

「保護」に設定しても、「システム・メモリー」の「設定の呼び出し」で設定を呼び出すことができます（70ページ）。

ご注意
「設定の保護」が「保護」に設定されていると、「自動測定メニュー」（「スタートアップガイド」40ページ）を実行できません。また、テストトーンを使用したり、他のセットメニュー項目の設定を変更したりすることもできません。「設定の保護」以外のセットメニューを変更しようとすると、GUI画面に「保護されています」と表示されます。

HDMI設定

本機のHDMI IN端子から入力した音声信号を、本機で再生するか、本機のHDMI OUT端子に接続した機器で再生するかを選択します。
（「マニュアル設定」→「その他の設定」→「HDMI設定」）

対応音声

選択項目：DSP-AX2700、その他機器
初期設定：DSP-AX2700

DSP-AX2700
入力信号を本機で再生します。HDMI IN端子に接続したHDMI機器から入力した信号は、HDMI OUT端子に伝送しません。
その他機器
HDMI OUT端子に接続した機器で再生します。

ご注意
「その他機器」に設定すると、ショートメッセージは表示されなくなります。

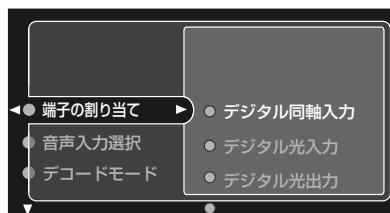
本機について
いろいろな再生のしかた
オリジナルのリスニング環境をつくる
便利な機能
メニューで設定を変更する
リモコンを使いこなす
その他の情報

入出力の設定を変更する(入力選択・設定)

入力端子の割り当てなど、信号の入出力に関する設定を行います。操作方法について詳しくは、「セットメニューの表示と操作方法」(48ページ)をご参照ください。

端子の割り当て

選んでいる入力が使用する端子の割り当てを変更します。「デジタル同軸入力」、「デジタル光入力」、「デジタル光出力」、「コンポーネント映像」、「HDMI」の5つの端子群で、選んでいる入力が使う端子をそれぞれ指定します。

(「入力選択・設定」→「<入力ソース名>」→「端子の割り当て」)

選択項目：デジタル同軸入力①～③、デジタル光入力④～⑦、デジタル光出力⑧⑨、コンポーネント映像[A]～[C]、HDMI [IN1]～[IN3]
初期設定値：デジタル同軸入力①－CD、②－DVD、③－DVR/VCR2
デジタル光入力④－CD、⑤－DVD、⑥－DTV、⑦－CBL/SAT
デジタル光出力8－MD/TAPE、9－CD-R
コンポーネント映像[A]－DVD、[B]－DTV、[C]－CBL/SAT
HDMI [IN1]－DVD、[IN2]－DTV、[IN3]－CBL/SAT

例： **DVDプレーヤーが使う同軸デジタル端子の割り当てを変更する**
DVDプレーヤー用の同軸デジタル端子は初期設定で②に設定されています。
これを①に変更したい場合は、「DVD－デジタル同軸入力」で①を選び、ENTERキーを押します。
「①CD」が「①DVD」へと変わり、割り当てが変更されます。(このときCDプレーヤーの割り当ては、DVDプレーヤーの割り当てと入れ替わり「②CD」となります)

ヒント

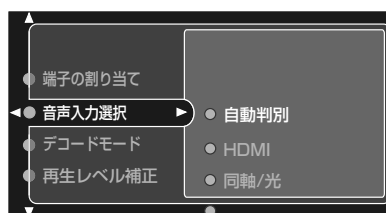
- ①～⑨、[A]～[C]、[IN1]～[IN3]の文字は実際にリアパネルの端子に印刷されている文字と対応しています。
- 「コンポーネント映像」は映像系の入力を選んでいるときのみ、端子の割り当てを変更できます。

ご注意

フロントパネルのOPTICAL端子の入力はV-AUX(補助入力)に固定されています。端子の割り当てを変更することはできません。

音声入力選択

音声入力端子を切り替えます。音声信号をどの接続端子から入力するかを自動的に切り替えたり、特定の接続端子に固定したりすることができます。

(「入力選択・設定」→「<入力ソース名>」→「音声入力選択」)

選択項目：自動判別、HDMI、同軸／光、アナログ
初期設定値：自動判別

自動判別
自動的に入力端子を選びます。以下の順序で入力端子を選びます。
①HDMI
②同軸デジタル
③光デジタル
④アナログ

HDMI
HDMI端子に固定されます。HDMI信号以外の信号が入力されても再生されません。

同軸／光
同軸／光デジタル信号に固定されます。両方同時に入力している場合は、同軸デジタル信号を優先します。同軸／光デジタル信号以外の信号が入力されても再生されません。

アナログ
アナログ端子に固定されます。アナログ信号以外の信号が入力されても再生されません。

ヒント

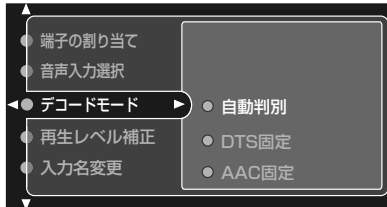
リモコンのAUDIO SELECTキーを押して音声入力端子を切り替えることもできます(37ページ)。

ご注意

- 各入力端子に外部機器が接続されていない場合、入力端子を指定しても音声は出力されません。
- 「デコードモード」(67ページ)で、「DTS固定」または「AAC固定」を選択している場合、入力モードを「ANALOG」にしてもアナログ音声は出力されません。

デコードモード

デコードモードを切り替えます。選択した音声入力端子から入力する信号を、DTSなどの特定の信号に固定したりすることができます。

（「入力選択・設定」→「<入力ソース名>」→「デコードモード」）

選択項目：自動判別、DTS固定、AAC固定
初期設定値：自動判別

自動判別
自動的に入力信号を選択します。

DTS固定
DTS信号に固定されます。DTS信号以外の信号が入力されても再生されません。

AAC固定
AAC信号に固定されます。AAC信号以外の信号が入力されても再生されません。

DTS-CDを再生する場合は、「DTS」に設定して再生することをおすすめします。

ご注意

- 「デコードモード初期値」で、本機の電源を入れたときに、前回使っていたデコードモードをそのまま使うか、「自動判別」に戻すかを設定できます（65ページ）。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子へ同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子への入力信号が優先されます。
- プレーヤーから出力されるデジタル信号に、音量可変などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生されません。

再生レベル補正

選んでいる入力の再生レベルを補正します。接続している機器ごとに異なる再生レベルを、同じレベルに補正すれば、入力を切り替えるたびに音量を微調整する必要がなくなります。

（「入力選択・設定」→「<入力ソース名>」→「再生レベル補正」）

可変範囲：−6.0dB〜+6.0dB
初期設定値：0.0dB

入力名変更

GUI画面上に表示される入力名を変更します。

（「入力選択・設定」→「<入力ソース名>」→「入力名変更」）

1 **◁/▷キーで文字の入力位置を合わせる**

2 ***ENTERキーを繰り返し押して、入力する文字群を選ぶ***

入力できる文字は以下のとおりです。

- 英大文字: A～Z
- 英小文字: a～z
- 数字: 0～9
- スペース(空白)
- 記号: ＃＊＋，－．／：＜＞？など
- カナ文字：ア～ー
- メーカー名：ヤマハなど

3 ***△/▽キーで入力する文字を選ぶ***

文字は最大8文字まで入力できます。手順1～3を繰り返してください。

4 ***文字を入力し終わったら、▷キーで「決定」を選び、ENTERキーを押す***

ヒント

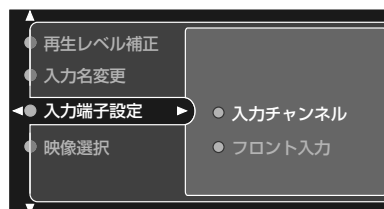
GUI画面の表示を英語に設定している場合、入力できる文字は英大文字、英小文字、数字、記号、スペースです。

ご注意

フロントパネルディスプレイでの表示は英語のままです。日本語で変更した内容は反映されません。

入力端子設定

MULTI CH INPUT端子に接続されたソースの入力信号の振り分け先を設定します。

（「入力選択・設定」→「マルチCH入力」→「入力端子設定」）

入力チャンネル

入力する信号のチャンネル数を設定します。

選択項目：6チャンネル、8チャンネル
初期設定値：6チャンネル

6チャンネル

6チャンネル信号を入力するときの設定です。

8チャンネル

8チャンネル信号を入力するときの設定です。アナログ音声入力端子を、フロントチャンネル用の端子として使います(下記フロント入力で設定します)。

フロント入力

フロントチャンネル用の端子として使う、アナログ音声入力端子を選ぶことができます。

選択項目：CD、CD-R、MD/テープ、DVD、DTV、ケーブル／衛星、VCR1、DVR/VCR2、補助入力
初期設定値：DVD

映像選択

MULTI CH INPUT端子に接続された機器の音声を楽しみながら、バックグラウンドビデオ機能（28ページ）を使って映像も楽しむときに、組み合わせる映像入力ソースを選びます。
（「入力選択・設定」→「マルチCH入力」→「入力端子設定」）

入力チャンネル
入力する信号のチャンネル数を設定します。

選択項目：DVD、DTV、ケーブル/衛星、VCR1、DVR/VCR2、補助入力、前の映像保持、映像なし
初期設定値：前の映像保持

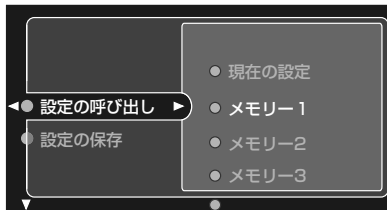
DVD〜補助入力
選んだ映像入力ソースを再生します。
前の映像保持
前回選んだ映像入力ソースを再生します。
映像なし
映像信号を再生しません。

本機に接続したヤマハ製ドック（YDS-10など）にiPodをセットしているときは、「補助入力」は「ドック」に変わります。

本機の設定を呼び出す・保存する(システム・メモリー)

本機の状態(各種設定や音場プログラムなど)を保存し、あとで簡単に呼び出して使うことができます。例えば、複数のリスニングポジションでYPAOによる測定を行い、それぞれを保存して、あとで使い分けたりすることができます。
また、特性の違うスピーカーを2組接続している場合に、それぞれのスピーカー設定を保存して使い分けたりするときに便利です。
操作方法について詳しくは、「セットメニューの表示と操作方法」(48ページ)をご参照ください。

設定の呼び出し

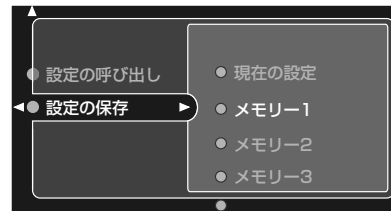
各種設定や音場プログラムなど、保存していた設定を呼び出します。
(「システム・メモリー」→「設定の呼び出し」)

選択項目： 現在の設定、メモリー1、メモリー2、メモリー3、メモリー4、メモリー5、メモリー6

現在の設定
現在設定されている各種設定や音場プログラムが右側ウィンドウに表示されます。
メモリー1〜6
保存されている設定を呼び出します。

△/▽キーで呼び出したい設定をメモリー1〜6のなかから選び、▷キーを押すと、「ENTERで呼び出し」と表示されます。ENTERキーを押すと、選んだ設定が呼び出されます。

メモリー1とメモリー2の設定はそれぞれリモコンのMEMORY1/2キーで呼び出すこともできます(40ページ)。

設定の保存

各種設定や音場プログラムなどの設定を保存します。
(「システム・メモリー」→「設定の保存」)

選択項目： 現在の設定、メモリー1、メモリー2、メモリー3、メモリー4、メモリー5、メモリー6

現在の設定
現在設定されている各種設定や音場プログラムが右側ウィンドウに表示されます。
メモリー1〜6
現在の設定を保存します。

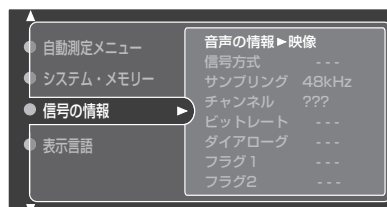
△/▽キーで現在の設定を保存する場所をメモリー1〜6のなかから選び、▷キーを押すと、「ENTERで保存」と表示されます。ENTERキーを押すと、現在の設定が選んだ場所に保存されます。
保存される主な設定は以下のとおりです。

- 音場プログラム
- スピーカーの設定
- スピーカーのチャンネル数
- LFEレベル
- ダイナミックレンジの設定
- YPAOによるパラメトリックイコライザーの設定

入力信号情報を表示する（信号の情報）

音声入力信号と映像入力信号のさまざまな情報を表示させることができます。操作方法について詳しくは、「セットメニューの表示と操作方法」（48ページ）をご参照ください。

音声の情報

音声信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を表示します。

信号方式

音声入力信号のフォーマット(信号方式)を表示します。

表示	信号方式
アナログ	アナログ信号
PCM	PCM信号
DSD	DSD信号
デジタル	デジタル信号
DD デジタル	ドルビーデジタル信号
dts	DTS信号
AAC	AAC信号
WMA	WMA信号
MP3	MP3信号
– – –	圧縮オーディオ（非リニアPCM）信号
???	不明なデジタル信号

サンプリング

デジタル信号入力時に、音声入力信号のサンプリング周波数を表示します。サンプリング周波数が不明な場合は、「???」と表示されます。

チャンネル

音声入力信号のチャンネル数を表示します。
左から、「フロントチャンネル数/サラウンドチャンネル数/LFEチャンネル」を表わしています。例えば、「3/2/0.1」と表示された場合は、「フロント3チャンネル/サラウンド2チャンネル/LFE0.1チャンネル」の信号が入力されています。
また、「1＋1」と表示された場合は、二カ国語放送などの主＋副の2チャンネルの信号が入力されています。

ビットレート

音声入力信号の1秒あたりのデータ量(ビットレート)を表示します。ビットレートが不明な場合は、「---」と表示されます。

ご注意
AAC信号のビットレートは、再生中に変化することがありますが、正常な動作です。

ダイアローグ

ドルビーデジタル、DTS信号入力時に、音量が異なるさまざまなソフトに対し、自動的に一定の音量で再生されるように調節するダイアログ・ノーマライゼーション機能がはたらきます。この機能がはたらいている場合に、調節しているレベル量を表示します（－31～0dB）。

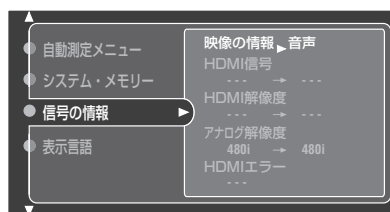
フラグ1/フラグ2

音声入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号(フラグ)を表示します。

表示	フラグ
プリエンファシス	プリエンファシス処理されたPCM信号入力時に表示されます。
カラオケ	ドルビーデジタルカラオケ信号入力時に表示されます。
EX	ドルビーデジタルEX信号入力時に表示されます。
DPLエンコード	プロロジックエンコードされたドルビーデジタル信号入力時に表示されます。
ESマトリックス	DTS ESマトリックス信号入力時に表示されます。
ESディスクリート	DTS ESディスクリート信号入力時に表示されます。
96/24	DTS 96/24信号入力時に表示されます。
– – –	フラグが認識できない場合に表示されます。

ヒント
⊳キーを押すと、「映像の情報」画面に切り替わります(72ページ)。

映像の情報

映像信号の方式や解像度などの情報を表示します。

HDMI信号

映像入力信号のフォーマット(信号方式)を表示します。

表示	信号方式
HDMI	HDMI信号
DVI	DVI信号
アナログ	アナログ信号
– – –	信号が認識できない場合に表示します。

HDMI解像度

HDMI映像入力信号の解像度を表示します。
解像度が不明な場合は、「???」と表示されます。

アナログ解像度

アナログ入力された映像信号の解像度を表示します。

HDMIエラー

HDMI機器を接続したときのエラーメッセージを表示します。

表示	内容
デバイス数超過	制限台数を超えるHDMI機器が接続されています。
HDCP認証失敗	HDCPの認証に失敗しました。

▷キーを押すと、「音声の情報」画面に切り替わります(71ページ)。

GUIで表示する言語を切り替える（表示言語）

GUIをモニターに映し出しているときに、表示する言語を5種類の中から選択できます。操作方法について詳しくは、「セットメニューの表示と操作方法」（48ページ）をご参照ください。

選択項目： English、日本語、Français、Deutsch、Español、Русский
初期設定値：日本語

English
英語で表示します。

日本語
日本語で表示します。

Français
フランス語で表示します。

Deutsch
ドイツ語で表示します。

Español
スペイン語で表示します。

Русский
ロシア語で表示します。

ヒント

- アドバンストセットアップメニュー「GUI LANGUAGE」（75ページ）でも表示言語を切り替えられます。
- あやまって表示言語を切り替えてしまった場合は、アドバンストセットアップメニュー「GUI LANGUAGE」（75ページ）で「JAPANESE」を選べば、日本語の表示に戻せます。

アドバンストセットアップメニューを設定する

フロントパネルディスプレイにメニューを表示させて、さまざまな項目を設定します。

1 ***本機の電源がオフになっていることを確認する***

2 ***STRAIGHT/EFFECTキーを押しながら、MASTER ON/OFFスイッチを押す***

フロントパネルディスプレイにセットアップメニューが表示されます。

3 ***PROGRAMセレクターを回して、変更したい項目を選ぶ***

ディスプレイに表示された項目が変わります。

4 ***STRAIGHT/EFFECTキーを押して、設定を変更する***

5 ***MASTER ON/OFFスイッチを押して、本機の電源をオフにする***

設定が保存されます。

次に電源を入れたときから、変更した設定が有効になります。

USER PRESET

本機のパラメーターを工場出荷状態に戻します。以下の項目は設定内容が保持されます。

- アドバンストセットアップメニュー
- システム・メモリー(70ページ)
- FM/AM放送局の登録(42ページ)

選択項目：RESET、CANCEL
初期設定：CANCEL

CANCEL
本機のパラメーターを初期設定に戻しません。
RESET
本機のパラメーターを初期設定に戻します。

REMOTE SENSOR

リモコンでの本体操作を有効にするか無効にするかを設定します。

選択項目：ON、OFF
初期設定：ON

ON
リモコンの操作を有効にします。本機をリモコンで操作できます。
OFF
リモコンの操作を無効にします。本機をリモコンで操作できません。

WAKE ON RS232C

本機がスタンバイのときに、RS-232C端子からのデータを受信するか、受信しないかを設定します。

選択項目：NO、YES
初期設定：NO

NO
RS-232C端子からのデータを受信しません。
YES
RS-232C端子からのデータを受信します。

ご注意
RS-232C端子はサービス用の端子です。ユーザーは使用しません。

RC AMP ID

本機のリモコンIDをリモコンのアンプライブラリー設定(80ページ)に合わせます。

選択項目：ID1、ID2
初期設定：ID1

ID1
リモコンのアンプライブラリーが「2001」に設定されているときに選択します。
ID2
リモコンのアンプライブラリーが「2002」に設定されているときに選択します。

RC TUNER ID

本機のチューナー用リモコンIDをリモコンのチューナーライブラリー設定（80ページ）に合わせます。

選択項目：ID1、ID2
初期設定：ID1

ID1
リモコンのチューナーライブラリーが「2602」に設定されているときに選択します。
ID2
リモコンのチューナーライブラリーが「2603」に設定されているときに選択します。

BI-AMP

スピーカーをバイアンプ接続して（「スタートアップガイド」21ページ）、バイアンプ機能を使うか使わないかを設定します。

選択項目：OFF、ON
初期設定：OFF

OFF
バイアンプ機能を使いません。
ON
バイアンプ機能を使います。ウーファーとツィーターを別々のアンプで駆動します。

VIDEO RESET

セットメニュー「映像の設定」（54ページ）で変更した以下の項目を工場出荷状態に戻します。

- 表示位置の調整
- 壁紙の設定
- ビデオコンバージョン
- コンポーネントI/P
- HDMI解像度

選択項目：CANCEL、YES
初期設定：CANCEL

CANCEL
工場出荷状態に戻しません。
YES
工場出荷状態に戻します。

ヒント

セットメニュー「映像の設定」の「コンポーネントI/P」（54ページ）を「変換する」に設定したときにセットメニュー表示が消えてしまった場合、「VIDEO RESET」を「YES」に設定すると、セットメニューが映るようになります。

NETWORK RESET

セットメニュー「ネットワーク設定」（61ページ）で変更した全項目を工場出荷状態に戻します。

選択項目：CANCEL、YES
初期設定：CANCEL

CANCEL
工場出荷状態に戻しません。
YES
工場出荷状態に戻します。

TV FORMAT

お使いのテレビに合わせて、本機のMONITOR OUTから出力されるGUI信号の方式を切り替えます。

選択項目：PAL、NTSC
初期設定：NTSC

PAL
PAL方式に切り替えます。
NTSC
NTSC方式に切り替えます。通常はこの設定でお使いください。

MONITOR CHECK

本機とHDMI接続したテレビの能力をチェックして、テレビが対応している解像度のみを本機から出力するか、対応していない解像度も出力するかを設定します。

選択項目：YES、SKIP
初期設定：YES

YES
対応している解像度のみ出力します。
SKIP
対応していない解像度も出力します。

GUI LANGUAGE

GUIメニューで表示する言語を切り替えます。

選択項目：JAPANESE、FRENCH、GERMAN、SPANISH、RUSSIAN、ENGLISH
初期設定：JAPANESE

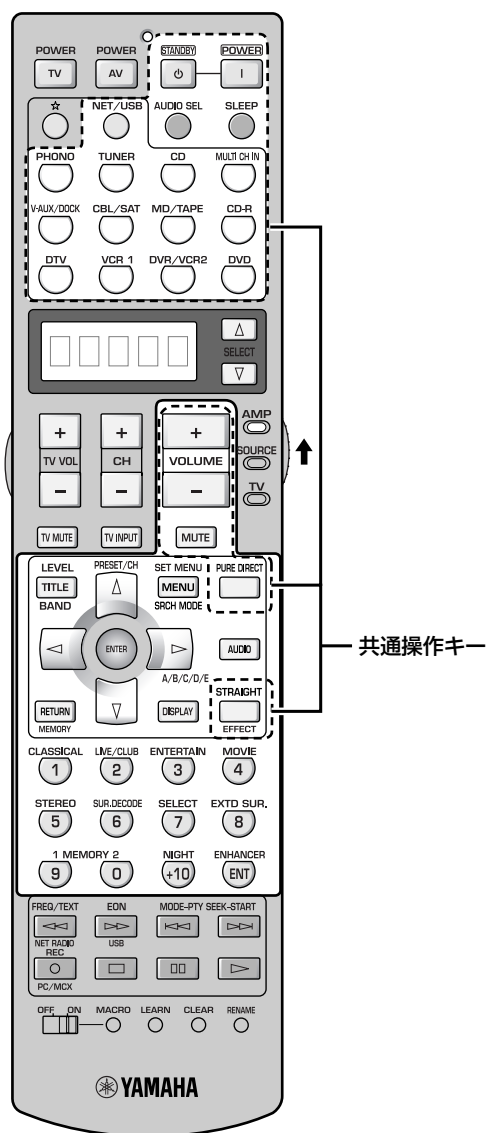
JAPANESE
日本語で表示します。
FRENCH
フランス語で表示します。
GERMAN
ドイツ語で表示します。
SPANISH
スペイン語で表示します。
RUSSIAN
ロシア語で表示します。
ENGLISH
英語で表示します。

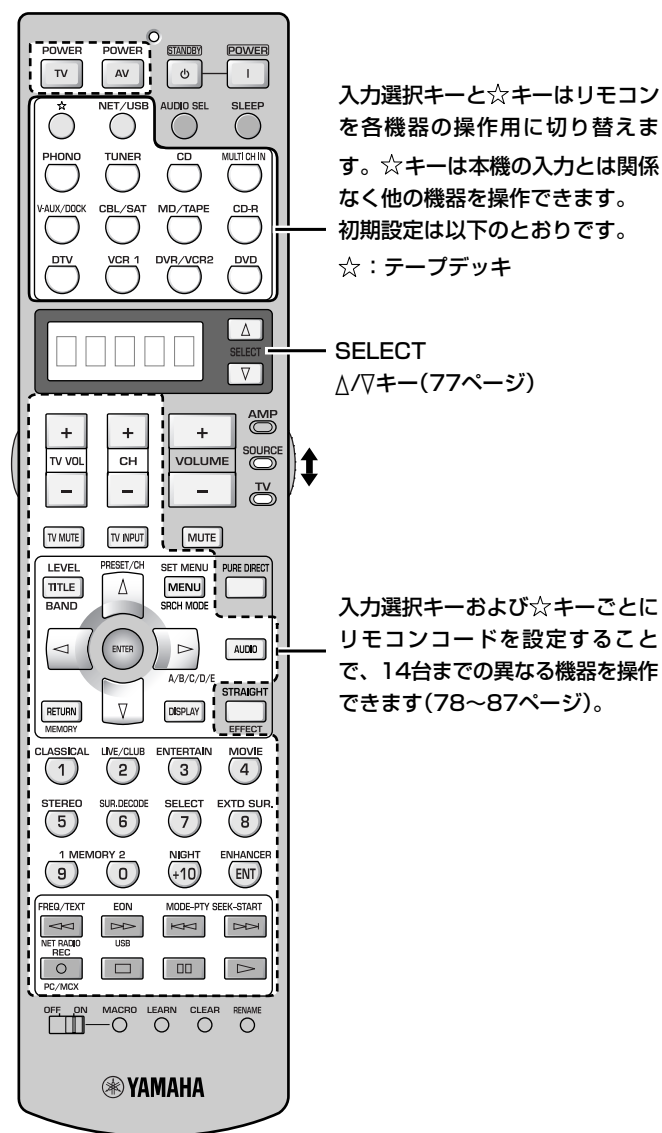
リモコンのはたらき

他の機器のリモコン信号を記憶させたり、リモコンコードを設定したりすることにより、本機のリモコンで、DVDプレーヤーやCDプレーヤー、テレビなど本機以外のAV機器を操作することができます。また、マクロ機能を使うと、一連のキー操作を1つのキーでできるようになり、操作性が格段に向上します。

本機を操作する

本機の操作に使用するキーは下図の白色で示した部分です。点線部分内のキー(共通操作キー)はどのモードでも機能します。その他の白色部分のキーを使用するには操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPを選びます。

共通操作キー

ほかの機器を操作する

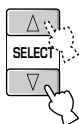
ほかの機器の操作に使うキーは、下図の点線で囲んだ部分です。入力選択キーまたはSELECT ∆/∇キーで選んだ機器によって、各キーの機能が変わります。リモコンディスプレイには、選んだ機器の名前が表示されます。

ヒント

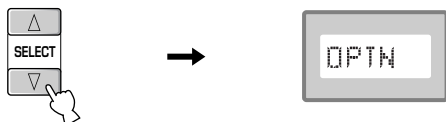
音場プログラムキーなど本機主体で使う場合、操作機器選択スイッチをAMPにセットしてご使用ください。

ヒント

- 番号キーなど他の機器主体で使う場合、操作機器選択スイッチをSOURCEにセットしてご使用ください。
- 本機に関係なくテレビのリモコンとして使う場合、操作機器選択スイッチをTVにセットしてご使用ください。テレビを操作するにはDTVキーまたはPHONOキーにリモコンコードを設定する必要があります(78ページ)。テレビのリモコンコードを両方のキーに設定した場合は、DTVキーに設定したテレビを操作できます。

操作する機器を切り替える

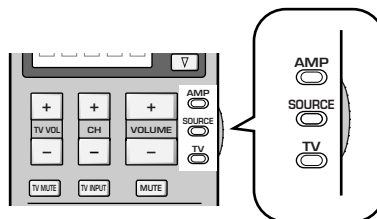
SELECT∆/∇キーを押すと、入力ソースは切り替えずに、リモコンで操作する機器だけを切り替えることができます。操作できる機器は、リモコンディスプレイに表示されます。

OPTN(オプション)モード

入力選択キーでの切り替えに関係なく操作したい機能をラーニングする場合は、OPTNにラーニングすると便利です。SELECT∇キーを押して「OPTN」を選ぶと、ラーニングした機器を操作することができます。

ヒント

マクロ機能(91ページ)だけに使うリモコン信号は、OPTNモードにしてラーニングすることをおすすめします。

ご注意

OPTNモードには、リモコンコードを登録できません。

操作機器選択スイッチの役割

音場プログラムキーなど、本機主体で使う場合：
AMPにセットします。

番号キーなど、他の機器主体で使う場合：
SOURCEにセットします。

本機に関係なくテレビのリモコンとして使う場合：
TVにセットします。
DTVキーまたはPHONOキーにリモコンコードを設定したテレビを操作できます。テレビのリモコンコードを両方のキーに設定した場合は、DTVキーに設定したテレビを操作できます。

本機のリモコンで本機以外の機器を操作する

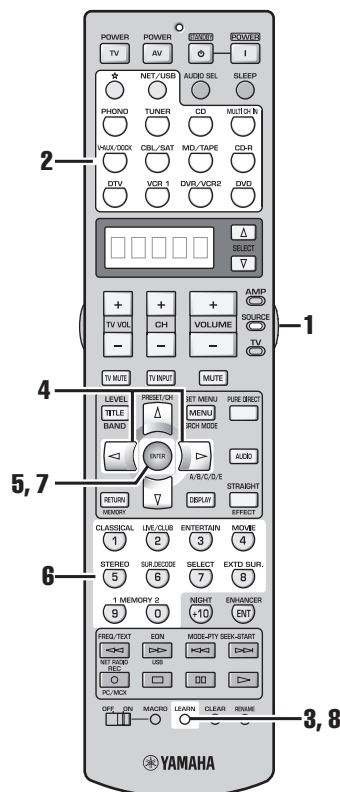
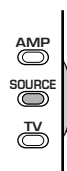
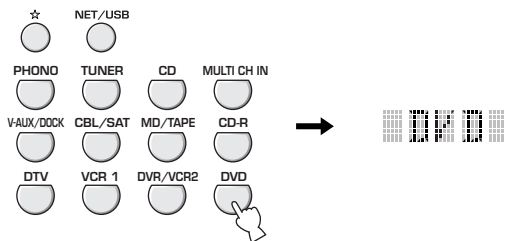
リモコンで操作する機器を設定する

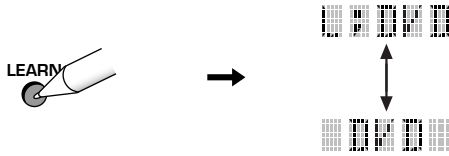
リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで他のメーカーの機器を操作することができます。リモコンコードは各入力選択キーまたは☆キーに設定することができます。☆、NET/USB、TUNER、CD、MULTI CH IN、V-AUX/DOCK、MD/TAPE、CD-R、DVR/VCR2、DVDの機器操作キーには工場出荷時にあらかじめヤマハのリモコンコードが設定されています。

初期設定

入力選択キー	ライブラリー	ヤマハ初期設定コード
☆	TAP	2700
NET/USB	TUN	2607
PHONO	TV	–
TUNER	TUN	2602
CD	CD	2300
MULTI CH IN	DVD	2100
V-AUX/DOCK	TUN	2606
CBL/SAT	CAB	–
MD/TAPE	MD	2500
CD-R	CDR	2400
DTV	TV	–
VCR1	VCR	–
DVR/VCR2	DVR	2807
DVD	DVD	2100

ご注意

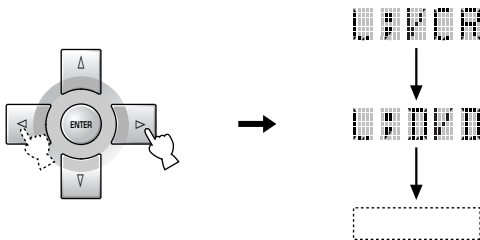
- お使いのヤマハ機器によっては、上図の「ヤマハ初期設定コード」では操作できない場合があります。この場合は、他のヤマハリモコンコードをお試しください。
- 付属のリモコンは、市販されているすべてのAV機器(ヤマハAV機器を含む)のリモコンコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちのAV機器を操作できない場合があります。いずれのリモコンコードでも操作ができない場合は、ラーニング機能(88ページ)を利用するか、お使いの機器に付属のリモコンをお使いください。
- 1つの入力選択キーに対して、1つのリモコンコードしか設定できません。
- すでにラーニングを設定している場合、ラーニングによる機能がリモコンコードの機能より優先されます。
- 手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

1 ***操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ***

2 ***設定を変更したい入力選択キーを押す***

3 LEARNボタンを3秒以上押し続ける

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに機器の種類(ライブラリー)と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。

ご注意

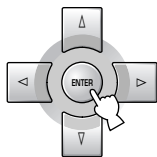
- LEARNボタンは3秒以上押しつづけてください。短く押して離すと、ラーニングモードに切り替わります(88ページ)。
- 手順3以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとリモコンコード設定が自動的に中止されます。この場合は、手順3から操作しなおしてください。

4 設定されている機器の種類(ライブラリー)を変更する場合は、◁/▷キーを押して、使いたい機器の種類(ライブラリー)を選ぶ

本機のリモコンには、AMP、TV、CAB(CABLE)、SAT(SATELLITE)、VCR、DVD、DVR、LD、CD、CDR(CD-R)、MD、TAP(TAPE)、TUN(TUNER)の13種類のライブラリーが用意されています。

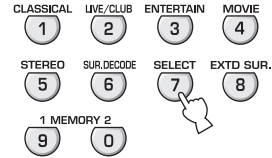
ヒント

DVDレコーダーのリモコンコードを設定する場合は、ライブラリーを「DVR」に変更してください。

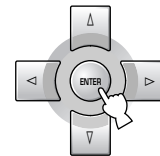
5 ENTERキーを押す

設定されているリモコンコードがリモコンディスプレイに表示されます。

ご注意

選んだ機器用にリモコンコードが設定されていない場合は、「0000」とリモコンディスプレイに表示されます。

6 数字キーを押して、4桁のリモコンコードを入力する

リモコンコードについては、「リモコンコード一覧」(81～82ページ)を参照してください。

7 ENTERキーを押す

リモコンコードが正しく入力されると、リモコンディスプレイに「OK」と表示されます。

ご注意

リモコンコードが正しく入力されなかった場合は、リモコンディスプレイに「NG」と表示されます。このような場合は手順4から操作しなおしてください。

8 LEARNボタンを押して、リモコンコードの設定を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

9 動作を確認する

操作機器選択スイッチをスライドさせてSOURCEまたはTVを選び、POWERやPLAYなどの各キーを押して、お使いの機器が正しく動作するか確認してください。正しく動作しないときは同じメーカーの別のリモコンコードを選んでみてください。

アンプ(L;AMP)／チューナー(L;TUN)ライブラリーについて

複数のヤマハ製アンプ/レシーバーを同じ部屋で使用している場合などに、工場出荷状態の通常コード「２００１」または「2602」のままリモコンで操作すると、これらのアンプ/レシーバーが同時に作動する場合があります。
本機を単独で操作する場合は、予備コード「２００２」または「2603」に設定してください。また本体のリモコンID設定を「ID2」に設定してください(75ページ)。

アンプ操作用ライブラリーコードの設定

操作機器選択スイッチでAMPを選択し、アンプを操作するときのリモコンコードを設定します。

アンプライブラリーコード設定（リモコンの設定）	機能	リモコンアンプ用ID設定（本体の設定）
2001（初期設定）	通常コードで本機を操作する場合の設定です。	ID1（初期設定）
2002	予備コードで本機を操作する場合の設定です。	ID2

チューナー操作用ライブラリーコードの設定

操作機器選択スイッチでSOURCEを選択し、チューナーモードにしたときのリモコンコードを設定します。

チューナーライブラリーコード設定（リモコンの設定）	機能	リモコンチューナー用ID設定（本体の設定）
2602（初期設定）	通常コードで本機を操作する場合の設定です。	ID1（初期設定）
2603	予備コードで本機を操作する場合の設定です。	ID2

リモコンコード一覧

本機のリモコンに内蔵のライブラリーは全世界対応です。下表は主に日本で流通しているメーカーのリモコンコードです。下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のリモコンコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。

メーカー名	リモコンコード				
TV（TV）					
DAEWOO	0036	0057	0064	0119	0135
	0181	0197	0205	0207	0401
	0478	0650	0661	1688	
FUJITSU	0710	0836			
FUNAI	0207	0198	0291		
GOLDSTAR	0057	0064	0136	0181	0205
	0404				
HITACHI	0036	0057	0119	0132	0136
	0172	0190	0205	0252	0383
	0508	0575	0605	1172	1283
LG	0057	0064	0087	0135	0205
	0741				
MITSUBISHI	0057	0120	0135	0177	0181
	0205	0207	0263	0277	0539
	0863	1277			
NEC	0036	0057	0078	0181	0183
	0197	0205	0482	0524	1731
PANASONIC	0064	0078	0081	0190	0277
	0677	1437			
PHILIPS	0027	0057	0064	0078	0081
	0119	0135	0205	0401	0583
	0717	1481			
PIONEER	0136	0190	0193	0314	0706
	0787	0893			
SAMSUNG	0036	0057	0064	0087	0117
	0119	0181	0205	0291	0397
	0583	0614	0645	0729	0793
	0839	0841			
SANYO	0131	0181	0207	0235	0366
	0826				
SHARP	0057	0120	0677		
SONY	0027	0677	0861	1127	1532
	1678				
TOSHIBA	0087	0181	0183	0535	0645
	0677	0859	1283	1383	1683
	1731				
VICTOR	0080	0277	0677	0680	
YAMAHA	0057	0172	0677	0796	0860
	2900（プロジェクター）	2901（プロジェクター）			
	2903	2904（プロジェクター）			

メーカー名	リモコンコード			
ケーブルTVチューナー（CAB）				
PIONEER	0171	0560	0904	1904
BSデジタルチューナー（SAT）				
PANASONIC	0274	0728	0874	1347
SONY	0666	0874	1666	
TOSHIBA	0776	0817	1776	

メーカー名	リモコンコード				
テープデッキ（TAP）					
AIWA	0056				
MARANTZ	0056				
PIONEER	0054				
SANSUI	0056				
SONY	0270				
YAMAHA	2700	2701			
ビデオデッキ（VCR）					
AIWA	0027	0064	0334	0375	0379
DAEWOO	0072	0131	0305	0669	1305
FUNAI	0027				
GOLDSTAR	0064	0252	0507	1264	
HITACHI	0027	0064	0068	0069	0267
LG	0064	0069	0072	0507	
MITSUBISHI	0068	0070	0094	0108	0834
NEC	0062	0064	0068	0075	0094
	0131				
PANASONIC	0062	0252	0253	0643	1062
	1589				
SAMSUNG	0072	0267	0459		
SANYO	0074	0131	0267		
SHARP	0075	0834			
SHINTOM	0099	0131			
SONY	0027	0059	0060	0062	0663
	1259				
TOSHIBA	0068	0070	0072	0094	0108
	0872				
VICTOR	0068	0094			
YAMAHA	0068				
DVDプレーヤー（DVD）					
DENON	0517				
HITACHI	0600	0691			
KENWOOD	0517	0561			
MITSUBISHI	0548				
ONKYO	0530				
PANASONIC	0517	0659	1389		
PHILIPS	0530	0566	0673	0881	
PIONEER	0552	0598	0658	0659	
RCA	0549	0598	0744		
SAMSUNG	0600				
SHARP	0657				
SONY	0560	0891			
TOSHIBA	0530				
VICTOR	0585	0650			
YAMAHA	0517	0566	0572	2100	

メーカー名	リモコンコード		

DVDレコーダー（DVR）

HITACHI	2815		
PANASONIC	2800	2801	2802
PHILIPS	2808		
PIONEER	2804	2805	2806
SHARP	2812	2813	
SONY	2809	2810	2811
TOSHIBA	2803		
VICTOR	2814		

LDプレーヤー（LD）

DENON	0086
MARANTZ	0091
MITSUBISHI	0086
PHILIPS	0091
PIONEER	0086
SONY	0228
YAMAHA	2200

CDプレーヤー（CD）

AIWA	0184	
DENON	0900	
HITACHI	0059	
KENWOOD	0055	0064
MARANTZ	0056	0184
PANASONIC	0056	
PHILIPS	0184	
PIONEER	0059	0332
SANSUI	0184	0332
SANYO	0206	
SHARP	0064	
SONY	0027	
TECHNICS	0056	
VICTOR	0099	
YAMAHA	2300	2301

CDレコーダー（CDR）

KENWOOD	0653
MARANTZ	0653
PHILIPS	0653
YAMAHA	2400

MDレコーダー（MD）

KENWOOD	0708		
ONKYO	0895		
SHARP	0888		
SONY	0517		
YAMAHA	2500	2501	2502

チューナー（TUN）

YAMAHA	2602	2603

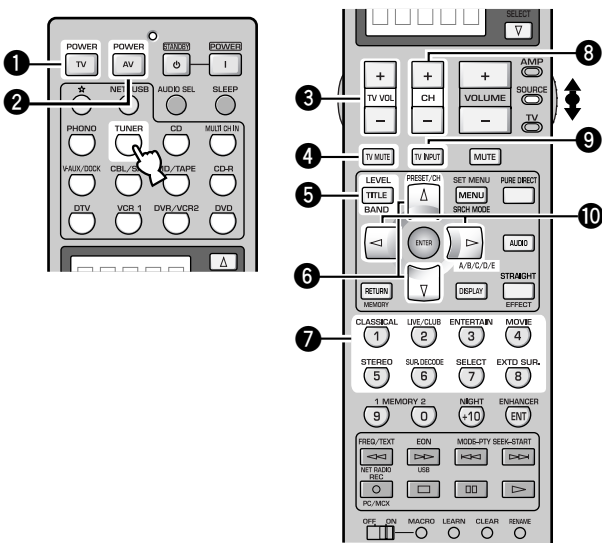
その他の機器（TUN）

YAMAHA(iPod)	2606
YAMAHA(NET)	2607

設定した機器を操作する

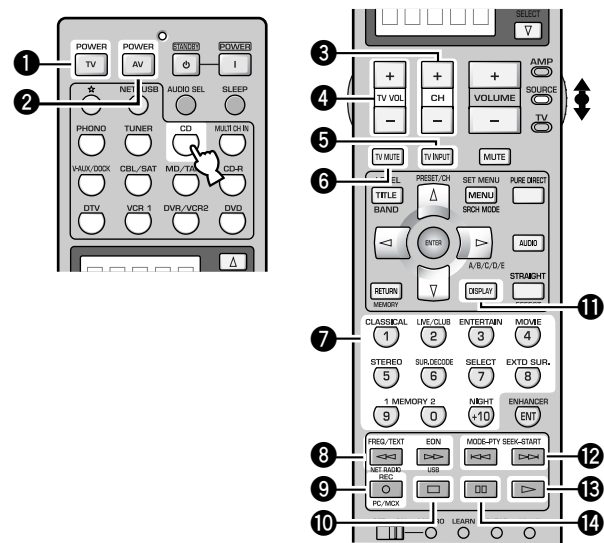
ご使用の機器のリモコンコードを設定すると、その機器を本機のリモコンで操作することができます。

- ご使用の機器によっては、いくつかのキーが機能しないことがあります。このような場合には、ラーニングをする(88ページ)か、もしくはご使用の機器に付属のリモコンをご使用ください。
- ご使用の機器によっては、キー操作と説明が一致しないことがあります。
- 本機以外の機器を操作する場合には、あらかじめリモコンコードを設定しておく必要があります。☆、NET/USB、TUNER、CD、MULTI CH IN、V-AUX/DOCK、MD/TAPE、CD-R、DVR/VCR2、DVDの各キーには、工場出荷時にヤマハリモコンコードが設定されていますが、動作しない場合は他のリモコンコードに設定しなおしてください。

FM/AMチューナーを操作する

操作機器選択スイッチでSOURCEを選び、入力選択キーのTUNERキーを押すとチューナーを操作できます。

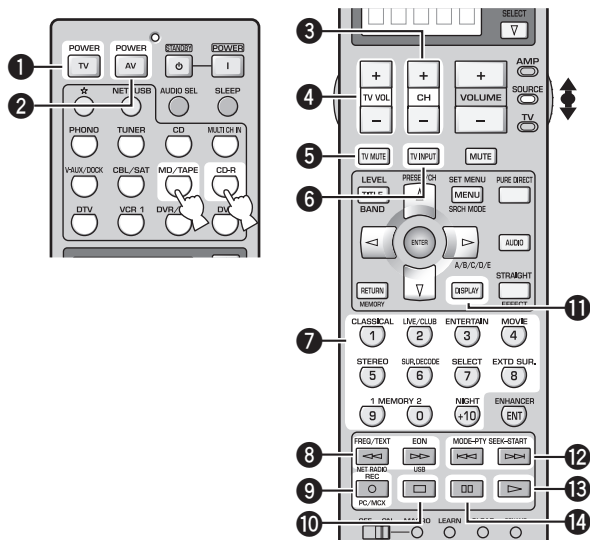
操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (テレビ)音量を調節する
❹ (テレビ)消音する
❺ バンド(FM/AM)を切り替える
❻ プリセット番号を切り替える
❼ プリセット番号を直接指定する
❽ (テレビ)チャンネルを切り替える
❾ (テレビ)入力を切り替える
❿ プリセットグループ(A/B/C/D/E)を切り替える

CDプレーヤーを操作する

操作機器選択スイッチでSOURCEを選び、入力選択キーのCDキーを押すとCDプレーヤーを操作できます。

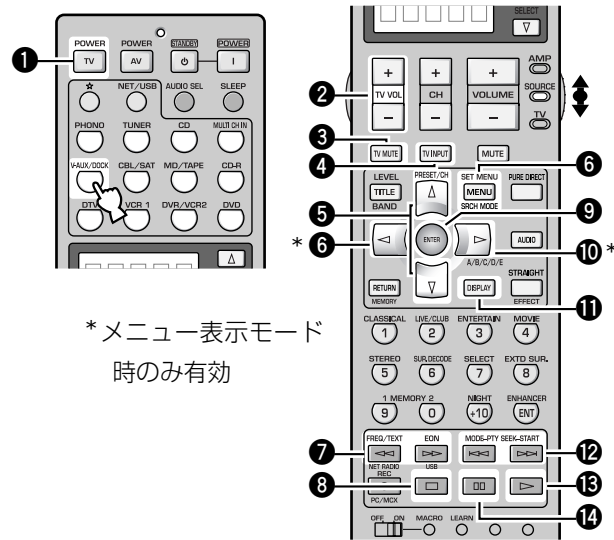
操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (テレビ)チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)入力を切り替える
❻ (テレビ)消音する
❼ 数字を入力する
❽ 早送り/早戻しをする
❾ (CDチェンジャー)ディスクを選ぶ
❿ 停止する
⓫ ディスプレイ表示を切り替える
⓬ 次/前の曲の頭出しをする
⓭ 再生を開始する
⓮ 再生を一時停止する

MDレコーダー/CDレコーダーを操作する

操作機器選択スイッチでSOURCEを選び、入力選択キーのMD/TAPEキーを押すとMDレコーダーを、CD-Rキーを押すとCDレコーダーを操作できます。

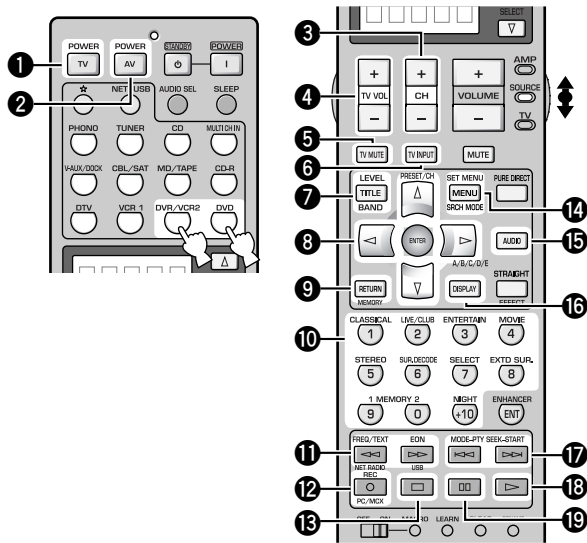
操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (テレビ)チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ 数字を入力する
❽ 早送り/早戻しをする
❾ 録音を開始する
❿ 停止する
⓫ ディスプレイ表示を切り替える
⓬ 次/前の曲の頭出しをする
⓭ 再生を開始する
⓮ 再生/録音を一時停止する

iPodを操作する

操作機器選択スイッチでSOURCEを選び、入力選択キーのV-AUX/DOCKキーを押すとヤマハ製ドック(別売YDS-10など)にセットしたiPodを操作できます。

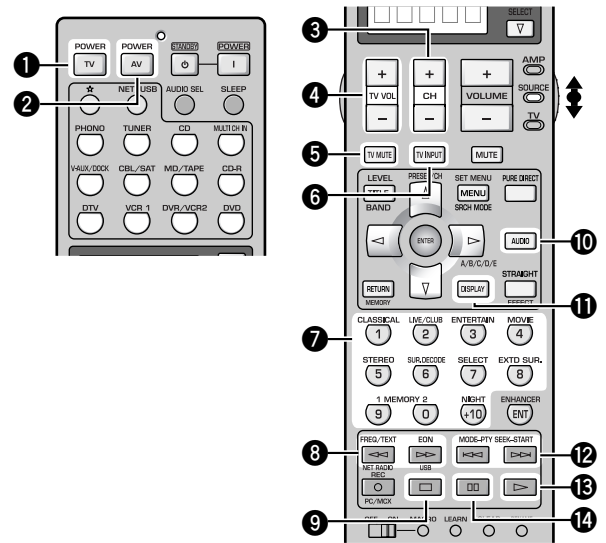
操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ (テレビ)音量を調節する
❸ (テレビ)消音する
❹ (テレビ)入力を切り替える
❺ カーソルを上下に移動する
❻ 前の画面に戻る
❼ 早送り/早戻しをする
❽ 停止する
❾ メニュー項目を選択する/決定する
❿ メニュー項目を選択する
⓫ ノーマルモード/メニュー表示モードを切り替える
⓬ 現在/次の曲の頭出しをする
⓭ 再生を開始する
⓮ 再生を一時停止する

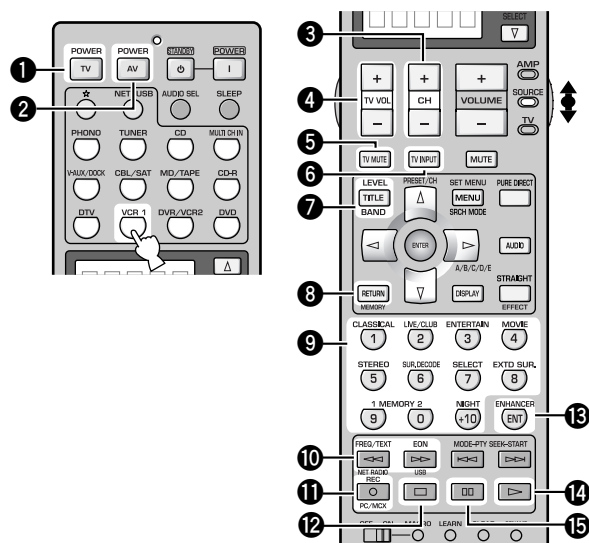
DVDプレーヤー/DVDレコーダーを操作する

操作機器選択スイッチでSOURCEを選び、入力選択キーのDVDキーを押すとDVDプレーヤーを、DVR/VCR2キーを押すとDVDレコーダーを操作できます。

操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (テレビ)チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ タイトルメニューを表示する
❽ メニュー項目を選択する/決定する
❾ 前の画面に戻る
❿ 数字を入力する
⓫ 早送り/早戻しをする
⓬ (DVDチェンジャー)ディスクを選ぶ
(DVDレコーダー)録画を開始する
⓭ 停止する
⓮ DVDメニューを表示する
⓯ オーディオメニューを表示する
⓰ ディスプレイ表示を切り替える
⓱ 次/前のチャプターの頭出しをする
⓲ 再生を開始する
⓳ 再生を一時停止する

LDプレーヤーを操作する

操作機器選択スイッチでSOURCEを選び、LDプレーヤーを接続した端子に対応するキーにライブラリー/リモコンコードを設定してから、そのキーを押すと、LDプレーヤーを操作できます。

操作例

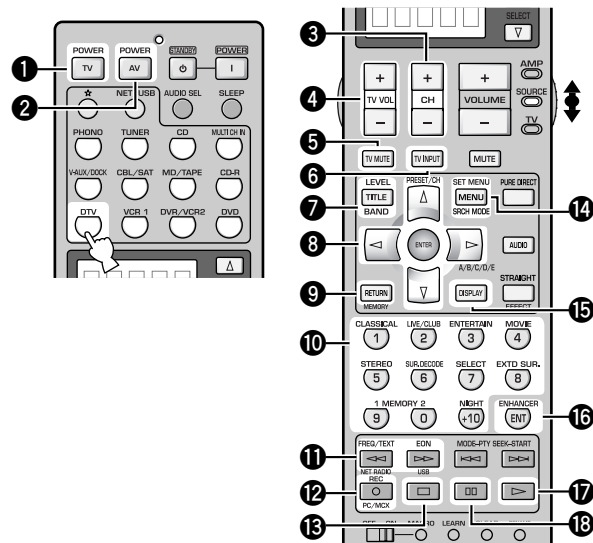
❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ (テレビ)チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ 数字を入力する
❽ 早送り/早戻しをする
❾ 停止する
❿ オーディオメニューを表示する
⓫ ディスプレイ表示を切り替える
⓬ 次/前のチャプターの頭出しをする
⓭ 再生を開始する
⓮ 再生を一時停止する

ビデオデッキを操作する

操作機器選択スイッチでSOURCEを選び、リモコンコードを設定してから、入力選択キーのVCR1キーを押すと、ビデオデッキを操作できます。

操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ タイトルメニューを表示する
❽ 前の画面に戻る
❾ チャンネルを直接指定する
❿ 早送り/巻戻しをする
⓫ 録画を開始する(2回押すと録画を開始します)
⓬ 停止する
⓭ チャンネルを決定する
⓮ 再生を開始する
⓯ 再生/録画を一時停止する

VCR1キーにビデオデッキのリモコンコードを設定している場合、テレビの操作モードで、VCR1に切り替えることなくビデオデッキを操作できます。

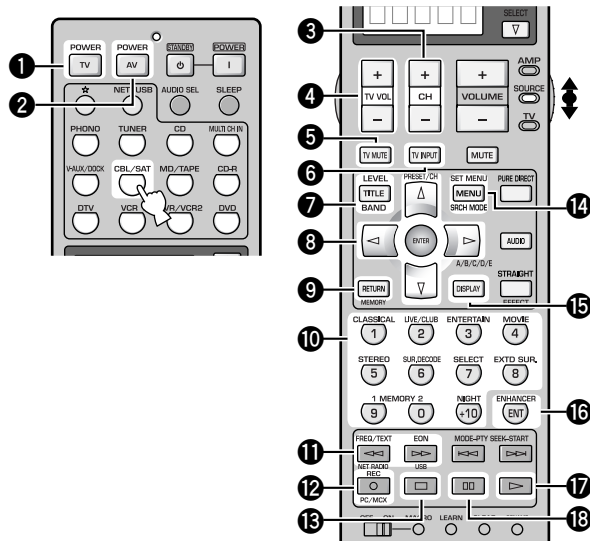
テレビを操作する

操作機器選択スイッチでSOURCEを選び、リモコンコードを設定してから、入力選択キーのDTVキーを押すと、テレビを操作できます。

操作例

❶ 電源を入/切する
❷ (ビデオ)電源を入/切する
❸ チャンネルを切り替える
❹ 音量を調節する
❺ 消音する
❻ 入力を切り替える
❼ タイトルを表示する
❽ メニュー項目を選択する/決定する
❾ 前の画面に戻る
❿ チャンネルを直接指定する
⓫ (ビデオ)早送り/巻戻しをする
⓬ (ビデオ)録画を開始する(2回押すと録画を開始します)
⓭ (ビデオ)再生/録画を停止する
⓮ メニューを表示する
⓯ ディスプレイ表示を切り替える
⓰ チャンネルを決定する/チャンネルを切り替える(12)
⓱ (ビデオ)再生を開始する
⓲ (ビデオ)再生/録画を一時停止する

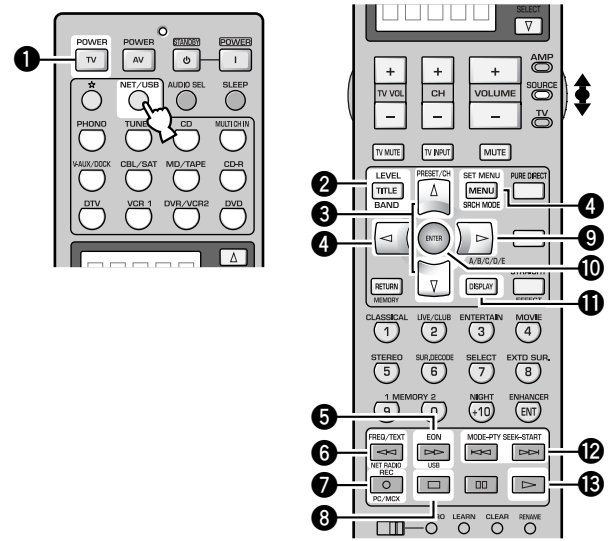
ヒント

- DTVキーにテレビ以外の機器のリモコンコードを設定して操作する場合、PHONOキーにテレビのリモコンコードを設定することにより、他の機器の操作モードでもテレビを操作できます。
- DTVキーとPHONOキーの両方にリモコンコードを設定している場合、他の機器の操作モードではDTVキーに設定したリモコンコードが有効になります。

衛星放送チューナーを操作する

操作機器選択スイッチでSOURCEを選び、ライブラリー/リモコンコードを設定してから、入力選択キーのCBL/SATキーを押すと、衛星放送のチューナーを操作できます。

操作例

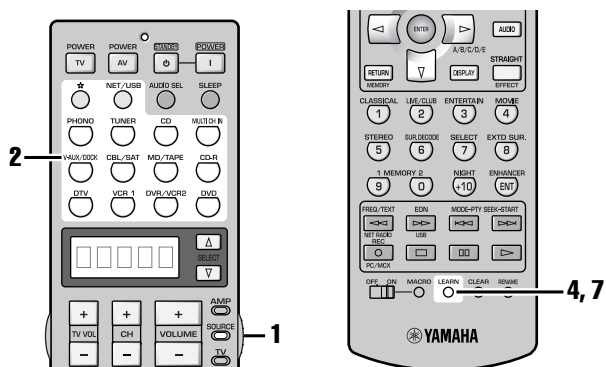
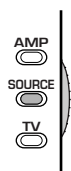
❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ 電源を入/切する
❸ チャンネルを切り替える
❹ (テレビ)音量を調節する
❺ (テレビ)消音する
❻ (テレビ)入力を切り替える
❼ タイトル(トップメニュー)を表示する
❽ メニュー項目を選択する/決定する
❾ 前の画面に戻る
❿ チャンネルを直接指定する
⓫ (ビデオ)早送り/巻戻しをする
⓬ (ビデオ)録画を開始する(2回押すと録画を開始します)
⓭ (ビデオ)再生/録画を停止する
⓮ メニューを表示する
⓯ ディスプレイ表示を切り替える
⓰ チャンネルを決定する
⓱ (ビデオ)再生を開始する
⓲ (ビデオ)再生/録画を一時停止する

ネットワークオーディオ/USBデバイスを操作する

操作機器選択スイッチでSOURCEを選び、入力選択キーのNET/USBキーを押すと、ネットワークオーディオ/USBを操作できます。

操作例

❶ (テレビ)電源を入/切する
❷ ブックマークを登録/削除する(インターネットラジオ時)
❸ 上/下のメニューにカーソルを移動する
❹ 1つ前の表示に戻る
❺ USBを入力選択する
❻ インターネットラジオを入力選択する
❼ パソコンを入力選択する
❽ 再生を停止する
❾ メニュー項目を選択する
❿ メニュー項目を選択する/決定する
⓫ ディスプレイ表示を切り替える
⓬ 次/前の曲の頭出しをする
⓭ 再生を開始する

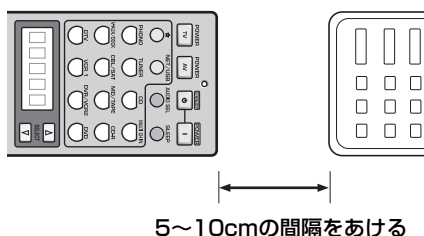
他の機器のリモコン機能を記憶させる(ラーニング)

リモコンコードを設定しても、お使いの機器を操作できない場合や、お使いの機器のリモコンコードがない場合は、その機器のリモコン信号を本機のリモコンに記憶(ラーニング)させることで、操作ができるようにします。入力選択した機器ごとに別の機能をラーニングさせることができます。

1 AMP/SOURCE/TVスイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

ご注意

AMPを選んでラーニングすると、本機を操作できなくなります。

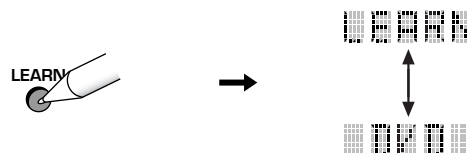
2 操作したい機器の入力選択キーまたは☆キーを押す

リモコンディスプレイに選んだ入力ソースの名前が表示されます。

3 本機のリモコンと、外部機器のリモコンを約5〜10cm離し、赤外線送受信部が互いに対向するように置く

5〜10cmの間隔をあける

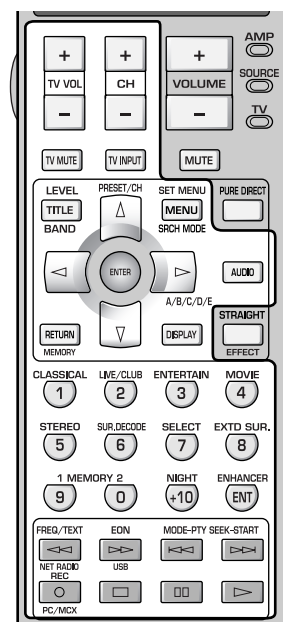
4 LEARNボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。

ご注意

- LEARNボタンを3秒以上押すと、リモコンコード設定モードに切り替わります(78ページ)。
- 手順4以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとラーニングが自動的に中止されます。この場合は、手順4から操作しなおしてください。

5 新しい機能をラーニングさせたい、本機のリモコンのキーを押す

白枠で囲まれているキーにラーニングできます。
リモコンディスプレイに「LEARN」と表示されます。

LEARN

6 リモコンディスプレイに「OK」と表示されるまで、外部機器のリモコンのラーニングさせたい機能のキーを押し続ける

OK

ご注意

- 「NG」と表示されたときは、ラーニングが正しく行われていません。手順5から操作をやりなおしてください。
- メモリー容量がいっぱいになっている場合は、リモコンディスプレイに「FULL」が表示され、それ以上のラーニングはできません。新しいラーニングをするときは、ラーニング済みのキーから不要なものを消去してください。

ヒント

- 別の機能をラーニングするには、続けて手順5〜6を繰り返します。
- 別の機器に機能をラ－ニングさせる場合は、SELECT∆/∇キーを押して機器を変更し、手順5〜6を繰り返します。

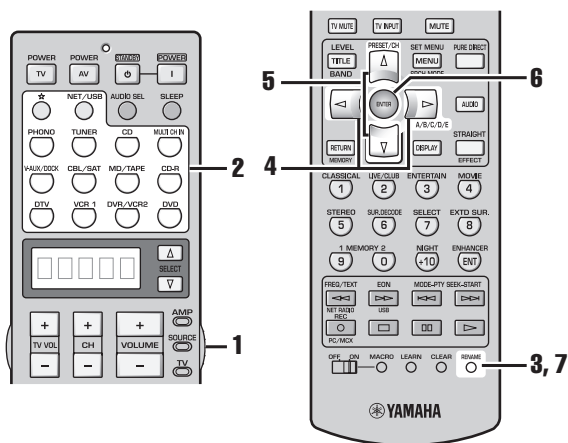
7 LEARNボタンを押して、ラーニングを終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

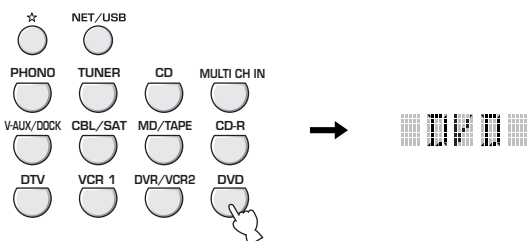
ご注意

- 以下の場合は、ラーニングできないことがあります。
  - 本機のリモコンまたは外部機器のリモコンの乾電池が消耗している場合
  - 2台のリモコンの間隔が近すぎる、または離れすぎている場合
  - リモコンの受光部の角度が適切でない場合
  - リモコンに直射日光が当たっている場合
  - 特殊な信号や連続した信号の場合
- 手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

リモコンに表示される機器の名前を変更する

入力選択キーを押してリモコンのディスプレイに表示される機器名は、入力機器を接続した端子名に対応しています。端子名と異なった機器を本機に接続したときや、お使いのシステムに合ったわかりやすい名前をつけたいときなどに、リモコンに表示される機器名を変更することができます。

1 操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPまたはSOURCEを選ぶ

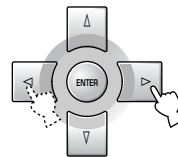
2 名前を変更したい機器の入力選択キーまたは☆キーを押す

選択した入力ソースの名前がリモコンディスプレイに表示されます。

3 RENAMEボタンを押す

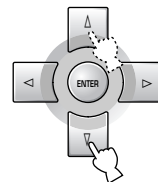
ボールペンなど先の細いもので押します。左端の文字スペースが点滅します。

ご注意

手順3以降の操作はそれぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと設定が自動的に中止されます。このような場合は手順3から操作しなおしてください。

4 ◁/▷キーを押して、文字を入力したい位置にカーソルを移動する

5 △/▽キーを押して、入力する文字を選ぶ

入力できる文字は以下のとおりです。

- アルファベット大文字：A～Z
- 数字：1～9、0
- 記号：+、－、：、/
- スペース（空白）

必要に応じて手順4と5を繰り返します。文字は最大5文字まで入力できます。

6 入力が完了したら、ENTERキーを押す

名前が正しく変更されると、リモコンディスプレイに「OK」と表示されます。

ご注意

名前が正しく変更されなかった場合は、リモコンディスプレイに「NG」と表示されます。このような場合は手順3から設定をやりなおしてください。

7 RENAMEボタンを押して、名前の変更を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

マクロ機能を使う

マクロ機能とは、ソースを再生するときに行う一連のキー操作を1つのキーでできるようにする機能です。
たとえばCDを再生する場合、通常、(1)システムの電源を入れる➞(2)入力ソースをCDに切り替える➞(3)再生を開始する…などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、マクロキーのCDキーを押すだけでこのような一連の操作を済ますことができます。
下のリストに表示されたマクロキーにはマクロ機能があらかじめ登録されていますが、オリジナルのマクロ操作を設定することもできます。

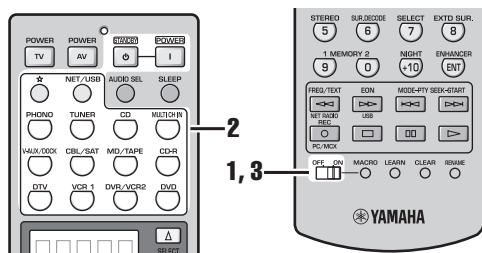
<table>
<tr><th>マクロキー</th><th>1番目</th><th>2番目</th><th>3番目</th></tr>
<tr><td>STANDBY</td><td>本機がスタンバイになる</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>POWER</td><td>本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*1</td><td>テレビの電源が入る*2</td><td>—</td></tr>
<tr><td>☆</td><td rowspan="2">本機の電源が入る</td><td>—</td><td rowspan="2">—</td></tr>
<tr><td>NET/USB</td><td>入力ソースの切り替え(NET/USB)</td></tr>
<tr><td>PHONO</td><td rowspan="14">本機の電源が入る(接続した機器の電源が入る)*1</td><td>入力ソースの切り替え(PHONO)</td><td>—</td></tr>
<tr><td>TUNER</td><td>入力ソースの切り替え(TUNER)*3</td><td>—</td></tr>
<tr><td>CD</td><td>入力ソースの切り替え(CD)</td><td>CDの再生が始まる*4</td></tr>
<tr><td>MULTI CH IN</td><td>入力ソースの切り替え(MULTI CH IN)</td><td>—</td></tr>
<tr><td>V-AUX/DOCK</td><td>入力ソースの切り替え(V-AUX/DOCK)</td><td>—</td></tr>
<tr><td>CBL/SAT</td><td>入力ソースの切り替え(CBL/SAT)</td><td>—</td></tr>
<tr><td>MD/TAPE</td><td>入力ソースの切り替え(MD/TAPE)</td><td>MD/TAPEの再生が始まる*4</td></tr>
<tr><td>CD-R</td><td>入力ソースの切り替え(CD-R)</td><td>CD-Rの再生が始まる*4</td></tr>
<tr><td>DTV</td><td>入力ソースの切り替え(DTV)</td><td>—</td></tr>
<tr><td>VCR1</td><td>入力ソースの切り替え(VCR1)</td><td>VCR1の再生が始まる*4</td></tr>
<tr><td>DVR/VCR2</td><td>入力ソースの切り替え(DVR/VCR2)</td><td>DVR/VCR2の再生が始まる*4</td></tr>
<tr><td>DVD</td><td>入力ソースの切り替え(DVD)</td><td>DVDの再生が始まる*4</td></tr>
</table>

*1 本機に接続した機器の電源を本機に連動させて入れるには、接続機器の電源プラグを本機のACアウトレットに接続します(機器によっては電源の入/切が本機に連動しないものもあります。接続する機器の取扱説明書を参照してください)。

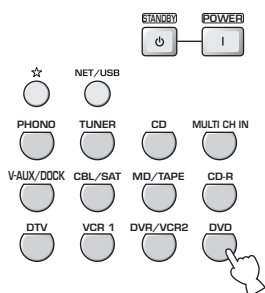
*2 DTVキーまたはPHONOキーにテレビのリモコンコードを設定した場合、入力ソースの切り替えなしでテレビの電源を入れることができます。DTVキーとPHONOキーの両方にテレビのリモコンコードを設定した場合は、DTVキーに設定したリモコンコードが優先されます。

*3 入力ソースがTUNERに切り替わると、本機のチューナーはスタンバイになる前に受信していた局を受信します。

*4 初期設定では、ヤマハ製のMDレコーダー、CDプレーヤー、CDレコーダー、DVDプレーヤーにのみ対応しています。これら以外の機器をマクロ操作する場合は、登録したい機器のライブラリーの⊳キーにラーニング機能を割り当てる(88ページ)か、リモコンコードを設定する(78ページ)必要があります。

マクロ機能を使う

1 MACRO ON/OFFスイッチを「ON」に合わせる

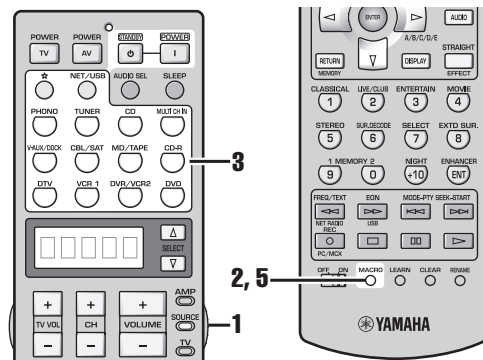
2 希望のマクロキーを押す

すべてのマクロ信号の出力が終わるまで、リモコンの赤外線送受信部を本体および操作する機器のリモコン受光窓の方向に向け続けてください。

3 MACRO ON/OFFスイッチを「OFF」に合わせる

ご注意

マクロ操作中は、すべてのマクロ信号の出力が終わるまで(トランスミッションインジケーターが消灯するまで)、他のキーの操作を受け付けません。

マクロを設定する

オリジナルのマクロを設定します。

ご注意

- 新しいマクロを設定しても、工場出荷時に登録されているマクロは消去されません。新しく設定したマクロの内容を消去すると、工場出荷時に登録されているマクロを使うことができます。
- 工場出荷時に登録されているマクロに新しい信号を追加することはできません。マクロを設定すると、すべて新しい内容に変わります。
- マクロ設定は、本リモコンにラーニングや登録済み(またはヤマハプリセット)のキー信号をマクロキーに設定(転送)させて行います。必要に応じて、あらかじめ他の機器のキーをラーニングしておいてください。
- 音量の操作など、連続的に出力される信号は、本リモコンでは短時間のコードとして記憶されます。したがって、そのようなキーをマクロ設定に入れることはおすすめしません。

1 操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPまたはSOURCEを選ぶ

2 MACROボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「MCR ?」と表示されます。

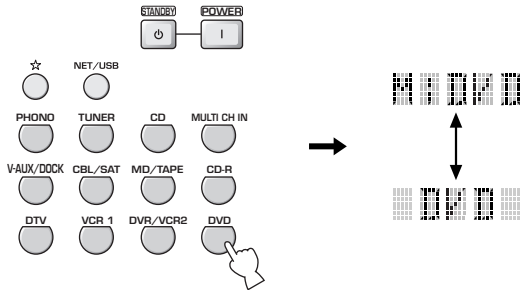
ご注意

手順2以降操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくとマクロ設定が自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作しなおしてください。

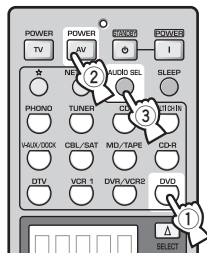
3 設定したいマクロキーを押す

リモコンディスプレイにマクロ設定するキーと、今選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。

例： DVDキーのマクロを設定する

「M：DVD」と「DVD」が交互に表示されます。

ご注意

マクロキー以外のキーを押すと、「AGAIN」と表示されます。

4 マクロの内容を設定する

① 入力をDVDに切り替える
② DVDプレーヤーの電源を入れる
③ 入力端子を設定する

上記1～3の操作を、DVDキーを押すだけでできるようにマクロ設定します。

ご注意

お使いの機器によっては、マクロ設定通りに作動しない場合があります。

リモコンディスプレイの表示が以下のように変わっていきます。

① DVDキーを押す

② POWERキーを押す

③ AUDIO SELキーを押す

最大10種類のキー信号を設定することができます。10個目のキー信号を設定すると「FULL」と表示され、マクロ設定が自動的に中止されます。

ご注意

機器を変更したいときは、入力選択キーやSELECT∆/∇キーで機器を選択しなおします。入力選択キーで機器を選択すると、本機の入力切り替えが一連のマクロ設定に組み込まれ、機器操作キーも入力機器に応じて切り替わります。SELECT∆/∇キーで機器を選択すると、入力ソースは変わらずに、機器操作キーは選択した機器に合わせて切り替わります。

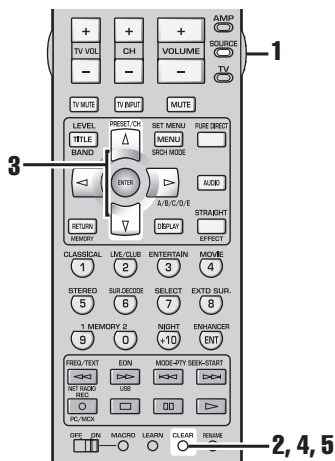
5 MACROボタンを押して、マクロ設定を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー/スイッチ以外を操作したり2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

リモコンを初期化する

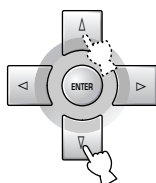
登録したライブラリーやマクロ操作、リモコンコードやラーニングした操作を取り消して、工場出荷時の設定に戻すことができます。

1 操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPまたはSOURCEを選ぶ

2 CLEARボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「CLEAR」と表示されます。

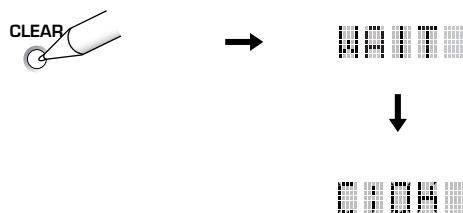
ご注意

手順2以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作しなおしてください。

3 Δ/∇キーを押して、消去モードを選ぶ

消去モードは以下の6種類です。

L：(機器名)：	表示されている入力機器の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。入力選択キー、またはSELECTΔ/∇キーで消去する入力機器を選択してください。
L：AMP：	本機の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。
L：ALL：	入力機器に関わらず、ラーニングされた機能をすべて消去します。
M：ALL：	マクロの設定をすべて工場出荷時の設定に戻します。
RNAME：	変更した入力ソースの名前をすべて工場出荷時の設定に戻します。
FCTRY：	リモコンコードを含む、すべてのリモコンの設定を工場出荷時の設定に戻します。

4 CLEARボタンを3秒以上押し続ける

リモコンディスプレイに「WAIT」と表示されます。手順3で選択した機能や設定が正しく消去されると「C：OK」と表示されます。

ご注意

- 正しく消去されなかった場合は、リモコンディスプレイに「C：NG」と表示されます。このような場合は手順3から消去をやりなおしてください。
- 「L：ALL」と「FCTRY」は、完了までに約30秒間かかります。

5 CLEARボタンを押して、消去を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

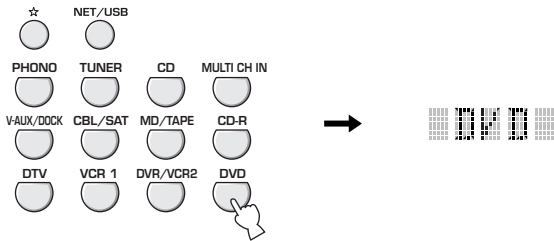
ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

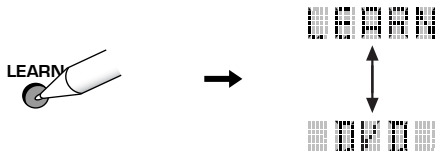
ラーニングされた機能を消去する

ラーニングされた機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することができます。

1 操作機器選択スイッチをスライドさせて、SOURCEを選ぶ

2 取り消したい機器の入力選択キーを押す

3 LEARNボタンを押す

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と選択した入力ソース名が交互に表示されます。

ご注意

- LEARNボタンを3秒以上押すと、リモコンコード設定モードに切り替わります。
- 手順3以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順3から操作しなおしてください。

4 CLEARボタンを押しながら、機能を消去したいキーを3秒以上押す

消去が正しく行われると、リモコンディスプレイに「C：OK」と表示されます。

引き続き消去したいキーがある場合は、「C：OK」の表示が消えてから、手順4の操作を繰り返してください。

ご注意

- 「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。
- 一度ラーニングされた機能を消去してしまうと、消去されたキーの機能は工場出荷時の状態（リモコンコードを設定している場合は設定した機器の機能）に戻ります。

ヒント

別の機器にラーニングした機能を消去する場合は、SELECT∆/∇キーを押して機器を変更し、手順4を繰り返します。

5 CLEARボタンを離して、クリアモードを終了する

リモコンがラーニングモードに戻ります。

6 LEARNボタンを押して、消去を終了する

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

マクロに設定された機能を消去する

マクロに設定された機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することができます。

1 **操作機器選択スイッチをスライドさせて、AMPまたはSOURCEを選ぶ**

2 **MACROボタンを押す**

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「MCR ?」と表示されます。

ご注意

手順2以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。そのままにしておくと消去が自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作しなおしてください。

3 **CLEARボタンを押しながら、機能を消去したいキーを3秒以上押す**

消去が正しく行われると、リモコンディスプレイに「C;OK」と表示されます。

引き続き消去したいキーがある場合は、「C;OK」の表示が消えてから、手順3の操作を繰り返してください。

ご注意

- 「C;NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEARボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。
- 一度マクロに設定された機能を消去してしまうと、消去されたキーの機能は工場出荷時の状態に戻ります。

4 **CLEARボタンを離す**

リモコンがマクロ設定モードに戻ります。

5 **MACROボタンを押して、消去を終了する**

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー以外を操作したり、2つ以上のキーを同時に押したりすると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてからお買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	スタートアップ 36
	(再度電源を入れたときに、「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき)スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	スタートアップ 20
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
STANDBY/ONスイッチ(POWERキー)を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントおよび本体AC IN端子にしっかりと差し込んでください。	スタートアップ 36
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って(約1時間程度)、電源を入れなおしてください。	—
	スリープタイマーが作動した。	電源を入れてソースを再生しなおしてください。	—
ショート表示が出ない	セットメニュー「映像の設定」の「ショートメッセージ」を「表示しない」に設定している。	「表示する」に設定してください。	56
	セットメニュー「映像の設定」の「ビデオコンバージョン」を「オフ」に設定している。	「オン」に設定してください。	54
	HDMI IN端子からの入力信号がHDMI OUT端子へ出力されている		—
	プログレッシブ方式の映像やハイビジョン映像が入力されている		—
	ゲーム機からの信号など、非標準信号が入力されている		—
音声や画像が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	スタートアップ 22~26
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	スタートアップ20
	再生したいソースが正しく選ばれていない。	INPUTセレクターやMULTI CH INPUTキーで、再生したいソースを正しく選んでください。	スタートアップ 46~63
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	スタートアップ49
	消音されている。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	スタートアップ 49
	CD-ROMなど本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	—
	HDMI接続時に音声を再生する機器が本機に設定されていない。	セットメニュー「HDMI設定」を「DSP-AX2700」に設定してください。	65
	接続しているHDMI機器が著作権保護(HDCP)に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
音声が突然出なくなる	消音された。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	スタートアップ 49
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。また、スピーカーケーブルが断線していないか確認してください。	スタートアップ 19～26
エフェクトスピーカー（センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R）から音声が出ない	音場効果をかけずに再生している。	STRAIGHT/EFFECTキーを押して、音場効果をかけて再生してください。	27
	再生するソースと音場プログラムの組み合わせによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	16
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーの音量が絞られている。	センタースピーカーの音量を調節してください。	38
	セットメニュー「スピーカーの設定」の「センター」を、「無」に設定している。	お使いのセンタースピーカーに合わせて、「大」または「小」に設定してください。	57
	HiFi DSP音場プログラムを選んでいる。	ほかの音場プログラムをお試しください。	16
サラウンドL/Rスピーカーから音声が出ない	サラウンドL/Rスピーカーの音量が小さい。	サラウンドL/Rスピーカーの音量を調節してください。	38
	セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定している。	お使いのサラウンドL/Rスピーカーに合わせて、「大」または「小」に設定してください。	57
	ノーマルサラウンドプログラムで、モノラルソースを再生している。	ほかの音場プログラムをお試しください。	16
サラウンドバックスピーカーから音声が出ない	サラウンドバックスピーカーの音量が小さい。	サラウンドバックスピーカーの音量を調節してください。	38
	セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンド」を、「無」に設定している。	「サラウンド」を「無」に設定すると、自動的に「サラウンドバック」も「無」に設定されます。「サラウンド」の設定を、「大」または「小」に設定してください。	57
	セットメニュー「スピーカーの設定」の「サラウンドバック」を、「無」に設定している。	お使いのサラウンドバックスピーカーに合わせて、「大2台」、「大1台」、「小2台」、「小1台」のいずれかに設定してください。	58
サブウーファーから音声が出ない	セットメニュー「スピーカーの設定」の「低音出力先」を「フロントのみ」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	「サブウーファーのみ」または「フロントとサブウーファー」に設定してください。	58
	セットメニュー「スピーカーの設定」の「低音出力先」を「サブウーファーのみ」または「フロントのみ」に設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	「フロントとサブウーファー」に設定してください。	58
	再生しているソースにLFEや低音信号が含まれていない。		—
	2チャンネルソースをピュアダイレクトモードで再生している場合は、サブウーファーから音が出ません。	PURE DIRECTキーを押して、ピュアダイレクトモードをオフにしてください。	25
ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない（本機のディスプレイにドルビーデジタルまたはDTSインジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタル」または「DTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。	—
	入力モードを「ANALOG」に設定している。	「AUTO」に設定してください。	37
AACソフトの再生ができない（本機のディスプレイにAACインジケーターが点灯しない）	入力モードを「DTS」または「ANALOG」に設定している。	「AUTO」に設定してください。	37
	接続したチューナーなどの設定が「AAC自動」または「AAC出力」に設定されていない	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。	—
アナログ音声の再生ができない	入力モードを「AUTO」または「DTS」に設定している。	「ANALOG」に設定してください。	37

症状	原因	対策	参照ページ
低音の再生不良	セットメニュー「スピーカーの設定」の「低音クロスオーバー」が正しく設定されていない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて正しく設定してください。	58
	セットメニュー「スピーカーの設定」の設定が、実際のスピーカーシステムの構成と一致していない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて各スピーカーを正しく設定してください。	57
ハム音が出る	ステレオピンケーブルがしっかり接続されていない。	ステレオピンケーブルをしっかり差し込んでください。	スタートアップ 22〜26
	レコードプレーヤーのアースがSIGNAL GND端子に接続されていない。	アースコードを本機のSIGNAL GND端子に接続してください。	スタートアップ 26
レコードの再生音が小さい	MCカートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生している。	MCヘッドアンプまたはMCトランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください。	スタートアップ 26
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機のOUT（REC）端子に接続された機器の電源が入っていない。	AVアンプという製品ジャンルの特性上、OUT（REC）端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	—
サラウンドと音場効果を付加した音を録音できない	サラウンドと音場効果を付加した音は録音できません。		—
録音できない	デジタル録音時にアナログで信号を入力している。	デジタル接続をして、デジタルで信号を入力してください。	—
	本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続をしてください。	スタートアップ 27〜28
	アナログ録音時にデジタルで信号を入力している。	アナログ接続をして、アナログで信号を入力してください。	—
	本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。	スタートアップ 27〜28
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどのデジタルデータを録音できません。		—
音場パラメーターやセットメニューなどを変更できない	セットメニュー「設定の保護」を「保護」に設定している。	「可変」に設定してください。	65
セットメニューなどの設定内容が消えている	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう1度設定しなおしてください。	—
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう1度差し込んでください。	—
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源がスタンバイになっている。	本機の電源を入れてください。	スタートアップ 37
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	—

FM/AM放送の受信

症状		原因	対策	参照ページ
プリセット選局ができない		プリセット(メモリー)が消えている。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度プリセットしてください。	42、43
FM	オート選局ができない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	マニュアル選局をしてください。	スタートアップ51
			屋外アンテナを感度の良い多素子のものに変えてみてください。	—
	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	スタートアップ35
			屋外アンテナを感度の良い多素子のものに変えてください。	—
			マニュアル選局をしてください。	スタートアップ51
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス(多重反射)などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
AM	オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。	スタートアップ35
			マニュアル選局をしてください。	スタートアップ51
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	—
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	—

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から６ｍ以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	スタートアップ 8
	受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯やストロボライトなど)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	スタートアップ7
	操作機器選択スイッチの設定が正しくない。	操作機器選択スイッチを正しく設定してください。	77
	リモコンのアンプ操作用ライブラリーコードと本体のリモコンIDが一致していない。	ライブラリーコードまたはリモコンIDの設定を変更してください。	75、80
	リモコンでの本体操作が無効になっている	本体操作を有効にしてください。	74
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器が選ばれていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選ぶ。	76
	リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	78
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	リモコンコードで操作できない機能は、機器のリモコンから本機のリモコンに記憶(ラーニング)させてください。	88
リモコンが新しい機能を記憶(ラーニング)しない	本機のリモコンまたは他の機器のリモコンの電池が消耗している。	電池を交換してください。	スタートアップ 7
	２台のリモコン間の距離が離れすぎているか、近すぎる。	2台のリモコンを5～10cmの距離に配置してください。	88
	他の機器のリモコンの信号コードと本機のリモコンとの互換性がない。	記憶(ラーニング)はできません。	—
	メモリ容量がいっぱいになっている。	ラーニングされている機能のうち、不要なものを消去してください。	95
電池が消耗しやすい	マンガン乾電池を使用している	アルカリ乾電池を使用してください。	—

ネットワークオーディオ/USBデバイスの再生

症状	原因	対策	参照ページ
パソコンおよびインターネットラジオが正しく動作しない	IPアドレスが正しく設定されていない。	ルーターのDHCP機能をオンにするか、ネットワーク環境にあわせて、セットメニュー「ネットワーク/USB設定」を手動で設定してください。	61
	ネットワークケーブルが接続されていない。	ネットワーク接続を確認してください。	スタートアップ33
パソコンの音楽ファイルが再生できない	パソコンにWindows Media Connect 2.0がインストールされていない。	パソコンにWindows Media Connect 2.0をインストールしてください。	—
	音楽ファイルがMP3、WAV（PCMのみ）、WMA以外のフォーマットで記録されている。	MP3、WAV（PCMのみ）、WMAで記録された音楽ファイルを再生してください。	—
		MP3、WAV（PCMのみ）、WMAで記録された音楽ファイルであっても、本機で再生できないものがあります。	—
	音楽ファイルに著作権保護がかけられている。	著作権保護がかけられている音楽ファイルは再生できません。	—
Windows Media Connect 2.0に接続できない	OSにWindows XPを使用しているパソコンで、ドメインにログオンしている。	ドメインではなく、ローカルマシンにログオンしてください。	—
インターネットラジオが再生できない	ネットワーク機器のファイアウォールがはたらいている。	ネットワーク機器のファイアウォールの設定を確認してください。	—
	インターネットの接続が切断されている。	ネットワーク機器の設定が正しいことを確認し、必要に応じてネットワーク接続業者にお問い合わせください。	—
USBデバイスの音楽ファイルやディレクトリがブラウズできない	音楽ファイルやディレクトリがFAT領域以外の場所に保存されている。	音楽ファイルやディレクトリをFAT領域に保存してください。	—
	ディレクトリに500をこえるディレクトリ/ファイルが保存されている。	1つのディレクトリにつき、500以内のディレクトリ/ファイルを保存してください。	—
USBデバイスを認識できない	USBデバイスがUSBマスストレージクラスに対応していない。	USBマスストレージクラスに対応したUSBデバイスをお使いください。	スタートアップ61
		USBマスストレージクラスに対応したUSBデバイスであっても、本機で再生できないものがあります。	スタートアップ61
	マスストレージクラス/MTP対応のUSBデバイスがMTP側に設定されている。	マスストレージクラス側に設定してください。	—
		USBデバイスを接続してから、本機の電源をオンにしてください。	スタートアップ37
USBデバイスを接続しているが、「Disconnected」と表示される	本機がUSBデバイスを不正と認識している。	1度本機の電源をオフにしたのち、再びオンにしてください。	スタートアップ37
数字キーを押してもショートカットが呼び出されない	USBデバイスが正しく接続されていない。	正しく接続してください。	スタートアップ32
	パソコンの電源が入っていない。	電源を入れてください。	—
	ラジオ局に一時的にアクセスできない。	しばらく待ってから再度お試しください。	—
	ラジオ局がサービスを停止した。		—
	ショートカットを登録したときとは違うUSBデバイスを接続している。	ショートカットを登録したUSBデバイスを接続してください。	スタートアップ32
ショートカットキーを押すと、登録していない曲やラジオ局が呼び出される	ショートカットを登録したときとは違うUSBデバイスを接続している。	ショートカットを登録したUSBデバイスを接続してください。	スタートアップ32
	ショートカットを登録した音楽ファイルを別の場所に移動した。	ショートカットを再設定してください。	スタートアップ61
	ショートカットを登録した音楽ファイルが保存されているディレクトリに、別の音楽ファイルを追加した、またはディレクトリ内の別の音楽ファイルを削除した。	ショートカットを再設定してください。	スタートアップ61

音声フォーマット編

ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロントL/Rチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声)、効果音のサラウンドチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3チャンネル(フロントL/R、センター)と、サラウンド2チャンネル(サラウンドL/R)、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド2チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、ドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています(サラウンドバックチャンネルはサラウンドLとサラウンドRチャンネルから作られます)。
ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

ドルビープロロジックⅡ

2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

ドルビープロロジックⅡx

2チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な7.1チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用のMovieモード、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。

AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BS/地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS/地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード(復調)して再生できます。

DTS(デジタル・シアター・システムズ)デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル(フロントL/R、センター、サラウンドL/Rチャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)で構成されています。

DTS-ES

本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、DTS-ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生する、ディスクリート方式と、サラウンドL/Rチャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生する、マトリクス方式の2つの方式に対応しています。
DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

DTS Neo：6

2チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた6チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

DTS 96/24

DTS 96/24フォーマットで収録されたソフトに記録されている、DTS信号の拡張用データを使用して「サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24ビット」の高音質での5.1チャンネル再生が可能です。

PCM(リニアPCM)

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える(サンプリング)手法を用いています。

SRS CS Ⅱ (SRS Circle Surround Ⅱ)

SRS CS Ⅱ (SRS Circle Surround Ⅱ) は、6.1チャンネルマトリクス処理を行う高性能デコーディングシステムです。オリジナルのSRS Circle Surroundシステムの次の世代を担うこの技術により、セリフをより明瞭に再生したり、フロントチャンネルとサブウーファーから映画館さながらの低音を再生したりすることができます。

MP3

MPEGで利用される音声圧縮方式の一つです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽CD並の音質を保ったままデータ量を約1/10に圧縮できると言われています。

WAV

Windows標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は非圧縮(PCM)のデータが使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

WMA(Windows Media Audio)

Microsoft社が開発した音声圧縮方式です。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽CD並の音質を保ったまま約1/20に圧縮できると言われています。

音場プログラム編

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

シネマDSP(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

バーチャルシネマDSP

サラウンドL/Rスピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンドL/Rスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロントL/Rスピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

音声編

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング(信号の大きさを数値に置き換えること)を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

LFE(ロー・フリケンシー・エフェクト)0.1チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

映像編

コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号をひとつにまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すPB/CB信号およびPR/CR信号の3系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表わす信号から輝度を表わす信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。

D端子

最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比、インターレース/プログレッシブの情報)を、一本の専用ケーブルで接続できます。その性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。本機にはD5ビデオ端子が装備されており、D1からD5の規格に対応しています。

Sビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S ビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画/再生をお楽しみいただけます。

インターレース

一画面の走査線を奇数段、偶数段にわけ、交互に表示する走査方式です。通常のテレビなどに使われています。

プログレッシブ

一画面すべての走査線を、一度に表示する走査方式です。走査線をわけて交互に表示するインターレース方式に比べ、ちらつきの少ない、滑らかな映像を映し出すことができます。

GPL/LGPL適用ソフトウェアについて

本製品には、GNU General Public License (GPL) または GNU Lesser General Public License(LGPL) に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。 お客様は、当該ソフトウェアのソースコードを入手し、GPL または LGPL に従い、複製、頒布および改変することができます。
当該ソースコードは以下サイトからダウンロードできます。

http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/index.html

ソースコードをCD-ROMなど物理媒体での提供をご希望される場合には、実費にて承ります。以下の住所までご連絡ください。

〒430-8650 浜松市中沢町10-1 ヤマハ株式会社 AV機器事業部

ソースコードのご提供は原則として本製品のご購入の日から3年間とします。

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc. 59 TemplePlace, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

   Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents
   constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

   You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
   b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
   c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

   These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

   a) Accompany it with the complete corresponding machinereadable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
   b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
   c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

   The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

   If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

   If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

   It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

   This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

   Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and an idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 TemplePlace, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc. 59 TemplePlace, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist thatany patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

   A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

   The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

   "Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

   Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

   You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) The modified work must itself be a software library.
   b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
   c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
   d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

      (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

   These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

   Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

   In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

   Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

   This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machinereadable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

   If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this Licence.

   However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

   When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

   If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

   Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables

containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

   You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

   a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
   b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-ompatible with the version that the work was made with.
   c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
   d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
   e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

   For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

   It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

   a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
   b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

    If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

    It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

    This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

    Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and an idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 TemplePlace, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

主な仕様

オーディオ部

定格出力(6Ω、20Hz～20kHz、0.06% THD)
フロントL/R .... 140W+140W
センター 140W
サラウンドL/R .... 140W+140W
サラウンドバックL/R .... 140W+140W

実用最大出力(JEITA、6Ω、1kHz、10% THD)
フロントL/R .... 185W+185W
センター 185W
サラウンドL/R .... 185W+185W
サラウンドバックL/R .... 185W+185W

ダンピングファクター(8Ω、20Hz～20kHz)
フロントL/R 150以上

入力感度/インピーダンス
PHONO(MM) 3.5mV/47kΩ
CD他 200mV/47kΩ
MULTI CH INPUT 200mV/47kΩ

最大許容入力
PHONO(MM)(1kHz、0.1% THD) 60mV以上
CD他(1kHz、0.5% THD) 2.4V以上

出力電圧/インピーダンス
OUT(REC) 200mV/900Ω
PREOUT 1.0V/1.2kΩ
SUBWOOFER 2.0V/1.2kΩ

ヘッドホン出力/インピーダンス 150mV/100Ω

周波数特性
CD他(PURE DIRECT時)－フロントL/R
.... 10Hz～100kHz、－3.0dB

全高調波歪率(20Hz～20kHz)
PHONO(MM)－RECOUT(1V) 0.02%以下
CD他－フロントSP OUT(70W/8Ω) 0.04%以下

S/N比(IHF-Aネットワーク、入力ショート)
PHONO(MM)(2.5mV入力)－SP OUT 80dB以上
CD他(250mV入力)－SP OUT 100dB以上

残留ノイズ(IHF-Aネットワーク)
フロントSP OUT 150μV以下

チャンネルセパレーション(1kHz/10kHz)
PHONO(入力ショート) 60dB以上/55dB以上
CD他(5.1kΩ入力ショート) 60dB以上/45dB以上

トーンコントロール
BASS .... ±6dB/50Hz
TREBLE .... ±6dB/20kHz

A/Dコンバーター
.... デルタシグマ方式192kHz対応24ビットA/Dコンバーター

D/Aコンバーター
.... 192kHz対応24ビットD/Aコンバーター

ビデオ部

ビデオ信号方式(グレーバック) .... NTSC

ビデオ信号方式(ビデオコンバージョン) .... NTSC/PAL

コンポジットビデオ信号レベル 1Vp-p/75Ω

Sビデオ信号レベル
Y 1Vp-p/75Ω
C 0.286Vp-p/75Ω

コンポーネントビデオ信号レベル
Y 1Vp-p/75Ω
P_B、P_R 0.7Vp-p/75Ω

ビデオ最大許容入力(ビデオコンバージョン　オフ) 1.5Vp-p以上

S/N比(ビデオコンバージョン　オフ) 60dB以上

周波数帯域(MONITOR OUT、ビデオコンバージョン　オフ)
COMPONENT VIDEO .... 5Hz～100MHz、±3dB
D5 VIDEO .... 5Hz～100MHz、±3dB

FMチューナー部

受信周波数 .... 76.0MHz～90.0MHz

実用感度(IHF) .... 1.0μV(11.2dBf)

S/N比(IHF)
モノ 76dB
ステレオ 70dB

歪率(1kHz)
モノ 0.2%
ステレオ 0.3%

ステレオセパレーション 42dB

周波数特性 .... 20Hz～15kHz、+0.5/－2dB

AMチューナー部

受信周波数 .... 531kHz～1611kHz

実用感度 300μV/m

総合

電源電圧 .... AC100V、50/60Hz

消費電力 400W

待機時消費電力 0.1W以下

ACアウトレット(電源スイッチ連動×2) 合計100W

寸法(幅×高さ×奥行き) .... 435×171×438.5mm

質量 18.3kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第3-2部：限度値ー高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

索引

(S):「スタートアップガイド」をご覧ください。
(取):「取扱説明書」(本書)をご覧ください。

ア行

アドバンストセットアップメニュー .... (取)74
アンプライブラリー .... (取)80
インターレース .... (取)105
オート選局 .... (S)51
オートプリセット .... (取)42
オプティマイザーマイク .... (S)40
音場プログラム .... (取)16
音場パラメーター .... (取)30

カ行

後部残響音 .... (取)29
コンポーネントビデオケーブル .... (S)15
コンポーネントビデオ信号 .... (取)105
コンポーネントビデオ端子 .... (S)9
コンポジットビデオ信号 .... (取)105

サ行

サイレントシネマ .... (取)15、104
サブネットマスク .... (取)61
サンプリング周波数 .... (取)71、105
初期反射音 .... (取)29
ステレオピンケーブル .... (S)15
ストレートデコード .... (取)27
スピーカー端子 .... (S)20
スリープタイマー .... (取)39

タ行

ダイナミックレンジ .... (取)49
直接音 .... (取)29
ディスプレイ .... (取)10
テストトーン .... (取)57
デフォルトゲートウェイ .... (取)61
電源コード .... (S)36
同軸ケーブル .... (S)15
同軸デジタル入力端子 .... (S)11
ドルビーデジタル .... (取)12、103
ドルビーデジタルEX .... (取)12、103
ドルビープロロジック .... (取)14
ドルビープロロジックⅡx .... (取)12、14、103

ナ行

ナイトリスニングモード .... (取)27
入力モード .... (取)37
ネットワーク .... (取)61
ネットワークオーディオ .... (S)55
ノーマルサラウンドプログラム .... (取)20
ノーマルモード .... (S)53

ハ行

バーチャルシネマDSP .... (取)15、104
バイアンプ接続 .... (S)21
パソコン .... (S)33、59
バックグラウンドビデオ機能 .... (取)28
光デジタル出力端子 .... (S)11
光デジタル入力端子 .... (S)11
光ファイバーケーブル .... (S)15
ビットレート .... (取)71
ビデオコンバージョン機能 .... (S)10
ビデオ端子 .... (S)9
ビデオ用ピンケーブル .... (S)15
ピュアダイレクトモード .... (取)25
フラグ .... (取)71
プリセット選局 .... (取)44
プログレッシブ .... (取)105
ホームネットワーク .... (S)33
ポッドキャスト .... (S)60

マ行

マクロ機能 .... (取)91
マックアドレス .... (取)62
マニュアル選局 .... (S)51
マニュアルプリセット .... (取)43
メニュー表示モード .... (S)53

ラ行

ラーニング .... (取)88
ライブラリー .... (取)78
リモコン .... (取)8
リモコンコード .... (取)78
量子化ビット数 .... (取)105

A、B、C、D、E、F

AAC .... (取)103
ACアウトレット .... (S)36
AMループアンテナ .... (S)35
CINEMA DSP音場プログラム .... (取)18
DHCP .... (取)61
DNSサーバー .... (取)61
DTS .... (取)12、103
DTS ES .... (取)12、103
DTS Neo:6 .... (取)14、103
DTS 96/24 .... (取)103
D5ビデオ端子 .... (S)9
D端子 .... (取)105
D端子ケーブル .... (S)15
FM簡易アンテナ .... (S)35

G、H、I、J、K、L

GUI画面 .... (S)38
HDMIケーブル .... (S)15
HDMI端子 .... (S)9、12
HiFi DSP音場プログラム .... (取)16
IPアドレス .... (取)61
LFE0.1チャンネル .... (取)105

M、N、O、P、Q、R

MP3 .... (取)104
OPTNモード .... (取)77
PCM .... (取)104
Podcast .... (S)60
PREOUT端子 .... (S)30

S、T、U、V、W、X、Y、Z

Sビデオケーブル .... (S)15
Sビデオ信号 .... (取)105
Sビデオ端子 .... (S)9
USBデバイス .... (S)32
WAV .... (取)104
WMA .... (取)104
YPAO .... (S)40

数字、記号

2チャンネルステレオ .... (取)25

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか?
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1